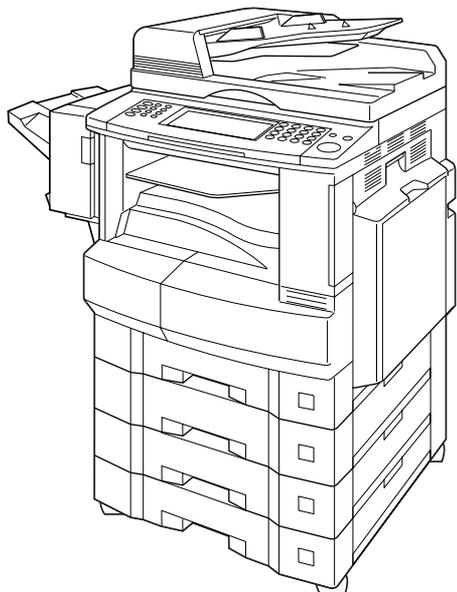
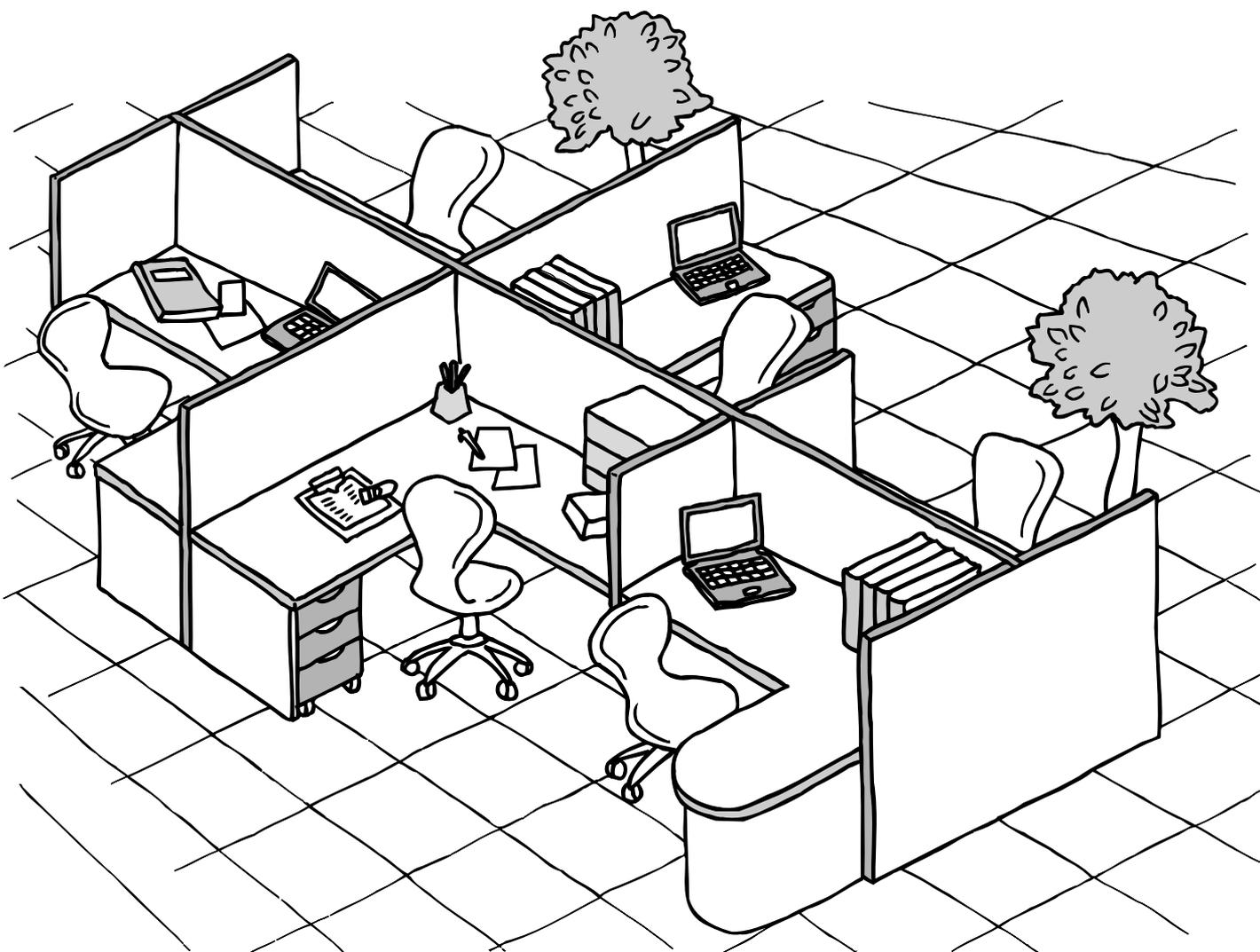
Panasonic®

取扱説明書

(G3通信／インターネットFAX／Eメール編)
デジタル複合機

品番 DP-8032P / 8025P
DP-8032V / 8025V
DP-8032VA / 8025VA

WORKIO™

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、
まことにありがとうございます。

■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
■ **ご使用前に『取扱説明書（基本編）』の「安全上のご注意」（☞9～13ページ）を、必ずお読みください。**
■ この取扱説明書は大切に保管してください。

●イラストはオプションを装着した例です。

はじめに

インターネット通信と一般回線通信との機能の違い

本機では一般回線通信（G 3ファクス）の他にインターネット FAX ／ E メールやインターネット通信ができます。また、G 3／G 4増設ユニットオプションを装着して最大3チャンネルまでの拡張ができます。インターネット通信と一般回線通信は一部異なります。下記機能一覧を参照ください。G 3／G 4ファクス通信については基本的に同じです。一般回線通信の項目を参照ください。

次にインターネット通信時に使用できる機能と一般回線通信時に使用できる機能の一覧を示します。
●：インターネット通信のみの機能です。
○：インターネット通信と一般回線通信の操作が同じ機能です。
△：インターネット通信と一般回線通信の操作が異なる機能です。本書内の項目を参照してください。
▲：一般回線通信のみの機能です。

DP-8032P/8025P モデルのファクス機能は使用できません。

	機能名称	インターネット通信時	一般回線通信時
基本的な使いかた	原稿について	○	○
	原稿セットのしかた	○	○
	送信のしかた	△	△
	受信のしかた	△	△
	ダイヤルのしかた	−	▲
便利な使いかた	複数宛先送信	○	○
	プログラム通信	△	△
	ルーティング	−	▲
	通信管理レポート送信	●	−
	送達確認返送	●	−
	メモリー転送	○	○
	タイマー通信	○	○
	ファイル送信	○	○
	F コード通信	−	▲
	マルチコピー通信	−	▲
	F 網通信	−	▲
	パスワード通信	−	▲
	セレクト通信	−	▲
	ワンタイム海外通信	−	▲
	定期便タイマー 通信	○	○
	メモリー受信	○	○
	ＬＡＮ 中継同報	●	−
	通信予約の確認・取り消し	○	○
	順次同報送信	○	○
	優先通信	○	○
	ポーリング通信	−	▲
登録のしかた	メールアドレスの登録	●	−
	ダイヤル番号の登録	−	▲
	中継同報の登録	△	△
	プログラムの登録	△	△
	自局情報の登録	○	○
	システム登録	○	○

もくじ

お使いになる前に

基本編

応用編

もくじ

応用編

リスト・レポート

登録編

その他

お使いになる前に

本文中で使用しているアドレス帳画面、およびモード設定画面のイラストではデフォルトと違う画面で説明しています。

取扱上のお願い

使用上のお願い

■キャッチホンサービスをご契約になっている場合

・ファクスの送信や受信中に、他の方から電話やファクスがかかってくると、ファクス受信画像に線が入ったり、通信が中断してしまうことがあります。
・上記の場合は、キャッチホンや機器の異常ではありませんのでご了承願います。
・なお、キャッチホンⅡサービスをご利用になり、割り込み音の回数を「０」回に設定して頂くと、ファクス通信中にキャッチホンが入っても異常なく通信できます。

■各サービスについて

・発信者番号通知・ダイヤルインサービスはあらかじめ NTT との契約が必要です。本サービスの詳細につきましては NTT にお問い合わせください。

■節電モード設定時のお願い

・節電モードで「シャットダウン」が選択されているときは、インターネット ＦＡＸ ／ Ｅ メールユニットの自動受信機能が動作しなくなります。節電モードを設定されている場合は、初期設定値（お買い上げ時）の「スリープ」に戻してください。（☞ 基本編取扱説明書（共通機能：キーオペレーター専用の「スリープ／シャットダウン選択」を参照ください）

操作時のお願い

■誤送信を未然に防ぎ、確実に相手と通信するためには、次の点に注意してご使用いただくことをお勧めいたします。

・相手先のファクス番号、ワンタッチ／短縮ダイヤルの登録番号をご確認いただくとともに、取扱説明書をよくご確認のうえご使用ください。
・大切な情報を送る場合には、「手動送信」により相手を確認したうえで通信されることをお勧めします。

1. モニター を押して発信音（ツー音）を確認してから、ファクス番号をダイヤルしてください。
2. 相手先からファクス応答信号（ピーヒョロロ音）が聞こえたら スタート を押してください。

その他

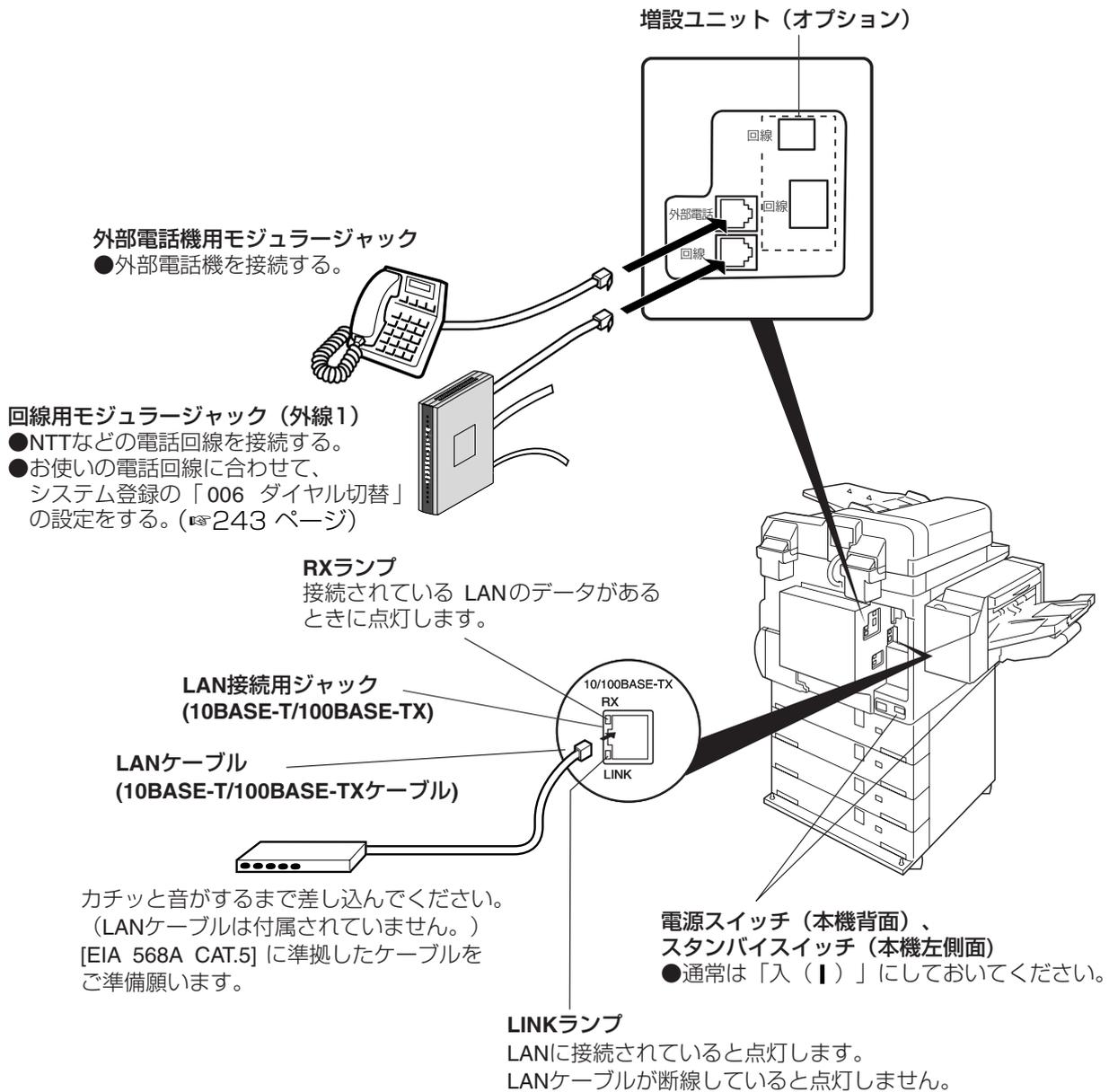
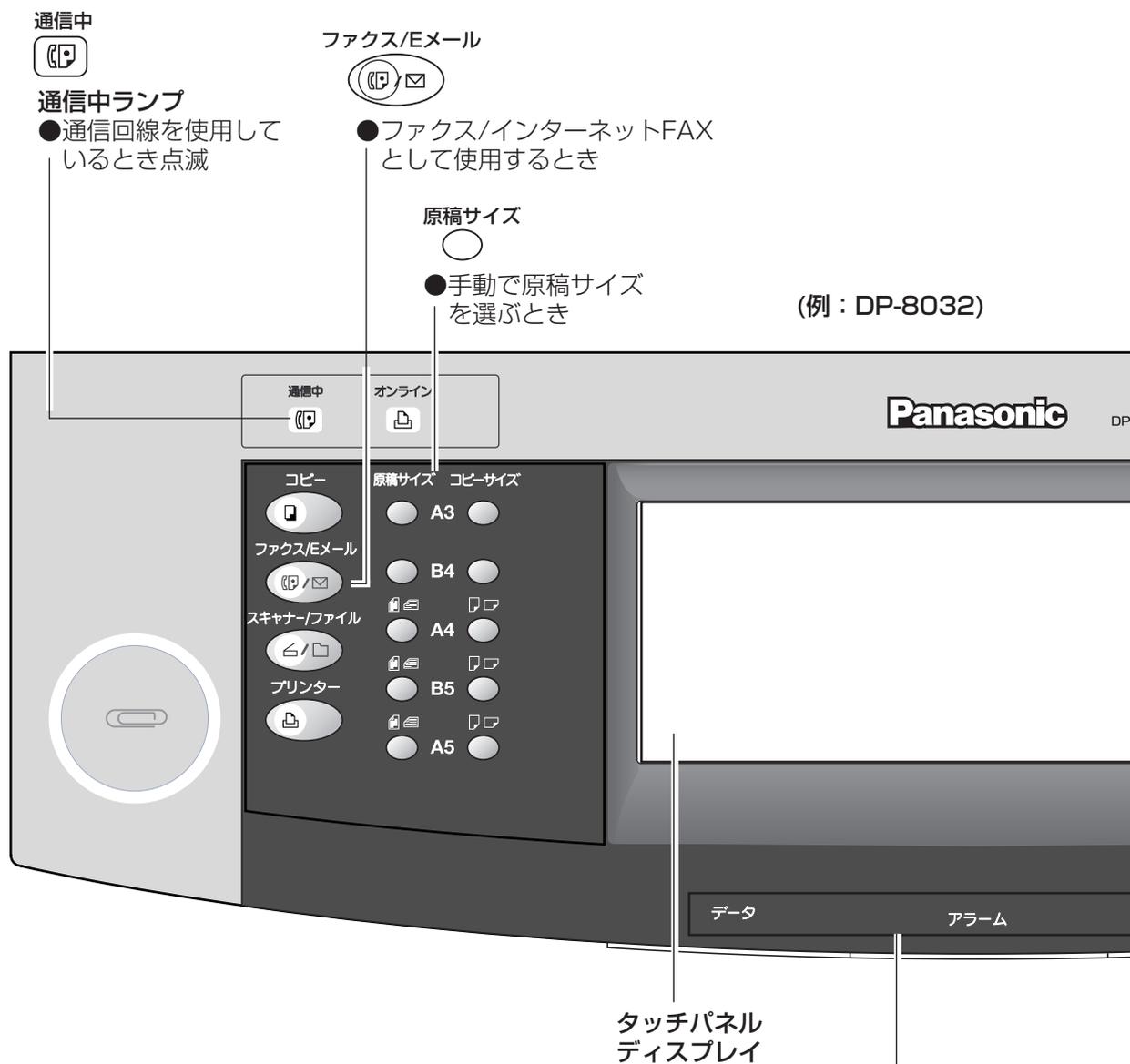
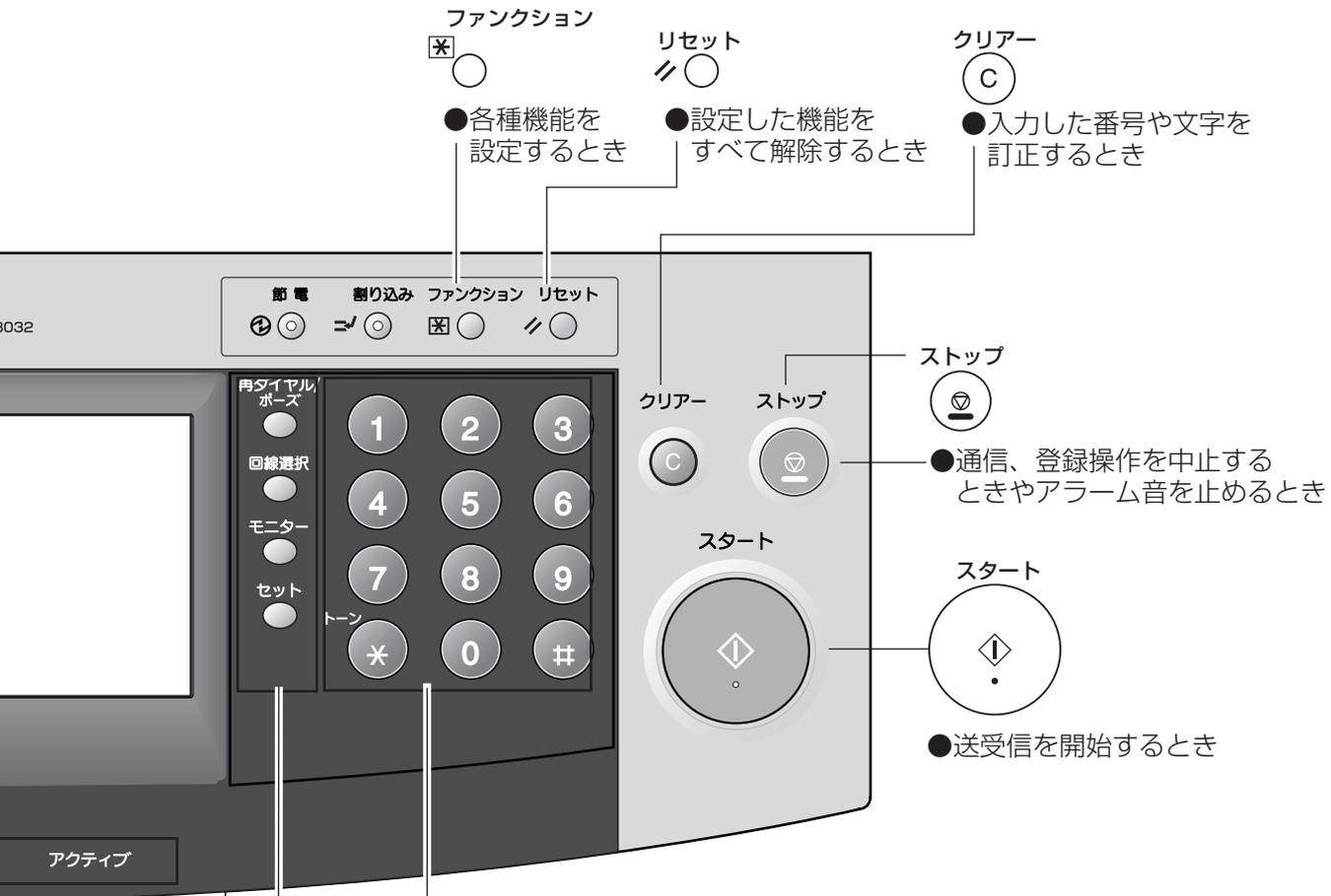
本取扱説明書は、従来の一般加入回線等での G3 通信および、LAN システムを使用したインターネット通信が可能なインターネットファクス機能についての取扱説明書です。

※ネットワークとの接続および使用に際しては、本製品以外にソフトウェアおよび LAN 伝送路用品が必要です。

各部の名前と働き

左側面・背面図

（イラストはオプションを装着した例です）

コントロールパネル

通信中
通信中ランプ
●通信回線を使用しているとき点滅
ファクス/Eメール
●ファクス/インターネットFAXとして使用するとき
原稿サイズ
●手動で原稿サイズを選ぶとき
(例：DP-8032)
通信中
オンライン
Panasonic
コピー
原稿サイズ
コピーサイズ
A3
ファクス/Eメール
B4
スキャナー/ファイル
A4
プリンター
B5
A5
データ
アラーム
タッチパネルディスプレイ
データLED（緑）
●プリントデータをパソコンより受けたときに点灯します。
アラームLED（赤）
●本機が異常なときに点灯または点滅します。
アクティブLED（緑）
●本機が動作中のときに点滅します。また、メモリーに受信データがあるときに点灯します。

再ダイヤル/ポーズ
- ファクスを送り直すとき
- 番号の間に待ち時間を入れるとき

回線選択
- オプションの増設通信ユニットをお使いで回線を切り替えるとき

モニター
- ダイヤルトーンを確認してダイヤルするとき

セット
- 登録・設定するとき

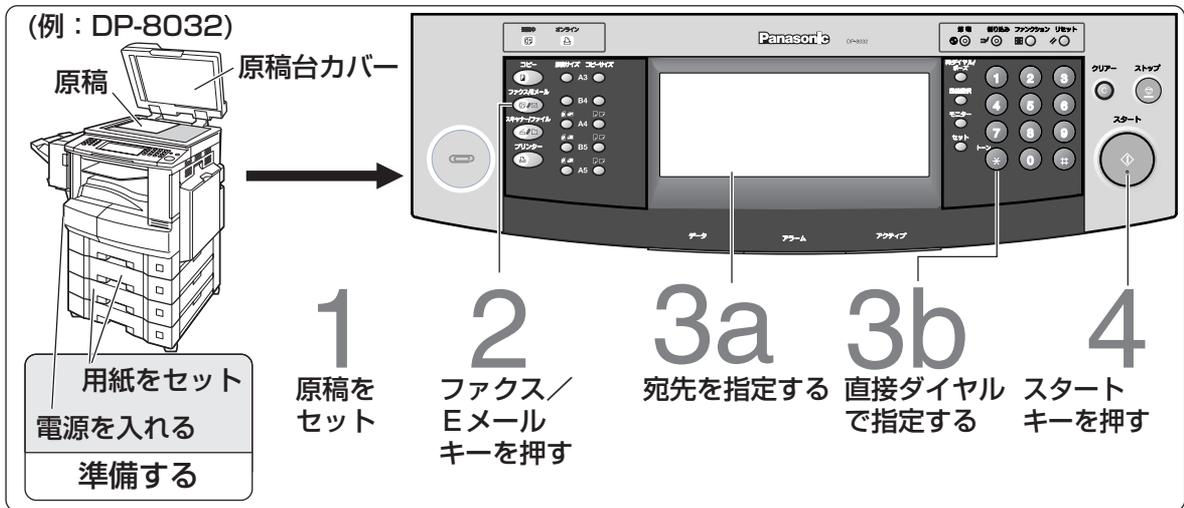
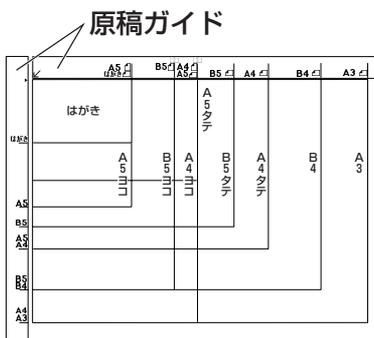
テンキー
- ダイヤルするとき
- 数字入力するとき

トーンキー
- ダイヤル式回線でプッシュホン信号を使いたいとき

コピーモードで電話番号を入力（お買い上げ時の設定は6桁以上）すると、自動的にファクス／Eメールモードへ切り替わります。

基本編

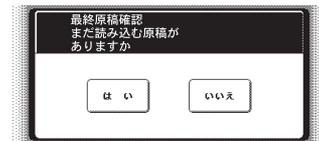
基本送信手順

■使いかた

■原稿サイズと原稿のおきかた

●原稿面を下向きにして、原稿ガイドに正しく合わせる。
●A5 サイズより小さい原稿は、A5 サイズの枠内にセットする。
●ADF/ 両面 ADF では原稿面を上にしてセットする。

■宛先入力のしかた

テンキーで宛先のファクス番号をダイヤルする。

番号を間違えたときは (C)(クリアー) を押して入力し直す。

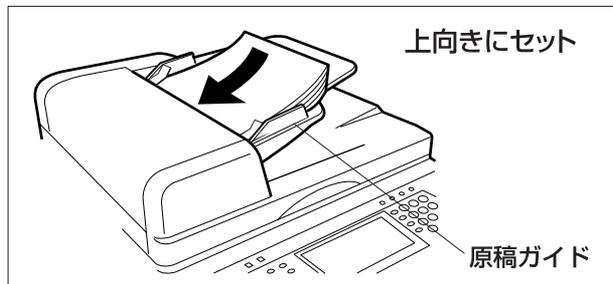
■登録してあるアドレス帳で宛先を指定する。

● 送信原稿がまだあるときは、はい を押して、原稿を交換し 、スタート を押す。
● 送信原稿がないときは、いいえ を押す。

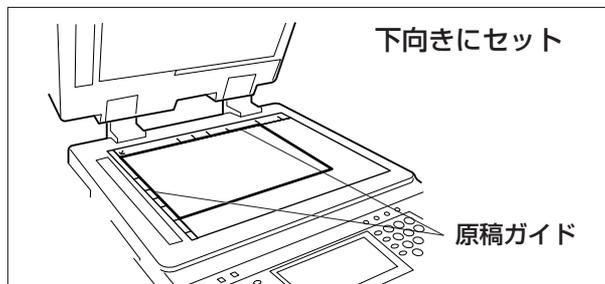
お知らせ　● 外線が「0 発信」のときは、電話番号の頭に「0」を付けてください。

原稿について

原稿の取扱い

■原稿のおきかたと原稿の読取り

(1) ADF

- 原稿を上向きにセットし、原稿ガイドを原稿サイズに合わせる。
- 原稿は上から送り出される。

(2) 原稿台ガラス

- 原稿を原稿ガイドに沿って下向きにセットする。

■ADF では

- 原稿サイズ ： A5 – A3
- 原稿枚数 ： 最大50枚まで (30枚/A3, B4)
- 原稿の紙厚 ： 0.06 – 0.1mm(50～105g/m^2)
- 原稿の紙質 ： 上質紙相当（コーティングのないもの）

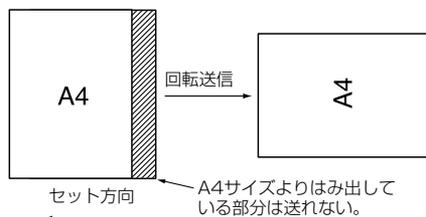
■原稿台ガラスでは

- 原稿サイズは A5 – A3 （Ａ 5より小さい原稿（Ａ 6など）は、原稿サイズボタンで Ａ 5を指定してください）
- インクや修正液などは、完全に乾いてからセットする。
- 透明度の高い原稿は、白紙を上にセットする。
- 原稿台カバーや ADF は、静かに上げ下ろしする。

■ADF に適さない原稿

- クリップやステープルで綴じた原稿
- 破れ、しわ、カール、折り目などのある原稿
- はがき用紙、画用紙などの厚手の原稿
- パラフィン紙、タイプライター用紙などの薄い原稿
- OHP フィルム、第 2 原図などの透明な原稿
- 感熱紙、カーボン紙、アート紙、和紙など
- 貼り合わせた原稿や大きな穴のある原稿

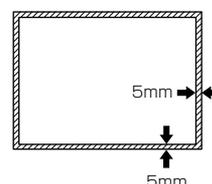
これらの原稿は、
原稿台ガラスにセットする。

■定型外の原稿について

定型外の原稿を送信する場合は、自動的に回転送信することがあります。
回転送信した場合、定型サイズの部分しか送ることはできません。
また A5、B5 にて原稿を送信する場合は、A4 幅での送信となります。

お知らせ

有効読取り範囲について

- 原稿の周囲 5mm の幅は相手の用紙にプリントされないことがあります。斜線部分には文字などを記入しないでください。
- 「発信元印字」が原稿内に設定されている場合は、先端及び後端から10mm まで文字を書かないでください。

基本編

読取りモードの指定

モード設定 を押して、基本画面で指定できます。（☞19 ページ）

■濃度を選ぶ

セットした原稿に合わせて、送信する濃さを選ぶことができます。

タッチパネルの うすく こく を押して濃度を調節します。

セットした原稿に合わせて、原稿の種類を選ぶことができます。タッチパネルの 文字 文字／写真 写真 を押して原稿の種類を選択します。

■画質を選ぶ

セットした原稿に合わせて、原稿の画質を選ぶことができます。

タッチパネルの ふつう 小さい 細密 または 600dpi を押して種類、細かさを選択します。

原稿の種類

- 文字：文字が主体の原稿。ハーフトーンを使わずに早く送信できます
- 文字/写真：文字と写真が混在する原稿
- 写真：写真やイラストなどの原稿をきれいに送信できます

原稿の細かさ

- ふつう：普通の大きさの文字の原稿
- 小さい：新聞などのように、細かい文字の原稿
- 細密：特に細かい文字の原稿
- 600dpi：鮮明な画質を求めるとき

アドレス帳 を押してアドレス帳画面に戻ります。（☞19 ページ）

済スタンプの使いかた

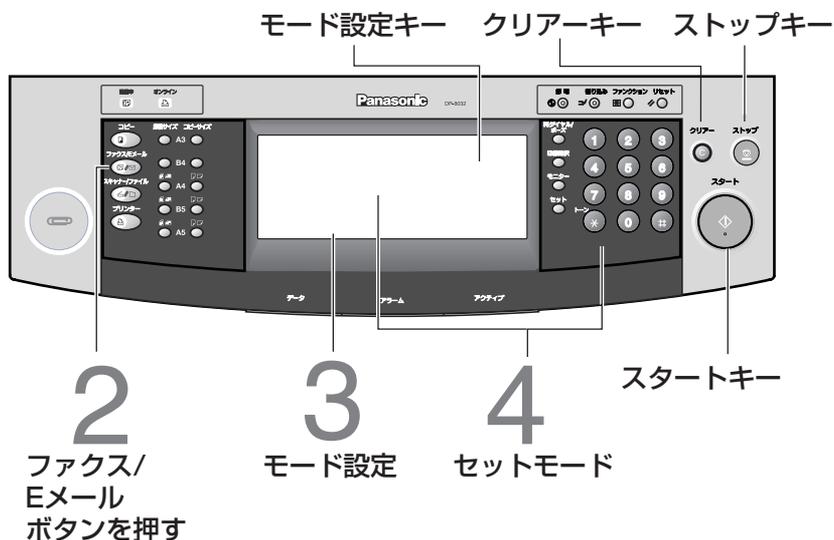
- ●送信済みの原稿には「済」スタンプが押されます。
- ●済スタンプを押さないようにしたい場合は、システム登録の「004 済スタンプ」、「028 メモリー済スタンプ」（☞243 ページ）の設定を変更してください。
- ●原稿台ガラスで読み取った原稿には、済スタンプは押されません。
- ●１回送信に限り、済スタンプの設定を変更できます。モード設定画面の基本画面で変更できます。（☞20 ページ）

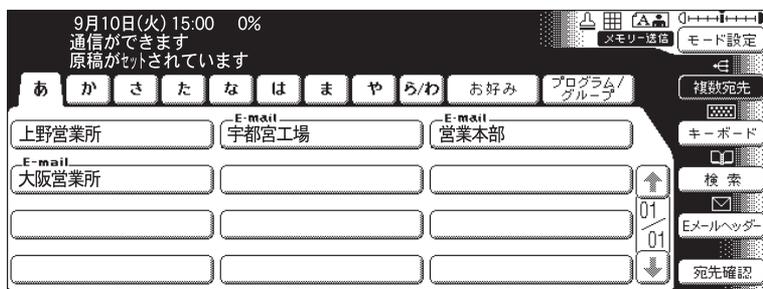
お知らせ

- ● よくお使いになる濃度、種類、細かさを登録しておけば、原稿をセットするたびに設定を変える手間が省けます。“システム登録”（☞243 ページ）
- ● 原稿の細かさが「ふつう」では「文字／写真」「写真」は選べません。

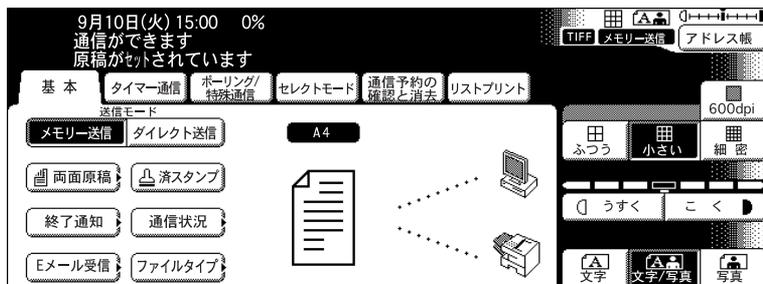
モード設定

モード設定のしかた

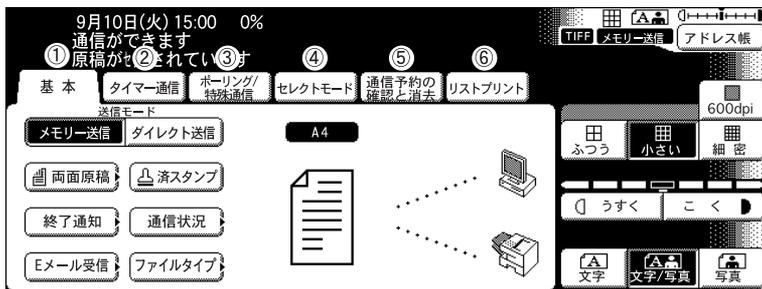
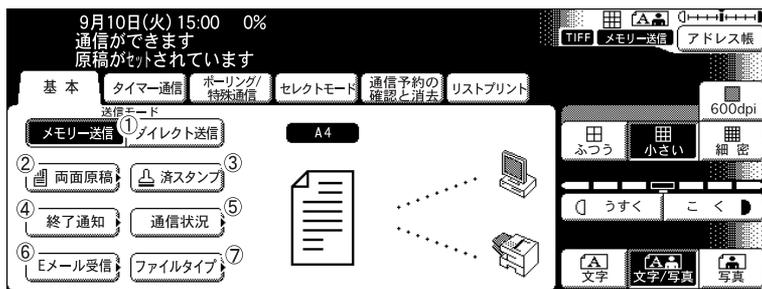
基本メニュー、タイマー通信、ポーリング／特殊通信、セレクトモード、通信予約の確認と消去、リストプリントの設定ができます。

■モード設定画面への変更のしかた

[アドレス帳画面]

モード設定

モード設定画面へ変更するとき押します

[モード設定画面]

アドレス帳

アドレス帳の画面に戻るとき押します

<次ページへつづく>

上部のタブを押して各設定画面を表示します。
①基本画面
②タイマー通信
③ポーリング／特殊通信
④セレクトモード
⑤通信予約の確認と消去
⑥リストプリント

基本画面

① 送信モードを選択する（メモリー送信またはダイレクト送信）
（☞27～28 ページ）

② 両面原稿
（☞37 ページ）

③ 済スタンプ
（☞18 ページ）

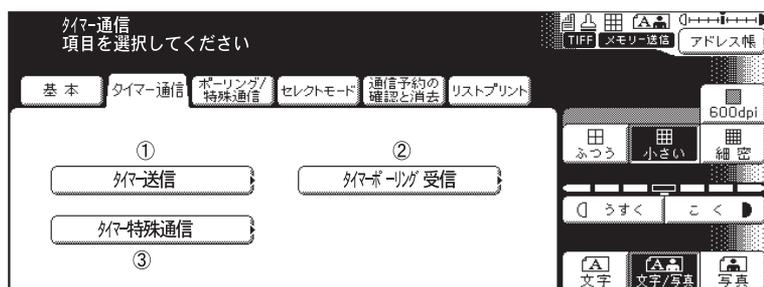
④ 終了通知
ファクスやインターネットファクスの送信が完了したとき、登録先の PC 画面へ終了通知をするとき設定します。（☞基本編取扱説明書の「終了通知」を参照ください）

⑤ 通信状況
通信状況を確認できます。

⑥ E メール受信
（☞67～78 ページ）

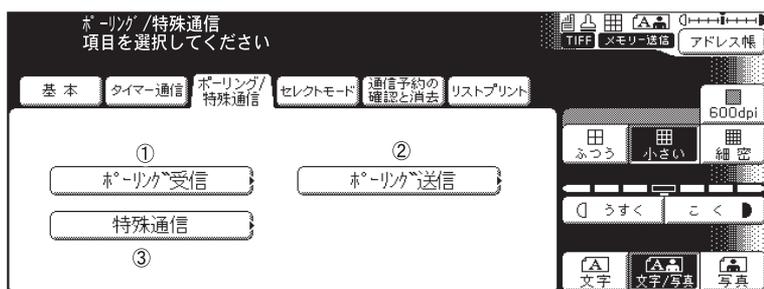
⑦ ファイルタイプ（ファイルフォーマット）（☞50 ページ）
E メール送信時のファイルタイプを選択します。また、ファイル名を変更できます。

お知らせ

● アドレス帳の画面に戻るときは、 アドレス帳 を押します。

タイマー通信

① タイマー送信
(☞84 ページ)

② タイマーポーリング受信
(☞86 ページ)

③ タイマー特殊通信
(☞88 ページ)

ポーリング／特殊通信

① ポーリング受信
(☞82 ページ)

② ポーリング送信
(☞80 ページ)

③ 特殊通信
(☞90 ～ 103 ページ)

＜次ページへつづく＞

モード設定

セレクトモード

① セレクト送信
(☞112 ページ)

② パスワード送信
(☞106 、110 ページ)

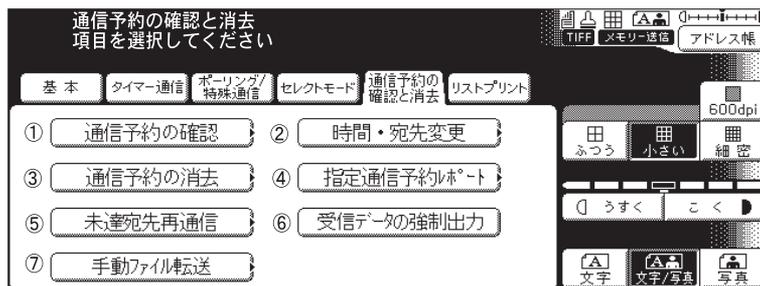
③ ワンタイム海外通信
(☞130 ページ)

④ 優先通信
(☞128 ページ)

⑤ 定期便タイマー通信
(☞132 ページ)

⑥ メモリー受信
(☞134 ページ)

⑦ E メール A3 送信
(☞60 ページ)

⑧ 送達確認要求
(☞62 ページ)

通信予約の確認と消去

① 通信予約の確認
(☞136 ページ)

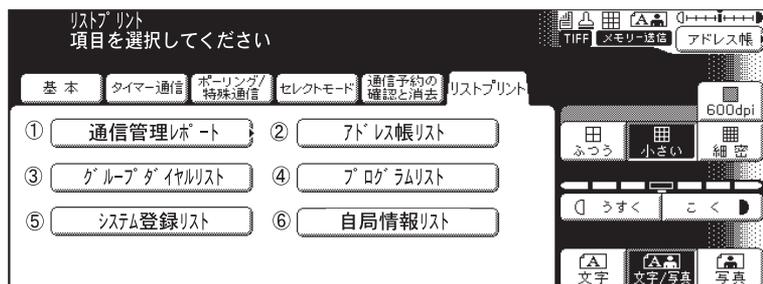
② 時間・宛先変更
(☞138 ページ)

③ 通信予約の消去
(☞140 ページ)

④ 指定通信予約レポート
(☞141 ページ)

⑤ 未達宛先再通信
(☞142 ページ)

⑥ 受信データの強制出力
(☞143 ページ)

⑦ 手動ファイル転送
(☞144 ページ)

リストプリント

① 通信管理レポート
(☞172 ページ)

② アドレス帳リスト
(☞176 ページ)

③ グループダイヤルリスト
(☞176 ページ)

④ プログラムリスト
(☞176 ページ)

⑤ システム登録リスト
(☞178 ページ)

⑥ 自局情報リスト
(☞179 ページ)

電話回線で送信する

概要

メモリーまたはダイレクト送信､手動送信のいずれかを選択できます。

以下の場合は、メモリー送信してください。

･原稿を複数の宛先に送信する

･原稿をすぐに持ち帰る

･マルチタスクで操作をする

次の場合は、ダイレクト送信してください。

･メモリーがいっぱい

･原稿を次の通信で割込んで送信する (複数の通信予約がされていて、すぐにメモリー送信できないとき）

次の場合は、手動送信してください。

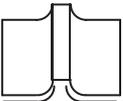
･通話相手と話した後に原稿を送信する （外部電話機を使用して通話後、スタートを押すことで送信する）

ファクスを送る

■直接ダイヤルで送る (メモリー送信)

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

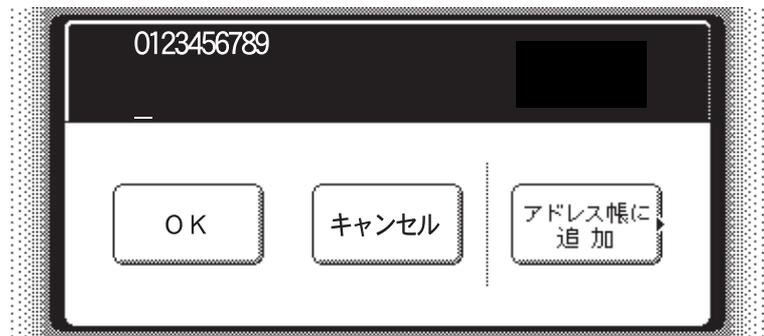
・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 テンキーで電話番号をダイヤルする（最大 52 桁）

・メモリー送信では宛先を複数指定できます。複数の宛先を指定するときは、宛先の電話番号を押したあとに OK を押すと、次の宛先が選べます。

・システム登録の「005 送信メモリー優先」を「なし」に設定している場合は、モード設定画面の基本メニューで メモリー送信 を押してからダイヤル操作をしてください (☞20 ページ)

3 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。

・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

● 手順2で入力した電話番号をアドレス帳へ登録できます。アドレス帳に追加 編集 を押したあと、宛先名称、ボタン名称と検索名称を登録します。

● 宛先を間違えたときは、クリアー を押して訂正してください。

● 送信を途中でやめるときは、ストップ を押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。

● 直接ダイヤルでは、ダイヤルキー(0 ～ 9、＊、#)、ポーズ（－）/ トーン（／）が使えます。

● メモリーには A4 標準原稿（A4 サイズ 700 字程度の原稿）で約 180 枚分が蓄積できます。枚数は文字サイズによって異なります。（☞258 ページ）

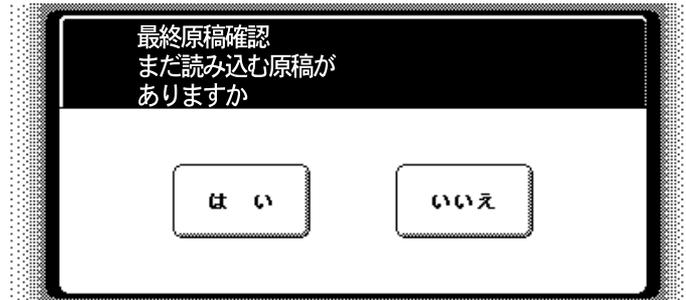
● 宛先は、直接ダイヤル 20 件＋アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。

電話回線で送信する

原稿台ガラスで原稿を読み込む

送信する原稿を原稿台ガラスにセットした場合、スタートを押して１枚目の原稿を読み込むと、タッチパネルに「まだ読み込み原稿がありますか？」というメッセージが表示されます。

●送信原稿がまだある時は はい を押して、原稿を交換し、スタートを押します。

● いいえ を押すと、送信が開始されます。

オプションの増設通信ユニットを設置している場合

本機ではオプションの G3/G4 通信ユニットを増設すると、「回線 1」用の電話回線のほかに「回線 2」のように電話回線を接続することができます。「回線 2」に接続した電話回線を使ってダイヤルするときは、次のようにしてください。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 原稿をセットする

2 宛先の電話番号をダイヤルし、回線選択を押して「回線 2」を表示させる

3 スタートを押す

・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

● オプションの G3/G4 通信ユニットを増設して､最大 3 つの回線を選んでダイヤルすることができます。（最大増設時は「回線 1」「Ｇ ４」「Ｇ ３（Ｉ）」と表示します。）

● オプションの G4 通信ユニットを増設している場合、回線選択ボタンで「G4」を選択しても、相手先のファクスが G3 機のときは自動的に G3 通信に切り替わります。

■アドレス帳で送る（メモリー送信）

あらかじめアドレス帳に宛先を登録してください（☞ 207 ページ）。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

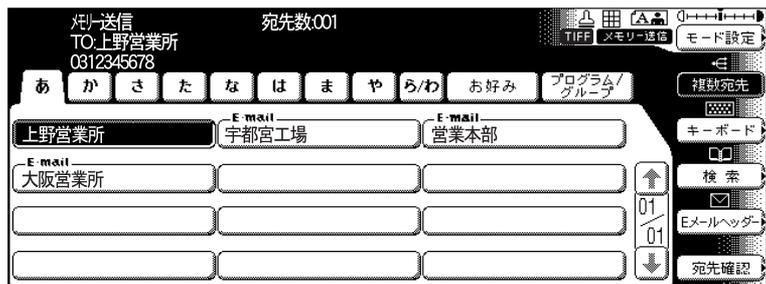
2 アドレス帳で宛先を指定する

・アドレス帳に登録された宛先は、五十音順に分類されています。

・ あ か さ た な は ま や ら／わ の各キーを押すと、それぞれのページが表示されます。

・ ⬇ ⬆ を押して、ページをめくります。

・メモリー送信で複数の宛先を選ぶと、選んだ宛先すべてに対して順番に送信されます（同報送信）。

・１宛先指定の設定ができます (☞33 ページ)

3 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。

・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

● 宛先を間違えたときは、クリアー (C) を押して訂正してください。

● 送信を途中でやめるときは、ストップ を押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。

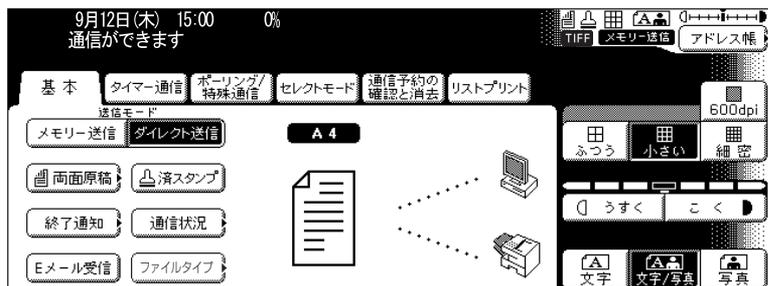
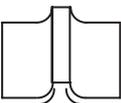
● 宛先は、直接ダイヤル 20 件＋アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。

■ダイレクト送信をする

原稿の枚数が多いなどでメモリーがいっぱいの場合はダイレクト送信を行います。
ダイレクト送信では、メモリーを使わずに、読み込んだ原稿を送信します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 ダイレクト送信 を押す

2a 送る面を上向きに ADF にセットする

2b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

3 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・ダイレクト送信では複数宛先は指定できません。
・宛先を間違えたときは、クリアー(C)を押して訂正してください。

基本編

4 スタート を押す

・宛先にダイヤルし、送信が開始されます。

お知らせ

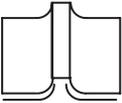
● 送信を途中でやめるときは、ストップ を押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。
● ダイレクト送信のとき、原稿台ガラスを使って送信する場合は、複数枚の原稿送信はできません。
● ダイレクト送信時に再ダイヤル待ちとなった場合は、ファクス受信などを除き操作ができなくなります。すぐに操作をしたい場合は再ダイヤルを取り消してから操作をしてください（☞30 ページ）

■再ダイヤルで送る

最後にダイヤルした宛先に、もう一度ダイヤルします。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 再ダイヤル/ポーズ を押す

・電話番号を確認し OK を押す。

3 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

自動再ダイヤル

相手が話し中などでつながらなかった場合、約 3 分間隔で 2 回まで自動的に再ダイヤルします。

■メモリー送信をしたとき

- 再ダイヤル待ちのとき
  3分間隔で2回まで自動的に再ダイヤルします。再ダイヤルを取り消すには、タッチパネルに「再ダイヤル待ち」が表示されているときに ストップ はい を押します。また、通信予約の消去を使っても取り消しできます。(☞140 ページ)。
- 再ダイヤル待ちのときに、次の送信をしたいときは、通常通り送信してください。
- つながらなかったときは、エラーメッセージ「通信エラーがありました」が表示されます。

■ダイレクト送信をしたとき

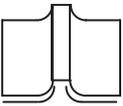
- 再ダイヤル待ちのとき
  3分間隔で2回まで自動的に再ダイヤルします。再ダイヤルを取り消すには、原稿があることを確認し、タッチパネルに「再ダイヤル待ち」が表示されているときに、ストップ はい を押します。
- 再ダイヤル待ちのときに次の送信をしたいときは、上記の方法で再ダイヤルを取り消してから送信してください。
- つながらなかったときは、エラーメッセージ「通信エラーがありました」が表示されます。

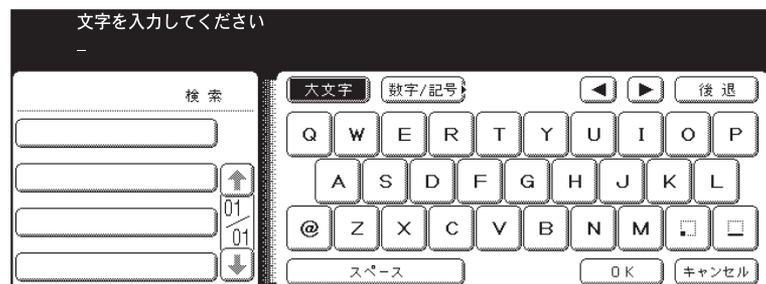
■宛先を検索して送る

あらかじめアドレス帳に宛先を登録しておけば、名前を入力することにより目的の宛先を検索して送信することができます。

ランプ点灯状態で

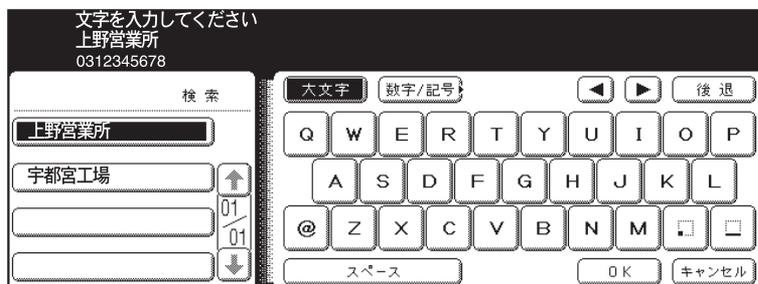
・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 アドレス帳画面にて 検索 を押す

3 検索する文字を入力する（最大 10 文字）

・キーボードからカナ文字を入力してください。
・入力された文字と一致する登録されたアドレス帳の宛先が表示されます。

<次ページへつづく>

4 宛先を選ぶ

5 OK を押し、スタートを押す

・原稿の読取が開始されます。
・読取が終了した原稿から送信が開始されます。

お知らせ

- 宛先を間違えたときは、クリアーを押して訂正してください。
- 送信を途中でやめるときは、ストップを押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。

誤送信防止

概要

誤った宛先への送信を防止するため、本機には、複数宛先指定の禁止、宛先確認、直接ダイヤル制限、直接ダイヤル再入力の 4 つの機能があります。

複数宛先指定の禁止

本機では、テンキーでの電話番号入力やアドレス帳からの宛先指定で、同じ原稿を複数の宛先にファクス送信できます。

複数の宛先に送信したくない場合は、 複数宛先 を押すと、複数宛先の設定が解除され、1 宛先だけに送信するように設定されます。誤って複数の宛先へ送信する操作を防ぎたい場合に便利です。(☞245 ページ)

- 複数宛先は、ファンクション設定の ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 01 システムの登録 117 複数宛先指定 で初期値を変更できます。(☞245 ページ)
- ファンクション設定で「機能なし」に設定されている場合は、複数宛先へ送信できません。
- ファンクション設定で「機能なし」に設定されている場合、グループダイヤルは使用できません。
- ファンクション設定で「機能なし」に設定されている場合も、複数宛先を設定しているプログラムダイヤルは使用できます。

基本編

誤送信防止

宛先確認

常に宛先確認をしてからでないと、送信を開始できないように設定できます。
宛先確認をしてからでないと送信を開始できないようにする場合は、システム登録の「125 宛先確認」を「あり」に設定してください。
この機能を設定していて、宛先を確認しないで「スタート」を押すと、宛先確認の操作を促すメッセージが表示されます。
宛先確認を促すメッセージが表示された場合は、次の手順にしたがって操作してください。

■指定した宛先を確認する

1 宛先確認 を押す

・宛先確認の画面が表示されます。

・⬇ ⬆ を押すと、指定した宛先が順番に表示されます。

・宛先を削除したい場合は、削除する宛先を選択し 消去 を押し はい を押すと、表示されている宛先が消去できます。

2 OK を押す

・宛先確認を終了します。

3 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

直接ダイヤル制限

直接入力による電話番号の指定を、すべて禁止するように設定できます。

·直接ダイヤル入力を禁止する場合は、システム登録の「136 直接ダイヤル制限」を「あり」に設定しておきます。お買い上げ時は、「なし」に設定されています。(☞246 ページ)
この機能を設定すると、外部電話機を使用するときも、本機からの直接ダイヤルは使用できません。また、［再ダイヤル］は使用できません。ただし、再ダイヤル待ちが表示されている場合は、［再ダイヤル］を押すと、再ダイヤルが開始されます。

● 制限されている操作を行うと次のメッセージが表示されます。

直接ダイヤル再入力

直接入力で電話番号を入力するときに、電話番号の再入力画面が表示され、1 回目と 2 回目が一致した場合にだけ送信が開始されるように設定できます。
·直接ダイヤル再入力を有効にする場合は、システム登録の「137 直接ダイヤル再入力」を「あり」に設定しておきます。お買い上げ時は、「なし」に設定されています。(☞246 ページ)
·システム登録の「136 直接ダイヤル制限」が「あり」に設定されている場合は、「137 直接ダイヤル再入力」で「あり」を設定しても、直接ダイヤル制限機能が優先されます。(☞246 ページ)
· 1 回目と 2 回目の宛先が一致しない場合は、「宛先が一致していません」と表示されます。

直接入力で電話番号を入力し、 OK または を押すと、自動的に再入力画面が表示されます。

1 電話番号をもう一度入力します。

2 OK または を押す。

再入力した番号が一致すると、送信が開始されます。
再入力した番号が一致しない場合は、メッセージが表示されます。この場合は、1 回目の電話番号入力から、再度操作を行います。

通信機能について

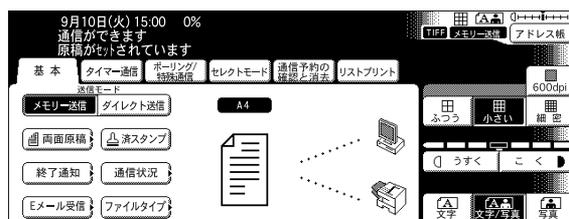
両面送信について

本機では両面の原稿を一度に読取ることができます。(メモリー送信時のみ利用可能です)

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 最初に送る面を上向きに ADF にセットする

2 モード設定 を押す

3 両面原稿 を押し、原稿のとじ位置を選択し、 OK を押す

4 宛先を指定して スタート を押す

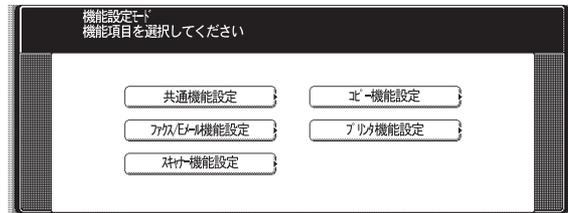
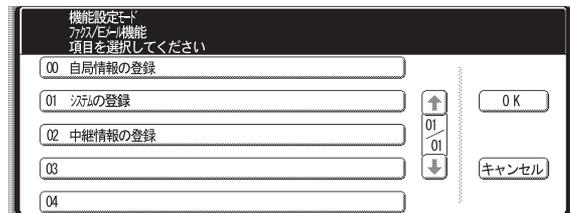
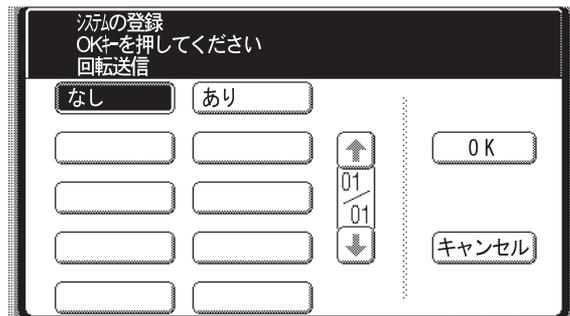
・原稿読み込み後、送信が開始されます。
・送信終了後、両面送信の設定は「オフ」に戻ります。

お知らせ

● 両面送信 は、メモリー送信のときのみ利用できます。ダイレクト送信では利用できません。
● 両面送信では、済スタンプは利用できません。
● メモリーがいっぱいになると両面送信は利用できません。
● 機種により両面送信機能がない場合は、 両面送信 は利用できません。

回転送信について

A4 原稿を「← ▯」方向へセットしたとき、読み取った画像を自動的に 90° 回転して送信します。相手のファクスの A4 用紙には等倍で印刷されます。(メモリー送信時のみ利用可能です)

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押し、キーオペレーターパスワードを入力して OK を押す

3 01 システムの登録 ⬇ ⬆ を押して、078 回転送信 を表示させ、 を押す

4 回転送信の設定を選ぶ

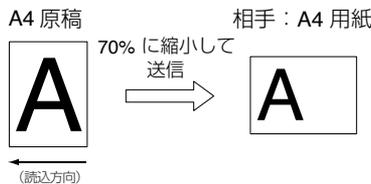
・ なし / あり を押すと、設定が切り替わります。

5 OK を押す

■回転送信をしない場合

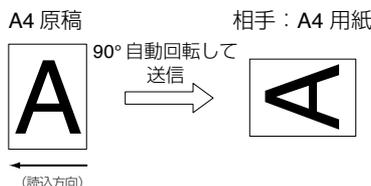
例：A4 原稿を送信する場合

A4 原稿 → 70% に縮小して送信 → 相手：A4 用紙

(読込方向)

■回転送信を有効にした場合

例：A4 原稿を送信する場合

A4 原稿 → 90° 自動回転して送信 → 相手：A4 用紙

(読込方向)

●回転送信は、メモリー送信のときのみ利用できます。ダイレクト送信では、回転送信は行いません。
●お買い上げ時には、回転送信の設定は「あり」になっています。

通信機能について

メモリーがいっぱいになると

メモリー送信時にメモリーがいっぱいになった場合、お買い上げ時の設定（クイックメモリー送信（☞244ページ）が「あり」）では蓄積したところまでを送信し、残りの原稿が送信できなかったことを知らせるメッセージが表示されます。

また、クイックメモリー送信を「なし」に設定してメモリー送信をしている場合、ページの途中でメモリーがいっぱいになると、メモリー容量がないことと、蓄積されたページを送信するかの確認メッセージが表示されますので、次のどちらかの操作をしてください。

● はい を押して、蓄積されたページまでを送信します。蓄積できなかった残りのページ を送信し直してください。

● いいえ を押して、送信予約を中止し、メモリーに読み込んだページの消去を行ないます。

お知らせ

● 1ページ目でメモリーがいっぱいになったときは、送信することはできません。ダイレクト送信をしてください。
● 取り消しの選択画面が表示されてから、約1分間何も操作しないと、お買い上げ時の設定では自動的にメモリーの内容が宛先に送信されます。システム登録の「105 メモリーフル時動作」にて設定を変更できます (☞245 ページ)。
● クイックメモリー送信が「なし」に設定されていて1宛先指定の場合、読み込む原稿のページ間でメモリー容量が少ないと本機が判断した場合、ダイレクト送信に自動的に切り替えます。

クイックメモリー送信について

ADFから複数枚の原稿を1宛先でメモリー送信した場合、1枚目を読み込んだ時点で送信を開始する機能です。メモリーに読み込みながら送信しますので、お急ぎの場合に便利です。この機能はお買い上げ時の設定では「あり」になっています。システム登録の「082 クイックメモリー送信」(☞244 ページ)を「なし」に設定すると、メモリーに全ての原稿を読み込んでから宛先へ送信を開始します。

お知らせ

● 複数宛先指定、原稿台ガラスからのメモリー送信の場合は、クイックメモリー送信されません。
● クイックメモリー送信の場合は、発信元情報 (☞39 ページ)の右端に印字される送信総枚数は印字されません。

通信結果レポート

送信などをしたとき、宛先や通信結果をレポートにしてプリントできます。
- システム登録の「012 通信結果レポート」(☞ 243 ページ)を設定すれば、レポートのプリント方法を選択できます。
- お買い上げ時には、未通信のときだけレポートをプリントします。

発信元情報について

発信元情報の登録(☞ 198 ページ)を行うと、送信したときに会社名や部署名などを通信時刻と一緒に相手の用紙の先端にプリントできます。

また、システム登録の「145 FROM 選択機能」が「あり」のときは、通常の送信手順で スタート を押した後、FROM 選択画面になります。FROM(発信元)選択後 スタート を押して送信してください。通常のお買い上げ時は、「なし」に設定されています。(☞247 ページ)

発信元情報のプリント例

'08年09月15日(月)12時00分　宛先:本社　発信：Panasonic　R : 001　P. 01/01

宛先名敬称付加機能

システム登録の「134 宛先名敬称付加」で、発信元印字の宛先(TO)に、「様」を印字するかどうかを設定できます。お買い上げ時は、「あり」に設定されています。(☞246 ページ)

発信元印字例

電話回線で受信する

■自動受信のしかた

お買い上げ時の設定では、相手がファクスを送ってくると、自動的に受信を始めます。

1 **相手がファクスを送ってくると、呼出音は鳴らないでつながる**

2 **自動的に受信が始まる**

■相手と話してから受信する（手動受信）

本機に外部電話機を接続し、システム登録の「017 受信モード」（☞243 ページ）を「手動」にしてお使いになっている場合、接続した電話機で話をしたあとファクスの受信ができます。

1 **呼出音が鳴ったら受話器を上げる**

2 **相手と話をする**

・受話器を上げたときに何も聞こえない場合、手順 3 の操作をして受信に切り替えてください。

3 **原稿をセットしないで スタート を押す**

4 **受話器を戻す**

・スタート を押すまえに受話器を戻すと、電話が切れます。

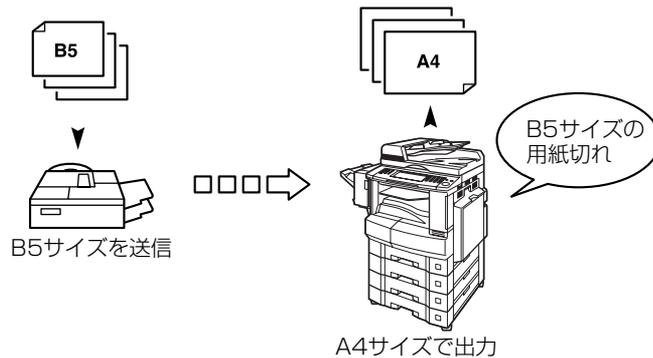
メモリー代行受信

用紙がなくなったなどでプリントできなくなっても、受信した内容はメモリーに記録されます。メモリーに記録された内容は、用紙を補給するとプリントされます。

お知らせ

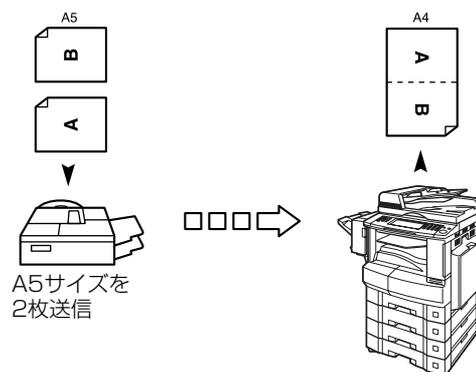
- メモリーには制限があります。用紙は早めに補充してください。(☞ 基本編取扱説明書「用紙を補給」)
- システム登録の「066 代行出力」(☞ 244 ページ)の設定が「あり」になっているときは、適正サイズの用紙が無くなると、他のカセットにセットされている用紙に記録します。
- メモリーにはA4標準原稿(A4サイズ700字程度の原稿)で約180枚分が蓄積できます。枚数は文字サイズによって異なります。(☞258 ページ)

代行出力

本機は相手が送ってきた原稿に合わせて、受信した原稿を最適なサイズの用紙でプリントします。代行出力の設定をしておけば、プリントの途中で用紙がなくなっても他のカセットにセットされている用紙を使って、受信した原稿をプリントできます。

お知らせ

- 他の用紙にプリントしたくないときは、システム登録の「066 代行出力」(☞244 ページ)の設定を「なし」にしてください。

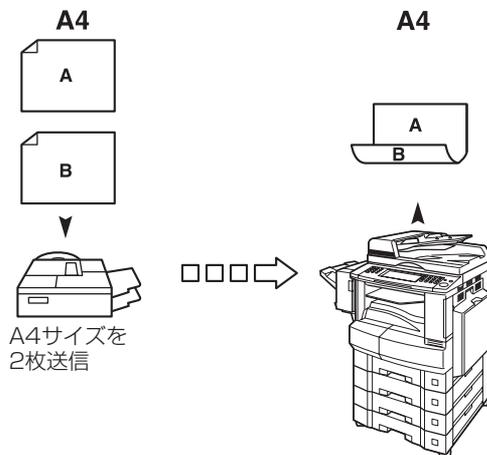
2 イン 1 受信

相手が A5 サイズの原稿を 2 枚または、B5 サイズの原稿を 2 枚送ってきたとき、A4 または B4 サイズの用紙 1 枚にまとめてプリントします。

お知らせ

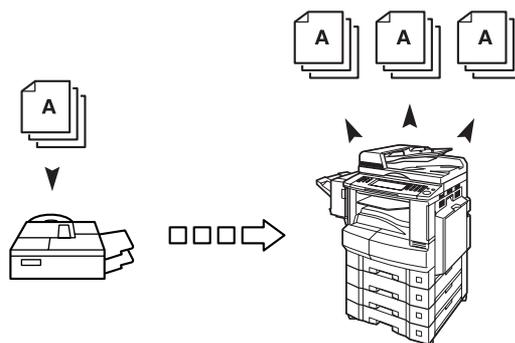
- システム登録の「067 受信 2 イン 1 /両面機能」(☞ 244 ページ)の設定が「なし」になっているときは、2 イン 1 受信はできません。

電話回線で受信する

両面受信について

相手機が A4 サイズの原稿を 2 枚送ってきたとき、A4 サイズの用紙の両面にプリントします。
（オプションの自動両面ユニットを装着している場合にご利用になれます）

お知らせ
● システム登録の「067 受信 2 イン 1 ／両面機能」（☞244 ページ）の設定を「両面」にしてください。

マルチプリント受信

受信したときに、あらかじめ設定した部数だけプリントすることができます。

お知らせ
● マルチプリント受信をするには、システム登録の「101 マルチプリント部数」（☞ 245 ページ）の設定が必要です。

リモート受信

システム登録の「047 リモート受信」（☞ 244 ページ）の設定を「あり」にすると、外部電話機で話をした後、外部電話機からの操作で受信に切り替えることができます。

1 呼出音が鳴ったら外部電話機の受話器を上げる
・相手と話をします。

2 ファクスの受信に切り替える
・外部電話機にプッシュホン式電話をお使いの場合：
「＊」「＊」（2 秒以内に押す）
・外部電話機にダイヤル式電話をお使いの場合：
「9」「9」（5 秒以内にダイヤルする）

3 受話器を戻す
・外部電話機から電話をかけたときは、リモート受信できません。
・手順 1 でファクス送信音「ポー ... ポー ...」が聞こえた場合、相手は自動送信のファクスです。手順 2 の操作をしてください。

音量の設定のしかた

■音量の設定

モニター音量の設定

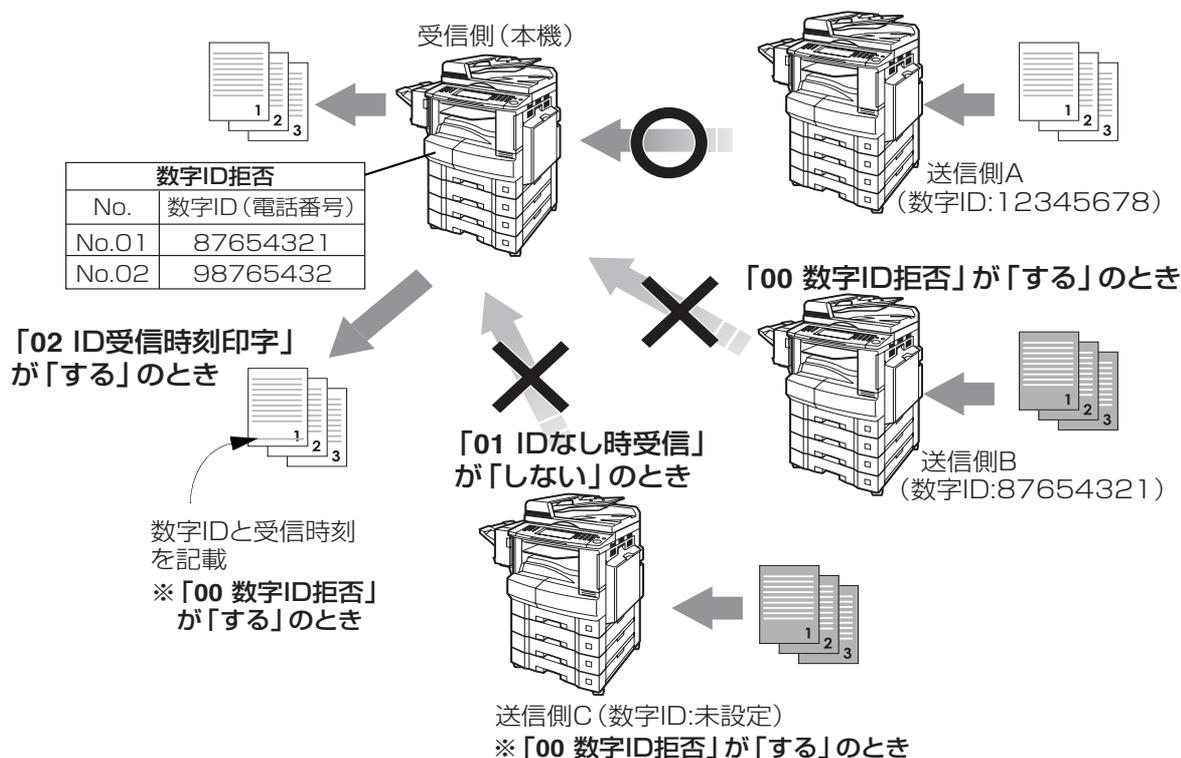
モニター を押したときに聞えるスピーカーの音量を調整します。セット を押してモニター音量を聞きながら、お好みの大きさに調整します。終了するときは OK を押し、もう一度 モニター を押してください。
システム登録の「087 モニター音量」（☞244 ページ）の設定でも調節できます。

迷惑ファクス防止

概要

受信したくない相手から着信した場合に、受信を拒否する機能です。ダイレクトメール系のファクスや、迷惑ファクスなどを受信したくない場合に設定しておくと便利です。
受信を拒否した場合、通信エラーレポートの状況欄には、「受信拒否」が記載されます。

迷惑ファクス防止には、次の 3 つの機能があります。
（数字 ID とは、ファクスの電話番号のことで、通常は自局情報の一部としてファクスに登録しておきます。）

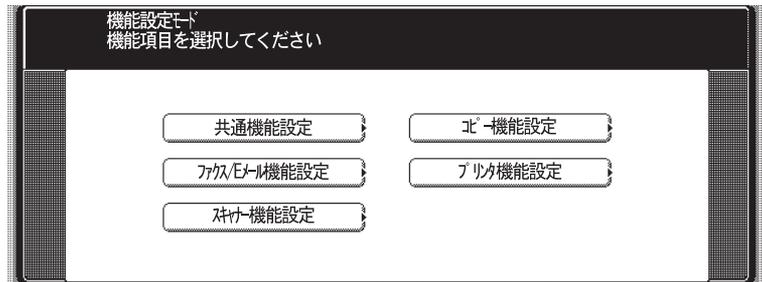
- 数字 ID 拒否：
  受信したくない相手の数字 ID を登録しておき、その数字 ID をもつ相手から着信した場合は、受信を拒否します。
  - 受信を拒否する数字 ID は、30 件まで登録できます。
  - この機能は、システム登録の「135 迷惑ファクス防止」の「00 数字 ID 拒否」が「する」に設定され、「03 ID 番号登録 (01-30)」に、受信を拒否する相手の数字 ID が登録されている場合に使用できます。（☞246 ページ）
- ID なし時受信：
  数字 ID を送出しない相手から着信した場合に、受信するかどうかを設定できます。
  「01 ID なし時受信」が「する」の場合 .... 相手機から ID が送出されない場合も受信できます。
  「01 ID なし時受信」が「しない」の場合 .... 相手機から ID が送出されない場合は、受信を拒否します。
  - この機能は、システム登録の「135 迷惑ファクス防止」の「01 ID なし時受信」が「する」に設定される場合に使用できます。（☞246 ページ）
- ID 受信時刻印字：
  相手機の数字 ID を受信時刻と共に受信文書に記載します。
  - 数字 ID が送信されなかった場合は、受信時刻だけが記載されます。
  - この機能は、システム登録の「135 迷惑ファクス防止」の「02 ID 受信時刻印字」が「する」に設定されている場合に使用できます。（☞246 ページ）

数字 ID 拒否

受信したくない相手の数字 ID を登録しておき、その数字 ID の相手から着信した場合は、受信を拒否するように設定できます。

・この機能を有効にする場合は、システムの登録の「135 迷惑ファクス防止」の「00 数字 ID 拒否」を「する」に設定し、「03 ID 番号登録 (01-30)」に受信を拒否する相手の数字 ID を登録しておきます。
(☞246 ページ)

お買い上げ時は、「しない」に設定されています。

・「03 ID 番号登録 (01-30)」には、受信を拒否する数字 ID を 30 件まで登録できます。

1

ファンクション を押す、

ファクス／Eメール 機能設定

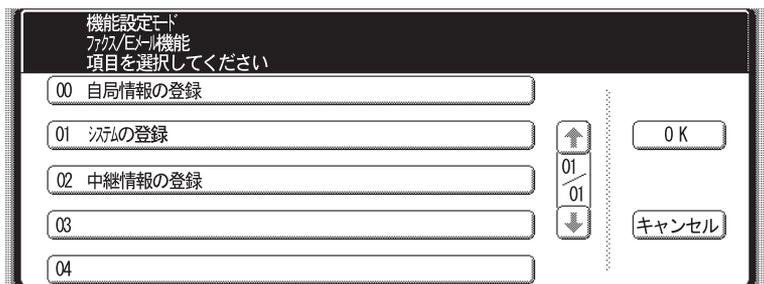
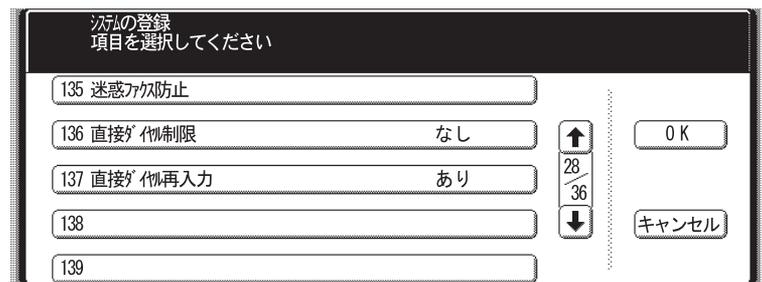
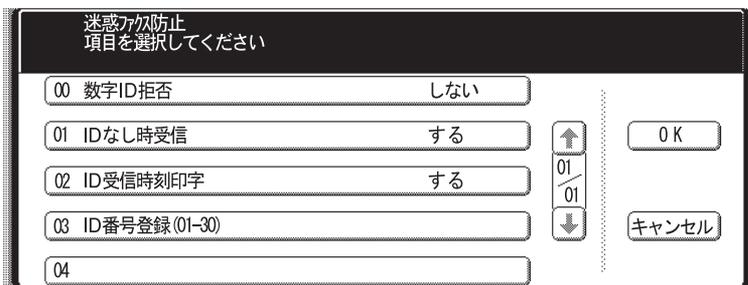
04 キーオペレーター専用 を押す

2

キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

3

01 システムの登録 を押す

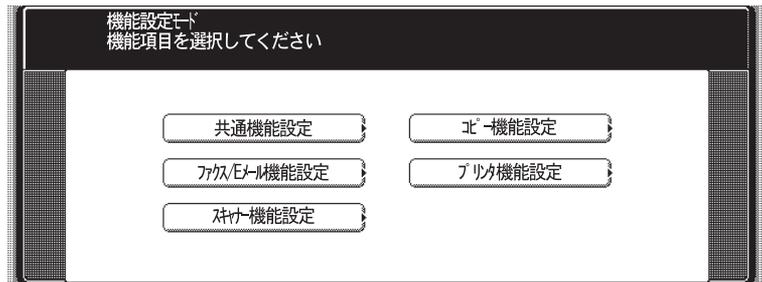
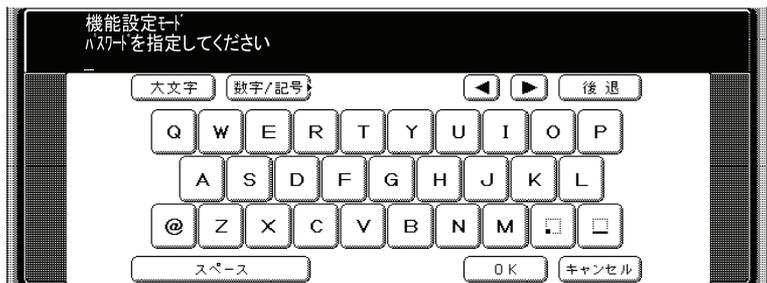
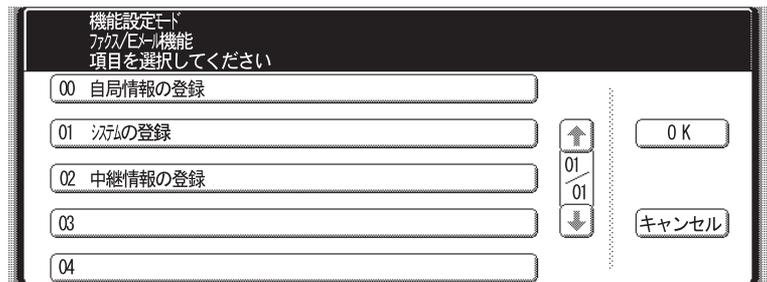
4

⬇ ⬆ を 27 回押し、135 迷惑ファクス防止 を押す、またはテンキーで「135」を入力して スタート を押す

5 00 数字ID拒否 を押す

6 する / しない を選択し、 OK を押す

- 「する」
  「03 ID 番号登録 (01-30)」に登録された数字 ID の相手から着信した場合は、受信を拒否する
- 「しない」
  特定の数字 ID からの受信を拒否しない

IDなし時受信

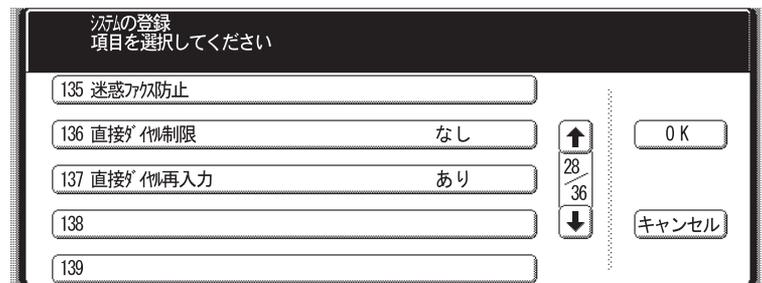
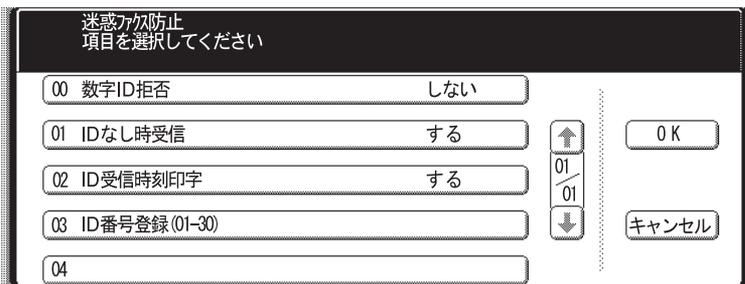
「00 数字 ID 拒否」が「する」の設定時のみ「01 ID なし時受信」の設定が可能です。
数字 ID を送出しない相手から着信した場合に、受信するかどうかを設定できます。
「01 ID なし時受信」が「する」の場合：相手機から ID が送出されない場合も受信します。
「01 ID なし時受信」が「しない」の場合：相手機から ID が送出されない場合は、受信を拒否します。

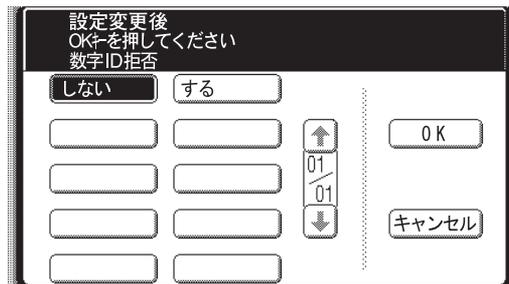
1

を押す、
ファクス／Eメール 機能設定
04 キーオペレーター専用 を押す

2 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

3 01 システムの登録 を押す

4 ⬇ ⬆ を 27 回押し、
135 迷惑ファクス防止 を押す、
またはテンキーで「135」を入力して スタート を押す

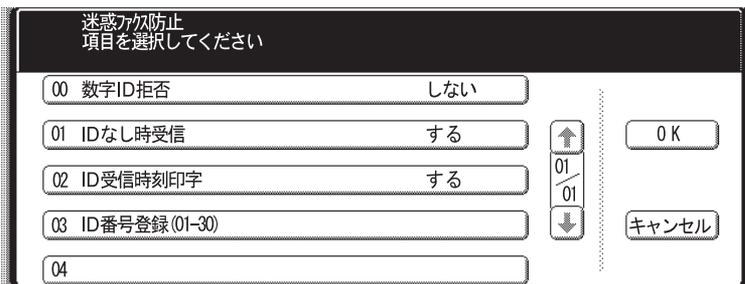
システムの登録
項目を選択してください
135 迷惑ファクス防止
136 直接ダイヤル制限 なし
137 直接ダイヤル再入力 あり
138
139
28/36
OK
キャンセル

5 **01　IDなし時受信 を押す**

6 **する / しない を選択し、 OK を押す**

ID 時刻印字

00　数字ID拒否 が「する」の設定時のみ、相手機の数字 ID と受信時刻を受信文書に記載する設定ができます。

·数字 ID が送信されなかった場合は、受信時刻だけが記載されます。

1 **「■ ID なし時受信」の手順 1 ～ 4 を行う**

2 **02　ID受信時刻印字 を押す**

3 **する / しない を選択し、 OK を押す**

ID 番号登録

03　ID番号登録（01-30） で拒否したい数字 ID を登録します。30 件まで登録できます。

・1 件につき 20 桁まで入力できます。

1 「■ ID なし時受信」の手順 1 ～ 4 を行う

2 03　ID番号登録（01-30） を押す

3 新規に登録したい番号ボタンを押す または、変更したい番号ボタンを押す

4 登録する番号を入力（変更）し、OK を押す

・テンキーで 数字（最大 20 桁）を入力します。

・間違えたときは クリアー(C) で消去して再度入力します。

・「+」を入力するときは (＊)（トーン）を押してください。

・スペースを入力するときは モニター を押してください。

LAN を使って送信する

概要

LAN 経由で 1 宛先または複数宛先の E メールアドレスに原稿を送信することができます。

次の方法で E メールアドレスが指定できます。

・ 直接 E メールアドレス指定

・ アドレス帳指定

LAN 経由の送信ではメモリー送信となります。また、ダイレクト送信は使えません。

原稿はメモリーに保存され、メールメッセージを送信します。

ＬＡＮ 経由での送信ファイルはフォーマットを選択できます。お買い上げ時の設定では、「ＴＩＦＦ」フォーマットの設定となっており、インターネット ＦＡＸ へ送信する場合にはこの「ＴＩＦＦ」フォーマットで送信します。ＰＣ へ送信する場合は、ファイルフォーマットを「ＰＤＦ」フォーマット（☞20 ページ）へ変更して送信できます。また、システム登録の「１７７ 送信ファイルタイプ」で通常お使いになるファイルフォーマットを設定できます。（☞248 ページ）

（ＰＤＦ フォーマットでの送信は、インターネット ＦＡＸ から ＰＣ への送信時のみご利用になれます。）

インターネットに接続するためには

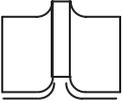
インターネット機能をご利用になるには、本機をネットワークへ正しく設定する必要があります。登録編のインターネットに接続するための事前準備を行ってください。(☞182 ページ)

LAN を使って送信する

■E メールアドレスを直接入力して送る

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

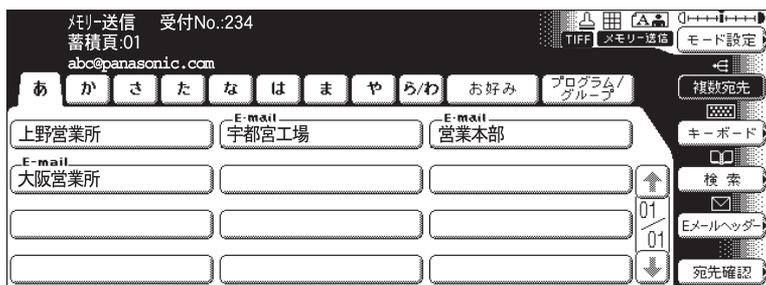
・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 アドレス帳画面にて キーボード を押し、Eメールアドレスを入力する（最大 60 桁）

・宛先は複数指定できます。複数の宛先を指定するときは、宛先の E メールアドレスを入力したあとに OK を押すと、次の宛先が選べます。

3 OK スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

<次ページへつづく>

お知らせ

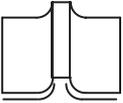
- 手順2で入力したアドレスをアドレス帳へ登録できます。アドレス帳に追加 編集 を押した後、宛先名称、ボタン名称と検索名称を登録します。
- 宛先を間違えたときは、クリアー(C)を押して訂正してください。
- 送信を途中でやめるときは、ストップを押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。
- メモリーには A4 標準原稿（A4 サイズ 700 字程度の原稿）、画質は「文字：ふつう」で約 180 枚分が蓄積できます。枚数は文字サイズによって異なります。（☞258 ページ）
- 宛先は、直接アドレス入力 20 件＋アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。
- 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。（☞63 ページ）

■アドレス帳で送る

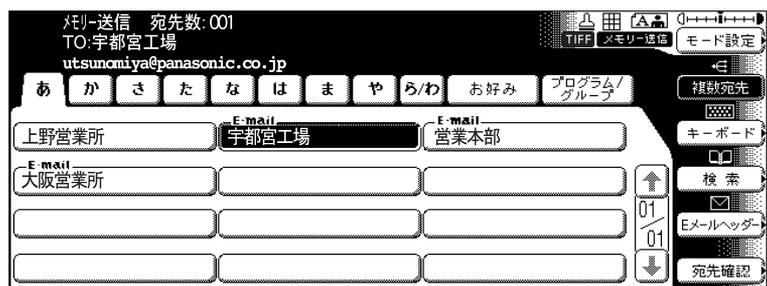
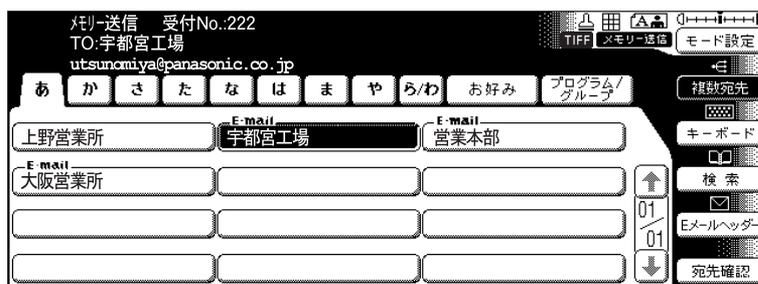
あらかじめアドレス帳に宛先を登録してください（☞ 202 ページ）。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 宛先を選択する

・インターネットの E メールアドレスが登録されているキーには、「E-mail」と表示されています。
・アドレス帳に登録された宛先は、五十音順に分類されています。
[あ][か][さ][た][な][は][ま][や][ら／わ]の各キーを押すと、それぞれのページが表示されます。
・[↓][↑]を押して、ページをめくります。
・複数の宛先を選ぶことができます。複数の宛先を選ぶと、選んだ宛先すべてに対して一斉に送信されます。
・宛先を検索して送信できます。(☞ 31 ページ)

<次ページへつづく>

3 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

- 宛先を間違えたときは、クリアー を押して訂正してください。
- 送信を途中でやめるときは、ストップ を押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。
- 宛先は、直接アドレス入力 20 件＋アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。
- 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。(☞63 ページ)

E メールアドレスを組み合わせて送る

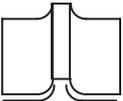
セレクトドメインとして登録したドメイン名を組み合わせてお使いになることができます。

● あらかじめセレクトドメイン用のドメイン名を登録してください。（☞199 ページ）

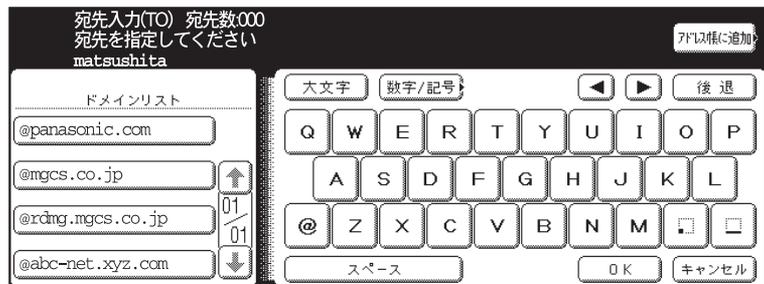
例：登録されている「@panasonic.com」と、直接入力する E メールアドレス「matsushita」を組み合わせてお使いになる場合。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 アドレス帳画面にて キーボード を押し、Eメールアドレスを入力する

例：matsushita

3 組み合わせるドメインを押す

例：「@panasonic.com」

<次ページへつづく>

基本編

4 を押す

・原稿読取りが開始されます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

● 送信を途中でやめるときは、ストップを押したあと、パネルに表示される内容に従って操作をしてください。

誤送信防止（E メール）

概要

誤った宛先への送信を防止するため、本機には、複数宛先指定の禁止、宛先確認、直接ダイヤル制限、直接ダイヤル再入力の 4 つの機能があります。

複数宛先指定の禁止

本機では、テンキーでの電話番号入力やアドレス帳からの宛先指定で、同じ原稿を複数の宛先に E メール送信できます。

複数の宛先に送信したくない場合は、［複数宛先］を押すと、複数宛先の設定が解除され、1 宛先だけに送信するように設定されます。誤って複数の宛先へ送信する操作を防ぎたい場合に便利です。（☞245 ページ）

- 複数宛先は、ファンクション設定の［ファクス／Eメール 機能設定］［04 キーオペレーター専用］［01 システムの登録］［117 複数宛先指定］で初期値を変更できます。（☞245 ページ）
- ファンクション設定で「機能なし」に設定されている場合は、複数宛先へ送信できません。
- ファンクション設定で「機能なし」に設定されている場合、グループダイヤルは使用できません。
- ファンクション設定で「機能なし」に設定されている場合も、複数宛先を設定しているプログラムダイヤルは使用できます。

基本編

誤送信防止（E メール）

宛先確認

常に宛先確認をしてから、送信を開始するように設定できます。
宛先確認が設定されている場合、宛先を確認しないで「スタート」を押すと、宛先確認の操作を促すメッセージが表示されます。
･宛先確認をする場合は、システム登録の「125 宛先確認」を「あり」に設定しておきます。(☞245 ページ)
宛先確認を促すメッセージが表示された場合は、次の手順にしたがって操作してください。

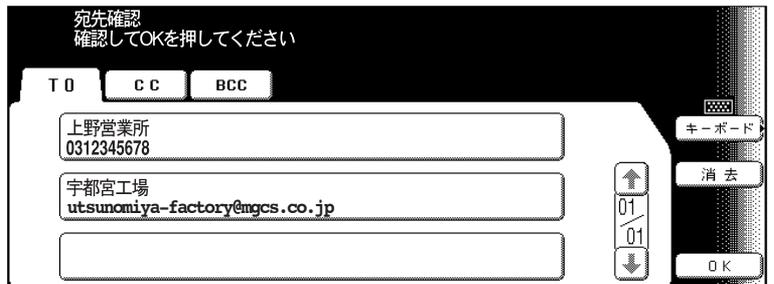
■指定した宛先を確認する

アドレス帳のキーボードで直接アドレス入力、またはアドレス帳で複数の宛先を指定した場合、これらを確認 / 削除することができます。

1 アドレス帳で複数の宛先を指定する

・キーボードで直接アドレス入力、またはアドレス帳で複数の宛先を指定します。
・G3 ファクスと E メールの混在した複数の宛先も指定できます。

2 宛先確認 を押す

・宛先確認の画面が表示されます。
・ ⬇ ⬆ を押すと、指定した宛先が順番に表示されます。
・宛先を削除したい場合は、削除する宛先を選択し 消去 を押し はい を押すと、表示されている宛先が消去できます。

・E メールヘッダーの宛先確認をするときは、手順 1 で Eメールヘッダー を押します。 TO 、 CC (Carbon Copy)、 BCC (Blind Carbon Copy)、 FROM または題名の目的のボタンを押したあと 宛先確認 を押すことで、各宛先指定の確認ができます。

3 OK を押す

・宛先確認を終了します。

4 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

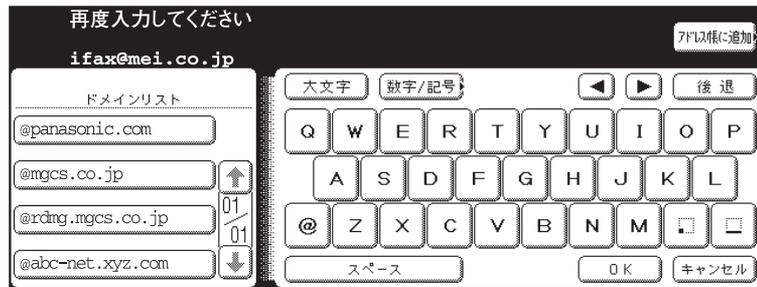
直接ダイヤル制限

直接入力によるメールアドレスの指定を、すべて禁止するように設定できます。
·直接メールアドレス入力を禁止する場合は、システム登録の「136 直接ダイヤル制限」を「あり」に設定しておきます。お買い上げ時は、「なし」に設定されています。

● 制限されている操作を行うと次のメッセージが表示されます。

直接ダイヤル再入力

直接入力でメールアドレスを入力するときに、メールアドレスの再入力画面が表示され、1 回目と 2 回目が一致した場合にだけ送信が開始されるように設定できます。
·直接メールアドレス再入力を有効にする場合は、システム登録の「137 直接ダイヤル再入力」を「あり」に設定しておきます。お買い上げ時は、「しない」に設定されています。
·システム登録の「136 直接ダイヤル制限」が「あり」に設定されている場合は、「137 直接ダイヤル再入力」で「あり」を設定しても、直接ダイヤル制限機能が優先されます。
· 1 回目と 2 回目の宛先が一致しない場合は、「宛先が一致していません」と表示されます。

直接入力でメールアドレスを入力し、OK または (スタート) を押すと、自動的に再入力画面が表示されます。

1 メールアドレスをもう一度入力します。

2 OK または (スタート) を押す。

再入力したメールアドレスが一致すると、送信が開始されます。
再入力したメールアドレスが一致しない場合は、メッセージが表示されます。この場合は、1 回目のメールアドレス入力から、再度操作を行います。

通信機能について（E メール）

送信原稿のサイズ

■E メール A3 送信

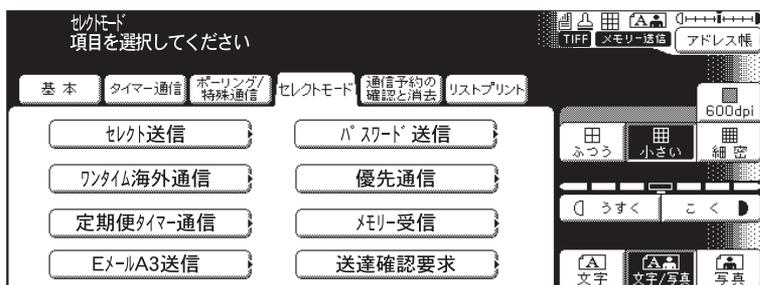
LAN で A3 原稿、B4 原稿を送る場合、あらかじめ相手側の受信サイズを確認して、送信原稿のサイズを決めておく必要があります。

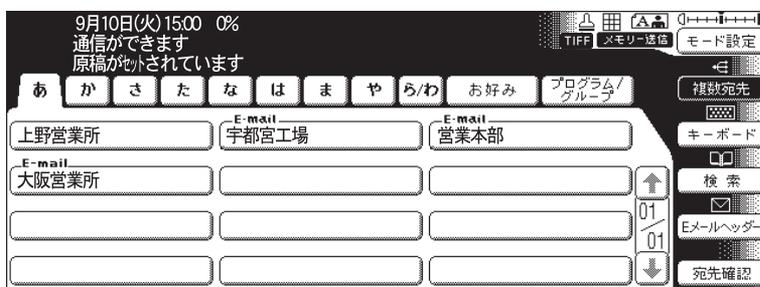
ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 Eメール A3送信 オン OK を押す

基本編

4 宛先を指定する

・キーボードで直接アドレス入力、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・複数の宛先が指定できます。

5 スタート を押す

・1 回の通信に限り IFAX A3 送信が開始されます。
E メール A3 送信、システム登録「141：LAN 縮小送信」の設定の組み合わせによって、下表のサイズで送信します。

E メール A3 送信　オン時 ： 読み取った原稿を等倍で送信します。
オフ時 ： A3 原稿は B4 以下に縮小して送信します。
また、システム登録 「141：LAN 縮小送信」の設定に従って縮小して送信します。

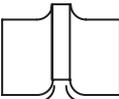
原稿サイズ	送信原稿サイズ E メール A3 送信 オン時	送信原稿サイズ E メール A3 送信 オフ時 システム登録「141：LAN 縮小送信」「なし」設定時	送信原稿サイズ E メール A3 送信 オフ時 システム登録「141：LAN 縮小送信」「あり」設定時
A3	A3	B4	A4
B4	B4	B4	A4
A4	A4	A4	A4

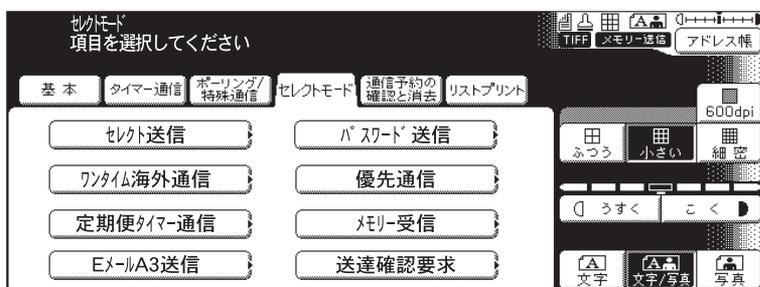
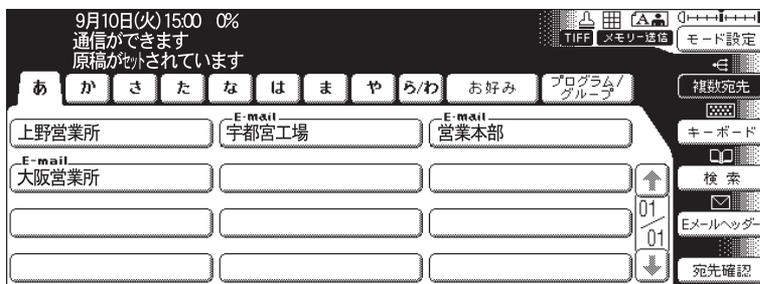
お知らせ

● アドレス帳による複数宛先指定で、選択した宛先に 1 宛先でも「送信時 A3 → B4 に縮小する」が登録されていた場合は、E メール A3 送信 オフ時と同様に動作します。
● システム登録「141：LAN 縮小送信」の初期設定は「なし」です。

送達確認要求（MDN）

送達確認要求（MDN）により受信側に受信確認のメールを要求することができます。受信側が送達確認機能を備えている場合、送信元に受信確認メールを自動的に送信することができます。
受信確認メールが戻ってきた場合、お使いのファクスの通信管理レポートには「OK」が表示されます。

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 送達確認要求 オン OK を押す

4 次の方法を組み合わせてダイヤルする

· キーボードで直接アドレス入力、またはアドレス帳で宛先を指定します。
· 複数の宛先が指定できます。

5 スタート を押す

· 原稿の読取りが開始されます。
· 読取り終了したページから送信が開始されます。

お知らせ

● 送達確認機能をお使いになる場合は、CC/BCC 宛先を指示しないでください。
CC/BCC 宛先を指定すると送達確認機能はオフになります。
● 複数宛先指定で送信する場合は、各宛先に対して送達確認要求を行ないます。
● 送達確認要求のデフォルト設定を変更するには、システム登録の「173 送達確認要求」を変更します。(☞248 ページ)

メーリングリストを使う

複数の E メールアドレスを指定するかわりに、あらかじめメールサーバーに登録されたメーリングリストを利用すると、1 回の操作で、簡単に複数宛先に送信できます。
●直接アドレス入力（「E メールアドレスを直接入力して送信する」（☞51 ページ））
●アドレス帳（☞53 ページ）
メーリングリストのご利用については、システム管理者とご相談のうえご使用ください。

エラーメール

インターネットファクス通信では、正常に送れなかった場合にメールサーバーからエラーメールが返信されてきます。メールサーバーからの情報としてテキストと 1 枚目の画情報がプリントされます。

〈エラーメールのプリント例〉（E メールアドレスが正しくない場合）

```
Received: by mgcs.co.jp with Internet Mail Service (5.5.2448.0)
 id <01BF31B0>; Wed  06 SEP 2008 19:27:03 +0900
Message-ID: <F1FA27F0BB52D311A7560004AC1898F1871C@mgcs.co.jp>
From: システム管理者 <postmaster@mgcs.co.jp>
To: abc@mgcs.co.jp
Subject: 配信不能: IMAGE from Internet FAX
Date: Sat, 10 SEP 2008 19:27:03 +0900
MIME-Version: 1.0
Content-Type: multipart/mixed;
 boundary="----_=_NextPart_000_01BF31B0.C54D0AB0"

This message is in MIME format. Since your mail reader does not understand
this format, some or all of this message may not be legible.

------_=_NextPart_000_01BF31B0.C54D0AB0
Content-Type: text/plain;
 charset="iso-2022-jp"

Your message

  To:       abc@mgcs.co.jp
  Subject:  IMAGE from Internet FAX
  Sent:     Sat, 10 SEP 2008 19:28:00 +0900

did not reach the following recipient(s):

abc@mgcs.co.jp on Sat, 10 SEP 2008 19:26:57 +0900
    受信者の名前が認識できません。
 元のメッセージの MTS-ID: c=JP;a= ;p=scs;l=SCSSV29911181036WV0L8TNV
    MSEXCH:IMS:scs:nn-scs:SCSSV2 0 (000C05A6) ?s???E?o?M?O

------_=_NextPart_000_01BF31B0.C54D0AB0
Cont
```

THE SLEREXE COMPANY LIMITED
SAPORS LANE - BOOLE - DORSET - BH 25 8 ER
TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617 - TELEX 123456

Our Ref. 350/PJC/EAC　　　　18th January, 1972.

Dr. P.N. Cundall,
Mining Surveys Ltd.,
Holroyd Road
Reading,
Berks.

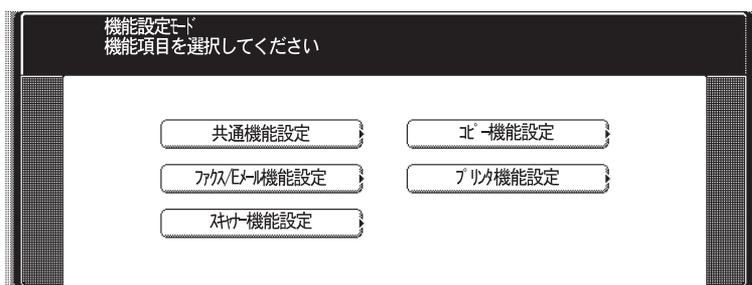
Dear Pete,

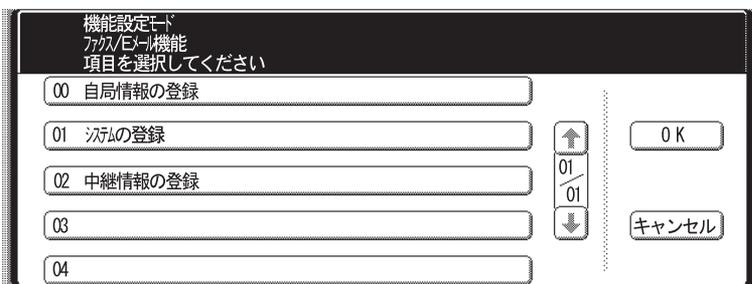
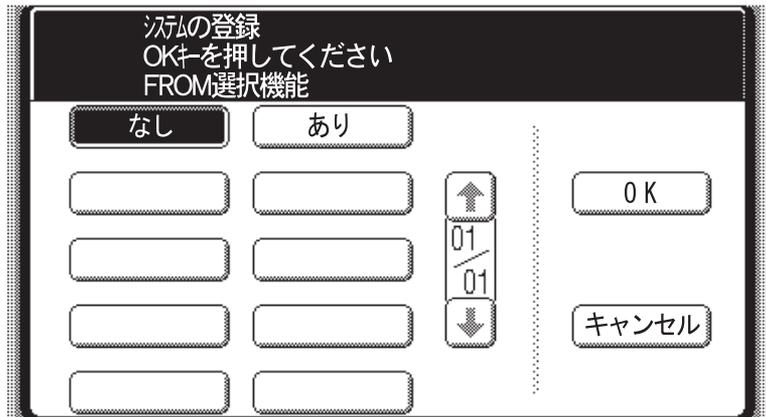
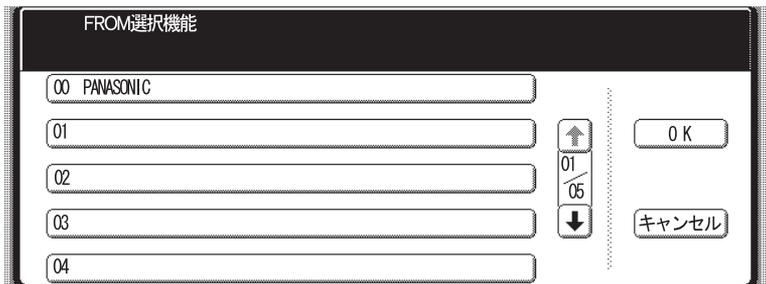
Permit me to introduce you to the facility of facsimile transmission.

In facsimile a photocell is caused to perform a raster scan over the subject copy. The variations of print density on the document cause

FROM 選択機能の登録

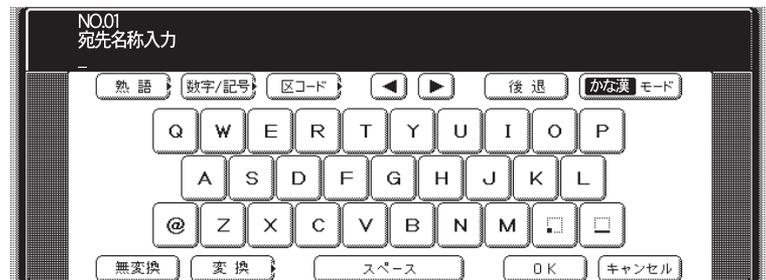
システム登録「145 FROM 選択機能」を「あり」にすると、ファクス、E メール（インターネット FAX）送信時に、発信元やメールの From 欄の内容を選ぶことができます。お買い上げ時の設定は「なし」になっています。（☞247 ページ）
24 個（No.01 ～ No.24）の名称とアドレスを登録できます。システム登録の「173 送達確認要求」が「あり」になっている場合、FROM 選択機能に登録されたアドレスに送達確認メールが送られてきます。（☞248 ページ）

1 を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 → 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 [01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[145 FROM選択機能] を表示させて [145 FROM選択機能] を押す、もしくは番号を入力して（スタート）を押す

5 [あり] [OK] を押す

6 FROM 登録キー（No. 01 ～ 24）を選択し、押す

・No.00 へは自局情報の発信元情報が登録されるため、選択できません。

<次ページへつづく>

基本編

7 宛先名称を登録し、OK を押す

・最大 20 文字まで登録できます。
・名称を入れます。（☞249 ページ）

8 アドレスを登録し、OK を押す

・最大 60 桁まで登録できます。

9 続けて登録ができます

・続けて ＦＲＯＭ 登録ができます。手順 7 からの操作を繰り返します。

10 FROM 選択機能の登録を完了する場合は、ストップ を押す

・待機状態に戻ります。

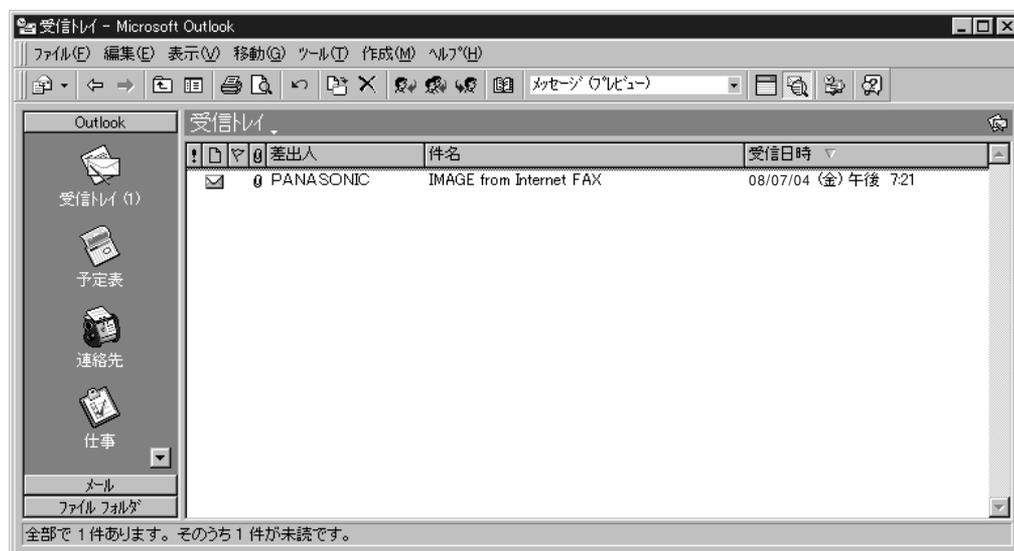
LAN を使って受信する

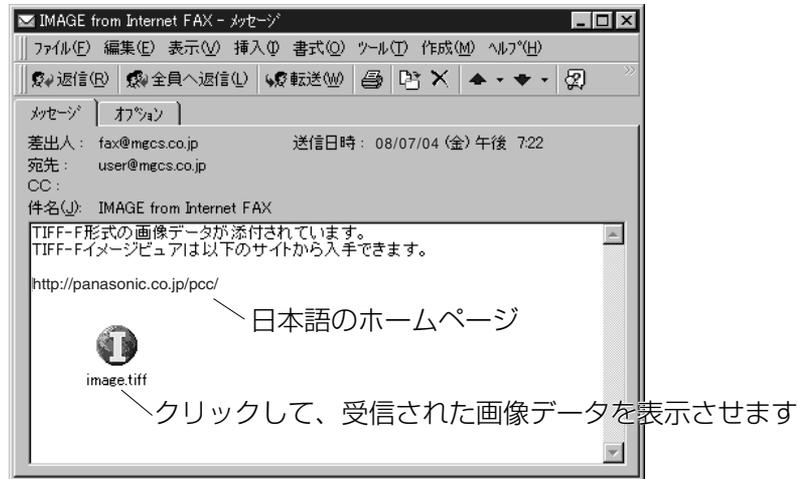
概要

LAN 内の PC およびインターネットファクスからの受信については、自動的にプリントされて受信トレイに排出されます。受信するための設定はありません。ただし、POP サーバーに接続してインターネットファクスをご利用の場合は、LAN 関連の設定が必要になります。（☞69 、182 ページ）

インターネットファクスは原稿以外に電子メールも受信できます。
電子メールを PC で見る場合の操作については、お使いのメールソフトやビューアーソフトの取扱説明書をご覧ください。

次に電子メールを PC で見る場合の一例を示します。

〈インターネットファクスからの電子メールを PC が Microsoft®, Windows® operating system 日本語版で動作する電子メールプログラム「Outlook®」で受信した場合の画面〉

インターネットファクスからの電子メールは件名が「IMAGE from Internet FAX」となっています。

〈インターネットファクスから受信したメールを表示した場合の画面〉

画面表示は、Microsoft® Windows® Operating system 日本語版で動作する電子メールプログラム「Outlook®」で受信した画面です。

ソフトウェアのダウンロードについて

フリーソフトの TIFF ビューアー、TIFF コンバーターが以下のホームページからダウンロードできます。

- ・ 日本語のホームページ　http://panasonic.co.jp/pcc/
- ・ 英語のホームページ　http://panasonic.co.jp/pcc/en/

● ダウンロードしたソフトウェアのインストール作業並びにインストール後の動作に関しましては、お客様の責任の元お取り扱いいただきますようお願いいたします。当社では、このソフトウェアについての動作保証、インストール後の二次的損害に関しては一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

POP 受信

POP サーバーに接続してご利用されている場合には、以下の方法で受信できます。
（お使いの機器が POP サーバーに接続されているかどうかは、システム管理者の方におたずねください）

■POP による受信の設定

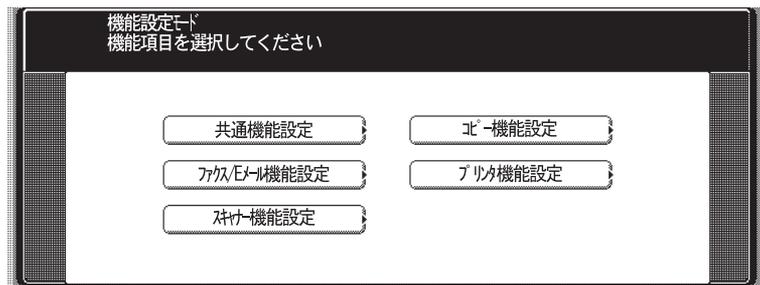
● システム登録の、「146 POP 取得間隔」、「147 POP 自動受信」、「148 POP 受信後削除」、「149 POP エラー時削除」を設定します。

「146 POP 取得間隔」　：　POP サーバーに受信メールの問い合わせを行う間隔（0 ～ 60 分）を設定します。（0 分の時は自動で問い合わせは行いません。）

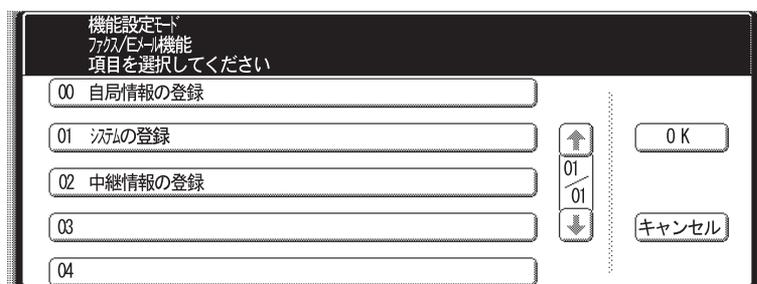
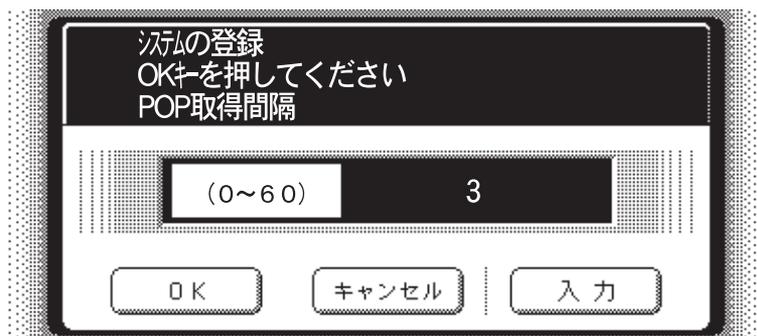
「147 POP 自動受信」　：　POP サーバー自動問い合わせで受信メールが有る場合、メールを受信し、プリントします。
「なし」場合は、ディスプレイに受信メールの件数のみを表示します。

「148 POP 受信後削除」　：　メール受信後、サーバーからメールを削除のあり・なしを設定します。

「149 POP エラー時削除」：　プリントできない添付ファイルを受信した場合、サーバーからメールを削除のあり・なしを設定します。

1 ファンクション を押す

2 ［ファクス／Eメール 機能設定］［04 キーオペレーター専用］を押す

<次ページへつづく>

3 キーオペレーターパスワードの入力後 [OK] を押す

4 [01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[146 POP取得間隔] を表示させて押す、もしくは番号を入力して (スタート) を押す

5 [入力] を押して取得間隔（0 〜 60 分）を入力し、[OK] を押す

・テンキーで 0 〜 60 の数字を入力します。

・間違えたときは (クリアー C) で消去して再度入力します。

6 続けてシステム登録の [147 POP自動受信] [148 POP受信後削除] [149 POPエラー時削除] の設定を行ないます。

7 (ストップ) を押す

・待機状態に戻ります。

お知らせ

- 設定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- 設定項目の一覧は、243 ～248 ページを参照してください。
- プリントできない添付ファイルを受信した場合、エラーメッセージをプリントし、プリントできなかったことを知らせます。
  「149 POP エラー時削除」を「なし」に設定しておけば、エラーになったメールをサーバーから削除しないため、あとから PC で受信することができます。
- 「148 POP 受信後削除」、「149 POP エラー時削除」を「なし」に設定した場合は、サーバーが保存できるメール数に限りがあるため、定期的にサーバーからメールを削除する必要があります。
  PC で受信するか、「148 POP 受信後削除」、「149 POP エラー時削除」を「あり」に設定し POP 受信を行い、サーバーからメールを削除してください。
- 「148 POP 受信後削除」、「149 POP エラー時削除」を「なし」から「あり」に変更し POP 受信を行うと、サーバーに残っているメールをすべて受信するため、以前にプリントしたメールが再度プリントされる場合があります。

LAN を使って受信する

■POP による自動受信

システム登録の「146 POP 取得間隔」が「0 分」以外で、「147 POP 自動受信」が、「あり」の場合（☞69 ページ）、「146 POP 取得間隔」で指定された時間間隔で POP サーバーに受信メールの有り無しを問い合わせ、有る場合は自動受信し、プリントします。

- 「146 POP 取得間隔」が 0 分の場合は自動で POP サーバーに受信メールの有り無しを問い合わせにいかないため自動受信はしません。この場合は、手動で POP 受信を行ってください。
- 「147 POP 自動受信」が「なし」の場合、「146 POP 取得間隔」で指定された時間間隔で POP サーバーに受信メールの有り無しを問い合わせ、有る場合は件数をディスプレイ上に表示します。

■POP による受信

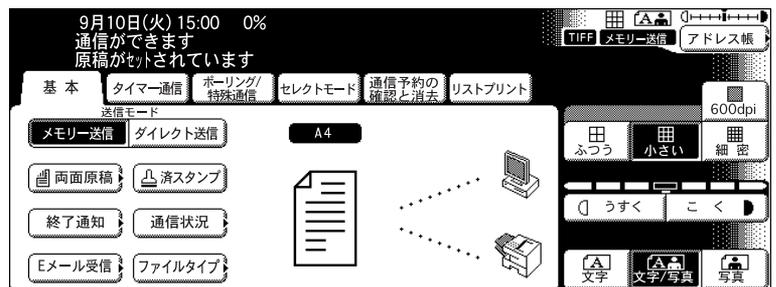
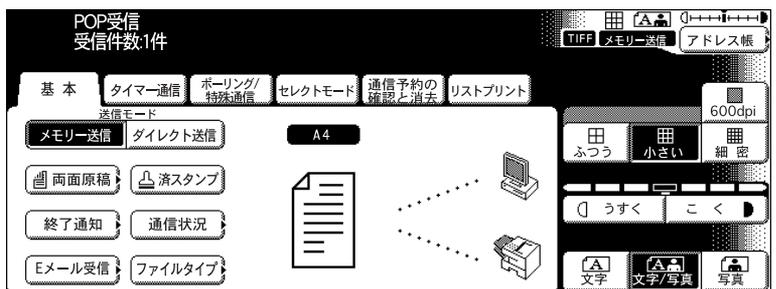
システム登録の「147 POP 自動受信」を「なし」に設定した場合（☞69 ページ）は、手動で POP サーバーから受信できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 を押す

2 Eメール 受信 を押す

基本編

3 サーバーに受信メールがない場合は下のように表示します。

POP受信
受信ﾒｰﾙはありません

4 サーバーに受信メールが有る場合は、件数を表示した後メールを受信し、プリントします。

受信
通信中　LAN　受信頁：01
abc@panasonic.com

▼

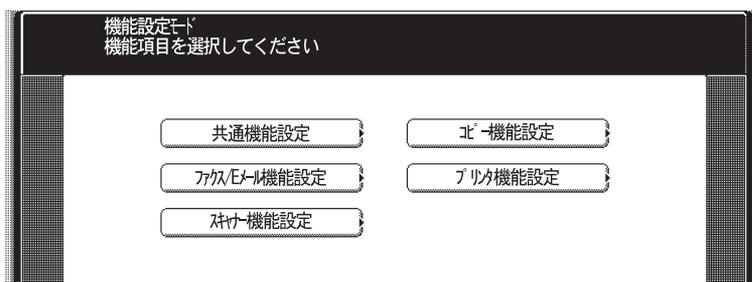
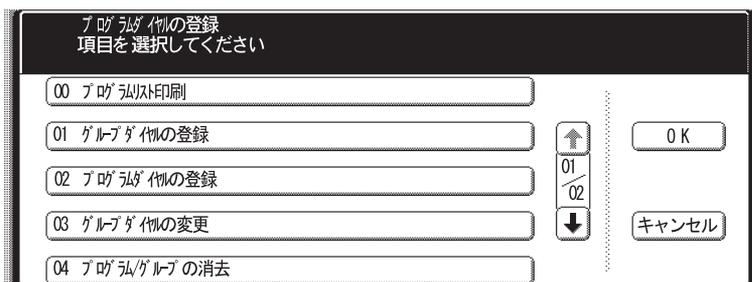
受信ﾃﾞｰﾀ
ﾌﾟﾘﾝﾄしています

お知らせ

- プログラムダイヤルの「０５ POP手動受信登録」にユーザー名、パスワードを登録することで、自局設定以外のユーザー名で POP受信することができます。(☞74 、77 ページ)
- 1 度の操作で受信できるメールは 20 件までです。
  20 件以上のメールが POP サーバーにある場合、ディスプレイ上に表示されるメールの件数は 20 件となります。
- ディスプレイに表示されるメールの件数が 20 件の場合は、手順４の受信終了後、もう一度 Eメール 受信 を押して受信メールがないことを確認してください。
- シャットダウンモードをご利用になりますと ＰＯＰ による自動受信ができなくなります。シャットダウンモードへの切り替えをしないようにしてください。

■POP 手動受信の登録

アドレス帳に POP サーバーのユーザー名、パスワードを登録して POP サーバーからメールを受信することができます。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 02 プログラムダイヤルの登録 を押す

3 ↓ 05 POP手動受信登録 を押す

4 POP ユーザー名称（最大 40 文字）を入れ、OK を押す

・英数字・記号を入力してください。

5 POP ボタン名称（最大 10 文字）を入れ、OK を押す

・ボタン名称はタッチパネルディスプレイに表示する名称となります。

6 POP パスワード（最大 30 文字）を入れ、OK を押す

・英数字・記号を入力してください。

<次ページへつづく>

基本編

7 POP 受信後メールを削除するかを指定し、OK を押す

8 ストップ を押す

お知らせ

- 登録を途中でやめるときは ストップ を押してください。
- セキュリティの関係上必要なときには、手順 6 で POP パスワードを入力しないで OK を押します。手動 POP 受信時パスワードを入力するよう設定できます。(☞77 ページ)
- 登録した POP 手動受信の内容を変更する場合は、
  ファンクション ファクス／Eメール 機能設定 02 プログラムダイヤルの登録 04 プログラム／グループの消去 で登録を消去した後、再度登録してください。

■アドレス帳による POP 受信

アドレス帳に POP サーバーのユーザー名、パスワードを登録して POP サーバーからメールを受信することができます。

● あらかじめアドレス帳に POP 手動受信の登録をしておいてください。(☞74 ページ)

1 アドレス帳の プログラム／グループ を押して、POP手動受信を登録してあるプログラムキーを押す

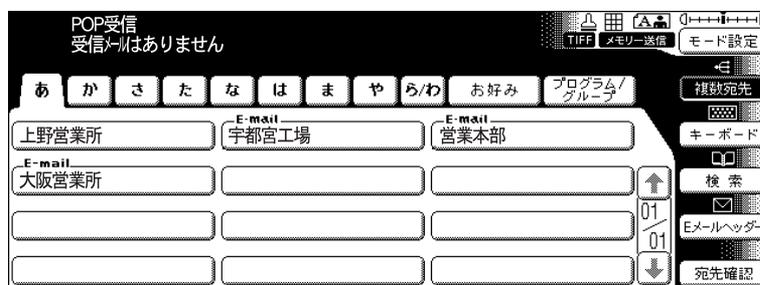
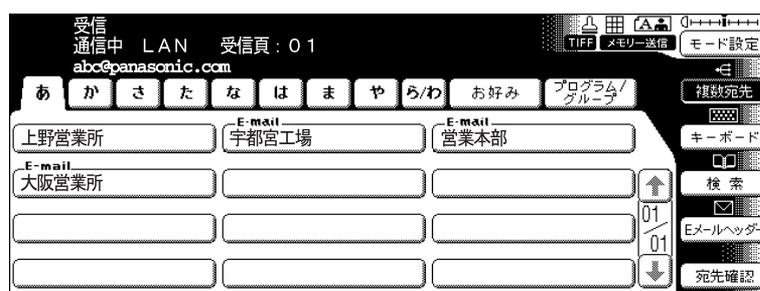
· 表示したユーザー名と異なるユーザー名で POP 受信をする場合は、ユーザー名を入力し直します。
英数字を入力してください。最大 40 文字まで入力できます。

2 スタート を押す

· パスワードが登録されている時は手順 3 へ進みます。
· パスワードが登録されていない時は下のようになります。

英数字・記号を入力して OK を押してください。最大 30 文字まで入力できます。

<次ページへつづく>

3 サーバーに受信メールがない場合は次のメッセージを表示します。

4 サーバーに受信メールがある場合は件数を表示した後にメールを受信し、プリントします。

お知らせ

- 1 度の操作で受信できるメールは 20 件までです。
- 20 件以上のメールが POP サーバーにある場合、ディスプレイ上に表示されるメールの件数は 20 件となります。
- ディスプレイに表示されるメールの件数が 20 件の場合は、手順 4 の受信終了後、もう一度 Eメール 受信 を押して受信メールがないことを確認してください。

応用編

ポーリング通信

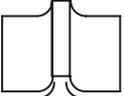
ポーリング通信とは、送信側にセットした原稿を、受信側の操作により取り出すことができる機能です。通信料はポーリング受信側の負担となります。
送信側は、必要に応じてパスワード（暗証番号）を設定することができます。

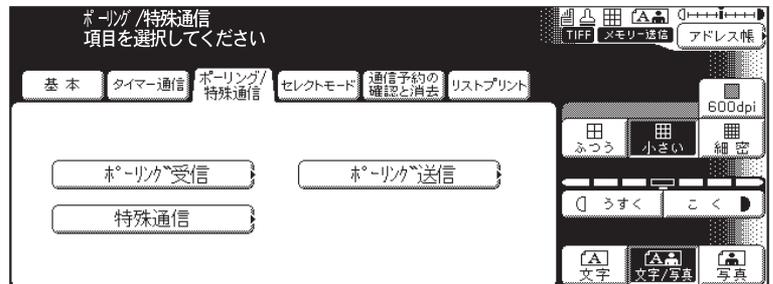
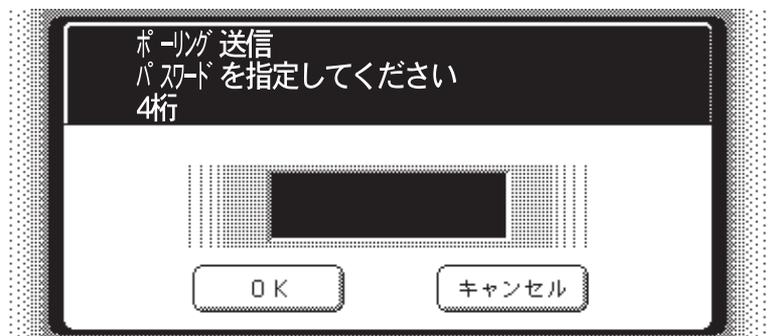
● ポーリング通信は機種が限定されます。詳しくは、サービス実施会社へご相談ください。

ポーリング送信

ポーリング送信用の原稿をメモリーに読み込みます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で
・消灯しているときは、押して点灯させる

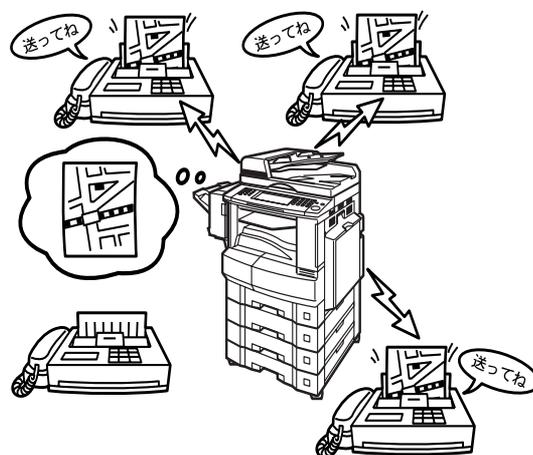
1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

3 ポーリング送信 を押す

4 ポーリング通信用のパスワード（暗証番号 4 桁）を入力する

5 OK を押す

- 原稿が読み込まれます。
- 原稿読み込み後、相手からのポーリング受信の操作で原稿が送信されます。
- 送信が終わると、メモリーの内容は消去されます。
- ピピピッと拒否音が鳴る場合は、同じパスワード（パスワードなしも含む）でポーリング送信が登録されています。通信予約レポート (☞136 ページ) にて確認して、別なパスワードを指定してください。

掲示板送信の使いかた

システム登録の「027 ポーリング送信保存」(☞243 ページ) の設定を「あり」にしておけば、ポーリング送信をしてもメモリーに読み込んだ原稿は消去されません。同じ原稿を複数の相手にポーリング送信（掲示板送信）したいときに利用できます。
また、ポーリングパスワードを設定することでパスワードを知っている相手にポーリング送信（掲示板送信）できます。ポーリング送信したい相手へパスワードを連絡してください。
メモリーに読み込んだ原稿を消去するときは、「通信予約の消去」(☞140 ページ) を行ってください。

相手を限定しないでポーリング送信をする

パスワードを入力しないでセットすれば、当社機以外のファクスやパスワードを使わない相手にもポーリング送信できます。

お知らせ

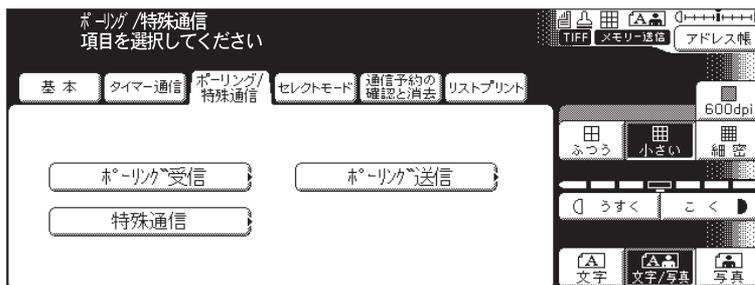
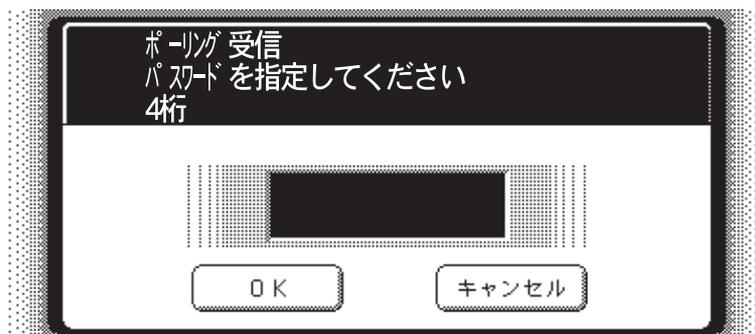
- ポーリング送信の指定を途中でやめるときは、(ストップ)を押してください。
- ポーリング送信は、他の通信予約を含めて最大 30 件まで指定できます。
- ポーリング送信を解除するときは、「通信予約の消去」(☞140 ページ) を行ってください。
- 原稿読取中にメモリーがいっぱいになったときは、ポーリング送信の登録はできません。

ポーリング受信

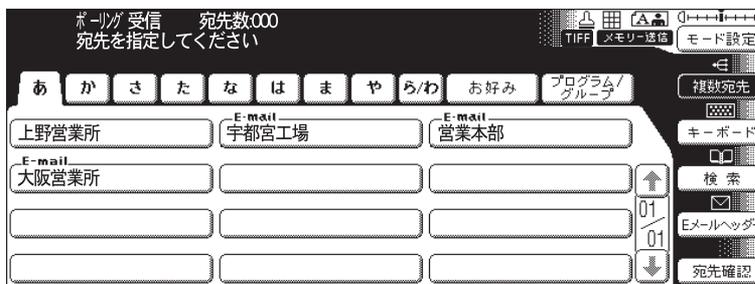
ポーリング送信用の原稿がセットされたファクスから、原稿を受信します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

2 ポーリング受信 を押す

3 ポーリング通信用のパスワード（暗証番号 4 桁）を入力する

・パスワードを設定していない相手から受信する場合は、パスワードを入力する必要はありません。

4 OK を押す

5 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

6 スタート を押す

・宛先にダイヤルし、ポーリング受信が開始されます。

● ポーリング受信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
● 宛先は、直接ダイヤル 20 件＋アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。

タイマー通信

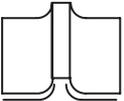
タイマー通信とは、あらかじめ指定した時刻に、自動的に送信 / 受信動作を行う機能です。

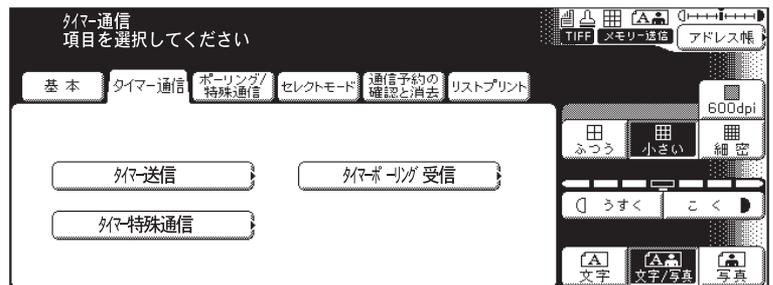
タイマー送信

あらかじめ指定した時刻に自動的に原稿を送信します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 タイマー通信 を押す

3 タイマー送信 を押す

4 送信時刻を入力する

・24 時間制で原稿を送信する時刻を入力します。

5 OK を押す

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

7 (スタート)を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、指定した時刻に自動的に原稿を送信します。
・送信が終わると、メモリーの内容は消去されます。

お知らせ

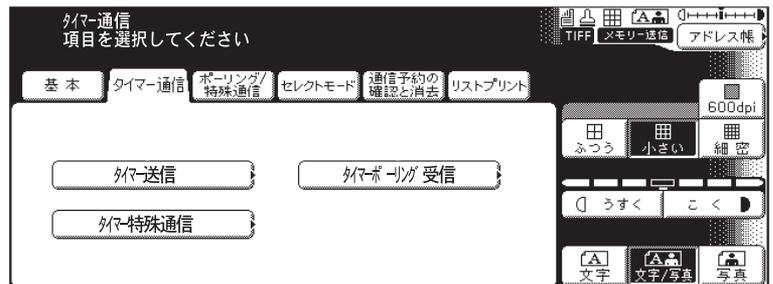
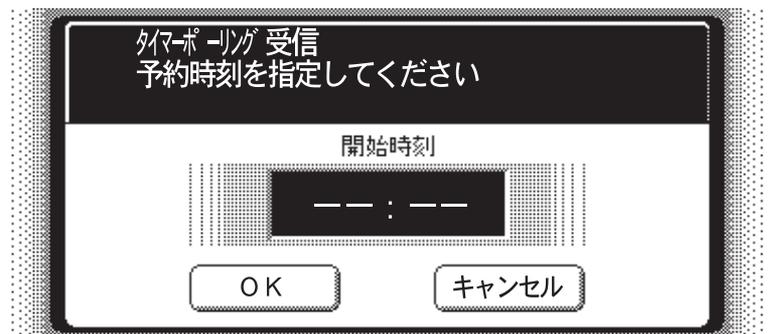
- タイマー送信の指定を途中でやめるときは、(ストップ)を押してください。
- タイマー送信は、他の通信予約を含めて最大 50 件まで指定できます。
- タイマー送信を解除するときは、「通信予約の消去」(☞ 140 ページ)を行ってください。
- 1枚目の原稿読取中にメモリーがいっぱいになったときは、タイマー送信の登録はできません。
- 宛先は、直接ダイヤル 20 件+アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。

タイマーポーリング受信

あらかじめ指定した時刻に自動的にポーリング受信を行います。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

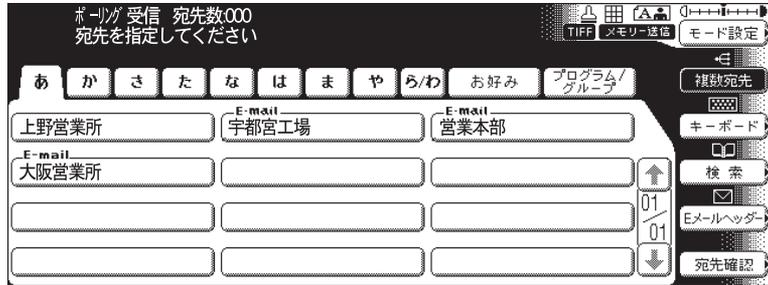
1 モード設定 タイマー通信 を押す

2 タイマーポーリング受信 を押す

3 ポーリング受信する時刻を押す

・24 時間制で原稿をポーリング受信する時刻を入力します。

4 OK を押す

5 パスワード（暗証番号 4 桁）を入力する

・パスワードを設定していない相手から受信する場合は、パスワードを入力する必要はありません。

6 OK を押す

7 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

8 を押す

・あらかじめ指定した時刻に宛先にダイヤルし、自動的にポーリング受信を行います。

お知らせ

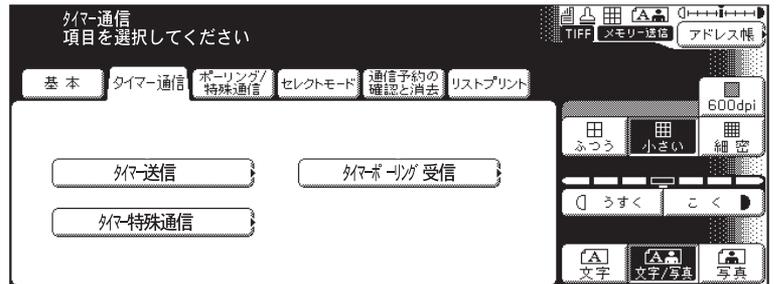
- タイマーポーリング受信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- タイマーポーリング受信は、他の通信予約を含めて最大 50 件まで指定できます。
- タイマーポーリング受信を解除するときは、「通信予約の消去」（☞ 140 ページ）を行ってください。
- 宛先は、直接ダイヤル 20 件＋アドレス帳 200 件の、最大 220 件まで指定できます。

タイマー特殊通信

本機で利用できるさまざまな通信を、通信時刻を指定して使用できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 タイマー通信 を押す

2 タイマー特殊通信 を押す

3 **タイマー通信をする時刻を入力する**

・24 時間制でタイマー通信をする時刻を入力します。

4 OK を押す

5 タイマー特殊通信の種類を指定する

・お知らせの特殊通信一覧表の通信を指定できます。各設定はそれぞれの通信の設定ページを参照し、設定してください。

お知らせ

- タイマー特殊通信の指定を途中でやめるときは、ストップを押してください。
- すでに50件のタイマー通信を含む通信予約が予約されていると、タイマー特殊通信をセットすることはできません。現在予約されているタイマー通信または他の通信予約を消去（☞ 140ページ）するか、通信が終わってからセットし直してください。
- **特殊通信一覧表**

	特殊通信の種類	参照ページ
01	中継同報指示	91
02	ファイル送信	95
03	Fコード通信	98
04	マルチコピー通信	100
05	F 網通信	102
06	LAN 中継同報指示	161

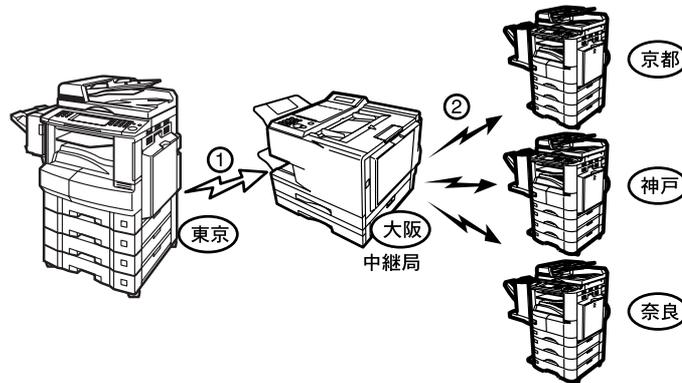
中継通信

中継通信について

メモリー機能を持つ中継局を使って、以下のような中継通信を指定することができます。
- 中継通信をする場合は、本機を含むネットワークを構成する必要があります。
- 中継ネットワークを構成する場合は、サービス実施会社へご相談ください。

中継同報指示について

遠距離にある複数の宛先へファクスを送りたいとき、中継局に送信すれば中継局は指定された宛先へ順次送信します。

例：東京から、大阪の中継局を経由して京都、神戸、奈良へ送信します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で
・消灯しているときは、押して点灯させる

1 東京から大阪の中継局に中継指示する
・原稿は、大阪の中継局のメモリーにいったん蓄積されます。

2 大阪の中継局は、東京から指示された京都、神戸、奈良へ順次送信する
・東京からそれぞれの宛先へ送信する手間が省け、トータルの通信料金も削減できます。

中継同報指示

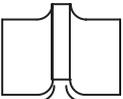
メモリー機能を持った中継局を中心に中継ネットワークを組んで、遠方にある複数の宛先へ一度にファクスを送信できます。

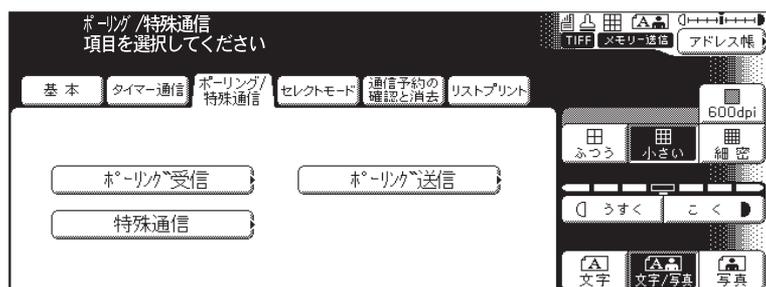
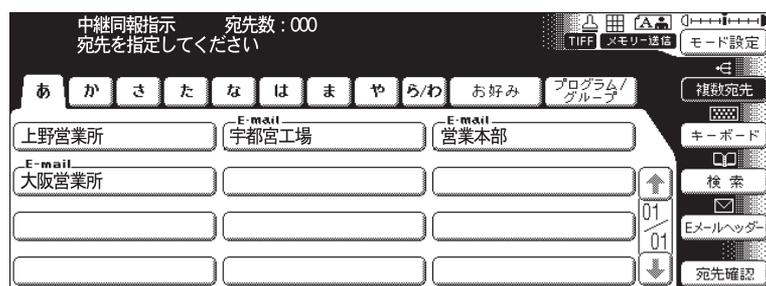
中継同報送信をする前に

- 登録モードの「中継情報の登録」に中継情報を登録する。(☞225 ページ)
- システム登録の「104 アドレス帳ダイヤル情報」(☞245 ページ)の設定を「あり」にして、アドレス帳に中継情報を登録できるようにする。
- 中継局の電話番号と中継情報を、アドレス帳に登録する。(☞ 207 ページ)
- 中継同報送信をする相手の電話番号と中継情報を、アドレス帳に登録する。(☞ 207 ページ)
- 中継ネットワークを構成する場合は、サービス実施会社へご相談ください。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 [モード設定] [ポーリング/特殊通信] を押す

3 [特殊通信] [中継同報指示] を押す

＜次ページへつづく＞

宛先を指定する

・アドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

5 スタートを押す

・宛先（中継局）にダイヤルし、中継送信が開始されます。

お知らせ

- 中継同報指示を途中でやめるときは、ストップを押してください。
- プログラムダイヤルに中継同報指示の操作と宛先を登録しておけば、プログラムダイヤルを押すだけで通信を指定できます。（☞222 ページ）

ファイル送信

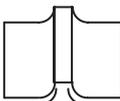
会社までの地図など、頻繁に送る原稿を本機のメモリーに蓄積して何度でも送ることができます。
ファイル送信をお使いになれば、いちいち送信原稿をセットする手間が省けます。

ファイル蓄積

ファイル送信する原稿を本機のメモリーに蓄積します。メモリーに蓄積できるファイルは、1 ファイルのみです。

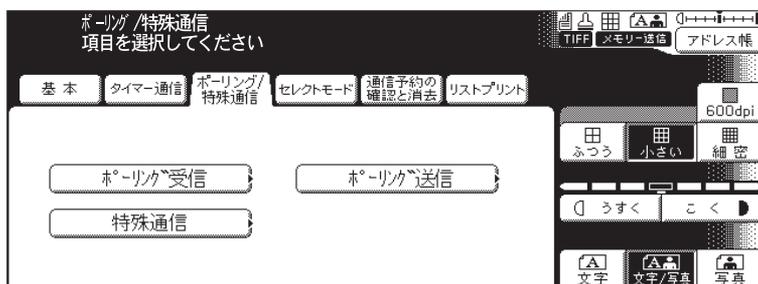
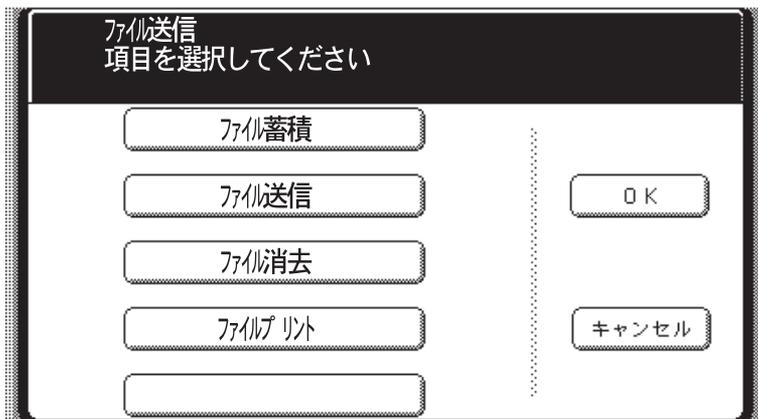
ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 [モード設定] [ポーリング／特殊通信] を押す

3 [特殊通信] [ファイル送信] を押す

ファイル送信
項目を選択してください
ファイル蓄積
ファイル送信
ファイル消去
ファイルプリント
O K
キャンセル

＜次ページへつづく＞

4 ファイル蓄積 を押す

・原稿が読み込まれます。

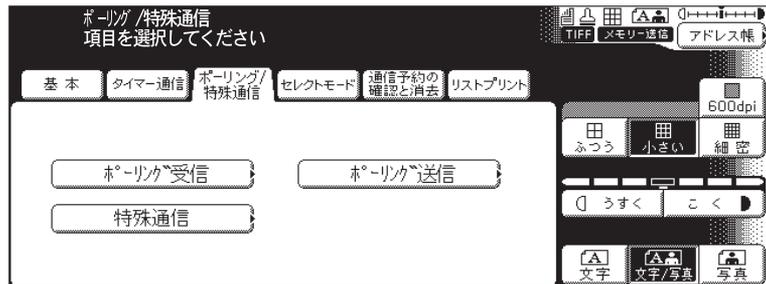
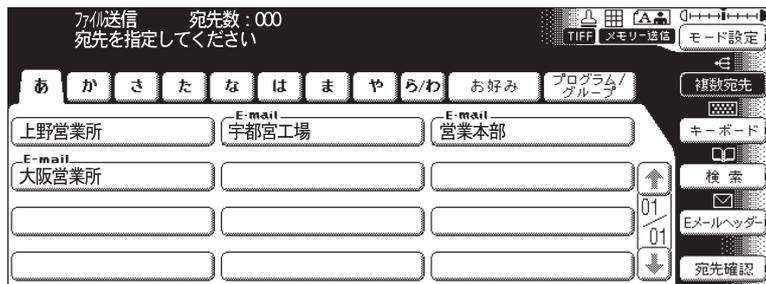
お知らせ

- ファイル蓄積を途中でやめるときは、(ストップ)を押してください。
- メモリーにはA4標準原稿（A4サイズ700字程度の原稿）で約180枚分が蓄積できます。枚数は文字サイズによって異なります。（☞258ページ）
- すでに蓄積されているファイルがあるときは、ファイル蓄積をすることはできません。「ファイル消去」（☞96ページ）を行って、手順1からの操作をしてください。
- 原稿読取中にメモリーがいっぱいになったときは、ファイルの蓄積はできません。

ファイル送信

ファイル蓄積した内容を送信します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で
・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

2 特殊通信 ファイル送信 ファイル送信 を押す

3 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

4 スタート を押す

・宛先にダイヤルし、ファイル送信が開始されます。

お知らせ

● ファイル送信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。

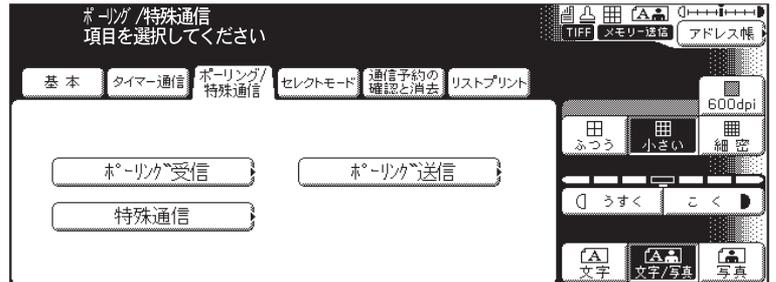
● ファイル送信をしても、メモリーに蓄積されている内容は消去されません。

ファイル消去

ファイル蓄積した内容を消去します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

2 特殊通信 ファイル送信 ファイル消去 を押す

・ファイルが削除されます。

お知らせ

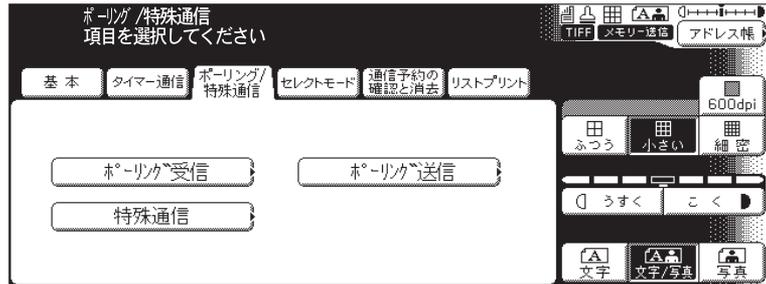
● ファイル消去の指定を途中でやめるときは、ストップを押してください。

ファイルプリント

ファイル蓄積した内容をプリントして確認できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

2 特殊通信 ファイル送信 ファイルプリント を押す

・ファイルがプリントされます。

お知らせ

- ファイルプリントの指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- ファイルプリントしても、メモリーに蓄積されている内容は消去されません。

F コード通信

当社機以外のファクスをお使いの相手とも、サブアドレスやパスワードを使って機密事項を保持した通信を行えます。

● F コード通信は、ITU-T の T30（SUB、SEP、PWD）機能を持っているファクスであれば、相手機種を限定しないで F コード通信ができます。

● F コード通信をするには、メモリー機能を持つ F コードセンター機が必要になります。

F コード送信

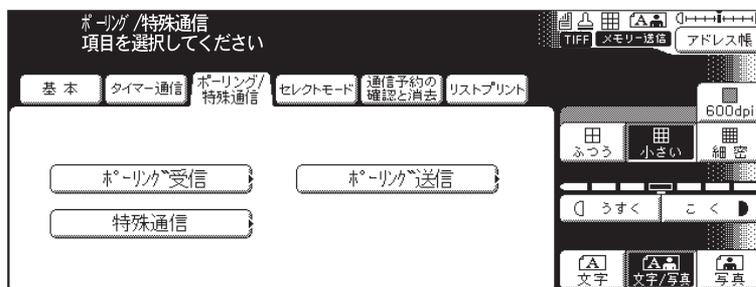
F コード送信は、F コードセンター機に開設されているボックスの番号をサブアドレス番号で指定し、機密保持のためパスワードを使ってボックスに文書を送ります。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

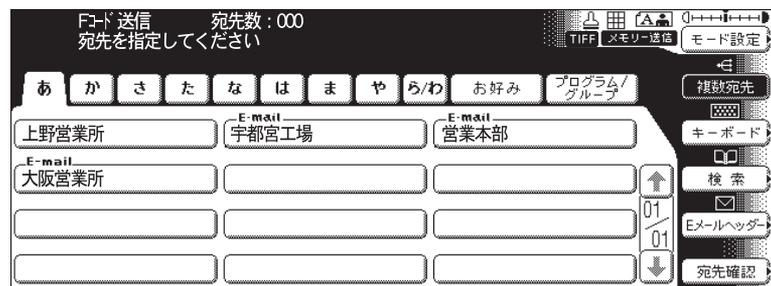
1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

3 特殊通信 Fコード通信 を押す

4 サブアドレス（最大 20 桁）を入力する

5 OK を押す

6 パスワード（最大 20 桁）を入力する

7 OK を押す

8 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

9 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

● F コード送信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。

応用編

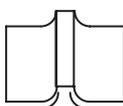
マルチコピー通信

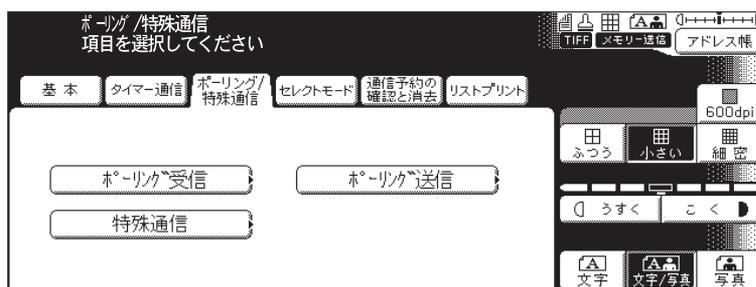
宛先に送信するときは、受信側でプリントする部数を指定することができます。

- マルチコピー通信は、相手機種が限定されます。詳しくはサービス実施会社へご相談ください。
- マルチコピー通信を指定できるのは、マルチコピー通信機能を持つ相手に限ります。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

3 特殊通信 マルチコピー通信 を押す

4 受信側でプリントする部数（2 桁）を入力する

5 OK を押す

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

7 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

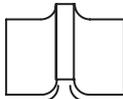
● マルチコピー通信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
● マルチコピー通信部数は、アドレス帳に登録することもできます。（☞ 215 ページ）

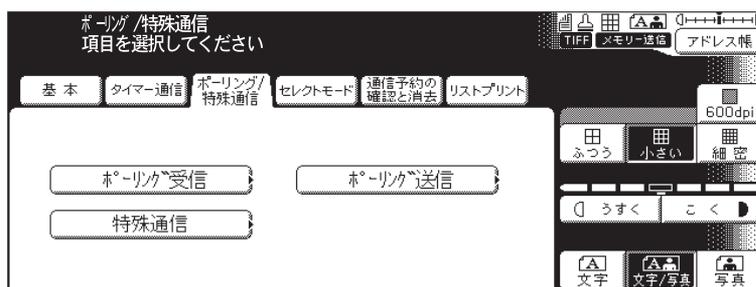
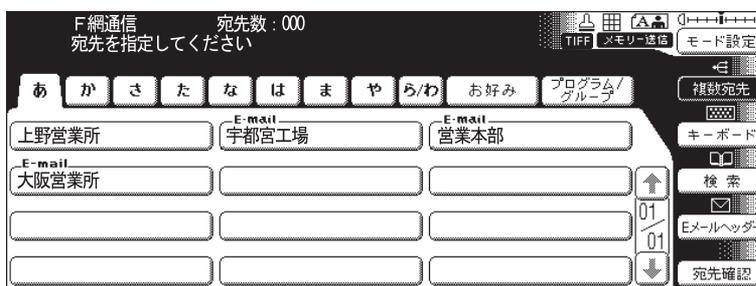
F網通信

NTTコミュニケーションズのファクシミリ通信網を利用して通信することができます。F網通信をお使いになるときは、NTT コミュニケーションズとの利用契約が必要です。お近くの NTT コミュニケーションズ窓口にお問い合わせください。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

3 特殊通信 F網通信 を押す

4 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・最大 10 件まで指定できます。

5 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

- F 網通信の指定を途中でやめるときは、ストップを押してください。
- ファクシミリ通信網サービスの内容については、NTT コミュニケーションズ窓口にお問い合わせください。

パスワード通信

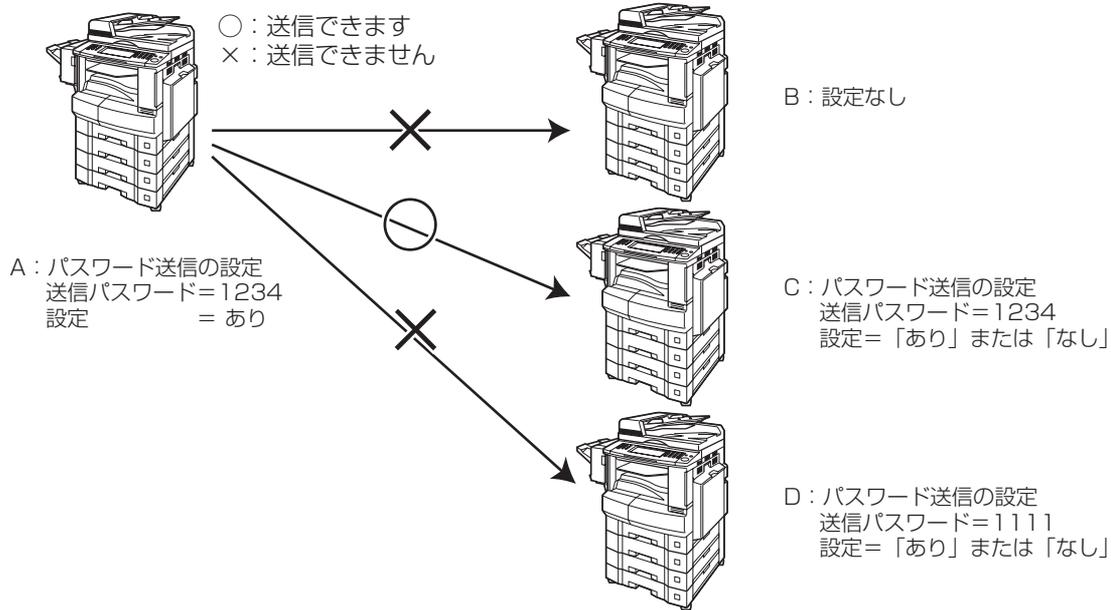
パスワード通信について

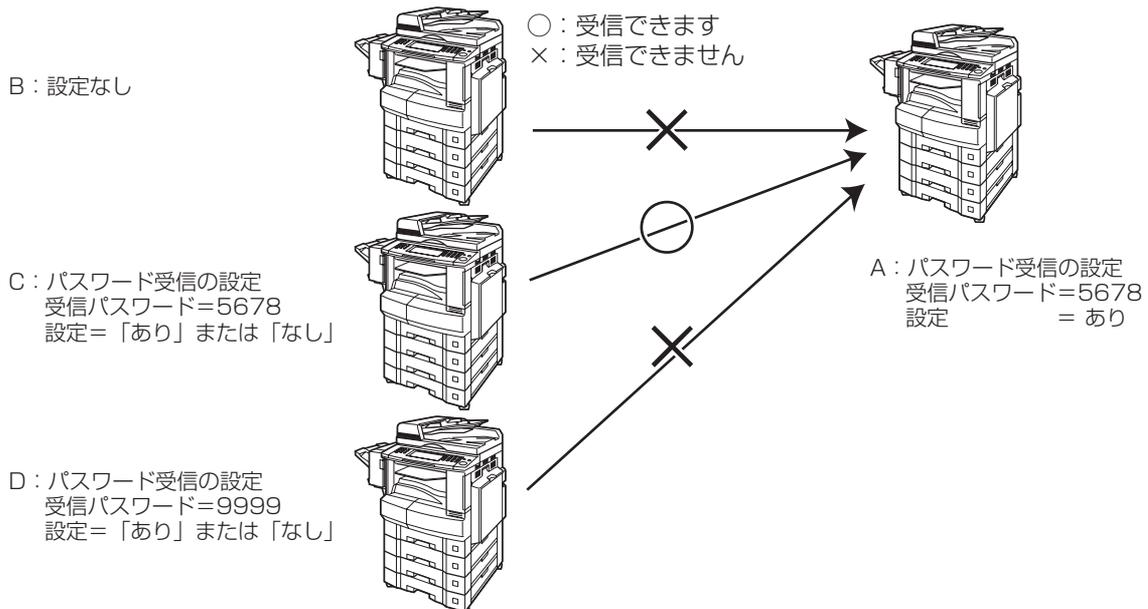
通信するときに、送信側と受信側に登録されているパスワードを照合します。パスワードを照合し、一致する相手とだけ通信するので、機密性の高い通信が確保できます。また、送信と受信を個別に制限できるので、相手に合わせた設定ができます。

● あらかじめ「パスワード送信の設定」（☞ 106 ページ）と「パスワード受信の設定」（☞ 108 ページ）が必要です。

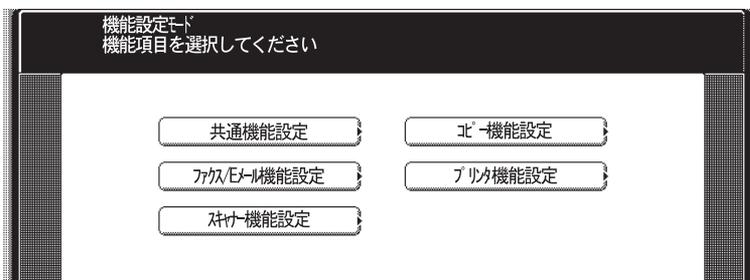
システム登録について

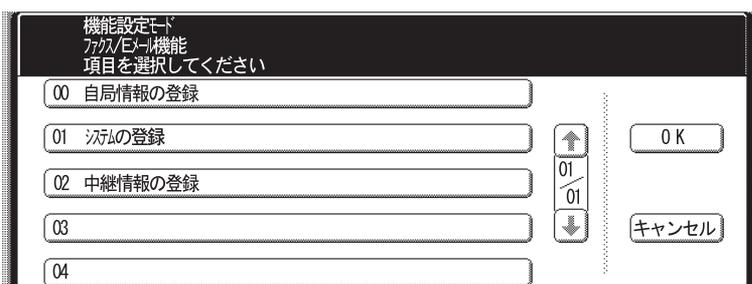
	設定状況	
パスワード送信	送信パスワードの登録なし	・パスワード通信しません。
	送信用パスワードを登録し設定を「なし」にする	・通常のダイヤル操作ではパスワード送信しません。 ・パスワード操作するときは、送信前の操作が必要です。（☞ 106 ページ） ・相手がパスワード送信をしてくると、送信側と受信側に登録されている送信パスワードを照合し、一致すると通信できます。
	送信用パスワードを登録し設定を「あり」にする	・通常のダイヤル操作でパスワード送信が指定できます。 ・パスワード送信をしないときは、送信前の操作が必要です。（☞ 110 ページ） ・相手がパスワード送信をしてくると、送信側と受信側に登録されている送信パスワードを照合し、一致すると通信できます。
パスワード受信	受信パスワードの登録なし	・パスワード通信しません。
	受信用パスワードを登録し設定を「なし」にする	・相手がパスワード受信を設定しているときは、受信側と送信側に登録されている受信パスワードを照合し、一致すると通信できます。 ・そのほかは、通常の通信と同じです。
	受信用パスワードを登録し設定を「あり」にする	・常にパスワード受信の状態になっています。 ・パスワード受信を設定している相手と受信パスワードを照合し、一致すると通信できます。

パスワード送信

パスワード送信は、送信側の設定が「あり」の場合、受信側に設定されている「送信パスワード」を送信側でチェックし、一致した場合に送信します。
・送信側のパスワード送信の設定が「なし」の場合は、通常の送信と変わりありません。
・パスワード送信の設定「あり」または「なし」は、送信時のみに機能します。

パスワード受信

パスワード受信は、受信側の設定が「あり」の場合、送信側に設定されている「受信パスワード」を受信側でチェックし、一致した場合に受信します。
・受信側のパスワード受信の設定が「なし」の場合は、通常の受信と変わりありません。
・パスワード受信の設定「あり」または「なし」は、受信時のみに機能します。

パスワード送信の設定／変更

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 ［01 システムの登録］［↓］［↑］を押して、［043 パスワード送信］を表示させ、［043 パスワード送信］を押す、または番号を入力して（スタート）を押す

5 送信パスワード（暗証番号 4 桁）を押し、［OK］を押す

・パスワードを変更するときは、（クリアー）を押して設定されているパスワードを消して、入力し直します。

6 機能を選択する

・パスワード送信を選択するとき「あり」にします。
・パスワード送信を解除するとき「なし」にします。

7 ［OK］（ストップ）を押す

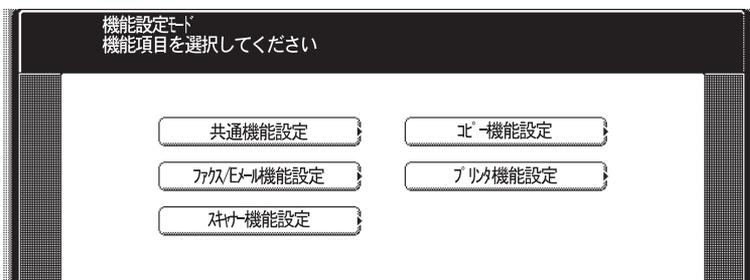
・待機画面に戻ります。

お知らせ

- パスワード送信の設定を「あり」にすると、タッチパネルに「パスワード送信設定中です」が点滅します。
- タッチパネルに「パスワード送信設定中です」が表示されているときは、通常の送信ができなくなります。パスワード送信をしたくないときは「パスワード送信設定の一時変更」（☞ 110 ページ）を参照して操作してください。
- パスワード送信の設定および変更を途中でやめるときは、（ストップ）を押します。

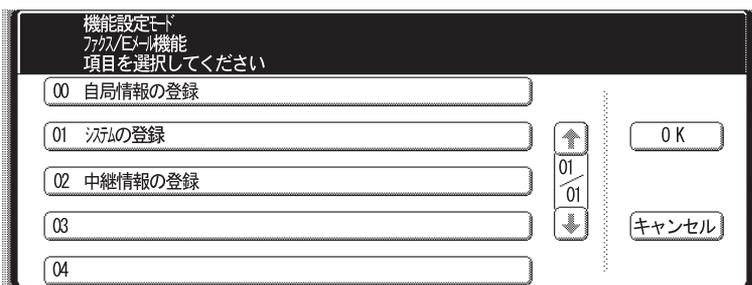
パスワード受信の設定／変更

1

ファンクション ⊛◯ を押す

2

ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3

キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 01　システムの登録 ⬇ ⬆ を押して、044　パスワード受信 を表示させ、044　パスワード受信 を押す、または番号を入力して スタート を押す

5 受信パスワード（暗証番号 4 桁）を押し、OK を押す

・パスワードを変更するときは、クリアー（C）を押して設定されているパスワードを消して、入力し直します。

6 機能を選択する

・パスワード受信を設定するとき「あり」にします。
・パスワード受信を解除するとき「なし」にします。

7 OK ストップ を押す

・待機画面に戻ります。

お知らせ

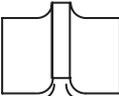
- パスワード受信の設定を「あり」にすると、タッチパネルに「パスワード受信設定中です」が点滅します。
- タッチパネルに「パスワード受信設定中です」が表示されているときは、通常の受信ができなくなります。
- パスワード受信の設定および変更を途中でやめるときは、ストップ を押してください。

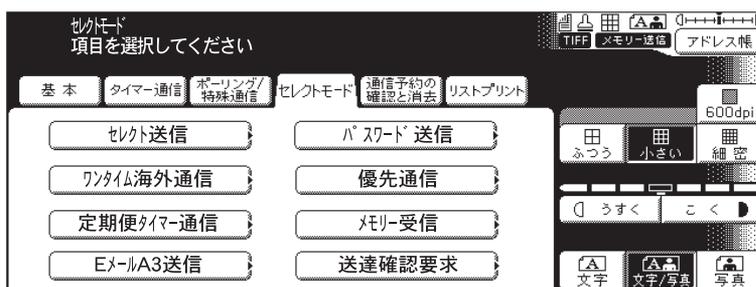
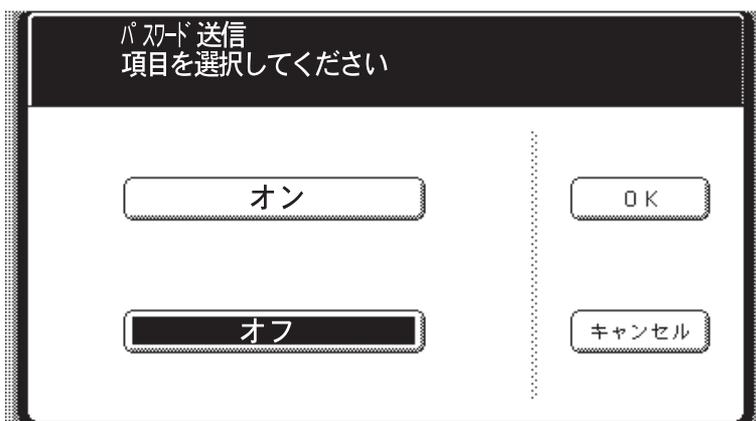
パスワード送信設定の一時変更

パスワード送信の一時解除、一時設定を行いたい場合、次の手順で 1 回の送信に限り、設定を変更できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

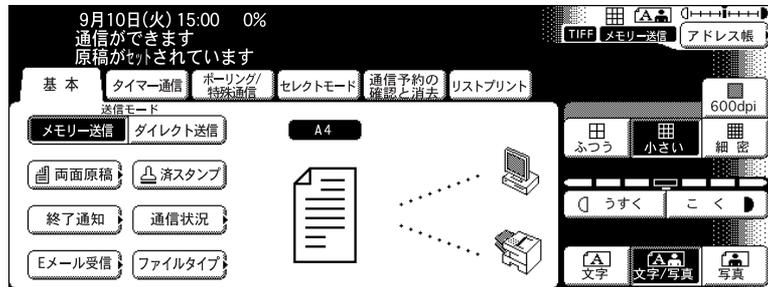
1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 パスワード送信 を押す

4a オフ を押す

・1 回の通信に限りパスワード送信の設定を「オフ」にできます。

4b オン を押す

・1 回の通信に限りパスワード送信の設定を「オン」にできます。

5 OK を押す

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。

7 スタート を押す

・1 回の送信に限りパスワード送信の設定を「オフ」または「オン」にして通信を開始します。

セレクト通信

アドレス帳に登録されているダイヤル番号の下 4 桁と、相手から送られてきた ID 番号の下 4 桁を照合し、一致したときだけ送信または受信します。

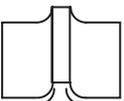
● あらかじめ、セレクト送信 / 受信する宛先を登録しておいてください。（☞ 207 ページ）

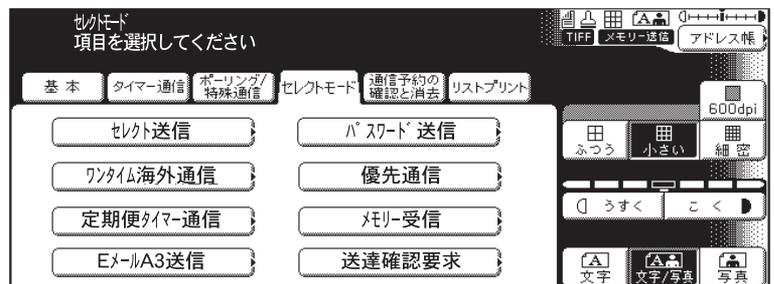
● 相手の ID 番号には、電話番号を登録してもらってください。

セレクト送信

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

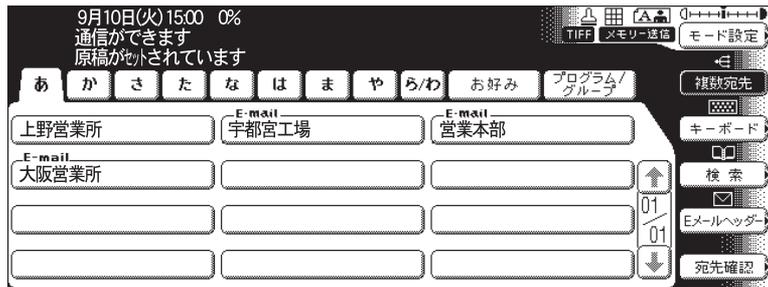
・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 セレクト送信 を押す

4 オン を押す

5 OK を押す

・セレクト送信がセットされます。

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・複数の宛先が指定できます。

7 スタート を押す

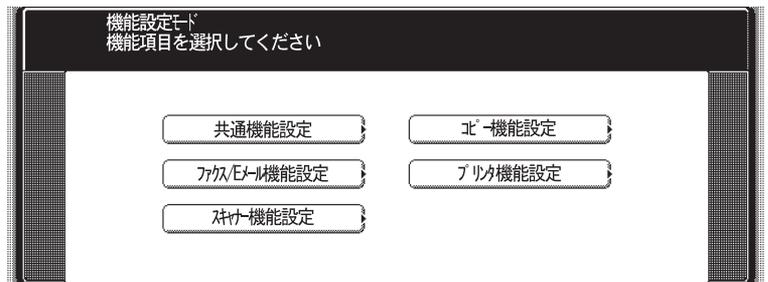
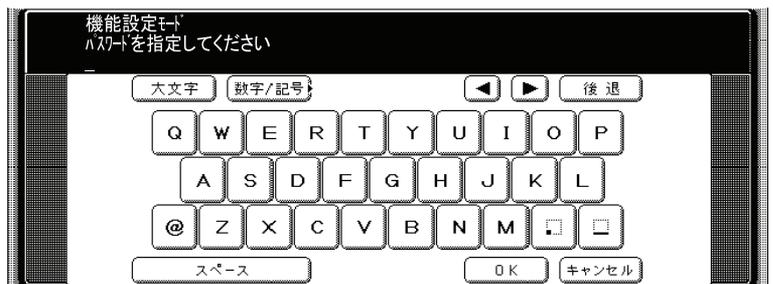
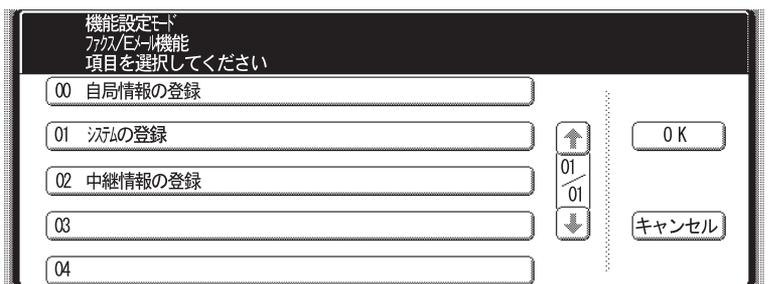
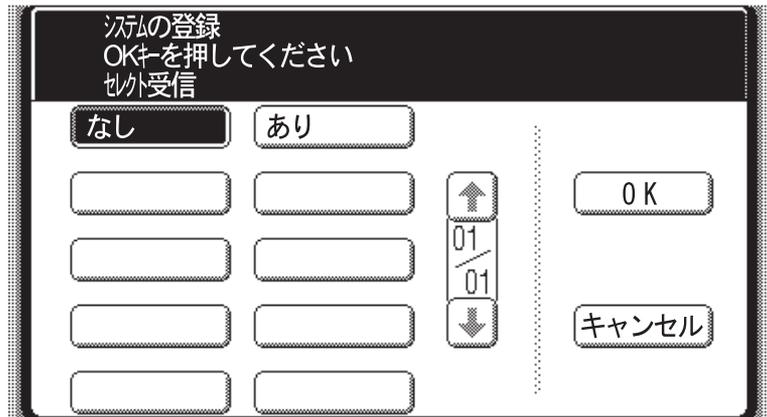
・1 回の通信に限りセレクト送信が開始されます。
・相手の ID と、本機に登録されているダイヤル番号を照合し、一致したときだけ送信します。

お知らせ

- システム登録の「045 セレクト送信」を「あり」にしておけば、タッチパネルに「セレクト送信設定中です」が点滅し、常にセレクト送信の状態になります。
  セレクト送信を解除して送信するときは、手順 4 で オフ を押します。
- 本機に相手のダイヤル番号を登録していないときは、セレクト送信できません。
- 相手が ID 番号を送ってこない場合（ID 番号を登録していない、登録できないなど）は、送信できません。
- 手動送信をしたときは、相手をセレクトしないで送信します。

セレクト受信

- あらかじめセレクト受信する宛先をアドレス帳へ登録しておいてください。(☞ 207 ページ)
- 相手の ID 番号には、電話番号を登録してもらってください。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 **[01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[046 セレクト受信] を表示させ、[046 セレクト受信] を押す、もしくは番号を入力して (スタート) を押す**

5 **[あり] [OK] (ストップ) を押す**

・ディスプレイに「セレクト受信設定中です」を点滅表示します。
・セレクト受信がセットされます。

お知らせ

- セレクト受信の設定を途中でやめるときは、(ストップ) を押します。
- セレクト受信を解除するときは、手順 5 で [なし] を押します。
- 本機に相手のダイヤル番号を登録していないときは、セレクト受信できません。
- 相手が ID 番号を送ってこない場合（ID 番号を登録していない、登録できないなど）は、受信できません。

IP電話サービスを使って送信する

ご利用上の留意点

- **プロバイダが提供する IP 電話サービスのご契約が必要です。**
  ご利用になるプロバイダが、「IP 電話対応機器」に対応した IP 電話サービスを提供しているかどうか、事前にご確認ください。
- **IP 電話サービスのサービス内容は各プロバイダごとに異なります。**
  - IP 電話サービスのサービス内容・料金・提供条件・お申し込み方法などは、プロバイダにより異なりますので、各プロバイダにご確認ください。
  - IP 電話サービスから発信できる番号も各プロバイダにより異なります。
  - 「IP 電話対応機器」をご利用のお客さまどうしでも、ご契約された IP 電話サービスが異なる場合は、IP 電話サービスとして通話することができない場合がありますのでご注意ください。
- **一般加入電話回線を接続しない場合は、110 番などについてはつながりません。**
  - 110 番や 118 番、119 番の電話番号へは、自動的に加入電話回線から発信されるため、加入電話回線が正しく接続されていないとつながりませんのでご注意ください。
  - ご契約されたIP電話サービスが携帯電話やフリーダイヤルなどへの通話をサービス対象外としている場合は、加入電話回線から発信してください。
- **IP 電話サービスから発信する際は、以下の表をよくご確認ください。**

<table>
<tr><th colspan="2">発信先の電話番号</th><th>発信に利用するサービス</th></tr>
<tr><td>一般の電話番号</td><td>例：03-1234-5678
06-1234-5678</td><td>IP 電話サービスから発信できます。</td></tr>
<tr><td>050 番号（IP 電話）</td><td>例：050-XXXX-XXXX</td><td>IP 電話サービスから発信できます。</td></tr>
<tr><td>0X0（050 以外）</td><td>例：携帯番号（090）、PHS（070）、
国際電話（010）など</td><td rowspan="4">ご契約された IP 電話サービスのサービス内容によります。詳しくは各社の IP 電話サービスのサービス内容をご確認ください。
【ダイヤルした番号が IP 電話サービス対象の場合】
IP 電話サービスから発信します。
【ダイヤルした番号が IP 電話サービス対象外の場合】
一般加入電話回線から発信してください。</td></tr>
<tr><td>0XY0</td><td>例：036 などで始まるダイヤル</td></tr>
<tr><td>0XY0（市外局番以外）</td><td>例：0120、0570 などで始まるダイヤル</td></tr>
<tr><td>その他のダイヤル
（110、118、119 以外）</td><td>–</td></tr>
<tr><td>110、118、119</td><td>110、118、119 の緊急通話</td><td>自動的に一般加入電話回線から発信します。</td></tr>
</table>

*：「184+ 電話番号」および「186+ 電話番号」を含みます。

お知らせ

- IP 電話サービスについては、お使いの IP 電話対応機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

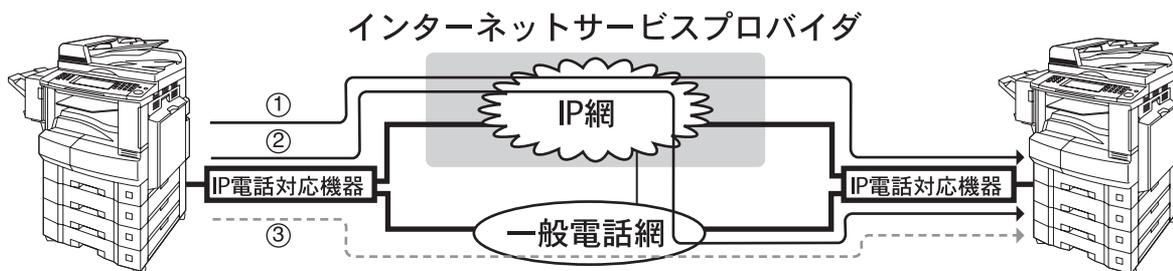
● **IP 電話サービスから発信できない／発信したくないときは**
- ・ 一般加入電話回線から発信してください。
- ・ ネットワーク障害など何らかのトラブルにより、IP 電話サービスがご利用いただけない場合は、一般加入電話回線から発信してください。

● **発信者番号通知についてご確認ください。**
- ・ IP 電話サービスどうしの通話の場合は、IP 電話サービスの電話番号が通知されます。（「184+ 電話番号」をダイヤルすることで非通知にすることもできます。）
- ・ 加入電話など、IP 電話サービス以外に発信する際の発信者番号通知については、ご契約された各プロバイダにご確認ください。

お知らせ

● 以下のような場合には、IP 電話の通話品質が劣化したり、ファクス通信が困難な場合があります。
- ・ ADSL 回線の接続状況によって十分な帯域が確保できない場合
- ・ インターネットで十分な帯域が確保できない場合
- ・ IP 電話対応機器に接続されているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合

IP 電話サービスの利用

「IP 電話対応機器」を設置し、IP 電話サービスが利用できる場合は、特別な操作をしなくても IP 電話回線（IP 網）を利用してファクスを送ることができます。
また、インターネット網の不調などで IP 電話回線が通信不能になった場合でも、リルート機能とプレフィクス機能により自動的に一般加入電話回線に切り替えて通信できるように設定することができます。

<送信の流れ>

1. IP 電話から IP 電話への送信方法①でファクスを送ります。
2. 通信エラーにより送信方法①で送ることができなかった場合は、自動的に送信方法②でファクスを送り直します。
3. 通信エラーにより送信方法②でも送ることができなかった場合は、自動的に送信方法③でファクスを送り直します。

お知らせ

● ファクスがどの回線を使って送信されたかを通信管理レポート（☞150 ページ）で確認できます。

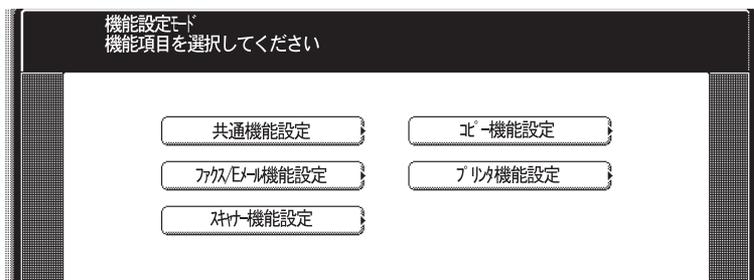
[リルート機能]
システム登録の「123 リルート機能」が「あり」に設定されてるとき、①〜③のいずれかの送信方法で自動的に通信回線を切替えてダイヤルをし直し、ファクスを送信します。ファクス送信は①の方法で送信を開始し、送信できなかったときは、②、③と順次送信方法を切替えてファクスを送信します。

[プレフィックス機能]
システム登録の「124 プレフィクス機能」で、電話番号を入力し、設定を「あり」にしているときご利用になれます。0 〜 9、#、＊、ポーズ記号を組み合わせて、最大 20 桁まで登録できます。(「あり」のときは信号の流れは③となります)

(付与できる番号例)
0000 ：「IP 電話対応機器」を使用しているとき、続けてダイヤルすると相手先電話番号へ一般加入電話回線から発信します。
(「0000」は例です。一般加入電話回線への切替番号は、各ご契約電話会社へご確認ください)

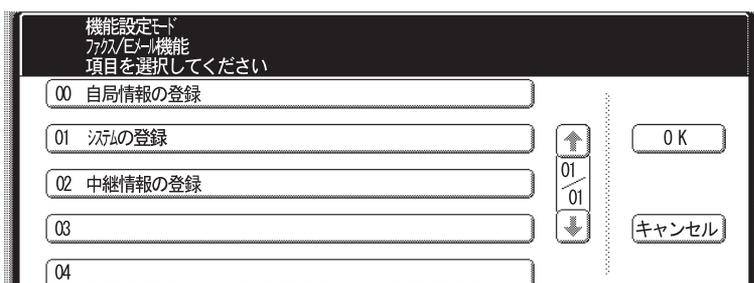
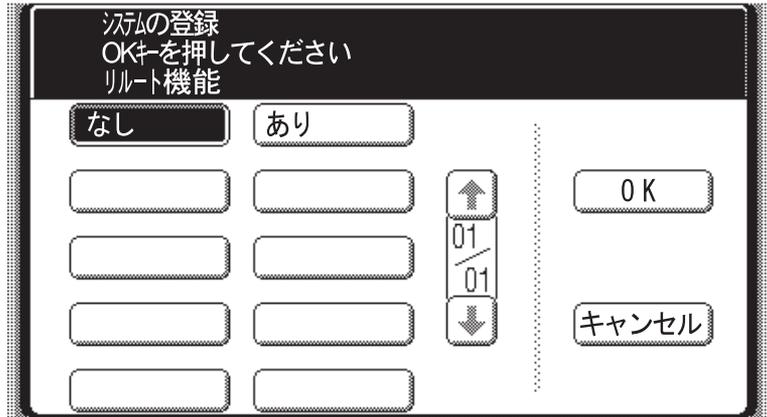
リルート機能の設定／プレフィクス番号の登録

■リルート機能を設定する

1 ファンクションを押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

機能設定ﾓｰﾄﾞ
ﾌｧｸｽ/Eﾒｰﾙ機能
項目を選択してください
00 自局情報の登録
01 ｼｽﾃﾑの登録
02 中継情報の登録
03
04
01/01
OK
キャンセル

4 01 システムの登録 ⇩ ⇧ を押して、123 リルート機能 を表示させ、123 リルート機能 を押す、または番号を入力して スタート を押す

5 あり OK を押す

・リルート機能に設定がセットされます。

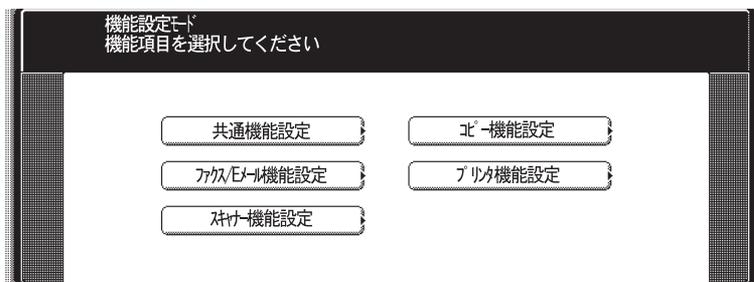
6 ストップ を押す

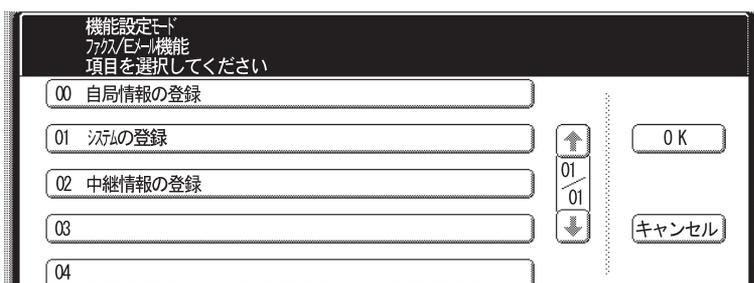
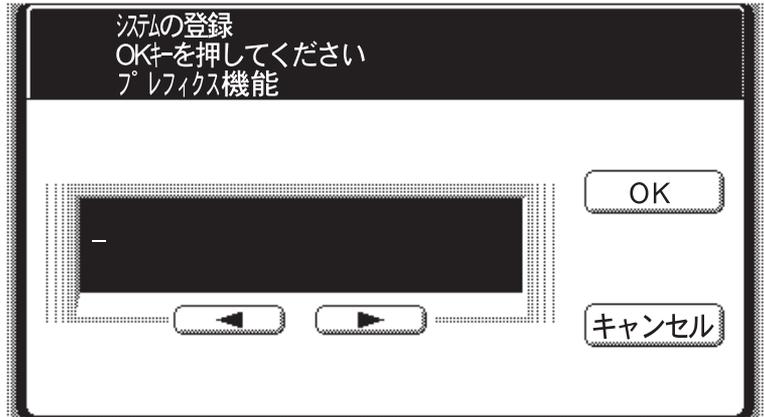
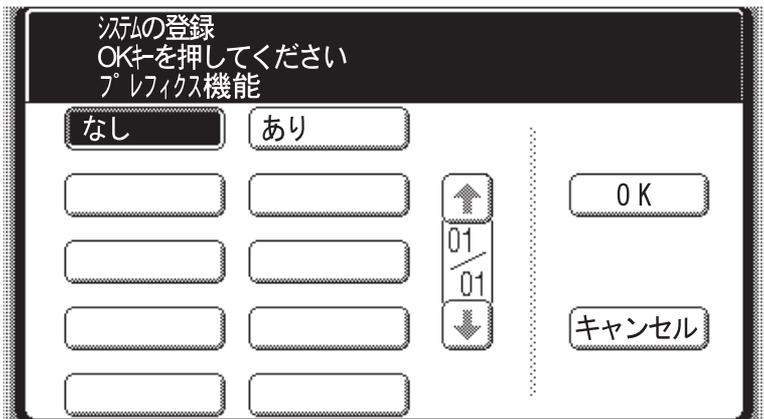
お知らせ

● リルート可能の設定を途中でやめるときは、ストップ を押します。

● リルート機能の設定を「なし」にしたいときは、手順 5 で なし を押します。

■プレフィクス機能を設定する

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 01 システムの登録 ⬇ ⬆ を押して、124 プレフィクス機 を表示させ、124 プレフィクス機 を押す、または番号を入力して スタート を押す

5 プレフィクス番号（最大 20 桁まで）を入力 OK を押す

6 あり OK を押す

・プレフィクス機能の設定がセットされます。

7 ストップ を押す

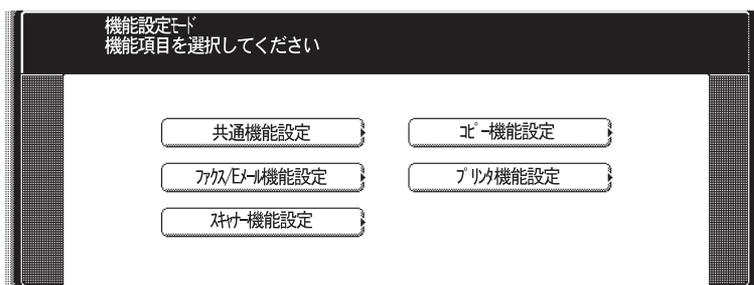
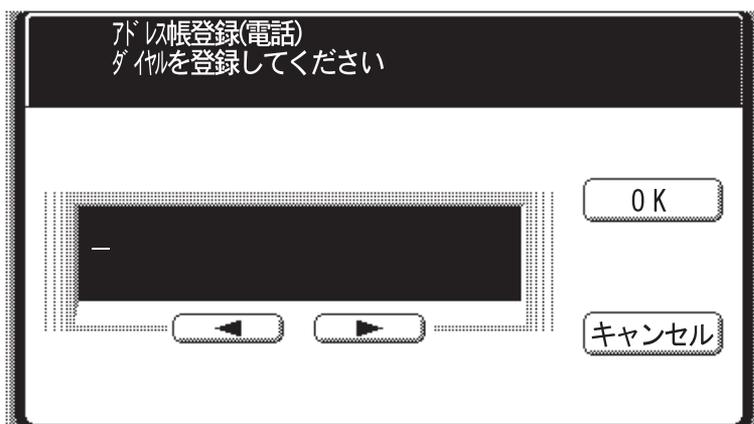
お知らせ

● プレフィクス機能の設定を途中でやめるときは、ストップ を押します。

電話番号／ IP 電話番号の登録

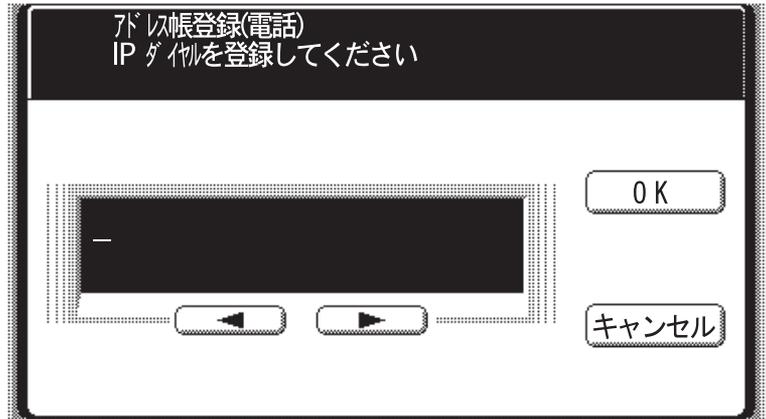
■電話番号／ IP 電話番号を登録する

システム登録の「123 リルート機能」を「あり」に設定すると、アドレス帳に一般電話の電話番号と IP 電話番号をそれぞれ登録できます。

1 ファンクション ⊠◯ を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 00 アドレス帳登録 01 アドレス帳登録(電話) を押す

3 宛先の電話番号を入れる

・間違えた場合は ◀ ▶ を押して訂正したい数字の右側までカーソルを移動し、クリアー Ⓒ を押して入れ直します。

・電話番号は最大 52 桁まで登録できます。

4 [OK] を押す

5 宛先の IP 電話番号を入れる

・間違えた場合は ◀ ▶ を押して訂正したい数字の右側までカーソルを移動し、
クリアー(C)を押して入れ直します。
・電話番号は最大 52 桁まで登録できます。

6 [OK] を押す

7 宛先名を入れる

・宛先の名前を入れます。(☞249 ページ)
・名前は最大 20 文字まで登録できます。

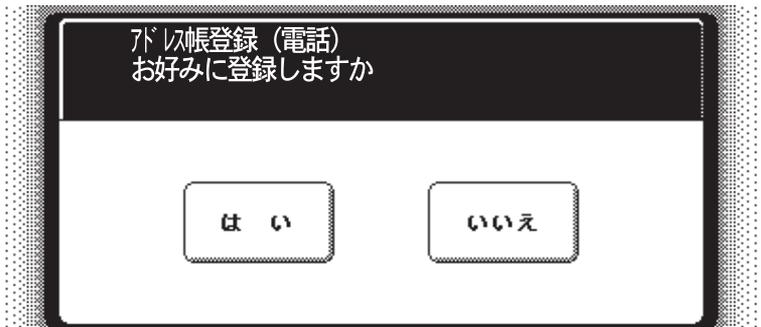
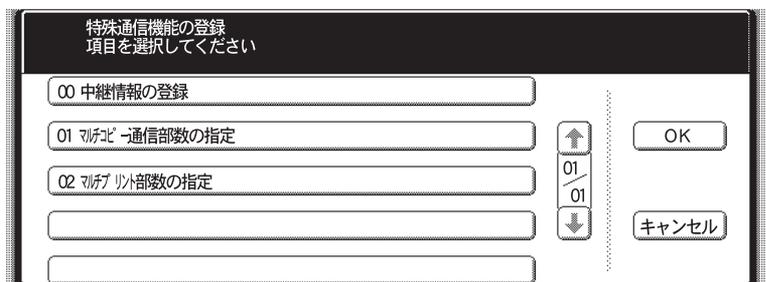
8 [OK] を押す

<次ページへつづく>

9 ボタン名称を入れ、OK を押す

・ボタン名称には、手順 7 で指定した宛先名が表示さます。変更が必要な場合には、入れ直します。
・ボタン名称は最大 10 文字まで登録できます。
・ボタン名称はタッチパネルディスプレイに表示する名称となります。

10 検索文字（最大 10 文字）を入れ、OK を押す

・タッチパネル上で、ボタン名称を分類表示するためのフリガナを入れます。
・宛先名の最初の文字が50音順以外の文字を登録している場合は検索文字を入力します。

11 お好みへの登録を選択する

12 続けて特殊通信機能の登録ができます（☞212 ページ）

・特殊通信機能の登録をしない場合は OK を押してください。続けてアドレス帳の登録ができます。手順 3 からの操作をしてください。

13 登録を完了する場合は OK ストップ を押す

・待機状態に戻ります。

お知らせ

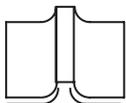
- アドレス帳の登録を途中でやめるときは、ストップ を押します。
- ダイヤル回線の場合は * （トーン）を押すとプッシュホン信号に切り替ります。表示は「／」として登録されます。
- 国際ダイヤル通信をご利用の場合は、サービス実施会社へご相談ください。
- NCC 回線をご利用の場合は、NCC 回線のアクセス番号のあとに、再ダイヤル/ポーズ を 2 回押して約 7 秒たってから、残りのダイヤル番号を入れてください。
- 検索文字を w 音以外で登録したときは、「あ」行に登録されます。
- 一般電話の電話番号を誤って登録すると、自動再ダイヤルにより相手の方を何度も呼び出し、大変ご迷惑をおかけすることになりますのでご注意ください。

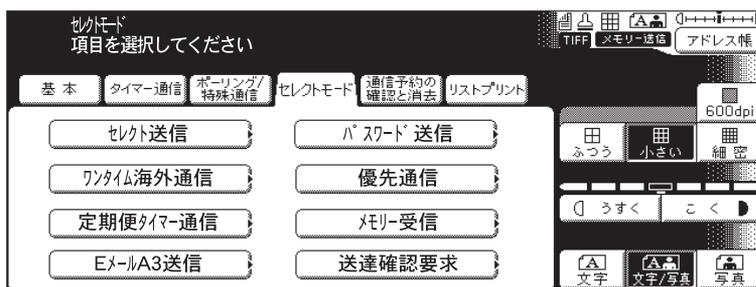
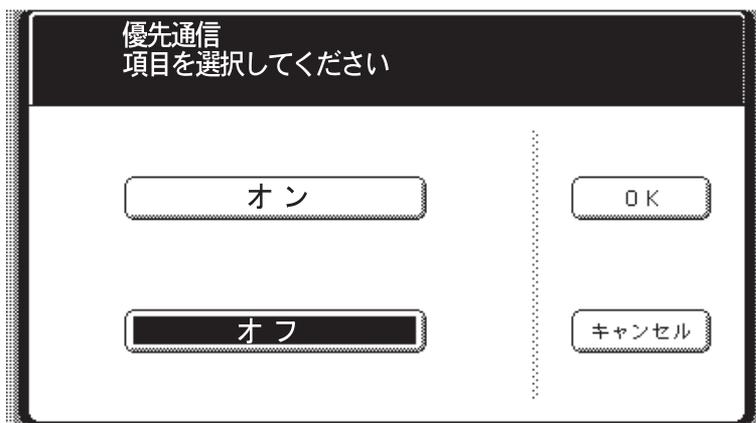
優先通信

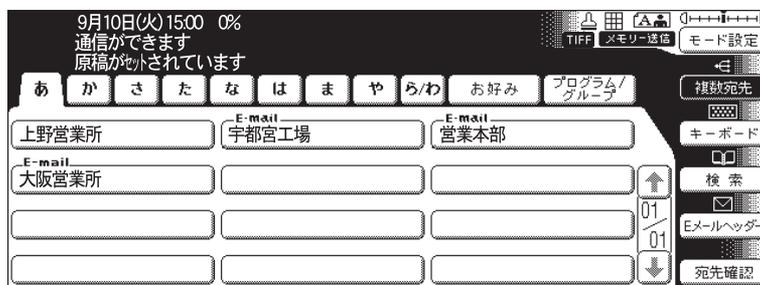
● 複数の通信予約をしているときに、至急に送りたい原稿を、現在行っている通信の次に割り込んで予約できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 優先通信 を押す

4 オン を押す

5 OK を押す

・優先通信がセットされます。

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・複数の宛先が指定できます。

7 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

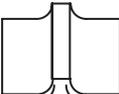
● 優先予約の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。

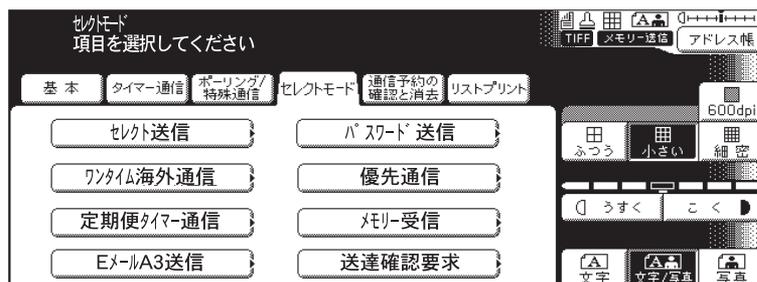
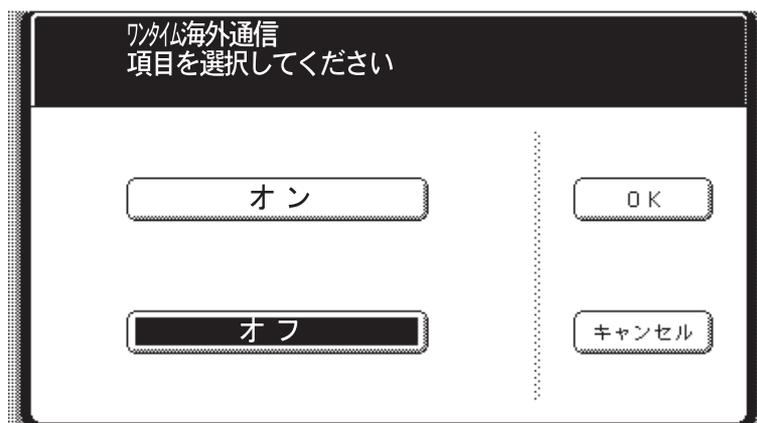
ワンタイム海外通信

海外の相手と通信していて、通信エラーや画面異常になるときに指定します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 ワンタイム海外通信 を押す

4 オン を押す

5 OK を押す

・ワンタイム海外通信がセットされます。

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・複数の宛先が指定できます。

7 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・原稿読み込み後、送信が開始されます。

お知らせ

● ワンタイム海外通信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。

応用編

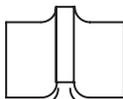
定期便タイマー通信

あらかじめ定期便タイマーの指定時刻（最大 5 つ）を登録しておけば、セットした時刻から最も近い時刻になると自動的に送信が始まります。

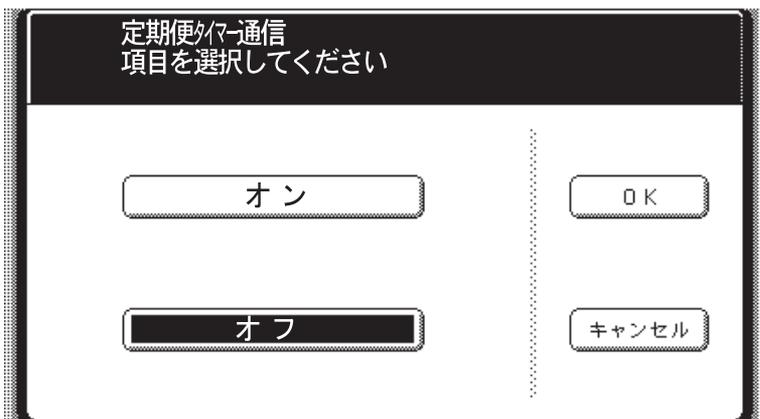
- 定期便タイマー通信は、他の通信予約を含めて最大 50 件まで指定できます。
- 自局情報の「定期便タイマーの登録」（☞196 ページ）をしておいてください。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1a 送る面を上向きに ADF にセットする

1b 本または原稿を裏向きに原稿台ガラスにセットする

2 モード設定 セレクトモード を押す

3 定期便タイマー通信 を押す

4 オン を押す

5 OK を押す

・定期便タイマー通信がセットされます。

6 宛先を指定する

・直接ダイヤル、またはアドレス帳で宛先を指定します。
・複数の宛先が指定できます。

7 スタート を押す

・原稿が読み込まれます。
・一番近い時刻になると、自動的に定期便タイマー通信を開始します。

お知らせ

- 定期便タイマー通信の指定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- 指定した定期便タイマー通信を消去するときは、「通信予約の消去」(☞ 140 ページ) を行ってください。
- 指定した定期便タイマー通信の内容を確認するときは、「通信予約の確認」(☞136 ページ) を行ってください。

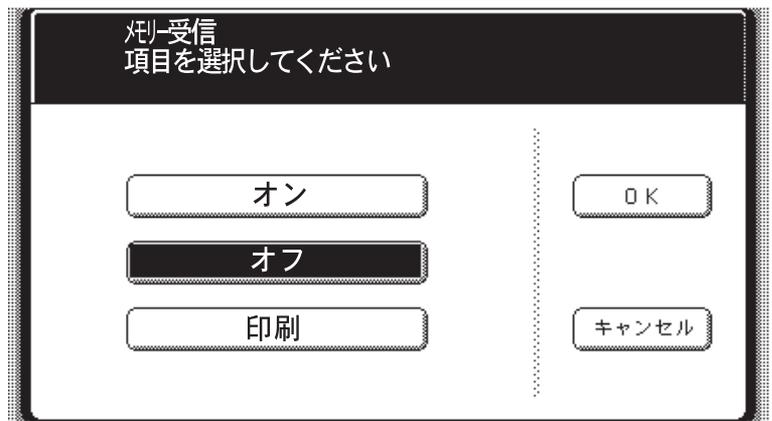
メモリー受信

この機能は、受信したすべての原稿をメモリーに蓄積して保存するものです。休日や夜間に受信した原稿を、あとでまとめてプリントすることができます。

メモリー受信の設定

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 **モード設定 セレクトモード メモリー受信 を押す**

2 **オン OK を押す**

・メモリー受信の設定がされます。

お知らせ

- メモリー受信の設定を途中でやめるときは、ストップを押します。
- メモリー受信の設定をしているときは、タッチパネルに「メモリー受信設定中です」が点滅します。
- メモリー受信の解除をするときは、手順 2 で オフ に設定します。メモリーに受信した原稿が蓄積されているときは、メモリーの内容をプリントしてからメモリー受信を解除します。

メモリー受信のプリント

メモリー受信した原稿があるとき、「受信データが残っています」が点滅します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 セレクトモード メモリー受信 を押す

2 印刷 OK を押す

・メモリー受信した原稿をプリントします。
・プリントが終るとメモリーの内容は消去され、メモリー受信設定中の画面に戻ります。

お知らせ

● メモリー受信の解除およびプリントの設定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。

● メモリー受信のプリントで、プリントが始まってからストップ を押しても、プリントは止まりません。

通信予約の確認と消去

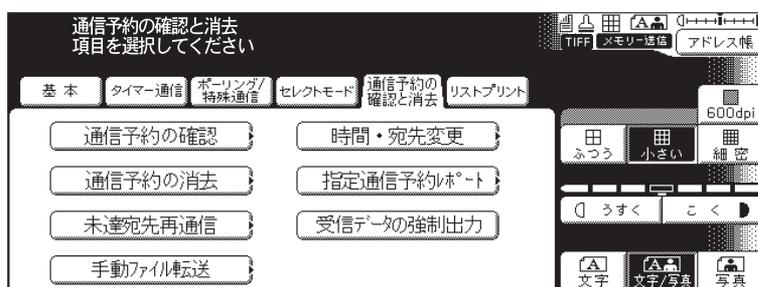
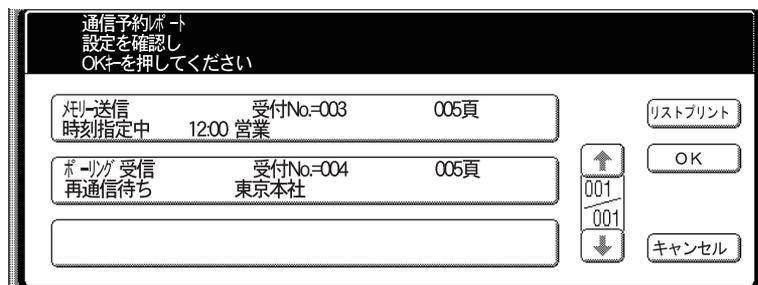
通信予約の確認

タイマー通信などの通信予約を確認 / 消去できます。

通信予約の内容をディスプレイに表示させて確認できます。また、通信予約をレポートにしてプリントすることもできます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 通信予約の確認 を押す

3 ストップ を押す

・通信予約の確認を終了します。

お知らせ

- 通信予約の確認を途中でやめるときは、ストップを押します。
- 手順 2 で「ピピピ」と鳴り、「予約ファイルがありません」と表示されたときは、通信予約されている内容がありません。
- 通信予約レポートのプリントの設定を途中でやめるときは、ストップを押してください。
- リストプリント を押すと、通信予約レポートをプリントできます。

お知らせ

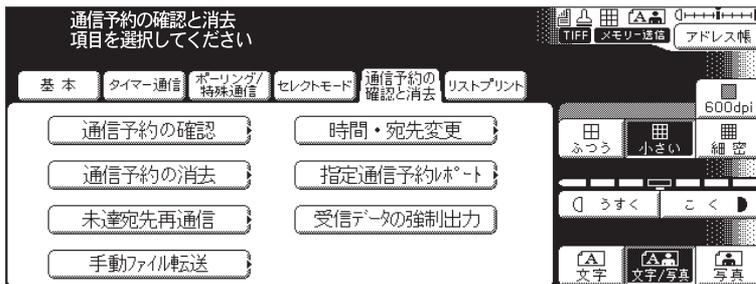
● 通信の種類には、送信などの通信名のほか、次の内容が表示されます。
・タイマー通信予約中（時刻指定中、定期便指定中）
・FAX 中（発呼待、通信中）
・ダイヤル待ち（再ダイヤル待ち、予約中）

時間・宛先変更

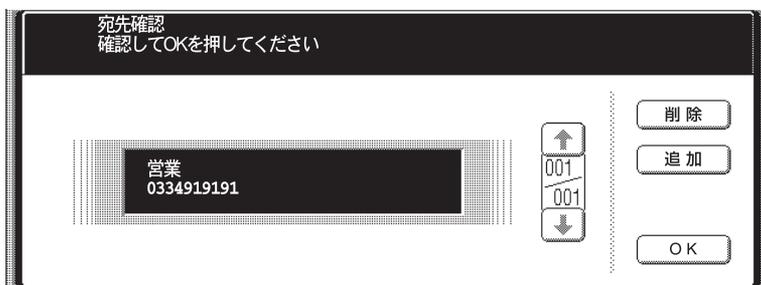
タイマー送信やタイマーポーリング受信で予約した宛先や時刻を変更できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 時間・宛先変更 を押す

3 変更する通信予約を指定し、 OK を押す

4 変更する時刻を指定し、OK を押す

5 ⬇ ⬆ を押してページをめくり、宛先の削除または追加を行なう

6 OK ストップ を押す

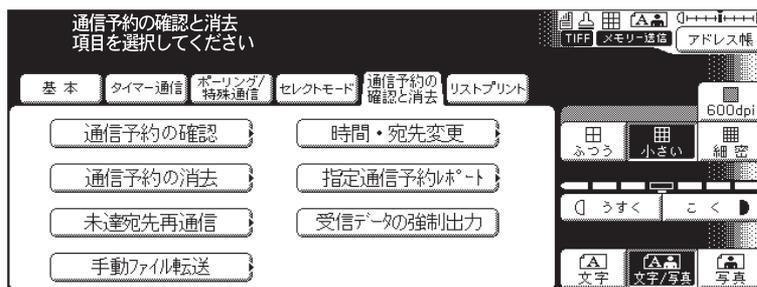
・時間・宛先変更を終了します。

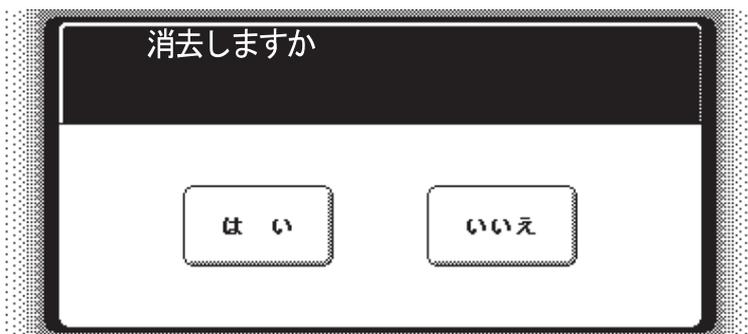
通信予約の消去

予約した通信の内容を消去できます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 通信予約の消去 を押す

3 消去する通信予約を指定し、 OK を押す

4 はい を押す

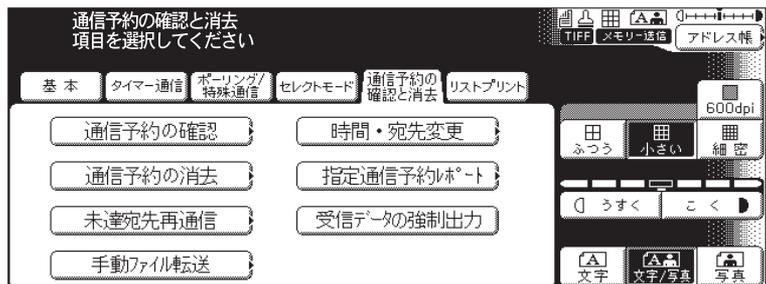
・指定した通信予約を消去します。

お知らせ ● 全ファイルを消去するには、手順 3 で 全ファイル を押します。

指定通信予約レポートのプリント

受付 No. を指定して通信予約レポートをプリントできます。レポートには、通信を指定した原稿が付加されます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で
・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 指定通信予約レポート を押す

3 プリントする通信予約を指定し、OK を押す
・指定した受付 No. の通信予約レポートをプリントします。

応用編

未達宛先再通信の指定

未通信となった、最新 10 通信までをメモリーに保持し、もう一度通信することができます。

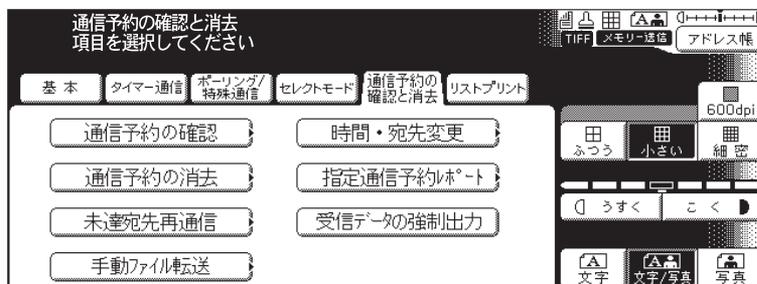
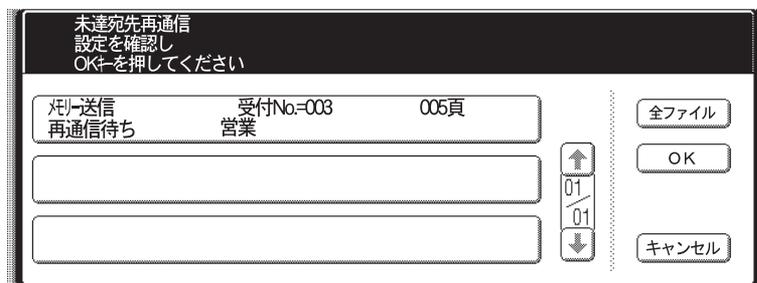
● システム登録の「031 未通信ファイル保存」(☞243 ページ)が「あり」になっていないと、未通信の内容はメモリーに保存されません。

■未達宛先再通信の個別指定

未通信になった通信から、受付 No. を指定して再通信します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 未達宛先再通信 を押す

3 再通信を行なう宛先を指定し、 OK を押す

・指定された宛先の再通信がセットされます。

・未通信となった全ての再通信をセットする場合は、

全ファイル を押します。

受信データ強制出力

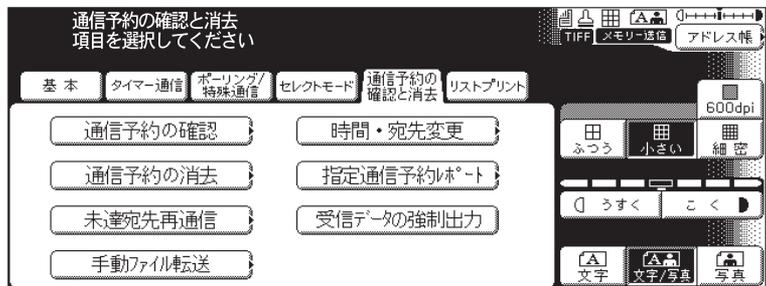
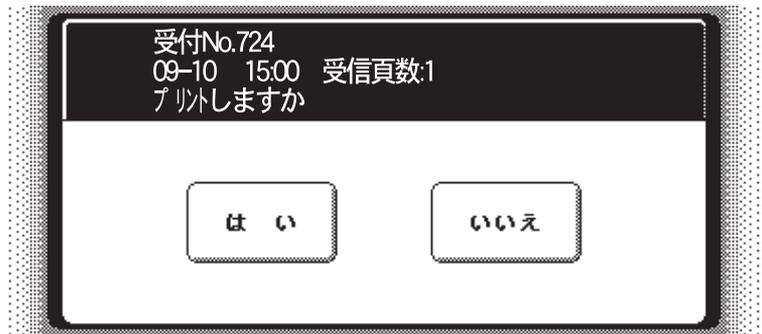
システム登録の「066 代行出力」を「なし」にしているときは、相手が送信した原稿サイズに適応する記録紙がセットされていないと、受信した原稿はプリントされないでメモリーに保存します。
次の操作をすると、メモリーに保存されている原稿を強制的にプリントすることができます。

メモリーに受信データが残っているとき

「受信データが残っています」が点滅します。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 受信データの強制出力 を押す

3 はい を押す

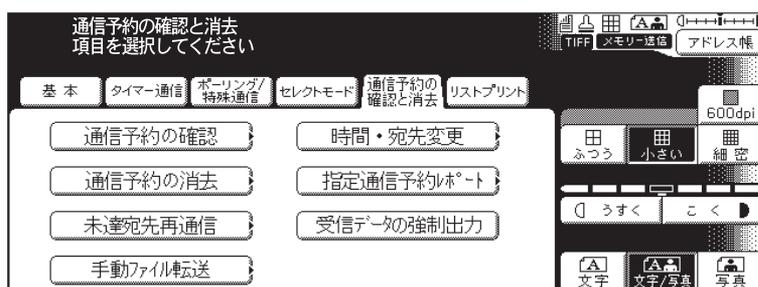
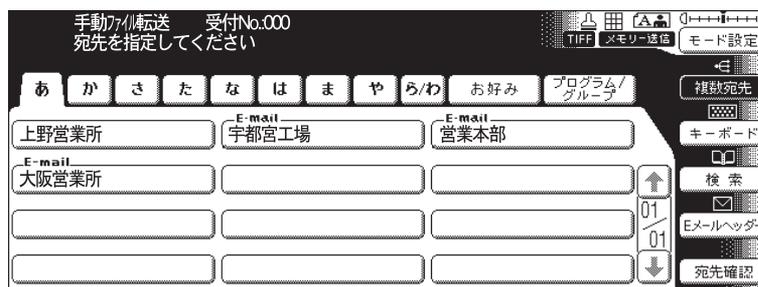
・受信データを強制出力します。

手動ファイル転送

代行受信をしているけれどトナー無しや装置エラー（Ex-x x 表示など）でプリントできないときなどに、受信した内容を別のファクスに転送してプリントすることができます。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 通信予約の確認と消去 を押す

2 手動ファイル転送 を押す

3 宛先を指定します。

4 スタート を押す

・宛先にダイヤルし、受信データの転送を始めます。

ルーティング

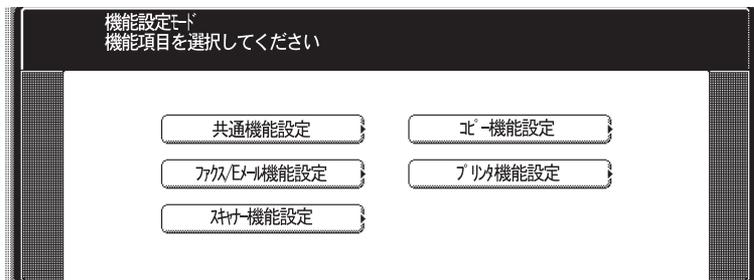
ルーティングの設定

一般回線のファクスから受信した文書を、LAN 上のパソコンまたはインターネットファクスにメール送信することができます。
また、別の一般回線のファクスにファクス送信することもできます。

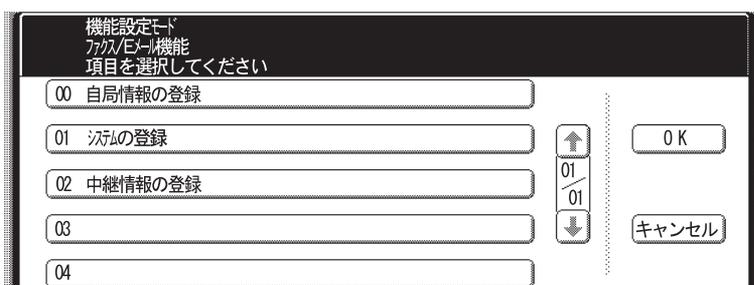
● システム登録の、「152 SUB ルーティング」、「153 数字 ID ルーティング」、「175 発番号ルーティング」、「176 ダイヤルインルーティング」のいずれかご利用できる項目を「あり」に設定します。

「152 SUB ルーティング」	:	F コード通信（サブアドレス通信）を利用できる G3 ファクスから F コードのサブアドレスを使用してルーティングする場合に「あり」に設定します。 送信側 G3 ファクスから F コードのサブアドレスで本機に登録されている宛先を指定してルーティングすることが可能です。（☞240 ページ）
「153 数字 ID ルーティング」	:	F コード通信を利用できないファクスから、ルーティングさせる場合に「あり」に設定します。 送信側ファクスから送られてくる数字 ID で本機に登録されている宛先にルーティングすることが可能です。（☞240 ページ）
「154 ルーティング時 From」	:	ルーティングにより、LAN へメールを送るときの From 欄の内容を選びます。 指示局： 発信者の数字 ID をルーティングするメールの「From」欄に表示します。 中継局： ルーティングする中継局のメールアドレスを、ルーティングするメールの「From」欄に表示します。
「155 ルーティング時出力」	:	受信した原稿をすべて本機でプリントするか、ルーティング操作が機能しなかった場合のみプリントするかどうかを選択します。
「175 発番号ルーティング」	:	発信者番号通知（ナンバーディスプレイ）によるルーティングをする場合に「あり」に設定します。送信側 G3 ファクスから送られる発信者番号で、本機に登録されている発信者番号の宛先にルーティングすることができます。（発信者番号通知（ナンバーディスプレイ）を契約時は、必ず「あり」に設定してください。「なし」のままですと、ファクス受信できません。）
「176 ダイヤルインルーティング」	:	モデムダイヤルインサービスをご利用されている場合に、「あり」に設定します。送信側 G3 ファクスから送られるダイヤルイン番号で、本機に登録されている宛先にルーティングすることができます。

お知らせ

● 「発番号ルーティング」または「ダイヤルインルーティング」を「あり」にした場合は、節電モードを「シャットダウン」に設定しても、「シャットダウン」状態になりません。
● 発信者番号通知・ダイヤルインサービスはあらかじめ NTT との契約が必要です。
本サービスの詳細につきましては NTT にお問い合わせください。
● NCC 回線をご利用の場合は、NCC 各社でサービス内容が異なります。発信者番号通知ダイヤルインサービスの詳細につきましてはご契約の NCC にお問い合わせください。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 [01 システムの登録] [↓] [↑]を押して、[152 SUBルーティング]を表示させて押す、または番号を入力して スタート を押す

5 [あり]を選び[OK]を押し、続いて[153 数字IDルーティング]を表示させて押す

6 [あり]を選び[OK]を押し、続いて[175 発番号ルーティング]を表示させて押す

<次ページへつづく>

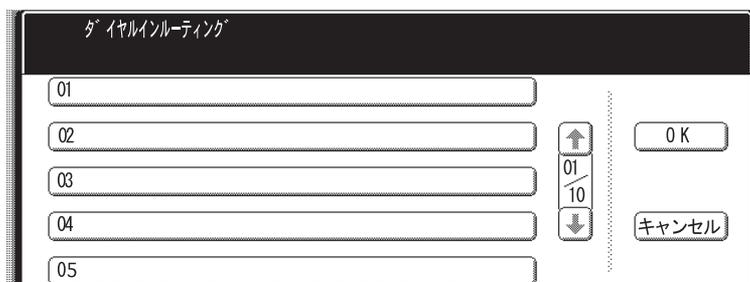
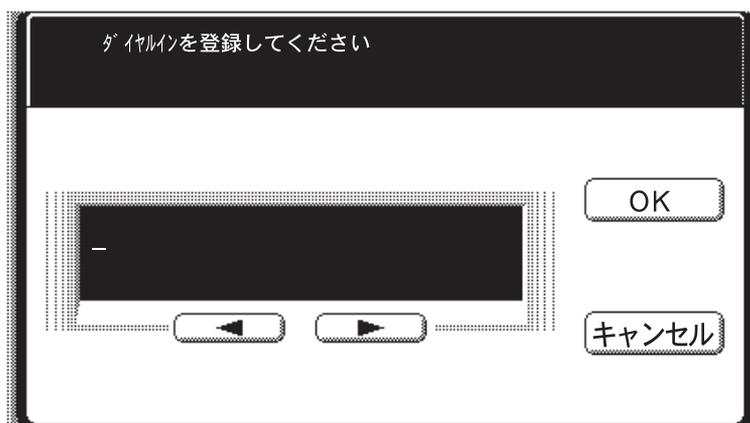
7 「回線 1」または「回線 2」を押す

・増設通信ユニットを設定されている場合は、回線毎に発番号ルーティングの設定ができます。手順8，9を繰り返して設定します。
・回線毎の発番号ルーティングの設定が完了しましたら、回線ボタンを選択しない状態で OK を押し、手順8へ進みます。

8 発番号ルーティングの回線毎の設定後、回線ボタンを選択しない状態で OK を押し、続いて 176 ダイヤルインルーティング を表示させて押す

9 「回線 1」または「回線 2」を押す

・増設通信ユニットを設定されている場合は、回線毎にダイヤルインルーティングの設定ができます。手順8，9を繰り返して設定します。
・回線毎のダイヤルインルーティングの設定が完了しましたら、回線ボタンを選択しない状態で OK を押し、手順10へ進みます。

10 ダイヤルインルーティングの回線毎の設定後、回線ボタンを選択しない状態で OK を押す

11 登録したい番号（1 – 50）を押す

12 ダイヤルイン番号（最大 20 桁）を入力し、 OK を押す

・ダイヤルインには数字のみ入力できます。
・続けてダイヤルイン番号の登録ができます。

13 登録を完了する場合は ストップ を押す

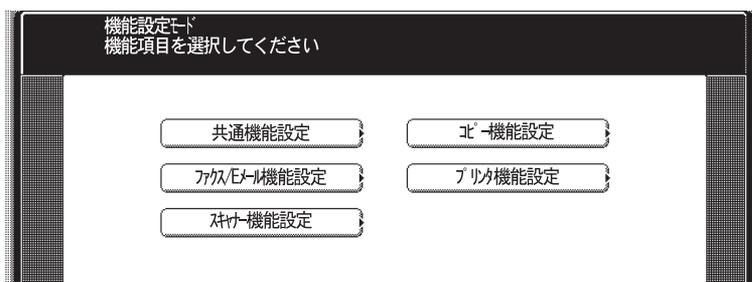
・待機状態に戻ります。

通信管理レポート送信

通信管理レポート送信の設定

通信管理レポートを指定した E メールアドレスにメール送信することができます。

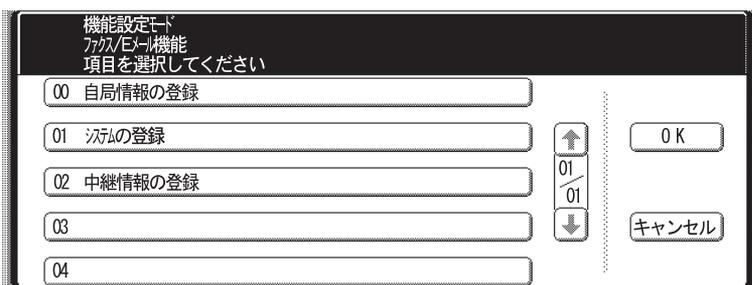
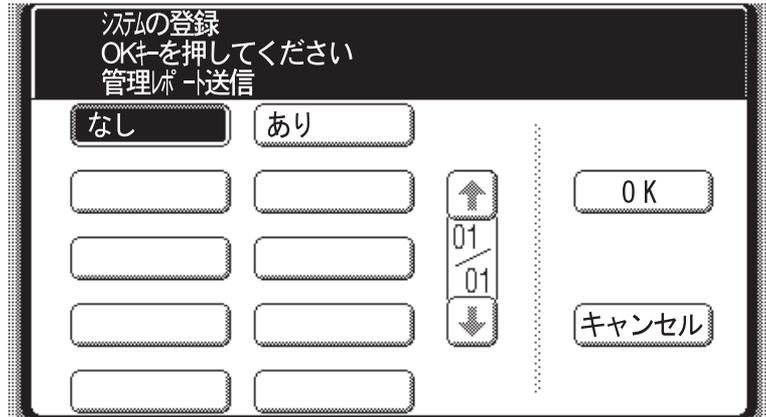
● システム登録の、「157 管理レポート送信」を設定します。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 [01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[157 管理レポート送信] を表示させて押す、または番号を入力して (スタート) を押す

5 [あり] を選び [OK] を押す

6 宛先を指定して、[OK] を押す

・アドレス帳で指定します。

7 (ストップ) を押す

・待機状態に戻ります。

お知らせ

- 通信管理レポートは 200 通信に達した時に自動送信されます。
- 設定を途中でやめるときは、(ストップ) を押してください。
- 設定項目の一覧は、247 ページを参照してください。
- システム登録「013 通信管理レポート」が「あり」のとき有効となります。(「013 通信管理レポート」が「なし」でも「157 管理レポート送信」を「あり」に設定はできますが、メール送信されません。) 自端末にプリントする場合は「なし」に、メール送信したい場合は「あり」に設定します。

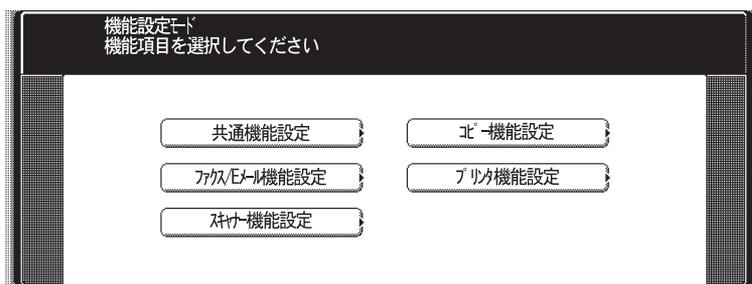
応用編

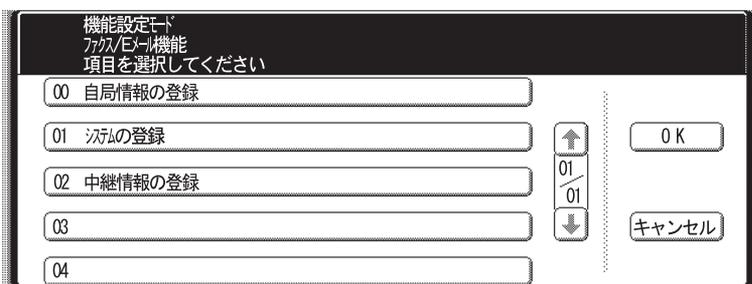
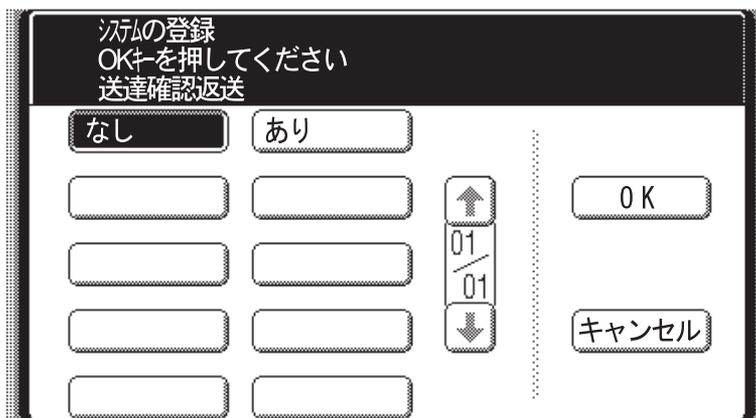
送達確認返送

送達確認返送の設定

メールを受信したときは、送信元に受信確認メールを自動的に返送することができます。
送達確認の返送は、送信元の機種が限定されます。詳しくは、サービス実施会社にご相談ください。

● システム登録の、「150 送達確認返送」を設定します。
「なし」受信確認メールを返送しません。
「あり」メールを受信したときに受信確認メールを返送します。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 01 システムの登録 ↓ ↑ を押して、150 送達確認返送 を表示させて押す、または番号を入力して スタート を押す

5 あり を選び、OK を押す

6 ストップ を押す

・待機状態に戻ります。

お知らせ

- 設定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- 設定項目の一覧は、247 ページを参照してください。
- PC から送信したメールを受信したときは、送信元に受信確認メールを送信することはできません。

メモリー転送

メモリー転送の設定

一般回線用ファクスからの受信原稿と、LAN 経由で受信した電子メールを転送できます。
また宛先としては、E メールアドレスか電話番号のどちらかが登録できます。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 [OK] を押す

機能設定モード
ファクス/Eメール機能
項目を選択してください
00 自局情報の登録
01 システムの登録
02 中継情報の登録
03
04
01/01
OK
キャンセル

4 [01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[054 メモリー転送] を表示させて押す、または番号を入力して (スタート) を押す

5 [あり] を選び [OK] を押す

メモリー転送
宛先を選択し
OKキーを押してください
あ か さ た な は ま や ら/わ お好み
上野営業所
E-mail 宇都宮工場
E-mail 営業本部
E-mail 大阪営業所
01/01
OK
キャンセル

<次ページへつづく>

6 宛先を指定し、OK を押す

7 着信ポートの指定をし、OK を押す

・着信ポートの指定をおこなった場合は、指定のポートで受信したものを転送します。
「指定無し」の場合は受信したもの全てを転送します。

8 メモリー転送時間帯の指定をし、OK を押す

・「あり」を指定したときは、開始時刻と終了時刻を入力します。

9 自端末出力の指定をし、[OK]を押す

10 (ストップ)を押す

応用編

お知らせ

- メモリー転送の設定を途中でやめるときは、(ストップ)を押してください。
- 手動受信した原稿は転送せずにプリントします。

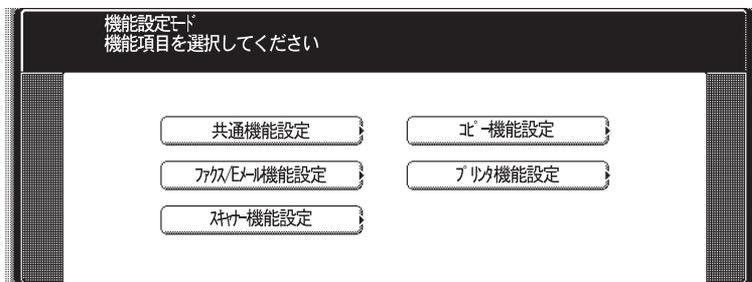
メモリー転送をセットしているとき ファクスまたは電子メールを受信すると

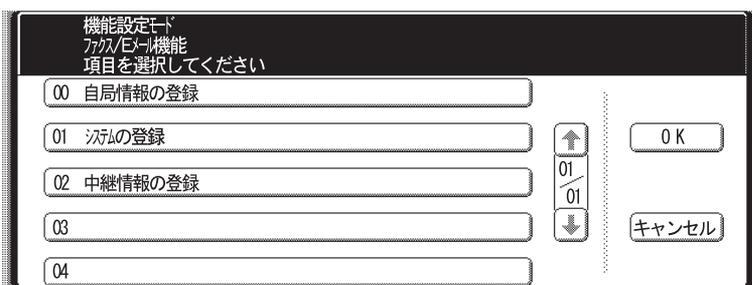
メモリー転送設定中 → ファクスまたは電子メールを受信する → 受信が終わる → 登録されている転送先へ受信した原稿または電子メールの送信を始める

お知らせ

- メモリー受信中にメモリーがいっぱいになった場合は、メモリーに受信できたページまでを転送します。
- 転送先が話し中などでつながらなかったときは、通信結果レポートと受信した原稿をプリントします。
- メモリー容量が約 98% 以上のときは、呼出音を鳴らすだけで受信できません。インターネットから受信の場合、呼出音は鳴りません。

メモリー転送の解除

1 ファンクション ⊠◯ を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 [01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[054 メモリー転送] を表示させて押す、または番号を入力して (スタート) を押す

5 [なし] を選び [OK] を押す

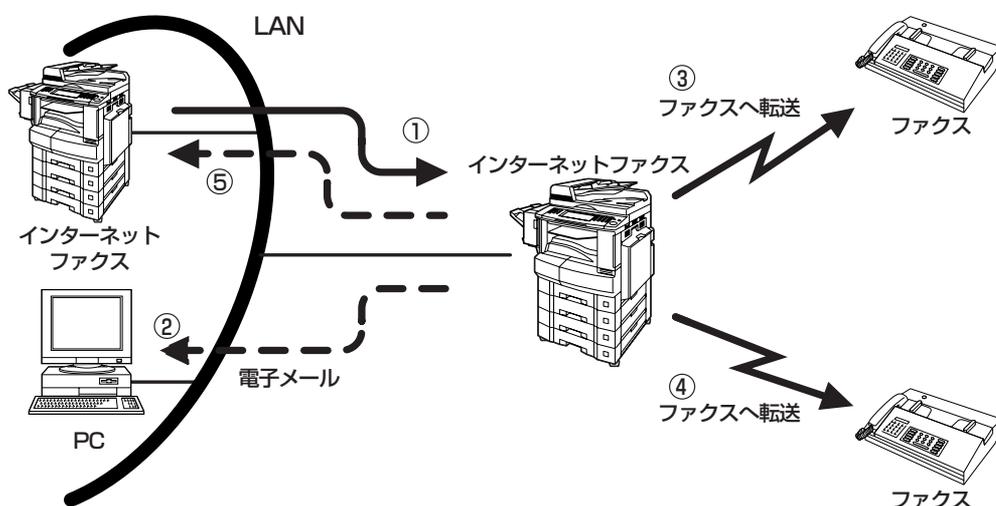
6 (ストップ) を押す

お知らせ

● メモリー転送の解除を途中でやめるときは、(ストップ) を押してください。

LAN 中継同報

LAN 中継同報について

LAN 中継同報機能を持ったインターネットファクスとネットワークを組むことにより、LAN 経由で送信した電子メールを、一般回線に接続された複数のファクスへ同報送信することができます。

以下に LAN 中継同報の流れを説明します。

①LAN 中継機能を持ったインターネットファクスに、電子メール（TIFF 形式のファイルを添付することができます）で、LAN 中継同報を指示します。
あらかじめ、LAN 中継指示を登録したアドレス帳（☞235 ページ）を使用すると、簡単に LAN 中継同報の指示ができます。（☞161 ページ）

②管理者用の PC に、LAN 中継同報指示されたことを電子メールで通知します。（☞168 ページ）

③LAN 中継指示された電子メールを、一般回線に接続されたファクスへ順次同報します。
受信した電子メールは、1 枚目にメールヘッダ及びメール本文、2 枚目以降に添付ファイルを出力します。

④ ③のファクスに引き続き、④のファクスに転送します。

⑤LAN 中継同報が終了したら、通信結果を LAN 中継同報を指示したインターネットファクス（または PC）へ送達通知メール（☞168 ページ）で返送します。（送達通知メールには送信原稿が TIFF ファイルで添付されます）

お知らせ

- 本機には、LAN 経由の中継同報を指示する機能と、LAN 中継指示を受けて一般回線に接続されたファクスに送信する機能があります。LAN 中継同報の指示については 161 ページ、167 ページ、LAN 中継同報指示の為の登録については 233 ～ 239 ページを参照してください。また LAN 中継同報指示受付の為の登録については 163 、233 ～ 239 ページを参照してください。
- 一般回線に接続されたファクスから、本機にLAN中継同報を指示することはできません。
- LAN に接続されたインターネットファクスや PC を宛先として、LAN 経由で LAN 中継同報を指示することはできません。
- 本機が LAN 中継指示を一度に受け付ける宛先数は、最大 20 カ所です。20 カ所を越える LAN 中継指示が受け付けられた場合は分割されて処理されます。その場合の中継結果レポートは分割された処理ごとに返送されます。
- POP サーバーに接続してご利用されている場合には、LAN 中継指示を受け付けて一般回線に接続されたファクスに送信する機能はご利用になることはできません。
- 一度に大量の G3 中継指示をする場合は、全体のシステムと G3 Fax 宛先数・速度などを考慮する必要があります。SMTP サーバの Queue 制限により、大量に中継指示しても SMTP サーバーから複数回に分けて送信されることがあります。また中継局が先に受付けた通信予約を完了しない状態で継続して中継指示をしても、処理不可能の応答を SMTP サーバーへ返送することがあります。このような場合には、SMTP サーバーまたは中継局での処理に必要な時間を考慮した上でシステムを運用してください。

LAN 中継同報指示

LAN 中継同報送信をする前に

●システム登録の「140 LAN 中継送信指示」、「142 LAN 中継機能」および「143 LAN 中継結果返送」を設定しておいてください。（☞247 ページ）

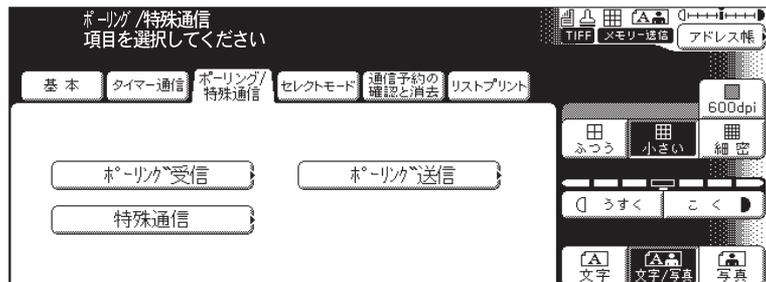
ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

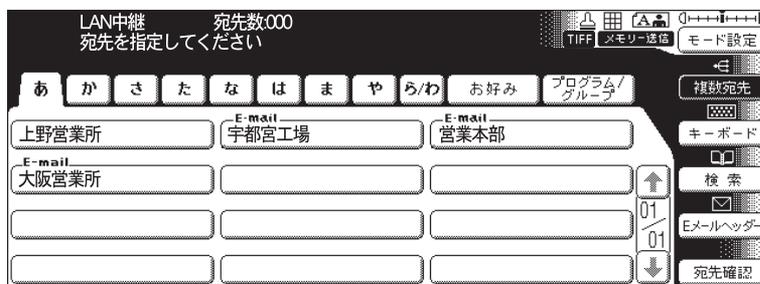
1 原稿をセットする

2 モード設定 ポーリング／特殊通信 を押す

3 特殊通信 ↓ LAN中継同報指示 を押す

LAN中継同報指示
中継局を指定してください
TIFF
メモリー送信
モード設定
あ か さ た な は ま や ら/わ お好み プログラム/グループ
複数宛先
上野営業所
E-mail 宇都宮工場
E-mail 営業本部
キーボード
E-mail 大阪営業所
検 索
01
01
Eメールヘッダー
宛先確認

<次ページへつづく>

4 中継局を指定し スタート を押す

・アドレス帳で中継局を指定します。
・宛先は１宛先のみ指定できます。

5 宛先を指定し スタート を押す

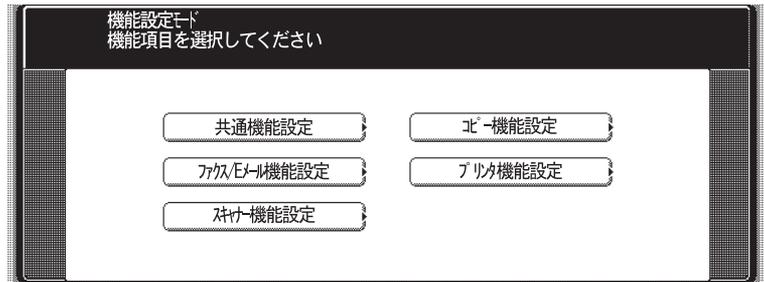
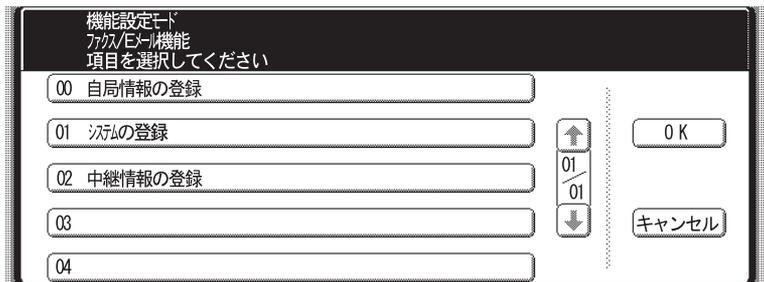
・アドレス帳で宛先を指定します。
・宛先は複数指定できます。
・宛先（中継局）に中継送信が開始されます。

お知らせ

● 手順 4 で指定する中継局は、中継局に登録されている中継用パスワードを含んだ、Eメールアドレスを指定します。
● LAN 中継同報の結果は送達通知メールで返送されてきます。（☞168 ページ）
● LAN に接続されたインターネットファクスや PC を宛先として、LAN 経由で LAN 中継同報を指示することはできません。

LAN 中継機能の設定

● システム登録の「142 LAN 中継機能」、「143 LAN 中継結果返送」を登録します。
「142 LAN 中継機能」　　：LAN 経由で中継通信を行う機能を設定します。
「143 LAN 中継結果返送」：LAN 中継通信の結果レポート返送の設定をします。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 　04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

機能設定ﾓｰﾄﾞ
ﾌｧｸｽ/Eﾒｰﾙ機能
項目を選択してください
00 自局情報の登録
01 ｼｽﾃﾑの登録
02 中継情報の登録
03
04
OK
キャンセル

応用編

＜次ページへつづく＞

4 01 システムの登録 ↓ ↑ を押して、142 LAN中継機能 を表示させて押す、または番号を入力して スタート を押す

5 あり を選び OK を押し、続けて 143 LAN中継結果返送 を押す

6 返送条件を選び OK を押す

- LAN 中継結果の返送が不要の時は なし を押します。
- 全ての LAN 中継通信の結果を返送する時は 全通信 を押します。
- 未通信の LAN 中継結果だけを返送する時は 異常時 を押します。

7 ストップ を押す

お知らせ

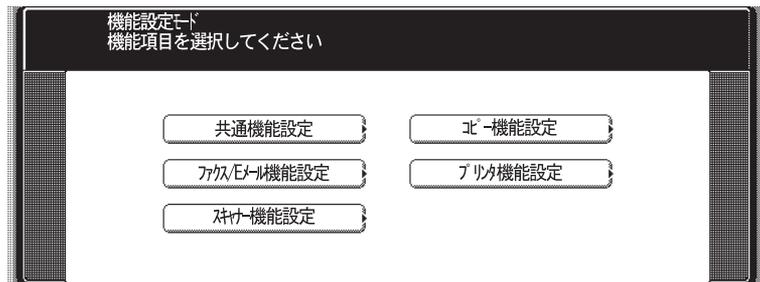
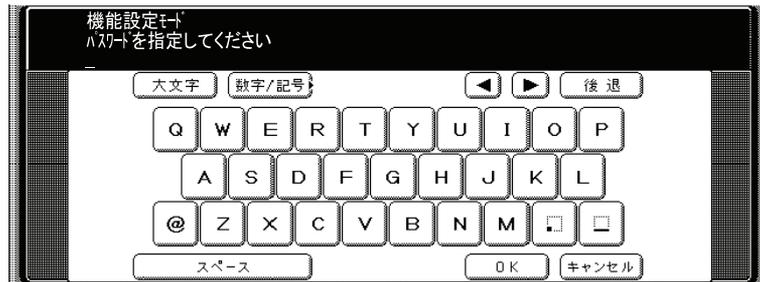
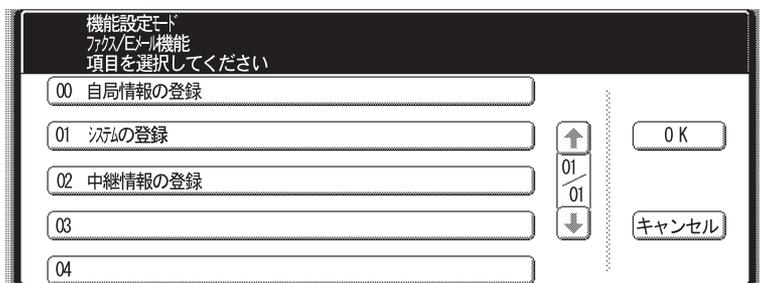
- 設定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- 設定項目の一覧は、247 ページを参照してください。
- POPサーバーに接続してご利用されている場合は、LAN 中継指示を受け付けて一般回線に接続されたファクスに送信する機能はご利用になることはできません。

LAN 中継送信指示の設定

● システム登録の「140 LAN 中継送信指示」を あり に設定します。

“1 : なし ” :　LAN 中継送信指示することはできません。

“2 : あり ” :　LAN 経由の中継送信指示のみ可能になります（一般回線に接続されている中継局に、中継指示することはできません）。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定　04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

機能設定ﾓｰﾄﾞ
ﾌｧｸｽ/Eﾒｰﾙ機能
項目を選択してください
00 自局情報の登録
01 ｼｽﾃﾑの登録
02 中継情報の登録
03
04
01/01
OK
キャンセル

＜次ページへつづく＞

応用編

4

01 システムの登録 ↓ ↑ を押して、140 LAN中継送信指示 を表示させて押す、または番号を入力して スタート を押す

5

あり を選び OK を押す

6

ストップ を押す

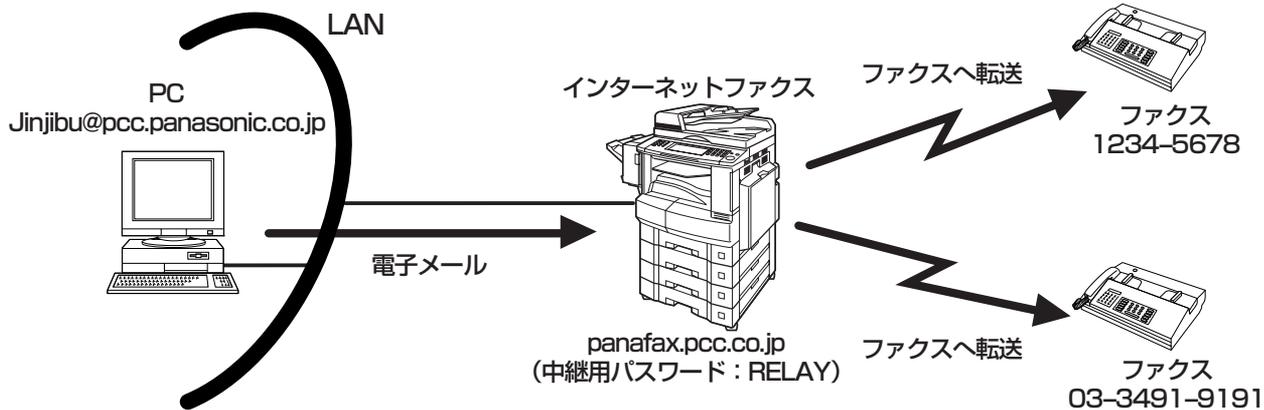
・待機状態に戻ります。

お知らせ

- 設定を途中でやめるときは、ストップ を押してください。
- 設定項目の一覧は、247 ページを参照してください。

PC からの LAN 中継同報指示

■PC からの LAN 中継同報指示

ネットワーク上の PC から送信した電子メールを、LAN 中継同報機能を持ったインターネットファクスを経由して、一般回線に接続された複数のファクスへ同報送信することができます。
あらかじめ、LAN 中継機能を持ったインターネットファクスに、「LAN 中継機能の設定」(☞163 ページ)と「中継局の自局情報登録」(☞233 ページ)を登録しておいてください。

電子メールの宛先に、「中継用パスワード　#　電話番号　@　DNS サーバーへ登録されたホスト名+中継局のドメイン名」の形式でファクスの電話番号を含めて指定します。中継局は、あらかじめ登録されている「中継許可用ドメイン名」と、中継を指示したインターネットファクスや PC の E メールアドレスを比較して一致した場合だけ、LAN 中継同報を行います。(指示欄の E メールアドレスの右から順に、中継許可用ドメイン名の文字数分の比較を行います。)

【LAN 中継指示の例】
［宛先情報］ RELAY # 0W0334919191 @ panafax.pcc.co.jp（ホスト名＋ドメイン名）
［指示機アドレス］ Jinjibu@pcc.panasonic.co.jp（中継許可ドメイン名と比較）
中継用パスワード：RELAY
宛先の電話番号：0W0334919191（最大 52 桁で、0 ～ 9、#、W、T が使用できます。）
中継許可用ドメイン名：panasonic.co.jp

- 中継用パスワードとファクスの電話番号の間には # を入れてください。
- @のあとには DNS サーバーへ登録されたホスト名 (panafax) とドメイン名 (pcc.co.jp) を入れてください。
- 電話番号中の W はポーズをあらわします。
  構内交換機等での発呼などで、必要な場合に挿入してください。
- 電話番号中に T を入れるとプッシュボタン信号に切り替えることができます。回転ダイヤル式回線で、プッシュホン信号に切り替える必要があるとき挿入してください。

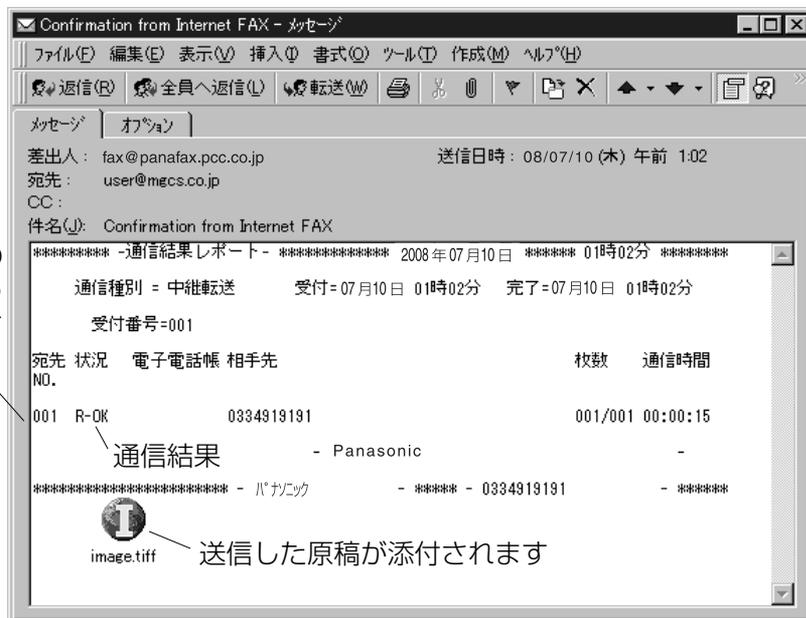
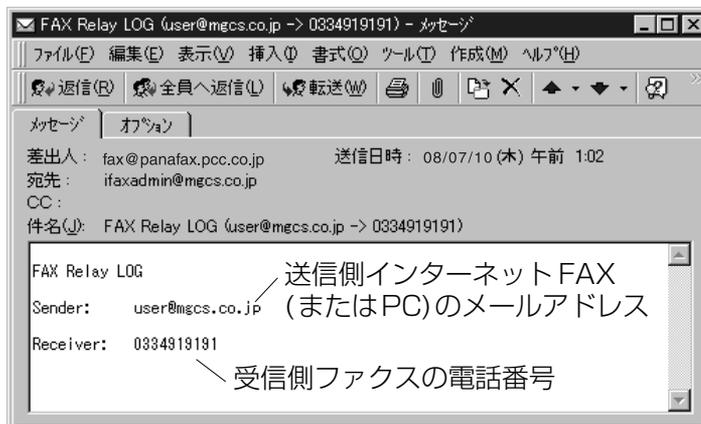
複数の宛先を指定するときは、カンマ（,）※で区切って、1 宛先ずつ「中継用パスワード　#　電話番号　@ ホスト名＋ドメイン名」を複数回入力してください。(最大 20 宛先)(※メールソフトによってはセミコロン（;）となります)

【複数宛先の例】
RELAY # 0W0334919191@panafax.pcc.co.jp, RELAY # 0W12345678@panafax.pcc.co.jp

お願い

- 誤送信を防ぐために、宛先の電話番号を指定する時は、必ず市外局番から指定してください。
- 中継の宛先にはファクスへの電話番号だけを指定してください。LAN に接続された宛先を一緒に指定すると、その宛先へも LAN 中継指示の宛先情報が送られてしまいます。

LAN 中継同報の通信結果

● 送達通知メール
LAN 中継同報通信の結果は、中継機から送達通知メールで返送されてきます。

● 管理者宛メール
中継機は、LAN 中継同報の指示を受け付けると、登録されている管理者（☞233 ページ）へ、電子メールで通知します。

PC からインターネットファクス経由でファクスへ送信する

Outlook® 等の電子メールアプリケーションを使って、TIFF-FX 形式のファイルを添付すれば、複数の宛先のファクスへ中継送信することができます。
この機能をご利用になるには、事前に本機のパラメーター（ 自局情報の中継パスワード）を正しく設定しておく必要があります。
同時に DNS サーバーへホスト名登録と、適切な SMTP セキュリティ設置をしていただく必要があります。
DNS サーバーへの登録と、セキュリティー設定については、お客様のネットワークを管理しているシステム管理者へお問合わせください。

PC から中継送信する場合、電子メールアプリケーションの宛先（To）に相当するフィールドには次のように入力します。

例：シンガポールの中継局から、シンガポール内のファクスへ送信する場合
relay-pswd#6512345678@singapore.panasonic.co.sg

relay-pswd　：中継用パスワード (本機の自局情報登録の内容と合致させる）
#6512345678　：ファクスの番号
と @ の間は直接番号の他、ワンタッチボタン、短縮ボタン等の情報を入力することもできます。
PBX などを利用して内線から外線へ発信する際にポーズが必要な場合は、ハイフン "–" をファクス番号の部分に入力してください。

@ のあとには DNS サーバーへ登録されたホスト名とドメイン名が入ります。
中継送信が完了すると、中継結果を通信ジャーナルとして PC へ返送します。
これにより、中継結果を確認することができます。

TIFF コンバーターは、インターネットファクスが受信可能な TIFF ファイル形式へ変換するアプリケーションです。
Microsoft®-Word、Excel® などで作成されたファイルを、中継機能を使ってファクスへ送信される場合には、あらかじめ TIFF コンバーターを使って TIFF 形式のファイルへ変換した後に送信してください。
そのまま *.doc、*.xls 形式のファイルを添付して送信することはできません。

変換する時の解像度は、通常 200 dpi を選択してください。
400 dpi は、あらかじめ受信相手側が 400 dpi 処理能力を保有していることがわかっている時に使用します。

MAPI 対応メール連携プログラムは、TIFF ファイルへ変換後、MAPI を使って電子メールアプリケーションを自動的に起動するアドインプログラムです。
MAPI に対応した電子メールアプリケーションと連動することにより、Microsoft®、Excel® 等のアプリケーションから印刷を行なう感覚で、インターネットファクスへ送信することができます。
TIFF コンバータ並びに MAPI アプリケーションは、以下の URL からダウンロードすることができます。

http://panasonic.co.jp/pcc/

リスト・レポート

リスト・レポートのプリント

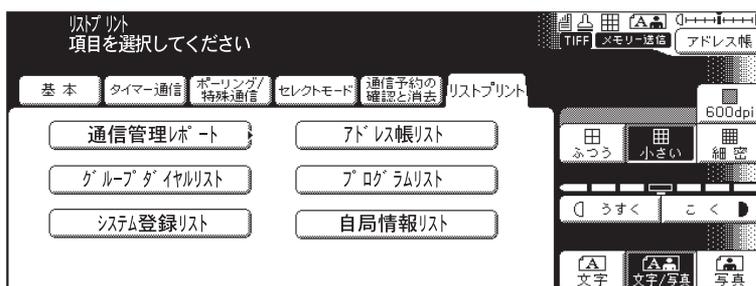
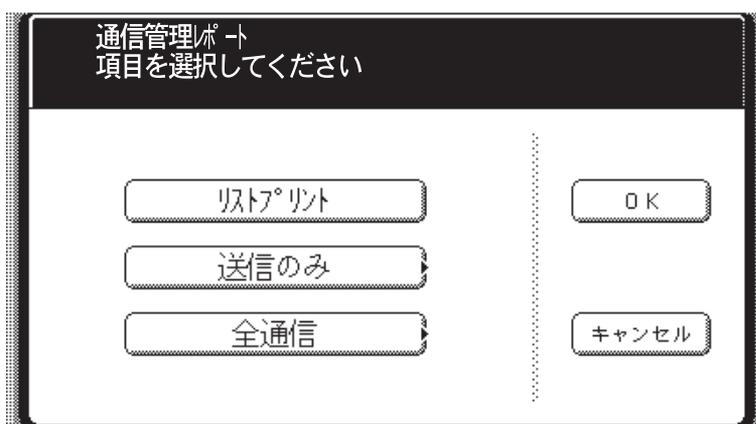
レポートのプリント

■通信管理レポートのプリント

送信および受信の結果をレポートにしてプリントします。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 リストプリント を押す

2 通信管理レポート を押す

3a リストプリント を押す

・200 通信分の結果をレポートにしてプリントします。

3b 送信のみ を押す

・送信分のみの通信管理レポートを表示します。

・ ⬇ ⬆ を押してページをめくります。

・ OK を押すと手順 2 の画面へ戻ります。

3c 全通信 を押す

・通信管理レポートを表示します。

・⬇ ⬆ を押してページをめくります。

・ OK を押すと手順 2 の画面へ戻ります。

お知らせ

● システム登録の「013 通信管理レポート」（☞243 ページ）の設定を行うと、200 通信分ごとにレポートを自動出力することができます。

● 通信管理レポートのプリントを途中でやめるときは、ストップ を押します。

■通信受付レポートのプリント

メモリー通信を受け付けるたびに、受付内容を表すレポートをプリントできます。
システム登録の「014 通信受付レポート」（☞243 ページ）を「あり」に設定する必要があります。

● プリントした通信受付レポートに送信を指定した原稿を付加します。

01頁
DP-8032　001．0000

通信受付レポート

東京本社

08年07月10日11時26分

受付番号	受付日時	通信種別	処理状況	指定時刻	パスワード
013	07-10 11:26	送　信	時刻指定中	17:00	

宛先　(001カ所)
直接＝(回線 1)0334919191

Panafax

OPENING NEW LINES OF COMMUNICATION.

■通信結果レポートのプリント

通信するたびに、通信結果の内容を表すレポートをプリントすることができます。

- お買い上げ時の設定では、結果レポートは未通信になったときだけプリントされます。
- システム登録の「012 通信結果レポート」（☞243 ページ）の設定により、通信結果レポートのプリント方法を選択することができます。
- メモリー送信時はプリントした通信結果レポートに、送信を指定した原稿を付加します。

01頁

DP-8032　　001. 0000

通信結果レポート

東京本社

08年07月10日17時24分

＊＊＊　未通信があります。＊＊＊

受付番号：012
受付日時：07月10日17時15分
完了日時：07月10日17時24分

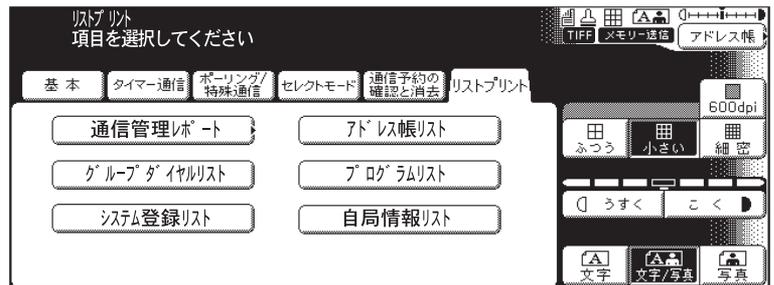
リストのプリント

■アドレス帳のプリント

アドレス帳、グループダイヤル、プログラムの内容をリストにしてプリントします。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 リストプリント を押す

2a アドレス帳リスト を押す

・アドレス帳リストのプリントを開始します。

2b グループダイヤルリスト を押す

・グループダイヤルリストのプリントを開始します。

2c プログラムリスト を押す

・プログラムリストのプリントを開始します。

お知らせ

● リストのプリントを途中でやめるときは、ストップを押します。

グループダイヤルリスト

01頁
DP-8032　001. 0000
東京本社
08年07月10日17時15分

ボタン名称	登録名称
グループＡ	A商事組合
宛先：	A商事　、C商事　、T産業　、
グループＣ	C商事連合
宛先：	C商事　、T産業　、

プログラムダイヤルリスト

01頁
DP-8032　001. 0000
東京本社
08年07月10日17時15分

ボタン名称	登録名称	サービス名	付加サービス
Ｐ松下電器	プログラム松下	マルチコピー通信	優先設定　：　なし
			ﾒﾓﾘｰ/ﾀﾞｲﾚｸﾄ　：　メモリー
			時刻指定　：　なし
			セレクト通信　：　なし
			定期便ﾀｲﾏｰ通信：　なし
			ﾜﾝﾀｲﾑ海外通信：　なし
			読み取り濃度　：　ふつう
			文字サイズ　：　ふつう
			ハーフトーン　：　なし
			済スタンプ　：　あり
			部数　：　１０
	宛先：松下電器　、		

アドレス帳リスト

01頁
DP-8032　001. 0000
東京本社
08年07月10日17時15分

■検索文字　【え】

ボタン名称	登録名称 / 電話番号	識別番号	中継指定	指定番号	指定部数
A商事	A商事株式会社	22(02)	グループ	1234567	送信(03)
	(外線　)0331234567		(代行宛先)	2222222	受信(02)

■検索文字　【し】

ボタン名称	登録名称 / 電話番号	識別番号	中継指定	指定番号	指定部数
C商事	C商事株式会社	22(02)	グループ	1234567	送信(04)
	(外線　)061234567				

■検索文字　【て】

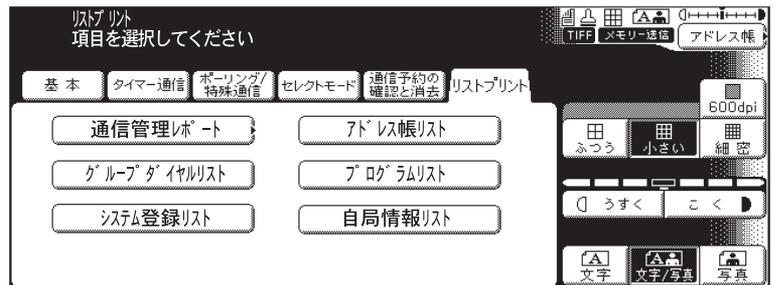
ボタン名称	登録名称 / 電話番号	識別番号	中継指定	指定番号	指定部数
T産業	T産業株式会社				
	(外線　)0867123456		(代行宛先)	3333333	

■システム登録リストのプリント

システム登録で設定した内容をリストにしてプリントします。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 リストプリント を押す

2 システム登録リスト を押す

・システム登録に設定されている内容がプリントされます。

01頁

DP-8032　　001.0000

システム登録リスト

東京本社

08年07月10日17時15分

No.	項目名	選択肢	現在値設定	初期値設定
000	システム登録リスト印刷			
001	原稿濃淡	(1 2 3 4 5 6 7)	4	4

お知らせ

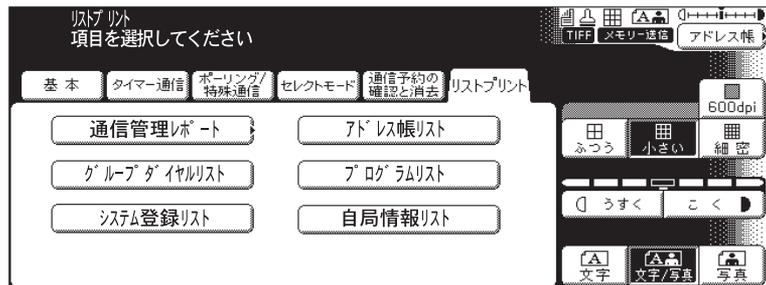
● システム登録リストのプリントを途中でやめるときは、ストップを押します。

■自局情報リストのプリント

自局情報に設定した内容をリストにしてプリントします。

ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 モード設定 リストプリント を押す

2 自局情報リスト を押す

・自局情報に設定されている内容がプリントされます。

お知らせ

● 自局情報リストのプリントを途中でやめるときは、ストップ を押します。

登録編

インターネットに接続するための事前準備

本機をネットワークに接続される前に、この章をご覧いただくことにより各機能についてのご理解が一層深まります。

本機は、10BASE-T/100BASE-TX イーサネット LAN（ローカルエリアネットワーク）へ接続されると以下のような事ができます。

- ドキュメント情報をインターネット電子メールで送信
- インターネット電子メールを自動的に受信し印刷する
- ファクスもしくは電子メールで受信したものを、自動的にあらかじめ設定した E メールアドレスもしくは通常のファクスへ転送（メモリー転送に関する 154 ページを参照）
- G3 ファクスから受信したものを、自動的に ITU-T のサブアドレスを使って、発信者の指定した E メールアドレスもしくはファクスへルーティングする（ルーティングに関する 145 ページを参照）
- ファクスから受信したものを、自動的にファクスの発信元 ID を使って、発信者の指定した E メールアドレスもしくはファクスへルーティングする（ルーティングに関する 145 ページを参照）
- インターネット電子メールを通常のファクス送信としてファクスへ中継（中継送信に関する 160 ページを参照）

ここに記載した機能をご利用になるには、本機をネットワークへ正しく設定する必要があります。現在のネットワーク設定値については、お客様のネットワーク管理者へお問い合わせ願います。

この章の 187 ページに添付されている事前設定調査表をコピーの上、MAC (Media Access Control) アドレスを記入した後に、表にある残りの項目を埋めていただきますようネットワーク管理者へご依頼願います。本機の MAC アドレスは、共通機能設定印刷（ファンクション ◯ 共通機能設定 09 キーオペレーター専用 00 共通機能設定印刷 開始 OK ）の順に押す）に印刷されます。

本機は、SMTP 転送もしくは POP クライアントによる受信のいづれかが設定できます。また設定により、ご利用になれる機能が以下の表の通り異なります。

機能	SMTP 転送	POP クライアント
ドキュメント情報をインターネット電子メールで送信	○	○
インターネット電子メールの自動受信と印刷	○	○
インターネット電子メールの手動受信と印刷	×	○
受信したファクスもしくは電子メールの自動転送	○	○
ファクスの自動振り分け転送（ルーティング）	○	○
インターネット電子メールからファクスへの中継	○	×

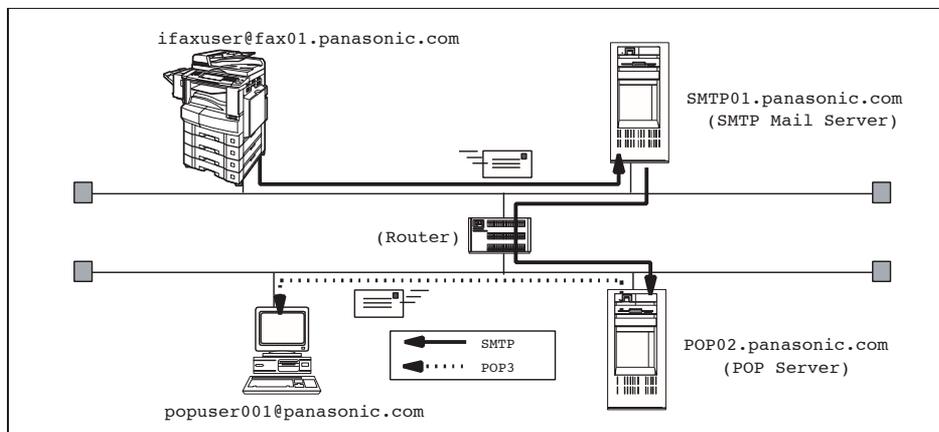
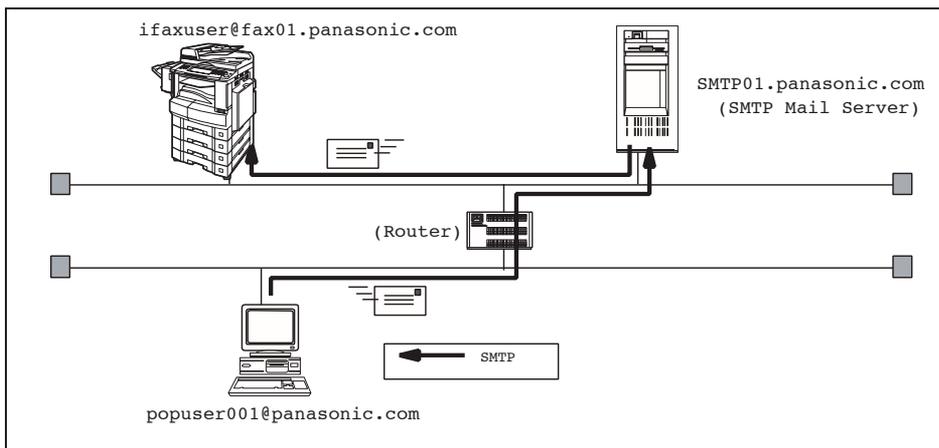
お知らせ

- SMTP 転送機能をご利用になるには、本機の E メールアドレスにお客様のドメインとホスト名を含まなければなりません。ホスト名はお客様のネットワークの DNS(Domain Name System) サーバーへ登録されていなければなりません。
- 自動的に SMTP 転送もしくは POP 受信を実行します。POP クライアントとしての設定時には、手動操作による受信ができます。
- 本機が受信、印刷、転送、中継可能な電子メールは、テキスト本文と TIFF-F 形式画像の添付ファイルのみです。

■SMTP 転送としての設定

本機を SMTP 転送設定でご利用頂くには、次のようなネットワークパラメーターの設定が必要です。

- DNS サーバーの IP アドレス(DNS が利用できない場合は、次ページのお知らせを参照)
- 本機の IP アドレス
- 本機のサブネットマスク
- SMTP メールサーバー名もしくは IP アドレス
- デフォルトルーターの IP アドレス
- 本機の E メールアドレス（次ページのお知らせを参照）
- ホスト名

電子メール送信例（本機～ PC へ送信）

電子メール受信例（PC ～本機で受信）

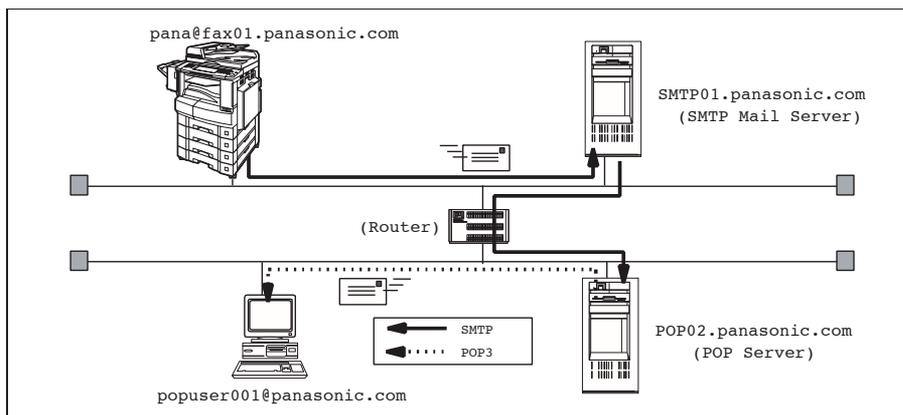
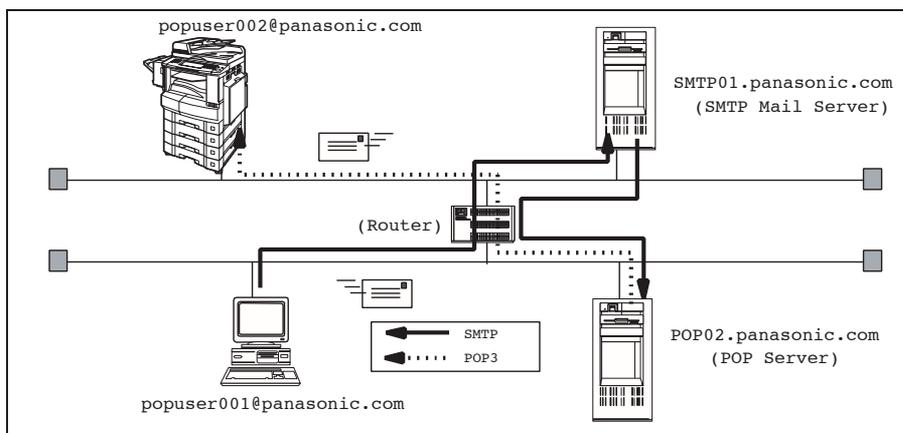
お知らせ

● SMTP 転送機能をご利用になるには、本機の E メールアドレスにお客様のドメインとホスト名を含まなければなりません。ホスト名はお客様のネットワークの DNS(Domain Name System) サーバーへ登録されていなければなりません。
● 登録は「○○○ @ ホスト名 . ドメイン名」の形式で行います。
例：ifaxuser@ifax01.panasonic.com
● お買い上げ時の設定では、DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバー名が必要です。DNS サーバーがご利用になれない場合は、ファンクション ⊠ ○ 共通機能設定 09 キーオペレーター専用 27 DNSサーバーアドレス を「なし」へ変更してください。その後 SMTP サーバーの IP アドレスを入力することができるようになります。

■POP クライアントとしての設定

本機を POP クライアントとして利用いただくには、次のようなネットワークパラメーターの設定が必要です。

- DNS サーバーの IP アドレス（DNS が利用できない場合は、次ページのお知らせを参照）
- 本機の IP アドレス
- 本機のサブネットマスク
- SMTP メールサーバー名もしくは IP アドレス
- デフォルトルーターの IP アドレス
- POP サーバー名もしくは IP アドレス
- POP ユーザーアカウント名
- POP パスワード
- 本機の E メールアドレス（次ページのお知らせを参照）

電子メール送信例（本機～ PC へ送信）

電子メール受信例（PC ～本機で受信）

お知らせ

● E メールアドレス形式は、通常の E メールアドレスと同じです。
登録は「POP ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で行います。
例：popuser002@panasonic.com

● お買い上げ時の設定では、DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバー名が必要です。DNS サーバーがご利用になれない場合は、ファンクション ⊠ ◯ 共通機能設定 09 キーオペレーター専用 27 DNSサーバーアドレス を「なし」へ変更してください。その後 SMTP サーバーの IP アドレスを入力することができるようになります。

事前設定調査表

LAN 経由で全体のシステムが正しく動作するために、確定情報と追加パラメーターを設定しなければなりません。ネットワーク管理者から必要な情報を得た上で LAN へ接続してください。

ユーザー情報	
社名	
住所	
部署名	
電話番号	ファクス番号

自局情報リスト		
(1) TCP/IP IP アドレス：		
(2) TCP/IP サブネットマスク：		
(3) TCP/IP ゲートウェイアドレス：		
(4) DNS サーバー 1 IP アドレス：		
(5) DNS サーバー 2 IP アドレス：		
(6) 自局メールアドレス：		
(7) メールサーバー名：	もしくは	メールサーバー IP アドレス：
(8) SMTP 認証名：		
(9) SMTP 認証パスワード：		
(10) POP サーバー名：	もしくは	POP サーバー IP アドレス：
(11) POP ユーザー名：		
(12) POP パスワード：		
(13) ホスト名：		
(14) デフォルトサブジェクト：		
(15) セレクトドメイン（01 ～ 10）：		
(16) リモートパスワード：		
(17) 管理者メールアドレス：		
(18) デフォルトドメイン：		
(19) (LAN) 中継用パスワード（01 ～ 05）：		
(20) 中継許可ドメイン名（01 ～ 10）：		
(21) コミュニティーネーム 1：		
(22) コミュニティーネーム 2：		
(23) デバイスネーム：		
(24) ロケーション：		

お知らせ

- 上のリストの（1）～（5）、（13）、（21）～（24）の登録は共通機能設定の「キーオペレーター専用」の中で登録します。（☞ 基本編取扱説明書（共通機能：キーオペレーター専用）を参照ください）

■記載内容説明

(1)	TCP/IP IP アドレス：	インターネットプロトコルアドレス
(2)	TCP/IP サブネットマスク：	サブネットマスク番号
(3)	TCP/IP ゲートウェイアドレス：	デフォルトルーターの IP アドレス
(4)	DNS サーバー IP1 アドレス：	DNS サーバー 1 の IP アドレス
(5)	DNS サーバー IP2 アドレス：	DNS サーバー 2 の IP アドレス
(6)	自局メールアドレス：	60 桁まで
(7)	メールサーバー名もしくはメールサーバー IP アドレス：	メールサーバー名（60 桁まで）、メールサーバーの IP アドレス
(8)	SMTP 認証名：	SMTP メールサーバーの IP アドレス
(9)	SMTP 認証パスワード：	本機に割り当てられたパスワード (最大 30 文字まで)
(10)	POP サーバー名もしくはPOP サーバー IP アドレス：	POP サーバー名 (60 桁まで)、POP サーバーの IP アドレス
(11)	POP ユーザー名：	40 桁まで
(12)	POP パスワード：	30 桁まで
(13)	ホスト名：	60 桁まで
(14)	デフォルトサブジェクト：	件名 (Subject) の部分に自動挿入される内容（20 文字まで）
(15)	セレクトドメイン（01 ～ 10）：	ドメインリストに表示するドメイン名 (30 桁まで)
(16)	リモートパスワード：	電子メールを使ったリモート操作によるインターネットパラメーター、宛先登録、通信管理レポートの取得に関するパスワード (10 桁)
(17)	管理者メールアドレス：	LAN 中継送信状況モニターと通信費用管理として利用（60 桁まで）
(18)	デフォルトドメイン：	E メールアドレス省略時の付加ドメイン名 (50 桁まで) 例：mgcs.co.jp　(@ は自動で付加されます）
(19)	LAN 中継用パスワード（01 ～ 05）：	LAN 中継送信時の中継許可用パスワード (10 文字まで)
(20)	中継許可ドメイン名（01 ～ 10）：	中継許可ドメイン（30 桁まで）
(21, 22)	コミュニティーネーム 1, 2：	ネットワーク · デバイス · ロケーターが使用するコミュニティー名です（32 文字まで）
(23)	デバイスネーム：	ネットワーク · デバイス · ロケーターが使用するデバイス名です（32 文字まで）
(24)	ロケーション：	ネットワーク · デバイス · ロケーターが使用するデバイスロケーションです（32 文字まで）

お知らせ

- (1) ～ (11) はネットワーク管理者から提供される情報です。
- お買い上げ時の状態では、SMTP と POP サーバーを IP アドレスで指定することができません。（ドメイン形式のアドレス指定のみ可能です）
- DNS サーバーがご利用になれない場合は、ファンクション [共通機能設定] [09 キーオペレーター専用] [27 DNSサーバーアドレス] を「なし」に変更してください。SMTP と POP サーバーの IP アドレスを入力できるようになります。
- Mac アドレスは、ファンクション [共通機能設定] [09 キーオペレーター専用] [00 共通機能設定印刷] を押して印刷されます。

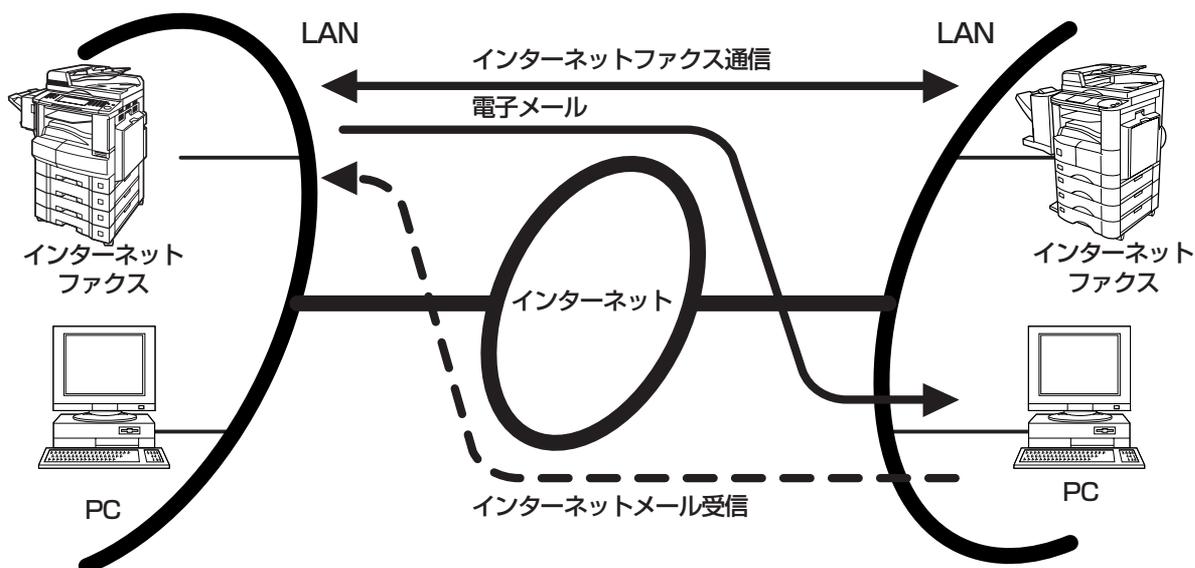
インターネット通信について

インターネットファクス通信

原稿をインターネットファクスから相手先の PC、あるいはインターネットファクスへ送信する機能です。原稿は、メールの TIFF 形式または PDF（※）の添付ファイルとして相手先の PC に送信されます。インターネットファクスからの簡単操作で相手先の E メールアドレスへ送信できます。
PC 側のメールソフトが MIME 形式に対応していない場合は、TIFF 形式もしくは PDF の添付ファイルを使用できないため相手先へ正しく届きません。
メールのメッセージはまず SMTP メールサーバーに送られ、その後、メールサーバーからインターネットへと送られます。

インターネット通信の基本機能

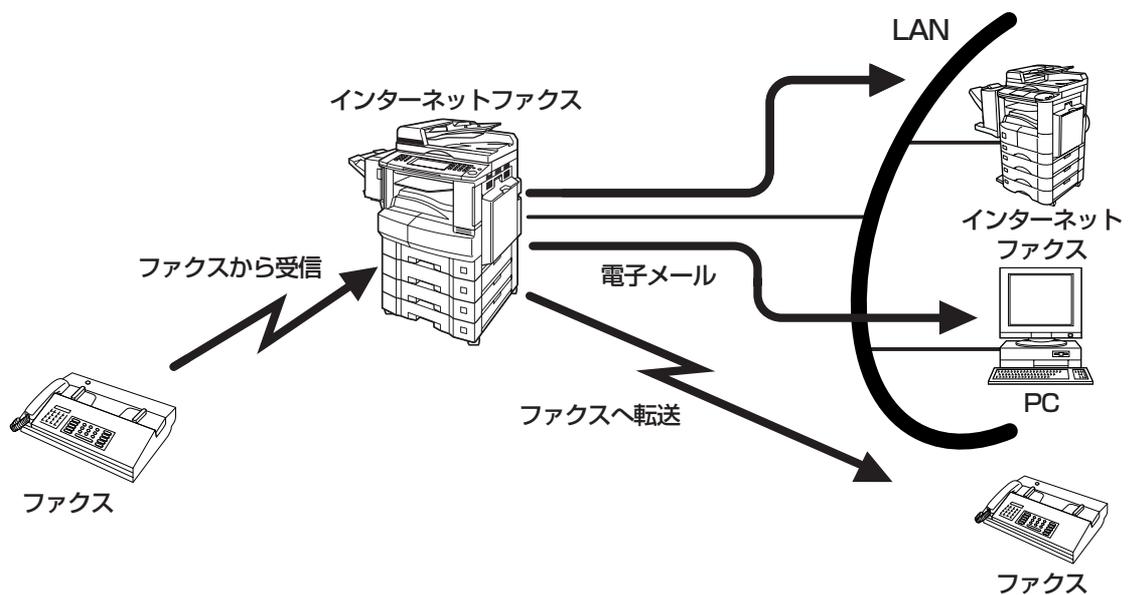
■インターネットメール受信（☞67 ページ）

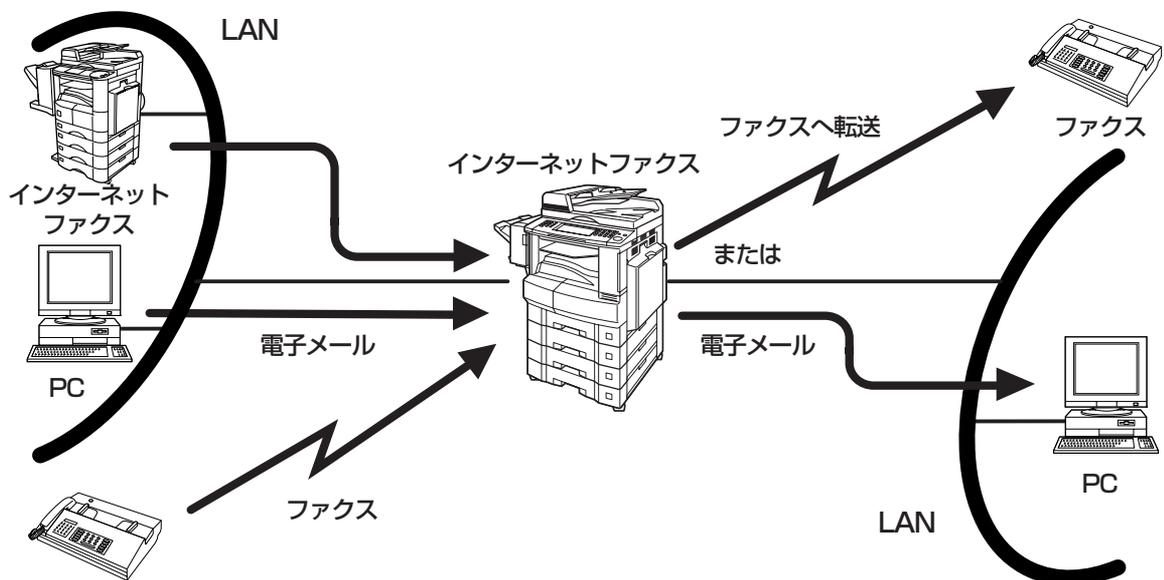
PC からインターネットファクスに送られてきた電子メールを自動プリントする機能です。ただし、インターネットファクスがサポートしている TIFF 形式以外の添付ファイルが送られてきた場合は、エラーメッセージをプリントし、プリントできなかったことを知らせます。

お知らせ　※ PDF 形式の添付ファイルは、PC へ原稿を送信するときのみご利用になれます。

登録編

インターネット通信について

■ルーティング（☞145 ページ）

一般回線のファクスから受信した文書を、LAN に接続した PC または、インターネットファクスにメール送信することができます。
また、別の一般回線のファクスにファクス送信することもできます。
送信機の G3 ファクスが F コード通信指示機能がご利用できるファクスの場合、登録したサブアドレスを指示することで通信毎に宛先を選択して送信することができます。
F コード通信に対応していないファクスの場合は、宛先を選択することはできませんが、数字 ID を登録しておくことで送信機毎に個別の宛先に送信することができます。
ご利用できるファクスに関して、ご不明な場合は、サービス実施会社にお問い合わせください。

■メモリー転送（☞154 ページ）

インターネットファクスのメモリーに受信した電子メールやファクスを、あらかじめ設定した一つの宛先（ファクスや PC）へ転送する機能です。

■LAN 中継同報（☞160 ページ）

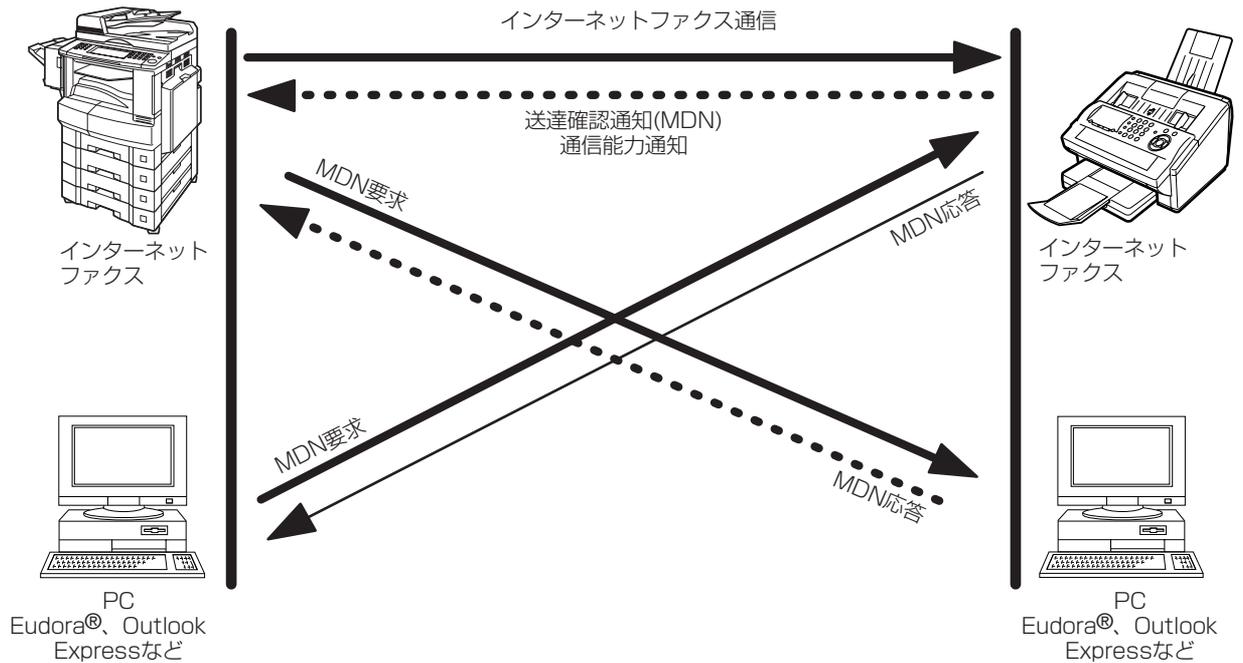
LANに接続したインターネットファクスやPCから送信した電子メールを、LAN中継同報機能を持ったインターネットファクスを経由して、一般回線に接続された複数のファクスへ LAN 同報送信することができます。電子メールには、TIFF 形式のファイルを添付することができます。

各種アプリケーションのデータファイルを TIFF- F 形式のファイルに変換するには、ソフトウェア（TIFF 変換プログラムおよび MAPI メールリンキング）を下記のホームページからダウンロードするか、または付属 CD- ROM から PC にインストールする必要があります。

TIFF コンバーターインストールの方法や操作方法については、ダウンロードしたホームページを参照してください。(☞68 ページ)

ホームページ　http://panasonic.co.jp/pcc/

■インターネットファクス送達確認通知 (MDN)

インターネットファクスからの送信の到達を確認できます。ただし、受信者の側に送達（開封）確認通知 (MDN) の機能が備わっていなければなりません。
インターネットファクスからの送達確認通知要求に応答できるメールアプリケーションには、Eudora® や Outlook Express などがあります。MDN についての詳細は、各メールアプリケーション付属のヘルプやユーザーガイドを参照してください。

矢印について：

：送信者からのMDN要求

：受信者からのMDN応答(通信能力通知付)

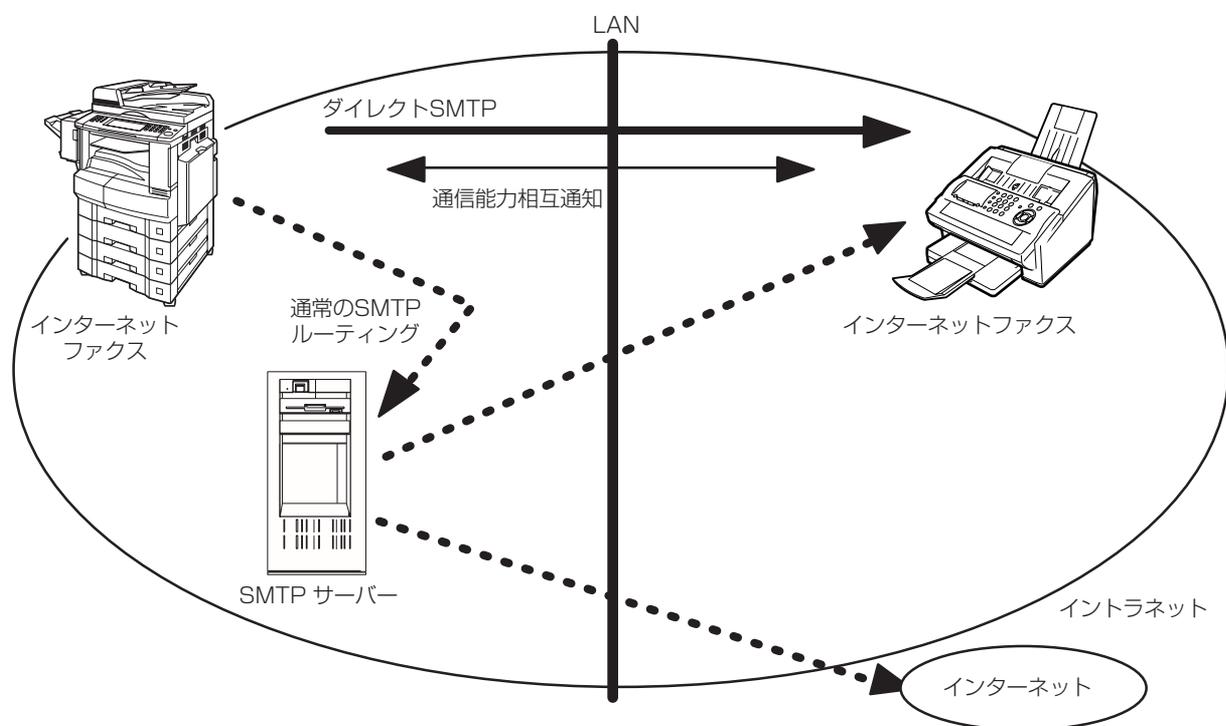
：受信者からのMDN応答

ダイレクトSMTP（ダイレクトインターネットFAX送信）

インターネットのメールはSMTPメールサーバーがSMTP(Simple Mail Transfer Protocol)によりやりとりしています。

ダイレクトSMTPは、SMTPメールサーバーを通さずに直接インターネットファクス間で文書交換するシステムです。このシステムを働かせるにはIPアドレスが常に一定に保たれている必要があります(IPアドレスについてはネットワーク管理者にお問い合わせください)。本機のドメイン名などの情報がDNSサーバーに適切に登録されていなければなりません。

通常企業などのイントラネットでは、メールとホームページ閲覧しか許可されていません。これはファイアウォールの負担をシステム管理者が嫌うからです。

こういった場合、ダイレクトSMTPが活躍します。お使いになるときは、システム登録の「172 ダイレクトＩＦＡＸ送信」を「あり」にしてください。(☞ 248ページ)

お知らせ

● ファンクション ⊠◯ 共通機能設定 09 キーオペレーター専用 27 DNSサーバーアドレス を「なし」にしたときは、Eメールアドレス指定の際は「@」以降をIPアドレスで指定しないと送信できません。

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)

DHCP というのは、インターネットファクスとクライアントの P C に IP アドレスを自動的に割り当てるためのプロトコルです。インターネットファクスは DHCP を使うとネットワークに接続する毎に自動的に固有の IP アドレスを取得でき、ネットワーク管理者の IP アドレス管理の手間が省けるようになります。ネットワークにログオンしたインターネットファクスに対してDHCPサーバーがマスターリストから選んだ IP アドレスを割り当てます。

本機において以下のオプションを可能にするには、DHCP は使わずに、ネットワーク管理者によって設定済の IP アドレスおよび環境設定を使う必要があります。

SMTP 受信
LAN 中継送信
ダイレクト SMTP (ダイレクト IFAX 送信)

SMTP 認証

世界規模の電子的なインフラストラクチャーとしてインターネットが登場して以来、通信機器市場は飛躍的に伸びています。しかし、インターネットのセキュリティーを高める技術は、まだ確固としたものが出ていません。この理由はいくつかあります。

1. インターネットメールはマルチホップ（雑多なプロトコル、雑多なデバイス）の構造体であり、通信路をベースとしたセキュリティーは一般的に実現が困難。
2. インターネットファクスの標準規格が推奨する独占的な技術はない。

システムの改善と健全化の標準的なソリューションとして今提供されているのは、暗号技術ベースの認証システムです。この認証技術は SASL（Simple Authentication and Security Layer）のような認証機構に統合されています。

インターネットのサービスプロバイダー (ISP) は、多くが何らかの認証方式を採用しています。

本機が提供する認証オプションは以下の通りです。

1. SMTP 認証拡張サービス (SMTP AUTH) ― 接続時にユーザー名とパスワードによる認証が行われるため、特定ユーザー以外の送信や中継を防止できる方法。
2. APOP 認証サービス（APOP）― 電子メールの送受信に使われるパスワードを暗号化する方法。
3. POP before SMTP ― 送信前に指定した POP3 サーバーにあらかじめアクセスさせることにより、SMTP サーバーの使用許可を与える方法。

インターネット通信における注意点

LAN システムとの接続による通信は、基本的に電子メールと同様で、一般回線用のファクスによる通信とは異なります。
インターネット通信をする上で、注意しなければならないことについて説明します。

■正常に送信されましたか？

- インターネット通信は LAN 経由でのメールサーバーとの通信となり、直接相手との通信はできません。したがって、何らかの原因で送信できなかった場合だけ、メールサーバーからエラーメールが返送されます。(☞63 ページ「エラーメール」)
- 相手先の場所、インターネットなどの回線の混み具合、LAN システムの構成にもよりますが、エラーメールが返送されるまで長い時間がかかることがあります。
  (通常は 20 ～ 30 分ぐらいと思われます。)
- エラーメールが何らかの原因で返送されて来ない場合もあります。重要な書類、緊急を要する書類、またそれに準じる書類を送信される場合には、送信後に必ず電話で確認願います。
  またインターネット経由の場合には秘匿性が低いので、重要な書類は、一般回線のご利用をお勧めします。
- 送信する相手のメールシステムが MIME に対応していない場合、原稿を相手先に正しく送信することができません。また、相手のメールサーバーによってはエラーメールが返送されない場合があります。
- 原稿枚数が多い場合やイメージデータ量が多いと、送信できない場合があります。

■LAN 経由での電話はできません

- 電話は一般回線で使用できます。(外部電話機使用時)
- LAN 経由の通信中でも、一般回線を使用したファクス通信はできます。

■読取モードの文字サイズ

- 読取モードの文字サイズは、PC への送信を考慮して、お買い上げ時の設定を『小さい』にしてあります。この設定は、使用する原稿に合わせて変更することもできます。

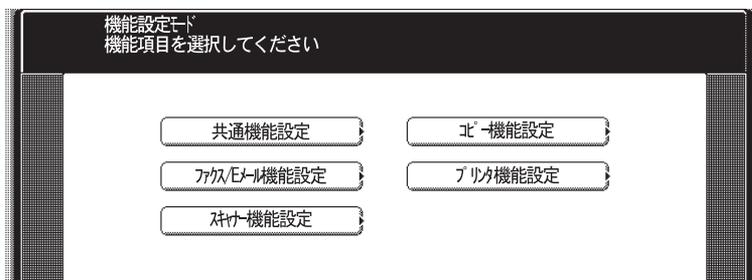
■インターネットメール受信

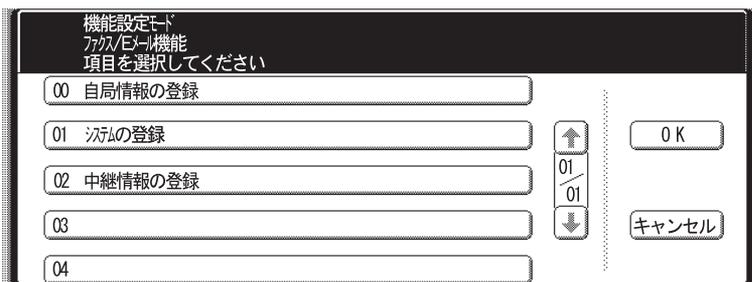
- 本機は、PC からの電子メールを受信しますが、受信したデータの内、英数字、ひらがな、カタカナと第 1、2 水準の漢字が記録可能です。ただし、第 2 水準の漢字は本機ディスプレイで表示できません。(リストへの印刷は可能です)
- 受信したフォントや文字の大きさは変更できません。
- 受信データを全角文字で約 60 桁、約 77 行を 1 ページで出力します。

登録・設定

自局登録

■自局登録のしかた

1 ファンクション ⊠○ を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 00 自局情報の登録 ⬇ ⬆ を押して、設定する項目を表示し、キーを押す

・「自局登録の種類」(☞198 、199 ページ)を参照して、設定値を選択します。

5 設定値を入力し、OK を押す

・「文字入力のしかた」（☞ 249 ページ）を参照して入力してください。
・続けて各項目の設定ができます。

6 ストップ を押す

お知らせ

● 自局情報の登録を途中でやめるときは、ストップ を押します。

■自局登録の種類（電話回線用）

自局登録では、次の項目が登録できます。

	登録項目	内容
01	発信元情報	原稿を送信するとき、原稿の先端につける会社名や部署名などの情報を登録します。
02	文字 ID（カナ）	相手のディスプレイに表示させる会社名などの情報を登録します。
03	回線 1 数字 ID	外線を使って通信したとき、相手のディスプレイに表示させる電話番号などの情報を登録します。
04	定時刻タイマー	タイマー通信を指定するときの時刻を登録します。
05	定期便タイマー	定期便タイマー通信を指定するときの指定時刻（1 ～ 5）を登録します。
06	F コードサブアドレス	サブアドレス通信をするときに使うサブアドレス番号を登録します。
07	F コードパスワード	サブアドレス通信をするときに使うパスワードを登録します。
08	回線 2 数字 ID	増設の G3 増設ユニットをお使いのとき設定します。
11	ISDN 基本番号	CH2 に増設の G4 通信ユニットを装着時に、相手のディスプレイに表示させる電話番号などの情報を登録します。
12	ISDN ダイヤルイン	CH2 に増設の G4 通信ユニットを装着時に、相手のディスプレイに表示させるダイヤルイン番号などの情報を登録します。
13	ISDN 数字 ID	CH2 に増設の G4 通信ユニットを装着時に、相手のディスプレイに表示させる電話番号などの情報を登録します。
14	ISDN 文字 ID（英字）	CH2 に増設の G4 通信ユニットを装着時に、相手のディスプレイに表示させる会社名などの情報を登録します。

※ 08 ～ 14 はオプションの G3 増設ユニット／ G4 通信ユニットをお使いのときに設定します。

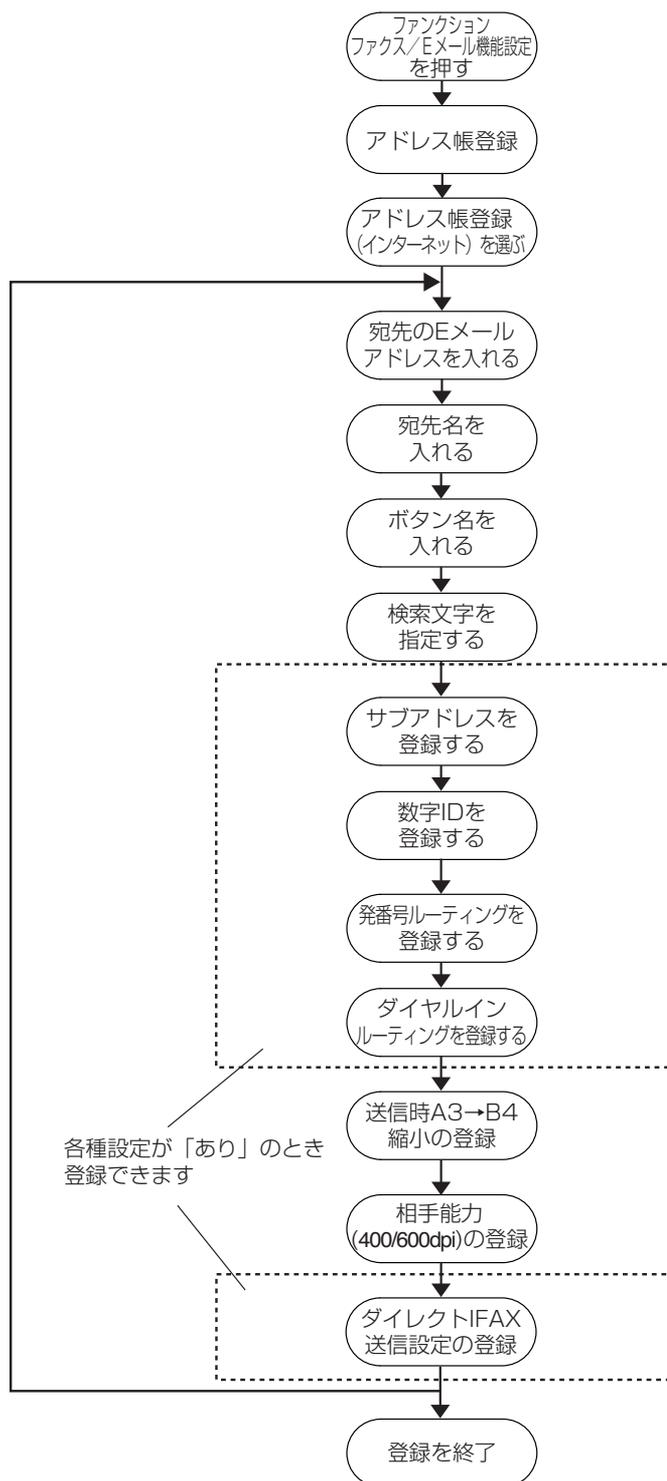
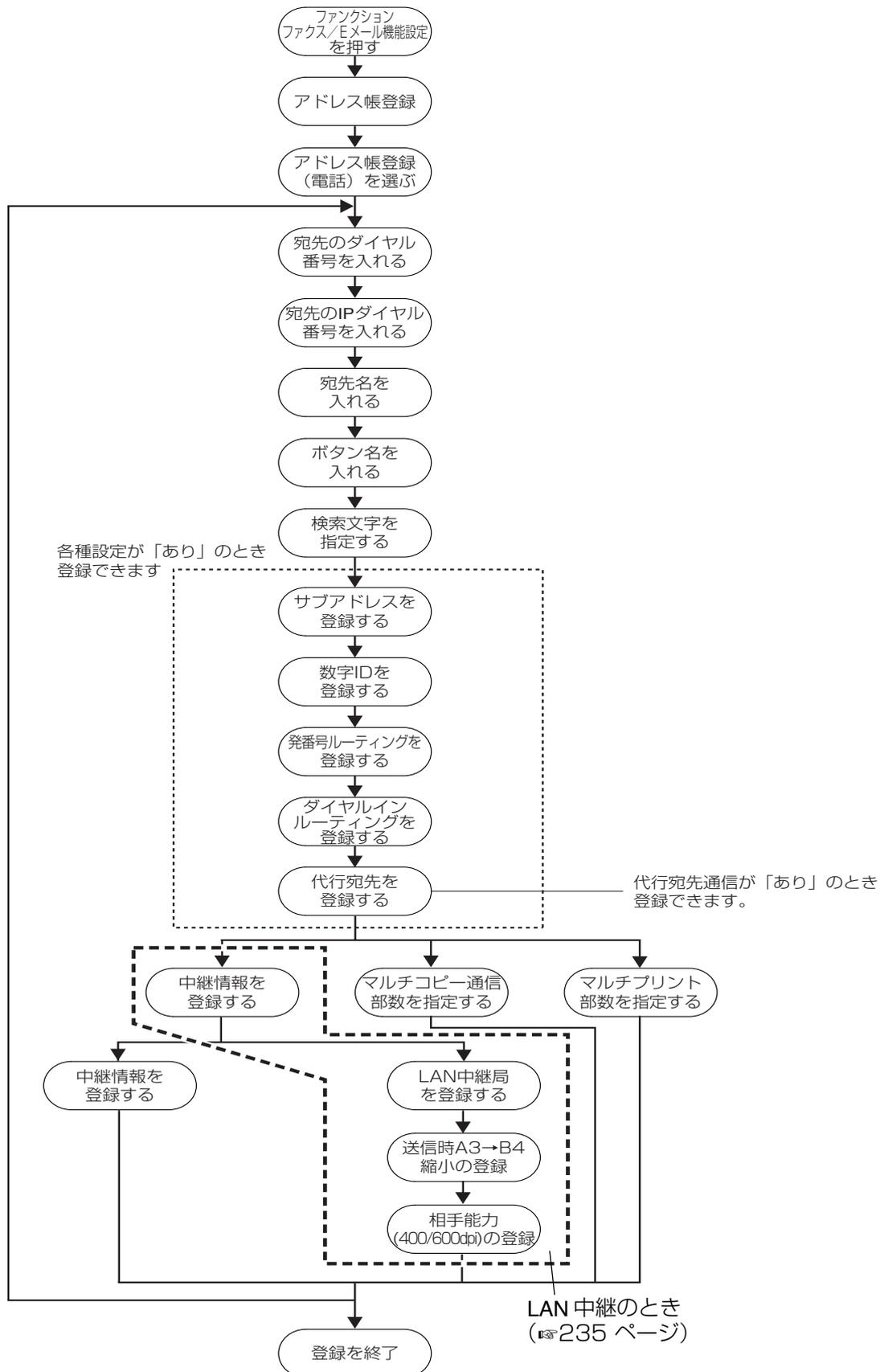
■自局登録の種類（インターネット用）

	登録項目	内容
15	自局メールアドレス	60 桁まで
16	メールサーバー名	メールサーバー名（60 桁まで）
17	メールサーバー IP アドレス	メールサーバーの IP アドレス
18	SMTP 認証名	SMTP メールサーバーの IP アドレス
19	SMTP 認証パスワード	30 文字まで
20	POP サーバー名	POP サーバー名（60 桁まで）
21	POP サーバー IP アドレス	POP サーバーの IP アドレス
22	POP ユーザー名	40 桁まで
23	POP パスワード	30 桁まで
24	デフォルトサブジェクト	件名（Subject）の部分に自動挿入される内容（20 文字まで）
25 ～ 34	セレクトドメイン 01 ～ 10	セレクトドメインキーに表示するドメイン名 （30 桁まで）
36	リモートパスワード	電子メールを使ったリモート操作によるインターネットパラメーター、宛先登録、通信管理レポートの取得に関するパスワード（10 文字まで）
37	管理者メールアドレス	中継送信状況モニターと通信費用管理として利用（60 桁まで）
38	デフォルトドメイン	E メールアドレス省略時の付加ドメイン名（50 桁まで）。 例：panasonic.com（@ は自動で付加されます）
40 ～ 44	(LAN) 中継用パスワード01 ～05	中継送信時の中継許可用パスワード（10 文字まで）
45 ～ 54	中継許可ドメイン名 01 ～ 10	中継許可ドメイン（30 桁まで）

アドレス帳の登録

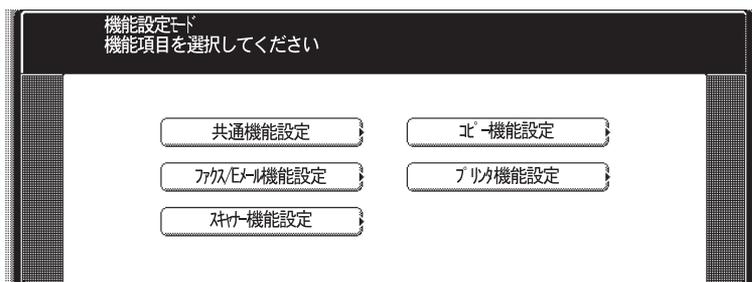
■アドレス帳操作フロー

E メールアドレスや電話番号をアドレス帳に登録して、簡単な操作で相手にダイヤルすることができます。登録は最大 200 件できます。（オプションのハードディスクユニット (DA-HD31) を装着した場合は、1000 件まで登録できます）

E メールアドレスを登録するとき（☞ 202 ページ）

ダイヤル番号を登録するとき（☞ 207 ページ）

■E メールアドレスを登録する

宛先のアドレスをアドレス帳に登録して、簡単な操作で相手に送信することができます。
また、アドレス帳に「中継情報」などの特殊通信機能を登録することができます。

● 特殊通信機能について、詳しくは、サービス実施会社へご相談ください。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール機能設定 00 アドレス帳登録 02 アドレス帳登録(インターネット) を押す

3 宛先のアドレス（最大 60 桁）を入れ OK を押す

・例：「ifax@panasonic.com OK」

・間違えたときは ◀ ▶ を押して訂正したい文字または数字の右側までカーソルを移動し、クリアー(C) を押して入れ直します。

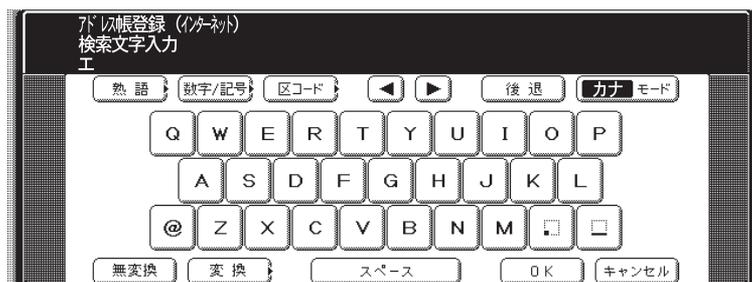
4 宛先名（最大 20 文字）を入れ OK を押す

・宛先の名前を入れます。（☞249 ページ）

・例：「営業 OK 」

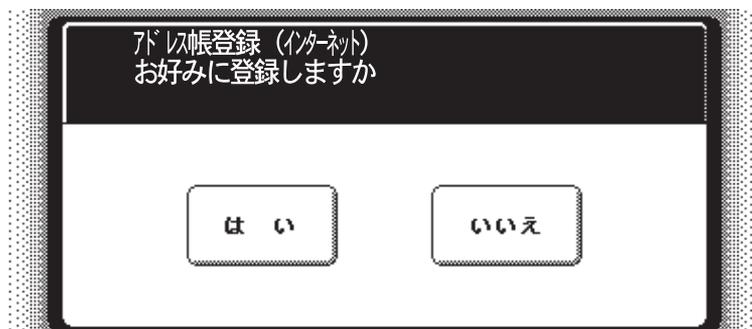
5 ボタン名称（最大 10 文字）を入れ OK を押す

・ボタン名称には、手順 4 で指定した宛先名が表示されます。変更が必要な場合には、入れ直します。

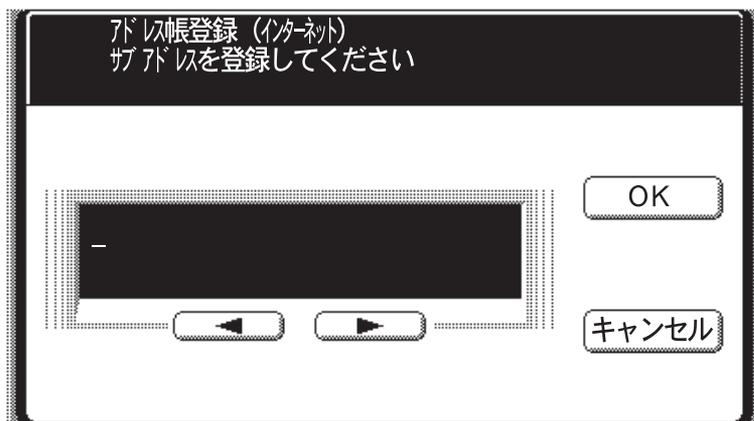
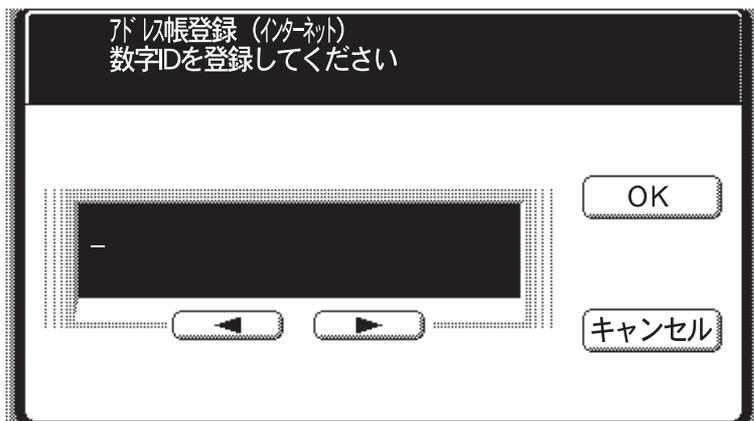
・ボタン名称はタッチパネルディスプレイに表示する名称となります。

6 検索文字（最大 10 文字）を入れ OK を押す

・タッチパネル上で、ボタン名称を分類表示する為のフリガナを入れます。

・宛先名の最初の文字が 50 音順で入っている場合は検索文字が自動的に表示されます。表示されない場合は検索文字を入力します。

・検索文字に英字・記号を指定した場合は、「あ」行に登録されます。

<次ページへつづく>

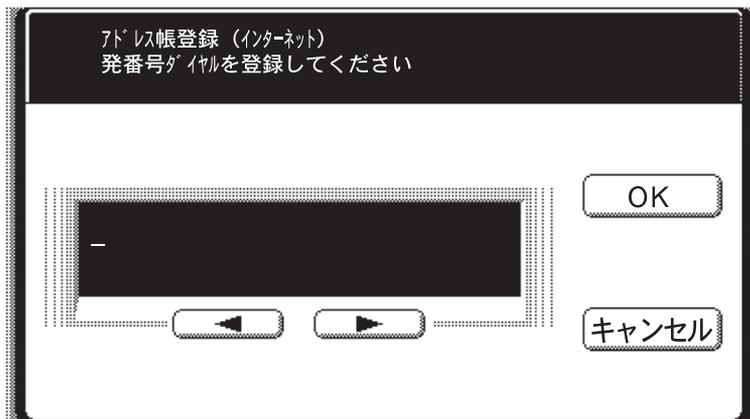
7 お好みへの登録を選択する

・システム登録の「152 SUB ルーティング」「153 数字 ID ルーティング」(☞247 ページ) の設定が「なし」の場合は、手順 10 へ進みます。

8 サブアドレス（最大 20 桁）を入れ OK を押す

・システム登録の「152 SUB ルーティング」(☞247 ページ) の設定が「あり」の場合登録できます。

・例 :「1234567 OK」

9 数字 ID（最大 20 桁）を入れ OK を押す

・数字 ID の登録はシステム登録の「153 数字 ID ルーティング」（☞247 ページ）の設定が「あり」の場合、登録できます。

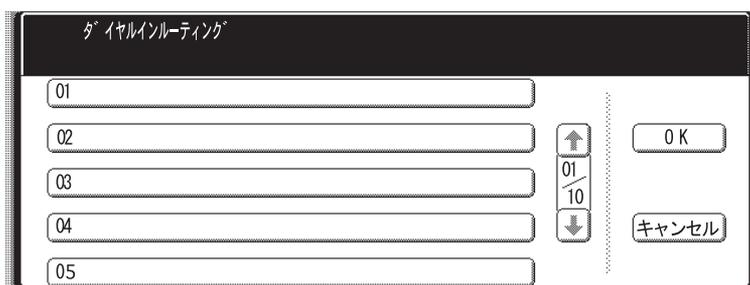
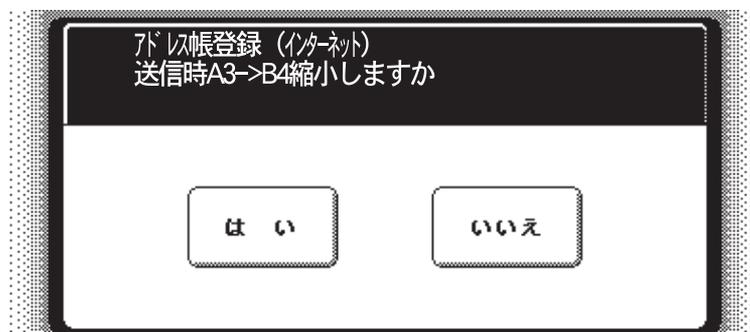
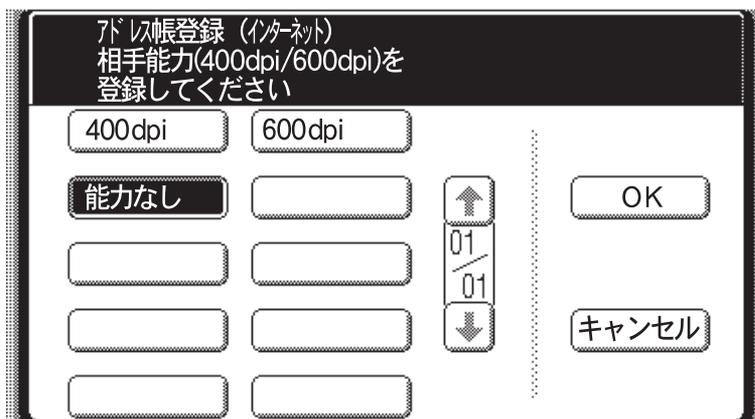
・例：「1234567 OK 」

10 発番号ダイヤル（最大 20 桁）を入れ OK を押す

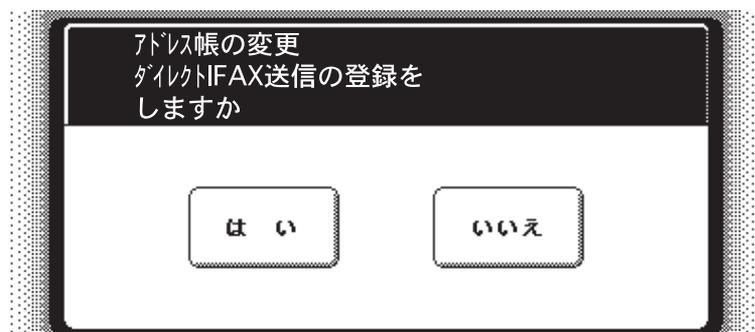
・システム登録の「175 発番号ルーティング」（☞248 ページ）の設定が「あり」の場合、登録できます。

11 ダイヤルイン番号を選択し OK を押す

・システム登録の「176 ダイヤルインルーティング」（☞248 ページ）の設定が「あり」の場合、登録できます。

登録編

＜次ページへつづく＞

12 送信時 A3 → B4 縮小の設定をし OK を押す

13 相手能力（400dpi/600dpi）の設定を指定し、OK を押す

· 相手機の能力に合わせて設定します。
· システム登録の「172 ダイレクト IFAX 送信」（☞248 ページ）の設定が「なし」の場合は、手順 15 へ進みます。

14 ダイレクト IFAX 送信の設定をし、OK を押す

· システム登録の「172 ダイレクト IFAX 送信」（☞248 ページ）の設定が「あり」の場合登録できます。
· 続けてアドレス帳の登録ができます。手順 3 からの操作をしてください。

15 ストップ を押す

· 待機状態に戻ります。

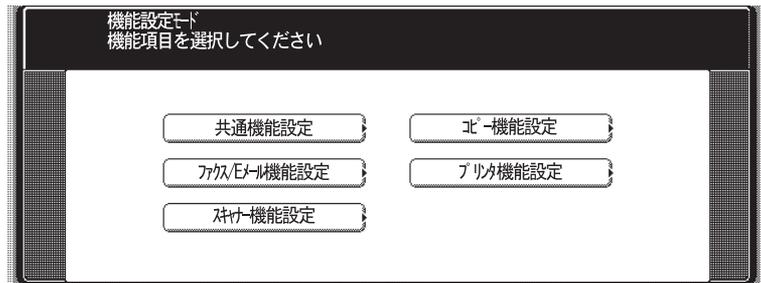
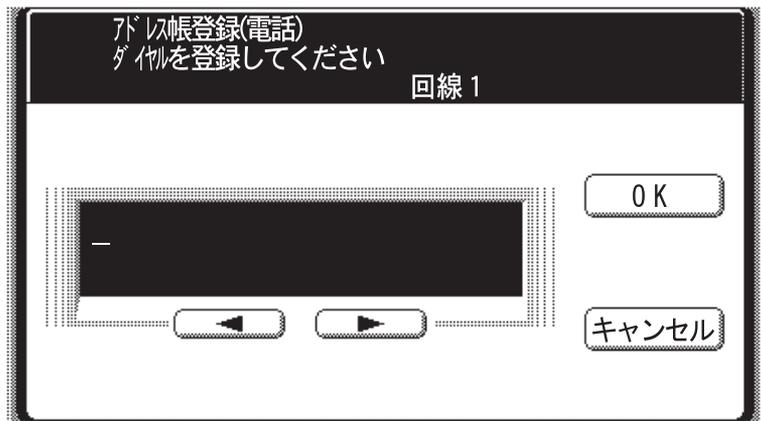
お知らせ

● アドレス帳の登録を途中でやめるときは、ストップを押します。
● 他機種に 400dpi/600dpi で送信した場合、正常に通信できないことがあります。また、複数宛先を行った場合、400dpi/600dpi の登録が「能力なし」で設定されている宛先が含まれていると、同報する全ての送信は 400dpi/600dpi で送信されません。

■ダイヤル番号を登録する

宛先のダイヤル番号をアドレス帳に登録して、簡単な操作で相手にダイヤルすることができます。
また、アドレス帳に「中継情報」などの特殊通信機能を登録することができます。

● 特殊通信機能について、詳しくは、サービス実施会社へご相談ください。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール機能設定 00 アドレス帳登録 01 アドレス帳登録（電話） を押す

3 宛先の電話番号を入れる

・間違えた場合は ◀ ▶ を押して訂正したい数字の右側までカーソルを移動し、クリアー を押して入れ直します。

・電話番号は最大 52 桁まで登録できます。

・オプションの通信ユニット（☞258 ページ）をお使いの場合は、宛先の電話番号をダイヤル後、回線選択 を押すことでファクスするときに使用する回線を設定できます。

＜次ページへつづく＞

4 OK を押す

5 宛先名を入れる

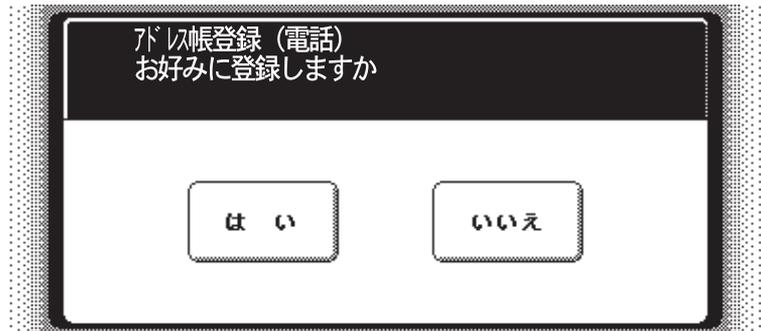
・宛先の名前を入れます。（☞249 ページ）
・名前は最大 20 文字まで登録できます。

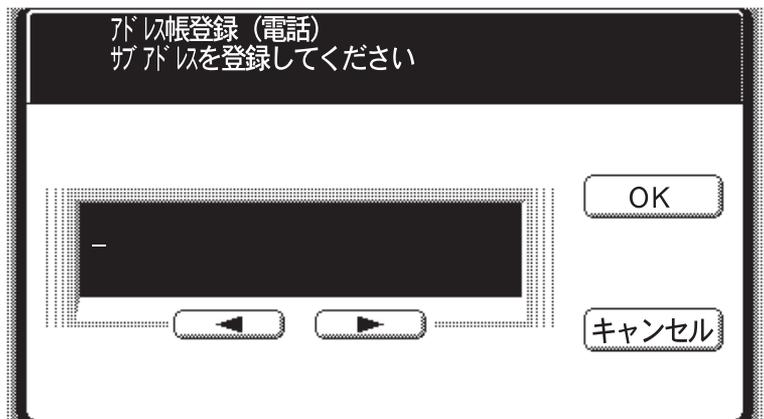
6 OK を押す

7 ボタン名称を入れ、OK を押す

・ボタン名称には、手順 5 で指定した宛先名が表示されます。変更が必要な場合には、入れ直します。
・ボタン名称は最大 10 文字まで登録できます。
・ボタン名称はタッチパネルディスプレイに表示する名称となります。

8 検索文字（最大 10 文字）を入れ、OK を押す

・タッチパネル上で、ボタン名称を分類表示するためのフリガナを入れます。
・宛先名の最初の文字が 50 音順で入っている場合は検索文字が自動的に表示されます。
　50 音以外の文字を登録している場合は検索文字を入力します。

9 お好みへの登録を選択する

・システム登録の「152 SUB ルーティング」「153 数字 ID ルーティング」（☞247 ページ）の設定が「なし」の場合は手順 12 へ進みます。

＜次ページへつづく＞

10 サブアドレス（最大 20 桁）を入れ OK を押す

・システム登録の「152 SUB ルーティング」（☞247 ページ）の設定が「あり」の場合登録できます。

・例：「1 2 3 4 5 6 7 OK 」

11 数字 ID（最大 20 桁）を入れ OK を押す

・数字 ID の登録はシステム登録の「153 数字 ID ルーティング」（☞247 ページ）の設定が「あり」の場合、登録できます。

・例：「1 2 3 4 5 6 7 OK

12 発番号ダイヤル（最大 20 桁）を入れ OK を押す

・システム登録の「175 発番号ルーティング」（☞248 ページ）の設定が「あり」の場合、登録できます。

ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝﾙｰﾃｨﾝｸﾞ
01
02
03
04
05
01/10
OK
キャンセル

13 ダイヤルイン番号を選択し OK を押す

・システム登録の「176 ダイヤルインルーティング」(☞248 ページ) の設定が「あり」の場合、登録できます。

14 代行宛先を登録する

・システム登録の「107 代行宛先通信」(☞245 ページ) の設定が「あり」の場合登録できます。

15 続けて特殊通信機能の登録ができます (☞ 212 ページ)

・特殊通信機能の登録をしない場合は OK を押してください。続けてアドレス帳の登録ができます。手順 3 からの操作をしてください。

特殊通信機能の登録
項目を選択してください
00 中継情報の登録
01 ﾏﾙﾁｺﾋﾟｰ通信部数の指定
02 ﾏﾙﾁﾌﾟﾘﾝﾄ部数の指定
OK
01
01
キャンセル

16 登録を完了する場合は OK ストップ を押す

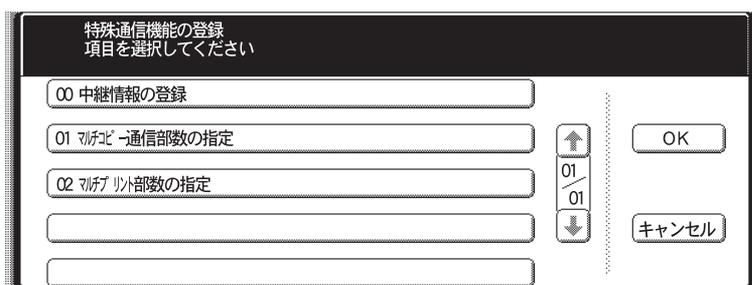
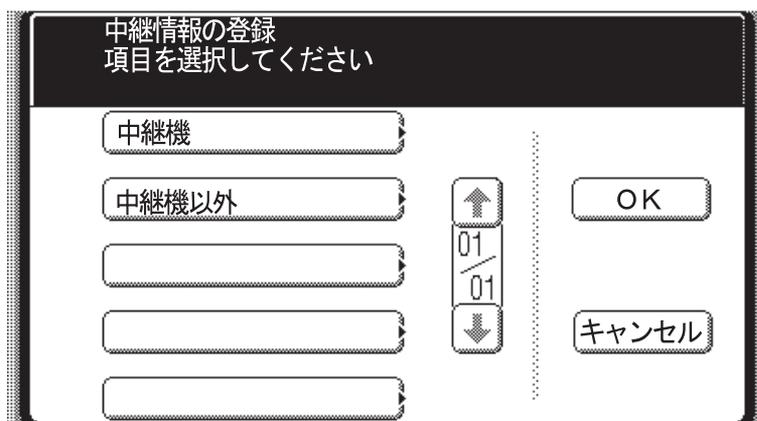
・待機状態に戻ります。

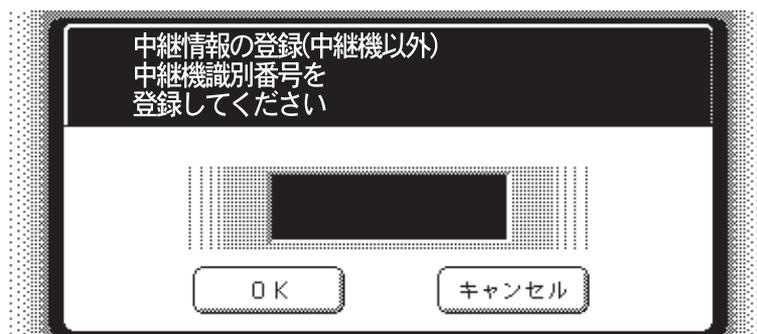
お知らせ

- アドレス帳の登録を途中でやめるときは、ストップを押します。
- ダイヤル回線の場合は ＊ (トーン) を押すとプッシュホン信号に切り替わります。表示は「／」として登録されます。
- 国際ダイヤル通話をご利用の場合は、サービス実施会社へご相談ください。
- NCC 回線をご利用の場合は、NCC 回線のアクセス番号のあとに、再ダイヤル/ポーズ を 2 回押して約 7 秒たってから、残りのダイヤル番号を入れてください。
- 検索文字を 50 音以外で登録したときは、「あ」行に登録されます。
- 一般電話の電話番号を誤って登録すると、自動再ダイヤルにより相手の方を何度も呼び出し、大変ご迷惑をおかけすることになりますのでご注意ください。

登録編

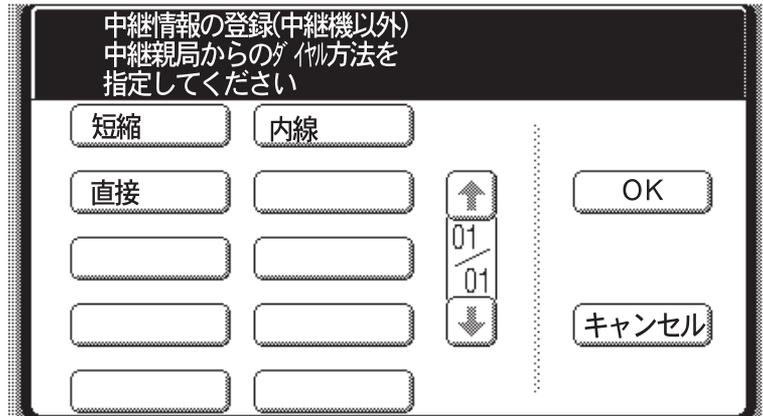
■特殊通信機能の登録（中継情報登録）

1 アドレス帳登録の手順 13 までの操作をする
(☞ 207 ページ)

2 00 中継情報の登録 を押す
・ユーザー管理用パスワード（暗証番号）が登録されていないときは手順 3 の画面へ進みます。

3 中継機の種類を選び、OK を押す
・中継機 ：宛先が中継親局のときに選びます。
・中継機以外：宛先が中継親局を経由した相手のときに選びます。

例：中継機以外 を選択したとき

4 中継機識別番号（2 桁）を指定し、OK を押す

・2 桁の識別番号を指定します。

・手順 3 で 中継機 を選択した場合、手順 7 へ進みます。

・間違えたときは、OK を押す前に クリアー(C) を押して、指定し直します。

5 中継親局からのダイヤル方法を選び、OK を押す

・短縮 : 中継親局に登録されている短縮番号を使ってダイヤルします。・・・・手順 6 へ進みます。

・内線 : 中継局の内線を使って、本機のアドレス帳に登録されている中継指示の内線番号へダイヤルします。・・・・手順 6 へ進みます。

・直接 : 中継親局を使って、本機のアドレス帳に登録されている番号をダイヤルします。・・・・手順 8 へ進みます。

6 中継親局からダイヤルする番号を指定する

・手順 5 で 短縮 を選んだ時は、中継親局に登録されている短縮番号を指定します。

・手順 5 で 内線 を選んだ時は、中継親局からダイヤルする内線番号を指定します。

7 OK を押す

・2次中継機識別番号を指定しないときは OK を押して、アドレス帳登録の手順 13 へ戻ります。(☞ 211 ページ)

<次ページへつづく>

2次中継機識別番号（2 桁）を指定し、OK を押す

・間違えたときは、クリアー（C）を押して、指定し直します。

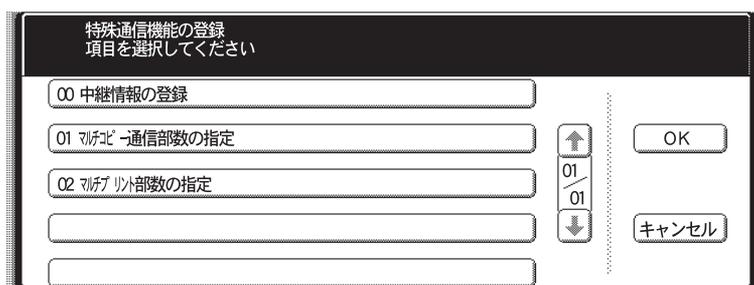
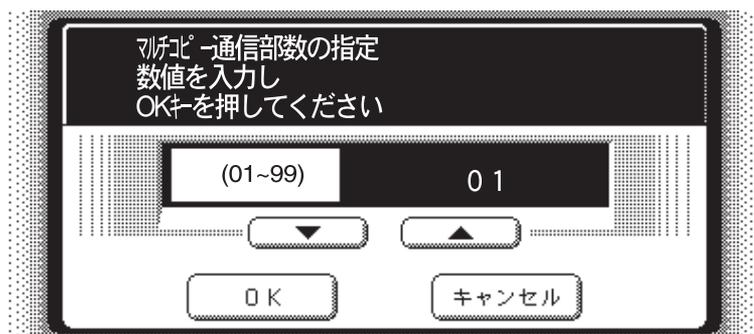
・アドレス帳登録の手順 13 へ戻ります。(☞ 211 ページ)

お知らせ

● システム登録の「104 アドレス帳ダイヤル情報」が「なし」になっているときは、中継情報を登録することができません。

■特殊通信機能の登録（マルチコピー通信部数の指定）

1 アドレス帳登録の手順 13 までの操作をする
(☞ 207 ページ)

特殊通信機能の登録
項目を選択してください
00 中継情報の登録
01 ﾏﾙﾁｺﾋﾟｰ通信部数の指定
02 ﾏﾙﾁﾌﾟﾘﾝﾄ部数の指定
01/01
OK
キャンセル

2 01 マルチコピー通信部数の指定 を押す

3 マルチコピー通信部数(最大 99 部)を指定し、OK を押す

・相手先機の出力部数を指定できます。

・間違えたときは、(クリアー C) を押して、指定し直します。

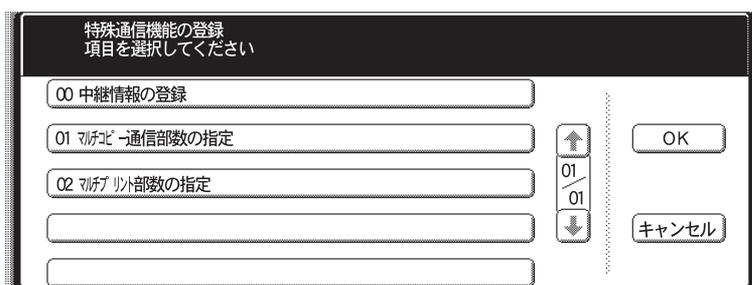
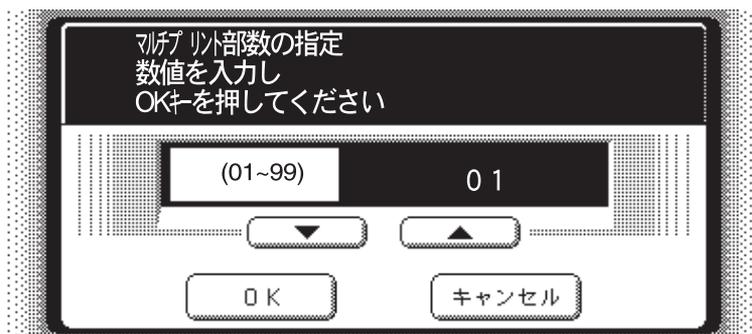
・アドレス帳登録の手順 13 へ戻ります。(☞ 211 ページ)

お知らせ

● システム登録の「104 アドレス帳ダイヤル情報」が「なし」になっているときは、マルチコピー通信部数を登録することができません。

■特殊通信機能の登録（マルチプリント部数の指定）

1 アドレス帳登録の手順 13 までの操作をする

(☞ 207 ページ)

2 02 マルチプリント部数の指定 を押す

3 マルチプリント部数（最大 99 部）を指定し、 OK を押す

・登録した相手からファクスを受信したとき、あらかじめ部数（最大 99 部）を設定しておくと、指定した部数を自動的にプリントできます。

・間違えたときは、（クリアー C）を押して、指定し直します。

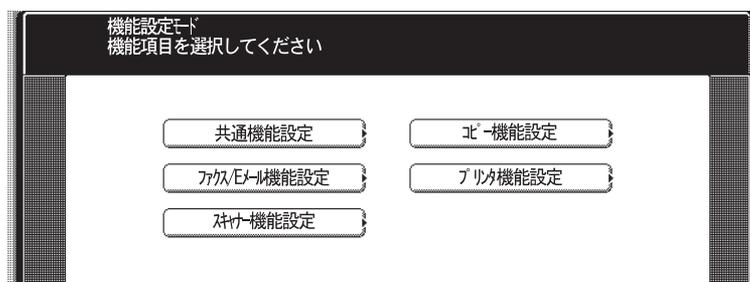
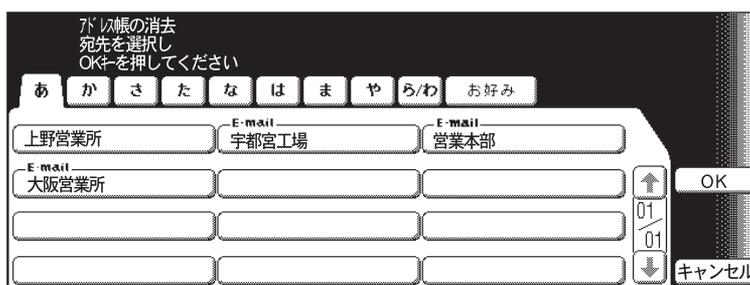
・アドレス帳登録の手順 13 へ戻ります。(☞ 211 ページ)

お知らせ

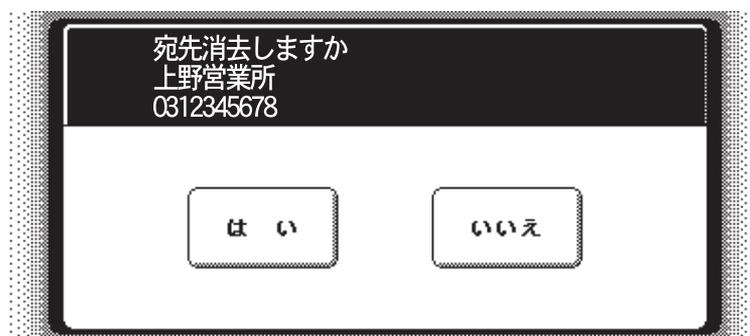
- システム登録の「104 アドレス帳ダイヤル情報」が「なし」になっているときは、マルチプリント部数を登録することができません。
- マルチプリント部数の指定において、部数プリントをするためには、システム登録の「101 マルチプリント部数」を「アドレス帳」に設定する必要があります。

■アドレス帳の消去

アドレス帳を消去します。

1 ファンクション ☒◯ を押す

2 ファクス／Eメール機能設定 00 アドレス帳登録 04 アドレス帳の消去 を押す

3 消去するアドレス帳を選ぶ

4 OK を押す

・「宛先消去しますか」のメッセージが表示されます。

<次ページへつづく>

5 はい を押す

・選択したアドレス帳が消去されます。

お知らせ

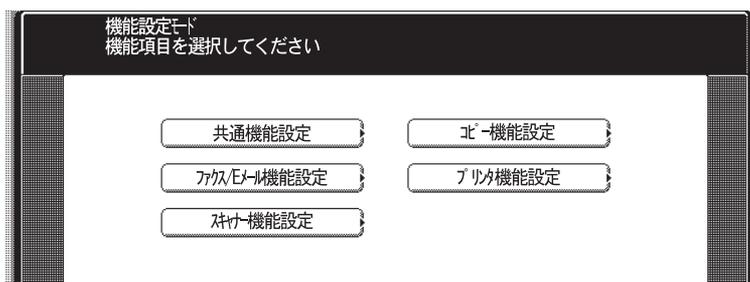
● アドレス帳の消去を途中でやめるときは、ストップを押してください。

プログラム登録

■グループダイヤルの登録

アドレス帳に、複数の宛先を登録して、グループダイヤルとしてお使いになれます。

● グループダイヤルには、登録済みのアドレス帳を指定します。あらかじめ、アドレス帳の登録をしておいてください。(☞ 202 、207 ページ)

1 ファンクション ☒◯ を押す

2 ファクス／Eメール機能設定 02 プログラムダイヤルの登録 01 グループダイヤルの登録 を押す

3 宛先名称（最大 20 文字）を入れ、 OK を押す

・例：「関東 G OK 」

<次ページへつづく>

4 **ボタン名称（最大 10 文字）を入れ、OK を押す**

・ボタン名称には、手順 3 で指定した宛先名が表示されます。変更が必要な場合には入れ直します。

・ボタン名称はタッチパネルディスプレイに表示する名称となります。

5 **グループダイヤルに登録するアドレス帳を指定する**

・間違えたときは（C クリアー）を押してください。

6 **OK を押す**

・グループダイヤルが登録されます。

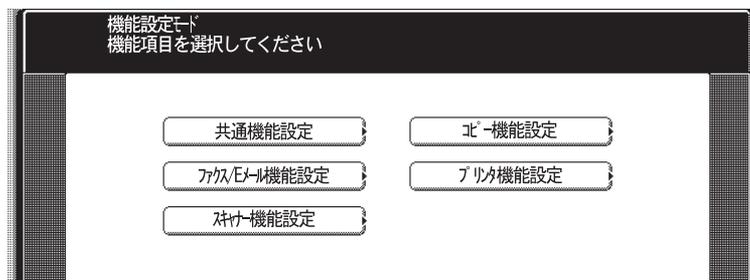
7 **（ストップ）を押す**

お知らせ

● グループダイヤルの登録は、プログラムダイヤルを含めて最大 12 件まで指定できます。

■グループダイヤルの変更

グループダイヤルに登録されている内容を変更します。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 | 02 プログラムダイヤルの登録 | 03 グループダイヤルの変更 を押す

3 変更するグループダイヤルを選ぶ

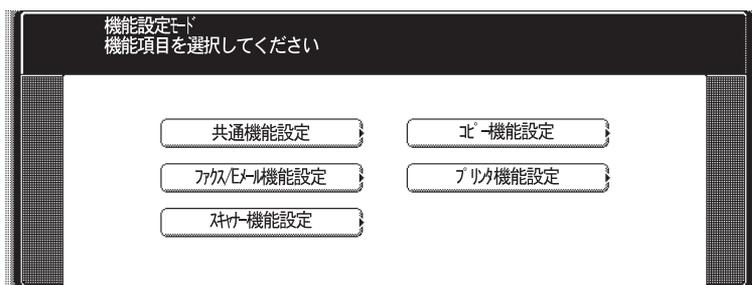
4 OK を押す

・ここから先は「グループダイヤルの登録」(☞ 219 ページ)の手順 3 からの操作を行います。

■プログラムダイヤルの登録

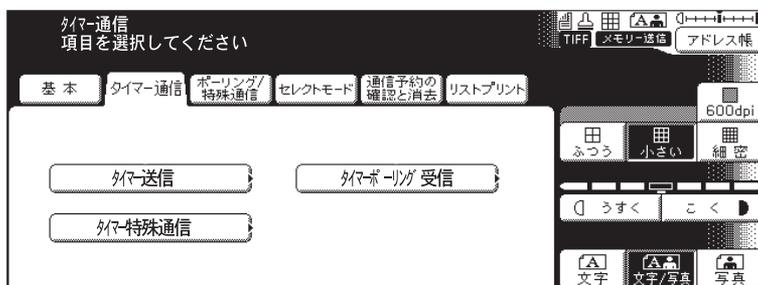
プログラムダイヤルに、宛先とポーリング受信などの各種通信操作を登録しておくと、複雑な機能もキーを 1 回押すだけで指定できます。

● プログラムダイヤルには、登録済みのアドレス帳を指定します。あらかじめ、アドレス帳の登録をしておいてください。(☞ 207 ページ)

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 02　プログラムダイヤルの登録 02　プログラムダイヤルの登録 を押す

3 プログラム名称（最大 20 文字）を入れ、OK を押す

・例：タイマー通信

4 ボタン名称（最大 10 文字）を入れ、OK を押す

5 通信操作を登録する

・各通信操作に従い登録します。
タイマー通信 (☞ 84 ～ 89 ページ)
特殊通信 (☞ 90 ～ 103 ページ)
ポーリング通信 (☞ 80 ～ 83 ページ)

6 続けてプログラムダイヤルの登録ができます。手順3からの操作を繰り返します。

7 ストップ を押す

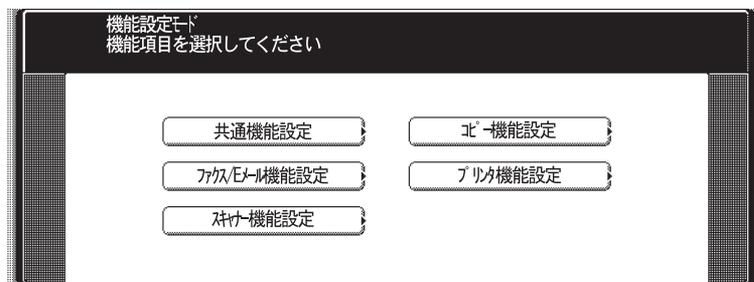
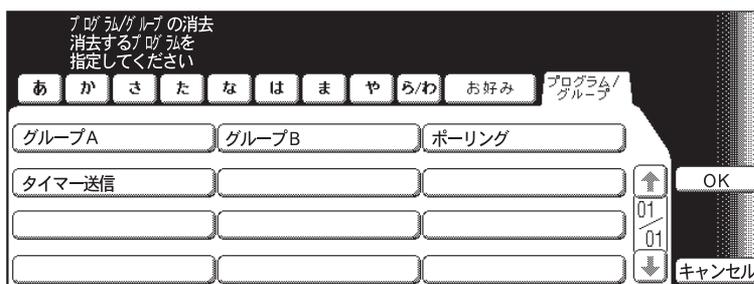
お知らせ

- プログラムダイヤルの登録を途中でやめるときは、ストップ を押します。
- プログラムダイヤルの登録は、グループダイヤルを含めて最大12 個まで指定できます。

登録編

■プログラムの削除

登録したグループダイヤル、プログラムダイヤルを削除します。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 02 プログラムダイヤルの登録 04 プログラム／グループの消去 を押す

3 削除するプログラムを指定し、OK を押す

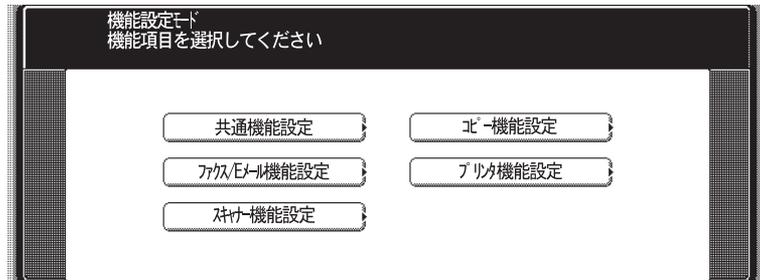
4 はい を押す

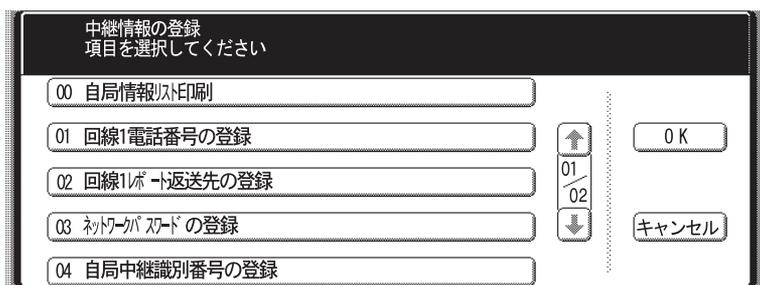
・プログラムが消去されます。

5 ストップ を押す

■中継情報の登録

中継通信をするために必要な情報を登録します。

1 ファンクション を押す

2 ［ファクス／Eメール 機能設定］［04 キーオペレーター専用］を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後［OK］［02 中継情報の登録］を押す

4 必要な情報を押し、登録する (☞ 226 ページ)

5 ストップ を押す

・必要な情報の登録が終了したとき押します。

登録編

■中継情報の登録の種類

中継情報では、次の各項目が登録できます。

	登録項目	内容
01	回線 1 電話番号	回線 1 の電話番号を登録します。
02	回線 1 レポート返送先	回線 1 で中継通信したとき、結果レポートを送る宛先を登録します。
03	ネットワークパスワード	中継ネットワーク内で使うパスワードを登録します。
04	自局中継識別番号	本機の識別番号を登録します。
07	中継機宛先	中継親局の電話番号を登録します。
08	自ユーザー ID	自局のユーザー ID を登録します。
09	回線 2 電話番号	CH2 に増設の G3 通信ユニットを装着時の 、本機の外線番号を登録します
10	回線 2 レポート返送先	CH2 に増設の G3 通信ユニットを装着時の 、中継通信したとき、結果レポートを送る宛先を登録します。
15	ISDN 電話番号	CH2 に増設の G4 通信ユニットを装着時の、本機の外線番号を登録します。
16	ISDN レポート返送先	CH2 に増設の G4 通信ユニットを装着時の、中継通信したとき、結果レポートを送る宛先を登録します。

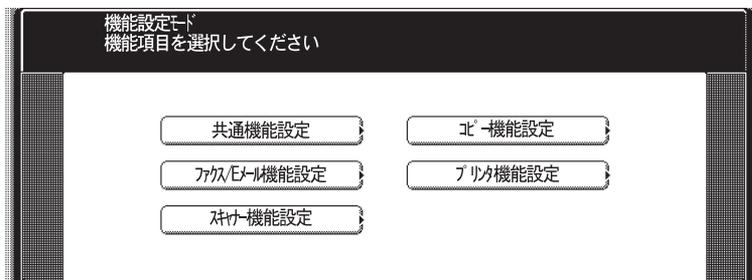
※ 09 ～ 16 はオプションの G3 増設ユニット／ G4 通信ユニットをお使いのときに設定します。

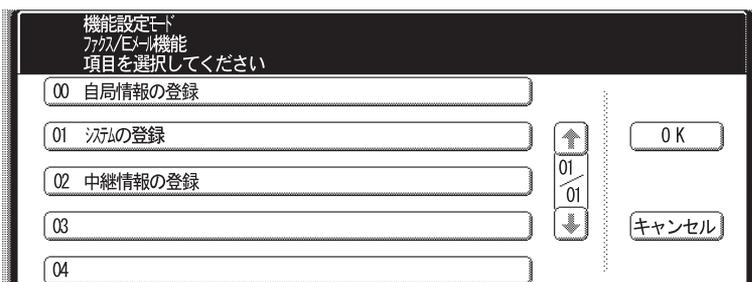
ユーザー別管理登録

ユーザー別管理とは、3 桁のユーザー No. と 8 桁の利用者制限暗証番号を登録し、無許可のユーザーが装置を操作できないようにする機能です。(☞ 基本編取扱説明書（共通機能：キーオペレーター専用の「部門カウンター管理」）で設定する部門毎の暗証番号を使います）

- ユーザー別管理は以下の手順でご利用できます。
  1. ユーザー別管理の設定 (☞ 228 ページ)
  2. ユーザー別管理時のファクスの使い方 (☞ 230 ページ)
- 通信中のときは、ユーザー別管理の登録はできません。
- ユーザー別管理を使用するには、サービスマンによる設定が必要です。詳しくはサービス実施会社にご相談ください。

■ユーザー別管理の設定

1 ファンクション ⊠◯ を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

4 [01 システムの登録] [↓] [↑] を押して、[108 ユーザー別管理] を表示させ、[108 ユーザー別管理] を押す、もしくは番号を入力して スタート を押す

5 [あり] [OK] を押す

・ユーザー別管理の設定がセットされます。

6 ストップ を押す

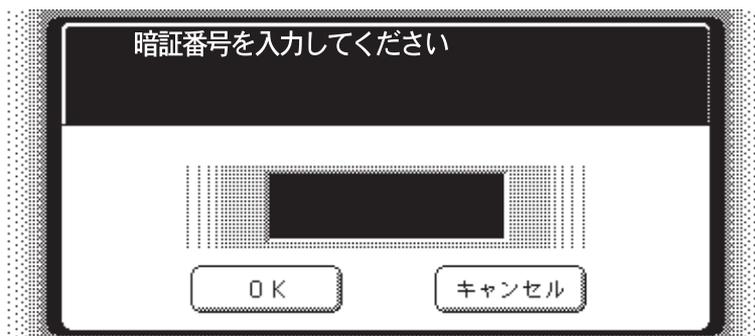
お知らせ

- ユーザー別管理の設定を途中でやめるときは、ストップ を押します。
- ユーザー別管理の設定を「なし」にしたいときは、手順 5 で [なし] を押します。

■ユーザー別管理をしているときファクスを使う

ユーザー別管理の機能をお使いになりたいときは、システム登録の「108 ユーザー別管理」(☞245 ページ)を「あり」にします。画面には「暗証番号を入力してください」と表示されます。

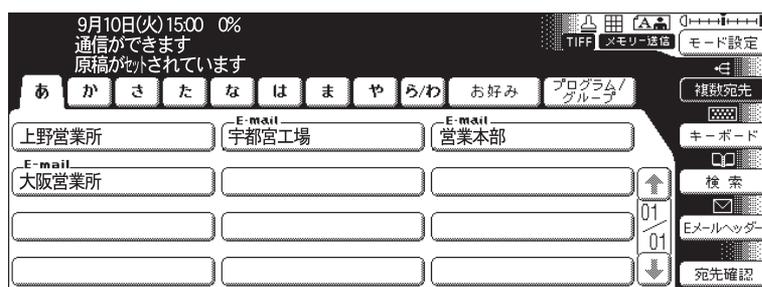
ファクス/Eメール ランプ点灯状態で

・消灯しているときは、押して点灯させる

1 暗証番号(8 桁)を入力し OK を押す

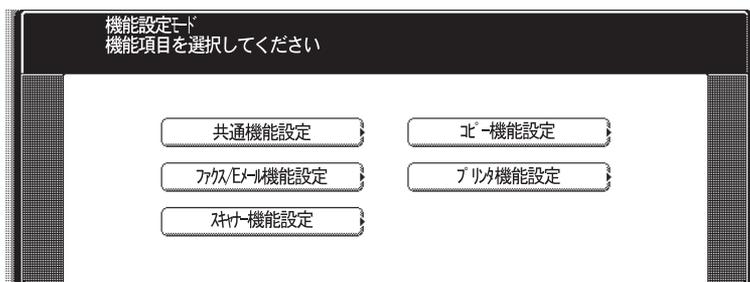
・ユーザー別管理で指定されている暗証番号を入力します。

・間違えたときは、クリアー(C)を押して、入力し直します。

2 通信などの操作をする

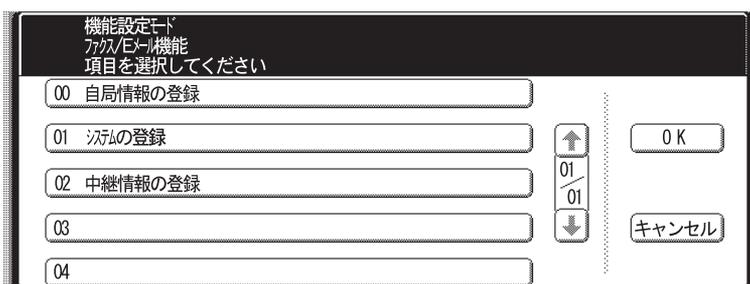
・通信などの操作が終わると、ユーザー別管理設定中の画面に戻ります。

■ユーザー別レポートの設定

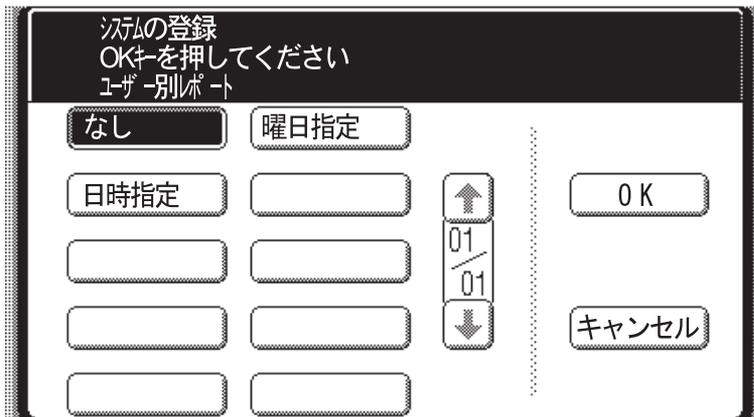
ユーザー別管理をしているとき、ユーザー No. で区分けされた部署ごとにユーザー別管理レポートを一定の周期で自動出力させることができます。

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3 キーオペレーターパスワードの入力後 OK を押す

機能設定ﾓｰﾄﾞ
ﾌｧｸｽ/Eﾒｰﾙ機能
項目を選択してください
00 自局情報の登録
01 ｼｽﾃﾑの登録
02 中継情報の登録
03
04
01/01
OK
キャンセル

登録編

＜次ページへつづく＞

4 01 システムの登録 ↓ ↑ を押して、109 ユーザー別レポート を表示させて、109 ユーザー別レポート を押す、または番号を入力して スタート を押す

5 曜日指定 または 日時指定 を押し OK を押す

・「曜日指定」または「日時指定」の周期がセットされます。
例：「日時指定」

6 変更 を押して日付と時刻を指定し OK を押す

・例：「毎月 1 日 12 時 00 分」の場合

0 1 1 2 0 0 を押す

・時刻は 24 時間制で入れます。

・間違えたときは、クリアー C を押して、指定し直します。

7 ストップ を押す

お知らせ

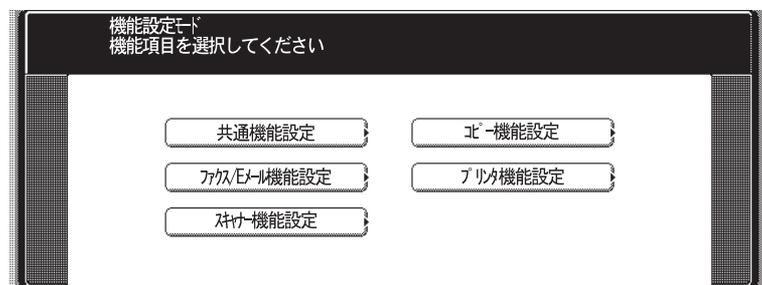
- ユーザー別レポートの設定を途中でやめるときは、ストップ を押します。
- ユーザー別レポートの設定を「なし」にしたいときは、手順 4 で なし を押します。

LAN 中継同報の登録

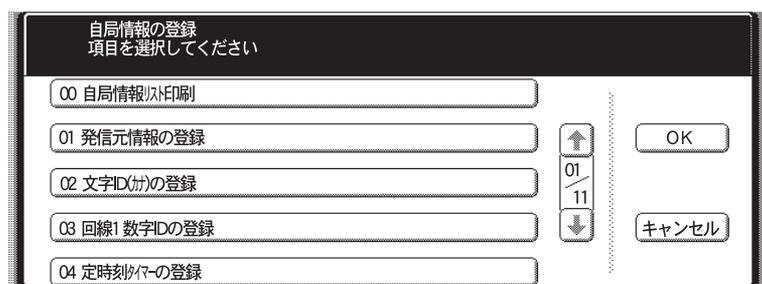
■中継局の自局情報の登録

LAN 経由で受け付けた電子メールを、一般回線へ中継通信するのに必要な中継局の情報を登録します。
あらかじめ、システム登録の「142 LAN 中継機能」を「あり」に設定しておいてください。(☞247 ページ)

- 中継用パスワード（受信した電子メールが LAN 中継同報指示であることを判定するために使用します。(☞167 ページ)）
- 管理者用メールアドレス（LAN 中継同報の指示を受け付けたことを電子メールで管理者に通知するために使用します。(☞168 ページ)）
- 中継許可ドメイン名（LAN 中継同報の受け付けを許可するインターネットファクスや PC のドメイン名を登録します。(☞167 ページ)）

1 ファンクション を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 ｜ 04 キーオペレーター専用 を押し、キーオペレーターパスワードを入力する

3 00 自局情報の登録 を押す

自局情報の登録
項目を選択してください
00 自局情報ﾘｽﾄ印刷
01 発信元情報の登録
02 文字ID(ｶﾅ)の登録
03 回線1 数字IDの登録
04 定時刻ﾀｲﾏｰの登録
01/11
OK
キャンセル

<次ページへつづく>

4 ⬇ ⬆を押して、37 管理者メールアドレスを表示させて 37 管理者メールアドレスを押す

5 管理者メールアドレス（最大 60 桁）を入れ OK を押す

・最大 60 文字の英数字を入力できます。

例：「kannrisha@panasonic.com OK」

6 40 中継用パスワード 01 を押し、中継用パスワード（最大 10 文字）を入れ OK を押す

・最大 10 文字の英数字を入力できます。

・複数の増設通信ユニットをお使いのとき、通信モード／回線を登録できます。

・例：「RELAY OK」

7 必要な中継用パスワード（最大 5 件）を同様に登録する

8 45 中継許可ドメイン名 01 を押し、中継許可ドメイン名（最大 30 文字）を入れ、OK を押す

・最大 30 文字の英数字を入力できます。

・例：「panasonic.com OK」

9 必要な中継許可ドメイン名（最大 10 件）を同様に登録する

10 ストップを押す

・待機状態に戻ります。

お知らせ

● 自局情報の登録を途中でやめるときは、ストップを押します。

● 中継用パスワードは、外部からの不正利用を防ぐため、慎重な管理を行ってください。

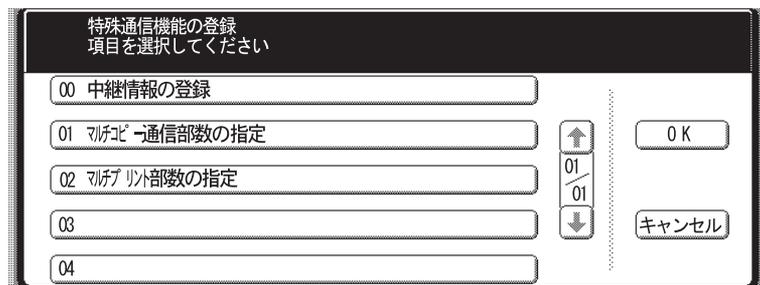
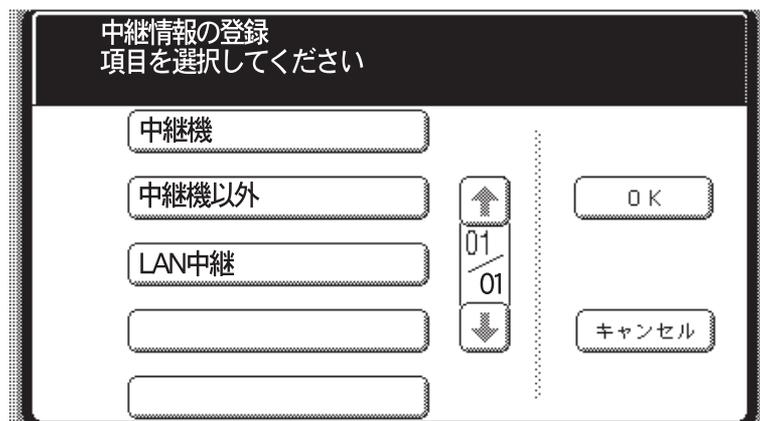
■アドレス帳の登録 /LAN 中継登録

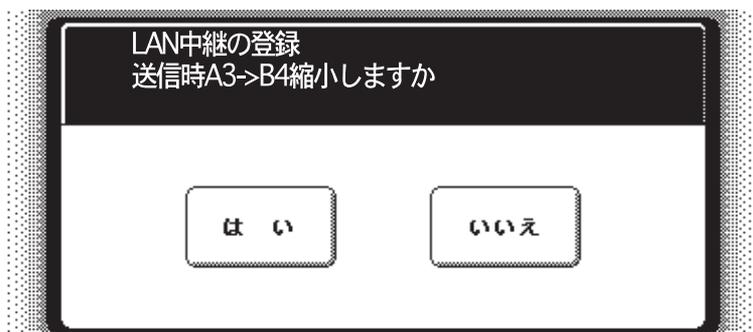
アドレス帳に、「宛先の電話番号」と共に中継局を登録しておくと、原稿をセットして中継局を登録した宛先を指定し、（スタート）を押すだけで LAN 中継同報の指定ができます。（☞161 ページ）

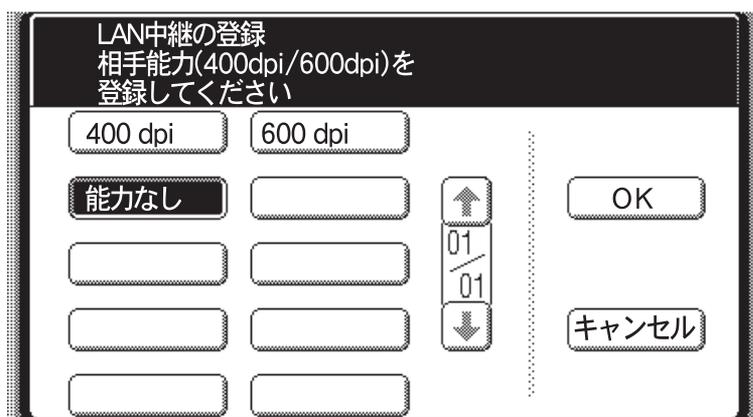
中継情報を登録したい時は、あらかじめシステム登録の「104 アドレス帳ダイヤル情報」を「あり」に、「140 LAN 中継送信指示」を「あり」に設定しておいてください。（☞245 、247 ページ）

1 ダイヤル番号登録の手順 13 までの操作をする （☞207 ページ）

2 00 中継情報の登録 を押す

<次ページへつづく>

3 LAN中継 を押し、OK を押す

4 LAN 中継局のＥメールアドレスが登録されているアドレス帳を指定し、OK を押す

5 送信時の A3 原稿を B4 に縮小するか、しないかを指定し、OK を押す

・相手機の能力に合わせて設定します。（☞60 ページ）

6 相手能力（400dpi/600dpi）の画質設定を指定し、 OK を押す

・相手機の能力に合わせて設定します。

特殊通信機能の登録
項目を選択してください
00 中継情報の登録
01 マルチコピー通信部数の指定
02 マルチプリント部数の指定
03
04
01/01
OK
キャンセル

7 OK を押す

・続けてアドレス帳の登録ができます。手順 1 からの操作をしてください。

8 (ストップ)を押す

・待機状態に戻ります。

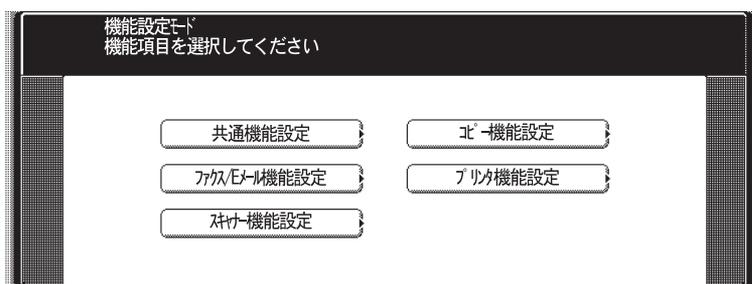
お知らせ

- アドレス帳の登録を途中でやめるときは、(ストップ)を押します。
- 手順 4 で指定するアドレス帳には中継局に登録されている中継用パスワードが登録されている E メールアドレスが含まれていなければなりません。（☞238 ページ）
- 他機種に 400dpi/600pdi で送信した場合、正常に通信できないことがあります。
  また、複数宛先を行なった場合、400dpi/600pdi の登録が「しない」で設定されている宛先が含まれていると、同報するすべての送信は 400dpi/600pdi で送信されません。

■中継局の登録

アドレス帳に、「宛先の電話番号」と共に中継局を登録しておくと、アドレス帳で宛先を指定した後、(スタート)を押すだけで中継同報の指示ができます。

- 同報機能を持った中継局を、アドレス帳に登録します。
- 中継局はEメールアドレスが登録された宛先のみです。

1 (ファンクション)を押す

2 ファクス／Eメール 機能設定 00 アドレス帳登録 02 アドレス帳(インターネット) を押す

3 宛先のEメールアドレス（最大60桁）を入れ、OK を押す

・例：「RELAY@panafax.pcc.co.jp OK」
・中継局に登録されている中継用パスワードを含むEメールアドレスを登録します。
・間違えた場合は、◀または▶を押してカーソルを移動させて(クリアー)で消してから、入れ直します。

4 続けて、E メールアドレス登録の手順 4 からの操作をする
(☞203 ページ)

ルーティングの登録

ルーティング通信で転送する相手先の宛先、数字 ID およびサブアドレスをアドレス帳に登録します。
ファクス通信時の送信側から送られてきたサブアドレスまたは数字 ID が一致した場合に、一致したアドレス帳の宛先に転送します。あらかじめシステム登録の「152 SUB ルーティング」、「153 数字 ID ルーティング」を「あり」に設定しておいてください。(☞247 ページ)

■アドレス帳の登録／ルーティングの登録

1 E メールアドレス登録の手順 8, 9、ダイヤル番号登録の手順 10, 11 の操作で登録を行う (☞204 ～ 205 、210 ページ)

お知らせ

● 数字 ID によるルーティングを行なうときは、送信側のファクスに登録されている数字 ID と同一内容の数字を、アドレス帳の転送用相手数字 ID に登録してください。ただし、スペース、「＋」など数字以外は削除して比較します。

システムの登録

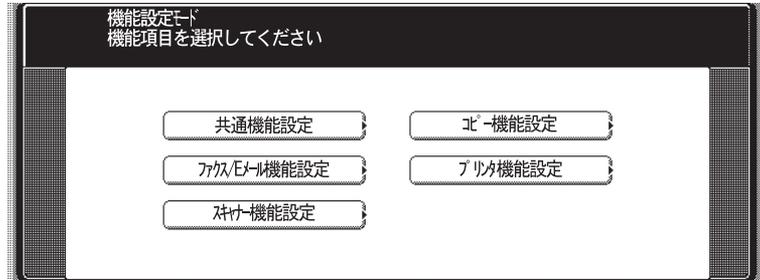
■システム登録のしかた

1

ファンクション ⊠◯ を押す

2

ファクス／Eメール 機能設定 04 キーオペレーター専用 を押す

3

キーオペレーターパスワードの入力後 OK 01 システムの登録 を押す

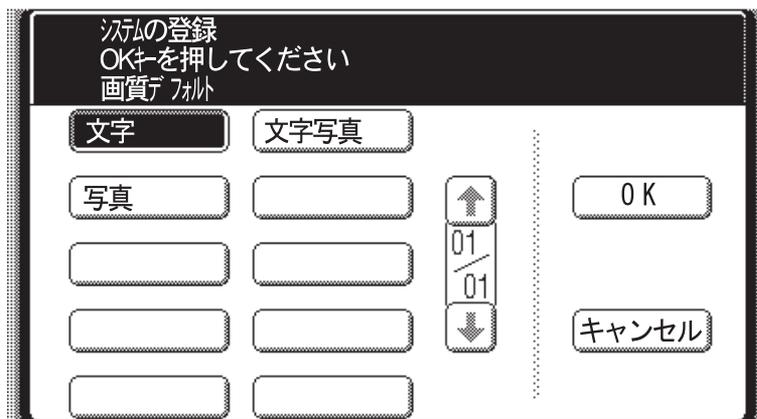
システムの登録
機能項目を選択してください

000 システム登録リスト印刷
001 原稿濃淡 4
002 文字サイズ 小さい
003 画質デフォルト 文字
004 済スタンプ あり
01/35
OK
キャンセル

<次ページへつづく>

4 ⬇ ⬆を押して設定する項目を表示させて押す、または番号を入力して スタート を押す

・「システム登録の種類」（☞243 ページ）を参照して、設定値を選択します。

・例： 003 画質デフォルト を選択した場合。

5 設定値を選び、 OK を押す

・続けて各項目の設定ができます。

6 ストップ を押す

お知らせ

● システムの登録を途中でやめるときは、ストップ を押します。

■システム登録

システム登録では、次の各項目が登録できます。
お買い上げ時は、下線の位置に設定されています。

番　号	項　　目	設定値	内　　　容
001	原稿濃淡	1（うすく） 4（ふつう） 7（こく）	通常使用する原稿の濃さに合わせます。
002	文字サイズ	・ふつう ・小さい ・細密	通常使用する原稿の文字の大きさに合わせます。
003	画質デフォルト	・文字 ・文字写真 ・写真	通常使用する原稿に合わせます。
004	済スタンプ	・なし ・あり	ダイレクト送信時に済スタンプの設定状態を選びます。
005	送信メモリー優先	・なし ・あり	「なし」にすると、通常の操作でダイレクト送信となります。
006	ダイヤル切替	・回線1 ＋ 1：PB 2：10pps 3：20pps	お使いの電話回線に合わせて、ダイヤル種別を選びます。（オプションの設置により設定は変わります）
007	発信元印字	・なし ・原稿外 ・原稿内	相手用紙にプリントする発信元の位置を設定します。「なし」にすれば、発信元をプリントしません。
009	受信時刻印字	・なし ・あり	「あり」にすれば、受信した時刻を用紙にプリントします。
012	通信結果レポート	・ダイレクト結果レポート ・メモリー結果レポート ＋ 1：なし 2：未通信 3：全通信	通信結果レポートをプリントするときの条件を設定します。
013	通信管理レポート	・なし ・あり	通信管理レポートのプリント方法を設定します。「なし」にしたときはパネル操作でレポートをプリントします。
014	通信受付レポート	・なし ・あり	メモリー送信を受け付けたとき、受付枚数や宛先などをレポートにしてプリントします。
017	受信モード	・手動 ・ファクス専用	ファクスの受信のしかたを選びます。
021	着信呼出回数	0回　～　9回	ファクスが着信するまでに鳴る呼出音の回数を設定します。
026	ポーリング用暗証番号の登録	4桁のパスワード	ポーリング通信をするときに使う4桁のパスワード（暗証番号）です。
027	ポーリング送信保存	・なし ・あり	「あり」にすると、ポーリング送信したあと、原稿をメモリーから消去しません。
028	メモリー済スタンプ	・なし ・あり	「なし」にすると、メモリー送信のときに、原稿をメモリーに蓄積した時点で済スタンプを押しません。
031	未通信ファイル保存	・なし ・あり	未通信になったファイルをメモリーに保存し、再通信を指定することができます。
043	パスワード送信	4桁のパスワード ＋ 1：なし 2：あり	送信パスワードを使って、相手とパスワード通信するとき、4桁のパスワードを登録し、「あり」または「なし」を選びます。（☞ 106ページ）

＜次ページへつづく＞

番　号	項　　目	設定値	内　　容
044	パスワード受信	4桁のパスワード + 1：なし 2：あり	受信パスワードを使って、相手とパスワード通信するとき、4 桁のパスワードを登録し、「あり」または「なし」を選びます。(☞ 108 ページ)
045	セレクト送信	・なし ・あり	「あり」にすると、ダイヤル番号が登録されている相手にしかファクスを送信しません。
046	セレクト受信	・なし ・あり	「あり」にすると、ダイヤル番号が登録されている相手のファクスしか受信しません。
047	リモート受信	・なし ・あり	「あり」にすると、接続した外部電話機から、ファクスをリモート受信できます。
051	遠隔診断	・なし ・あり	遠隔操作などにより各種の診断を行う機能です。
054	メモリー転送	・なし ・あり	「あり」にすると、受信した原稿を、すべて指定した宛先へ転送できます。メモリー転送する宛先、メモリー転送を有効とする着信回線、転送時間帯、受信した原稿の本機でのプリント指定をセットできます。
066	代行出力	・なし ・あり	「あり」にしていると、受信中に適正サイズの用紙が無くなると、ほかのカセットにセットされている用紙を使ってプリントします。(☞ 41 ページ)
067	受信 2インソ1／両面機能	・なし ・2イン1 ・両面	A5またはB5サイズの原稿を2枚受信したとき、A4またはB4サイズの用紙1枚にまとめてプリントします。 または、A4 サイズの原稿を 2 枚受信したとき、A4 サイズの用紙の両面にプリントします。
071	親切受信	・なし ・あり	相手が自動送信のファクス（ポー・・ポー・・音）の場合、外部電話機の受話器をおろすと自動的に受信に切り替わります。
078	回転送信	・なし ・あり	A4 原稿を（←▯）の方向にセットし、送信すると 90° 回転して（←▭）送ります。
082	クイックメモリー送信	・なし ・あり	クイックメモリー送信を設定します。「あり」にすると、ADF から1ページ目の原稿をメモリーに読み込んだ時点で送信を開始する機能です。（複数宛先の場合は、クイックメモリー送信となりません。）
083	回転ソート	・なし ・あり	A4▭原稿の複数ページの受信で、A4 用紙へプリントするときは、1 部プリントする毎に A4 縦、A4 横と交互にプリントします。（この場合は、用紙の設定で A4 縦、横の両用紙をカセットに設定する必要があります）
086	呼出音量	・なし ・音量小 ・音量中 ・音量大	呼出音量の設定をします。
087	モニター音量	0: (OFF)～4～7: (大)	［モニター］を押したときに聞こえるスピーカー音の設定をします。
088	通信モード／回線	・自動選択	使用回線の初期値を設定します。複数の G3/G4 通信ユニットをお使いのとき設定できます。「自動選択」は複数の G3 通信ユニットをお使いのとき有効になります。
089	レポート排紙口指定	・インナー1 ・インナー2 ・アウター	プリントするレポートの排紙口の設定をします。（オプションの設置により設定は変わります。）
099	メモリー容量	(3MB)	オプションの「メモリーカード」の取り付け状態を確認します。（メモリーカードは、取り付け時に自動認識しますので設定はありません。） （オプションの設置により設定は変わります。）

番号	項目	設定値	内容
101	マルチプリント部数	・なし ・全受信 ・アドレス帳	マルチプリント部数を指定します。 「全受信」を指定した場合は、受信した全てをマルチプリントします。 「アドレス帳」を指定した場合は、受信相手の数字 ID とアドレス帳に登録している電話番号の下 4 桁を比較し、一致した場合のみマルチプリントします。
103	発呼宛先表示	・宛先名 ・ダイヤル	通信時、ディスプレイに表示する宛先種類の設定をします。
104	アドレス帳ダイヤル情報	・なし ・あり	アドレス帳の付加情報を設定します。
105	メモリーフル時動作	・中止 ・実行	クイックメモリー送信が「なし」の場合の、メモリーフル時の動作を設定します。メモリーフルを知らせるメッセージで動作選択を求める画面が表示されます。約1分間何もしないと、この設定に従い動作します。
106	原稿詰まり時動作	・中止 ・実行	原稿詰まり時の動作を設定します。
107	代行宛先通信	・なし ・あり	アドレス帳発呼にて相手が話し中のとき、代行宛先に送信するかの設定をします。
108	ユーザー別管理	・なし ・あり	ユーザー別管理をするかの設定をします。
109	ユーザー別レポート	・なし ・曜日指定 ・日時指定	(日／週)ユーザー別管理レポートの出力条件を設定します。
110	G4 F 網発信元印字	・なし ・原稿外 ・原稿内	G4 F 網通信時の発信元印字位置を設定します。
111	G4 リモート印字	・なし ・あり	G4 時、受信側が発信元印字をするかの設定します。
112	G4 送信発信元印字	・なし ・原稿外 ・原稿内	G4 時、送信側が発信元印字位置を設定します。
113	国際 ISDN	・なし ・あり	海外と ISDN を使って海外通信をするとき「あり」にします。
115	G4 発信者番号通知	・なし ・あり	INS64 通信時、相手ディスプレイに電話番号を表示させるかの設定をします。
117	複数宛先指定	・なし優先 ・あり優先 ・機能なし	送信時の複数宛先指定の設定をします。
118	自動ファクス切替	・なし ・4桁 ～ ・6桁 ～ ・8桁	コピーモード時に電話番号入力を検知して自動的にファクスモードに切り替えます。入力する桁数で切り替える設定をします。
123	リルート機能	・なし ・あり	IP 電話を使っての送信機能を使うときに「あり」にします。
124	プレフィクス機能	・なし ・あり	電話番号に、付与する番号を登録します。また、登録した番号を付与してダイヤルするときは「あり」にします。付与する番号を指定したあと、設定を行います。
125	宛先確認	・なし ・あり	誤送信防止のため、「あり」に設定した場合は、[宛先確認] ボタンを押して宛先を確認しないと相手先に送信をできなくする機能です。

※ 110 ～ 115 はオプションの G4 通信ユニットをお使いのときに設定します。(☞ 258 ページ)

<次ページへつづく>

番　号	項　目	設定値	内　容
134	宛先名敬称付加	・なし ・あり	宛先名に敬称をつけるかどうかを設定します。 「あり」に設定すると、受信側で印刷される文書の発信元情報の宛先に、敬称（○○様）が付きます。 ・この機能は、G3 ファクスとインターネットファクスに有効です。
135	迷惑ファクス防止	ダイレクトメールなどのファクス / 迷惑ファクスを防止する機能です。	
	00 数字 ID 拒否	・しない ・する	「03 ID 番号登録」で登録した数字 ID の相手からの受信を拒否するかどうかを設定します。「00 数字 ID 拒否」を「する」に設定したときに有効。
	01 ID なし時受信	・しない ・する	数字 ID を送出しない相手から着信した場合に、受信するかどうかを設定します。「00 数字 ID 拒否」を「する」に設定したときに有効。
	02 ID 受信時刻印字	・しない ・する	相手機の数字 ID を受信時刻とともに受信文書に記載するかどうかを設定します。
	03 ID 番号登録 (01-30)	–	「00 数字 ID 拒否」で拒否したい数字 ID を登録します。30件まで登録できます。
136	直接ダイヤル制限	・なし ・あり	宛先入力時の直接ダイヤル機能の有効 / 無効を設定します。 「あり」に設定すると、直接ダイヤルによる宛先の指定、キーボード画面でのメールアドレスの入力はできません（手動送信を含む）。「あり」に設定した場合、「再ダイヤル」は使用できません
137	直接ダイヤル再入力	・なし ・あり	直接ダイヤルによる宛先指定時、キーボード画面でのメールアドレス入力時、再ダイヤル時、および宛先確認で、宛先を入力する時に、宛先の再入力画面を表示するかどうかを設定します。 「あり」に設定すると、モニターキーによる発呼はできません。 「136 直接ダイヤル制限機能」が「あり」に設定されている場合、本機能で「あり」を設定しても、直接ダイヤル制限機能が優先されます。

■システム登録一覧表

お買い上げ時は、下線の位置に設定されています。

番　号	項　目	設定値	内　容
140	LAN 中継送信指示	・なし ・あり	「あり」にすると、LAN 経由の中継送信の指示を行います。
141	LAN 縮小送信	・なし ・あり	「あり」にすると、LAN 経由にて送信するときに A4 サイズに縮小されて送信します。
142	LAN 中継機能	・なし ・あり	「なし」にすると、LAN 中継動作を行いません。
143	LAN 中継結果返送	・なし ・全通信 ・異常時	LAN 中継の結果を指示元に返送するときの条件を選びます。
145	FROM 選択機能	・なし ・あり	発信元やメールの From 欄の内容を選べるようにするときに、「あり」にします。24 個のユーザー名称（最大 20 文字）と E メールアドレス（最大 60 桁）を登録できます。
146	POP 取得間隔	0～3～60 分	POP サーバーへメールの到着の確認をする間隔を設定します。
147	POP 自動受信	・なし ・あり	「なし」にすると、POP 取得時、自動受信しません。
148	POP 受信後削除	・なし ・あり	「なし」にすると、POP 受信後メール削除しません。
149	POP エラー時削除	・なし ・あり	「あり」にすると、POP サーバーに受信できないメールが来たときにこのメールを削除します。
150	送達確認返送	・なし ・あり	LAN 受信時の結果を送信元に返送するとき設定します。
151	メールヘッダー表示	・なし ・全て ・編集	メールを受信したときにプリントするヘッダーの内容を設定します。
152	SUB ルーティング	・なし ・あり	サブアドレスによるルーティングを行うときに「あり」にします。
153	数字 ID ルーティング	・なし ・あり	数字 ID によるルーティングを行うときに「あり」にします。
154	ルーティング時 FROM	・中継局 ・指示局	ルーティングにより、LAN へメールを送るときの From 欄の内容を選びます。
155	ルーティング時出力	・異常時 ・全通信	ルーティング時に、受信した原稿を自局でプリントする設定を選びます。
157	管理レポート送信	・なし ・あり	「あり」にすると、管理レポートを登録された宛先へ送信します。
158	メールリモート登録	・なし ・あり	メールによる PC からアドレス帳登録を行うとき「あり」にします。
160	ドメイン名設定	・なし ・あり	直接ダイヤルで送るとき、ドメイン名を入れて送信するとき「あり」にします。
162	TIFF ビューアー URL	・なし ・日本文 ・英＋日	メールのメッセージ中に URL アドレスを入れるときに言語の設定します。

<次ページへつづく>

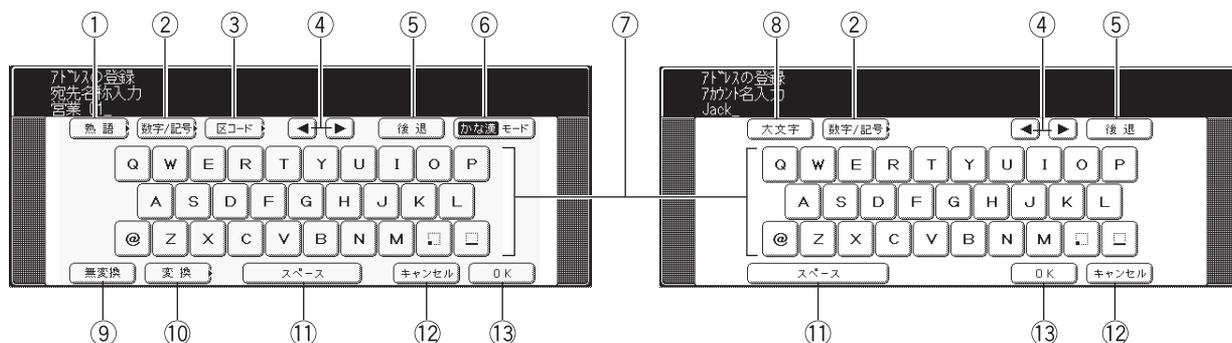
番　号	項　　目	設定値	内　　容
163	ルーティングヘッダー	・なし ・あり	ルーティング時に、ルート局のヘッダー情報を付けるときに「あり」にします。
170	SMTP 認証 (☞ お知らせ)	・なし ・あり	SMTP 認証が必要かどうかを選択します。設定を「あり」にした場合、ユーザー名とパスワードを入力できます。
171	SMTP 時 POP 確認	・なし ・あり	POP でのSMTP 認証が必要かどうかを選択します。(ネットワーク管理者にご相談ください)
172	ダイレクトIFAX 送信	・なし ・あり	アドレス帳への登録時、インターネット通信時にダイレクトIFAX 送信を行なうかどうかを選択できます。
173	送達確認要求	・なし ・あり	インターネットファクスで送信するときに、送達確認要求(MDN)をするかどうかのデフォルト設定を選択できます。送達確認要求の設定はセレクトモードで送信毎に設定が可能です。送達確認が宛先側から返信されると、通信管理レポートに通信結果を記録します。
174	APOP 認証	・なし ・あり	APOP による認証を行なうかどうかを選択します。(この設定はサーバーに依存するものです。ネットワーク管理者にご相談ください)
175	発番号ルーティング	・なし ・あり	発信者番号によるルーティングをする場合に「あり」に設定します。送信側ファクスから送られてくる発信者番号で本機に登録されている宛先にルーティングすることが可能です。 (発信者番号通知(ナンバーディスプレイ)を契約時は、必ず「あり」に設定してください。「なし」のままですと、ファクス受信できません。)
176	ダイヤルイン ルーティング	・なし ・あり	モデムダイヤルインサービスをご利用されている場合に「あり」に設定します。モデムダイヤルインサービスで登録されている電話番号で、本機に登録されている宛先にルーティングすることが可能です。
177	送信ファイルタイプ	・TIFF ・PDF	インターネットFAX 送信時に送信するファイルタイプの設定をします。 (設定はインターネット FAX 送信時に適時切り替えることができます) お知らせ：PDF ファイルは PC へ送信するときのみご利用になれます。

お知らせ

● SMTP サーバーまたは POP サーバーが機能をサポートする場合、「あり」を選択できます。

文字入力

■文字入力のしかた

〈かな・漢字入力用画面〉　〈英字入力用画面〉

No.	ボタン名	はたらき
①	熟語	地名や部署などの熟語を一覧より選択し入力するとき
②	数字／記号	数字やハイフンなどを一覧より選択し入力するとき
③	区コード	区コード一覧表を別途参照し文字を入力するとき
④	カーソル移動	カーソル（_）を左右に移動させるとき
⑤	後退	入力文字を削除するとき ・カーソルの前の文字が削除される。
⑥	入力モード	入力モードを変更するとき ・かな漢→カナ→英大→英小の順に切り換わる。 ・かな漢：かな／漢字入力 カナ：全角カタカナ入力

No.	ボタン名	はたらき
⑦	文字	文字を入力するとき
⑧	大文字	半角英大文字を入力するとき
⑨	無変換	漢字変換しないでひらがなを入力するとき
⑩	変換	入力した文字を漢字変換し入力するとき ・変換一覧より漢字を選択する。
⑪	スペース	スペースを入力するとき
⑫	キャンセル	文字入力をキャンセルするとき
⑬	OK	文字入力を登録するとき

その他

こんなときには

用紙を補給

基本編取扱説明書（コピーができないとき／異常と思われるとき）を参照ください。

紙づまりの処置

基本編取扱説明書（コピーができないとき／異常と思われるとき）を参照ください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、次の項目をチェックしてください。

こんなときは	原因	対応	参照ページ
原稿が送り込まれない	ADF カバーが閉まっていない	ADF カバーを閉めてください	※※
	A5 サイズより小さい原稿を ADF にセットしている	原稿台ガラスにセットしてください	※※
原稿が斜めに送り込まれる	原稿ガイドを合わせていない	原稿ガイドを合わせてから、原稿をセットしてください	※※
アラーム音が鳴り、「紙づまりを取り除いてください J71」が表示される	· 送信する原稿が長すぎる · 原稿がつまっている	· 原稿の長さを2000mm以下にしてから、送信してください（画質が「細密」「600dpi」の設定の場合は、"A3 サイズ"以下で送信してください） · つまった原稿を取り除いてください	ー
送信できない	セレクト送信をセットしている	セレクト送信を解除してください	112
	パスワード送信をセットしている	パスワード送信を解除してください	106
受信できない	セレクト受信をセットしている	セレクト受信を解除してください	114
	パスワード受信をセットしている	パスワード受信を解除してください	108
	迷惑ファクス防止機能がセットされている	「135 迷惑ファクス防止」設定を確認してください	44 246
呼出音が鳴りっぱなしで、受信できない	ファクスが「手動受信」にセットされている	· 外部電話機の受話器を取り、スタートボタンを押してください · 受信モードを「FAX 専用」にセットする	40 243
	メモリーがいっぱいになっている	メモリーに保存されている原稿をプリントしてください	135
	電源が“ ⏻ ”（切）になっている	電源を“I”（入）にしてください	ー
受信した原稿がプリントされない	用紙がなくなっている	用紙を補充してください	※※
	メモリー受信をセットしている	メモリー受信を解除してください	135
	用紙がつまっている	エラーコードを確認して、つまった用紙を取り除いてください	ー
メモリー送信できない	メモリーがいっぱいになっている	メモリーに空きができてから、送信してください	ー
		ダイレクト送信してください	28
	予約している通信が、50 通信になっている	予約している通信が終ってから、通信してください	ー
		ダイレクト送信してください	28
リモート受信できない	システム登録の「047 リモート受信」が「なし」になっている	「047 リモート受信」を「あり」にしてください	244
	外部電話機から電話をかけている	外部電話機から電話をかけた場合は、リモート受信はできません	ー
タイマー通信や、ポーリング通信などの通信をセットできない	予約している通信が、50 通信になっている	予約している通信が終ってから、通信してください	ー
		予約している通信を取り消してから、通信してください	140
セレクト通信できない	相手のダイヤル番号を、本機に登録していない	相手のダイヤル番号を登録してください	207
	相手の ID 番号に、電話番号が登録されていない	相手に、ID 番号には電話番号を登録するように伝えてください	ー
ポーリング通信できない	ポーリング通信用のパスワードが一致しない	相手に確認して、通信し直してください	80
パスワード通信できない	パスワード通信用のパスワードが一致しない	相手に確認して、通信し直してください	104

<次ページへつづく>

こんなときには

こんなときは	原因	対応	参照ページ
受信またはコピーしたとき、白紙がプリントされる	原稿の裏表を逆にしてセットしている	・原稿の裏表を確認してからセットし直してください ・受信の場合は相手側に確認してください	17
受信またはコピーしたとき、黒い筋や点がプリントされる	プロセスユニットの異常	サービス実施会社にご連絡ください	―
	・読取部が汚れている ・相手側の読取部が汚れている	・読取部を清掃してください ・相手側に読取部の清掃をお願いしてください	※※
受信またはコピーしたとき、部分的に欠けていたり、記録が薄くなる	・用紙が湿気を含んでいる ・用紙に折り目やシワがある	新しい包装の用紙と交換してください	―
	プロセスユニットの異常	サービス実施会社にご連絡ください	―
送信またはコピーしたとき、両端がプリントされない	有効読取画面の外に文字が書かれている	文字は、有効読取画面の中に書いてください	17

● ※※は基本編取扱説明書を参照ください。

チェック&コール

万一、本機が故障した場合には、本機が自動的に当社指定のサービス実施会社に障害状況を連絡する機能です。詳しくはサービス実施会社へご相談ください。

お知らせ　● 以上の項目をチェックしても復旧しない場合は、サービス実施会社にご相談ください。

主なエラーコード

通信できなかったときなどに、通信管理レポートにエラーコードが表示されます。エラーコードが表示されたときは、次の表に従って処置してください。他のエラーコードは、基本編取扱説明書を参照してください。

エラーコード	原因	処置	参照ページ
0212 〜 0402、0404、0407 〜 0410、0416 〜 0456、0459 〜 0571	回線異常または相手機異常	相手に確認して、もう一度通信してください	−
0403	ポーリング受信時、相手機にポーリング送信の機能がない	ポーリング受信できません	−
0406	パスワード通信時、相手機とのパスワードが一致しない	相手に確認して、通信し直してください	104
	セレクト通信時、相手機から送られる ID 番号が、本機のダイヤル番号に登録されていない	相手に確認して、通信し直してください	112
0411、0414 、0415	ポーリング通信時、相手機とのパスワードが一致しない	相手に確認して、通信し直してください	80
	相手機の異常		
0427	相手からポーリング受信されたとき、本機にポーリング送信がセットされていない	ポーリング送信をセットしてください	80
0457	中継通信時、相手機に機能がない	中継通信はできません	−
0580	マルチコピー通信時、相手機にマルチコピー通信の能力がない	マルチコピー通信できません。	100
0712	E メールアドレスの誤り	登録された E メールアドレスを確認してください。SMTP サーバーの IP アドレスをネットワーク管理者にお問い合わせください。	−
0714	LAN にログオンできない	10BASE-T/100BASE-TX ケーブルの接続を確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	−
0715	TCP/IP 接続のタイムアウト	インターネットファクスのパラメーター設定値を確認してください。IP アドレス、ルーターIPアドレスの初期値、SMTPサーバー IP アドレスを確認してください。	−
0716	指定した SMTP サーバーにログインできない	SMTP サーバー IP アドレス設定値を確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	−
0717	SMTP プロトコル伝送が不完全。SMTP サーバーのハードディスクが一杯の可能性あり	SMTP サーバーに障害があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	−
0719	LAN で受信したデータ形式が受信側に対応していない	対応するファイル添付形式で再送してもらうように送信側に連絡してください。TIFF-F 形式を確認してください。	−
0720	POP サーバーと接続できない（POP サーバー IP アドレスの誤り）。POP サーバーのダウン	POP サーバーの IP アドレスを確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	−

<次ページへつづく>

エラーコード	原因	処置	参照ページ
0719	LAN 経由で受信したデータ形式が受信側に対応していない。	以下に示すような、対応するファイル添付形式で再送してもらうように送信側に連絡してください。 *TIFF- F 形式。 * 用紙のサイズに合った画像データ。	−
0721	POP サーバーに接続できない（ユーザー名またはパスワードのエラー）。	POP ユーザー名とパスワード、または APOP 設定値を確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	−
0722	DHCP サーバーからのネットワークパラメーター（例：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトのゲートウェイ IP アドレス）の取得に失敗。	1. LAN ケーブルの接続を確認してください。 2. ネットワーク管理者に問い合わせて、お手元のネットワークでDHCPが使用できるか確認してください。	−
0725	· DNS サーバー接続のタイムアウト · DNS サーバーのダウン	DNS サーバーIP アドレスを確認してください。ネットワーク管理者にご連絡ください。	−
0726	DNS サーバーからエラー応答を受信	POPサーバー名を確認してください。 SMTP サーバー名を確認してください。	−
0728	送信したデータ（PDF）形式が受信側に対応していない。 （PDF 形式での送信は、インターネットFAXからPCへの送信時のみご利用になれます）	送信ファイルフォーマット（またはシステム登録 No.177）を「TIFF」に設定して送信してください。	20 248
0729	SMTP サーバーとの接続時に認証 (SMTP AUTHENTICATION) に失敗	SMTP AUTHENT ユーザー名とパスワードを確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	−
0731	LAN 中継受信時に管理領域がいっぱい	現在の通信が終了後、LAN 中継指示を再送するように送信先に連絡してください。	−
0870	送信する原稿をメモリーに記憶しているときにメモリーオーバーフローが発生	1. ダイレクト送信してください。 2. オプションのメモリーカードを装着してください。	28 258

オプションの G4 通信ユニット利用時の主なエラーコード

エラーコード	原因	処置	参照ページ
0901、1901	ISDN 回線に正しく接続されていない	ISDN 回線接続を確認し、もう一度操作してください	−
0902、1902 0908、1908	本商品側で通信中に回線が抜けた	ISDN 回線接続を確認し、もう一度操作してください	−
0926、1926	相手先から応答がないため、通信できない	下記の確認後、もう一度操作してください 1. 回線は正しく切断されているか 2. 相手先の電話番号は正しいか（相手先がファクスでない可能性もあります） 3. 相手先のファクスが通信できる状態になっているか	−
0970、1970	ISDN 回線から通信を拒否された	ISDN の回線契約を確認し、契約に合った使い方で操作してください	−
1416	相手先が通信を中止した	相手先に確認して、もう一度送信してください	−

エラーコード	原因	処置	参照ページ
1432	ポーリング受信時、相手先にポーリング機能がない	ポーリング受信できません	ー
	ポーリング受信時、相手先がポーリング送信をセットしていない	相手先にポーリング送信をセットしてもらってください	
1437	パスワード通信時、相手機とのパスワードが一致しない。	相手機に確認して、通信し直してください。	104
	セレクト通信時、相手機から送られてくるID 番号が、本機のダイヤル番号に登録されていない。	相手機に確認して、通信し直してください。	112
1440	マルチコピー通信時、相手機にマルチコピー通信の能力がない。	マルチコピー通信できません。	100

お知らせ

- 上記以外のエラーコードが表示された場合は、もう一度通信してみてください。
- 処置をしてもエラーコードが表示される場合は、サービス実施会社にご相談ください。

必要なときにお読みください

■オプション

品　名		品　番
メモリーカード	4MB 8MB	UE-410047-AZ UE-410048-AZ
G3 増設ユニット （DP-8032V/8025V/8032VA/8025VA 用）		DA-FG332
G4 通信ユニット （DP-8032V/8025V/8032VA/8025VA 用）		DA-FG342
FAX 拡張ユニット		DA-FG350

■消耗品

品　名	品　番
済スタンプ	UG-4105
リチウム電池	CR2032

■メモリー容量と保存できる枚数

取り付けた増設メモリー	通信用メモリー容量	保存できる枚数
なし（お買い上げ時）	3MB	約 180 枚
4MB	7MB	約 420 枚
8MB	11MB	約 660 枚

●保存できる枚数は、A4 標準原稿（A4 サイズ 700 字程度の原稿）を、文字サイズ「ふつう」で読み取ったときの枚数です。原稿によっては枚数は異なります。
●タイマー送信などの通信予約でメモリーを使用している場合は、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

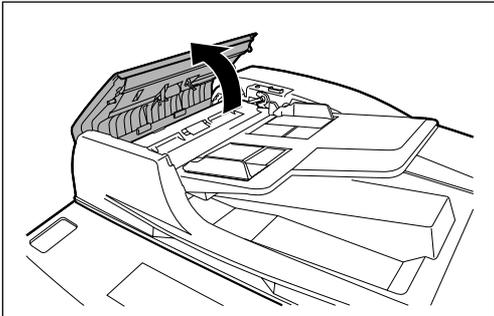
お願い

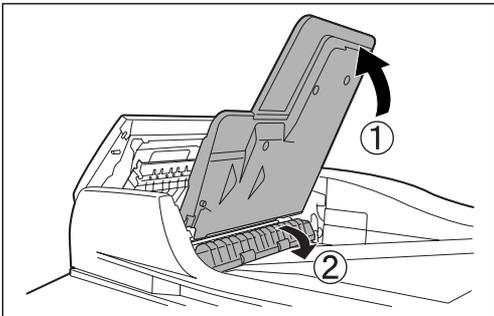
● 他のオプション・消耗品については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
● 上記以外の増設メモリーカードを本装置へ使用すると故障の原因になりますので、絶対に使用しないでください。また、上記増設メモリーカードを指定以外の装置へ使用しても故障の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

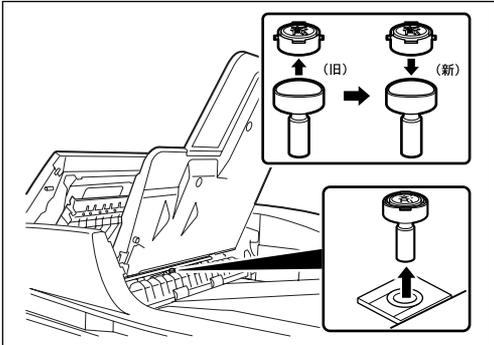
済スタンプの交換

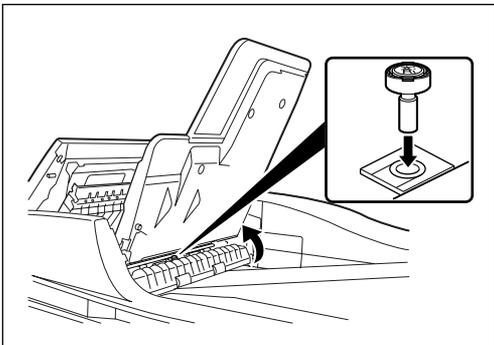
済マークが薄くなってきたら交換します。

● 済スタンプは当社指定品をご使用ください。（品番 UG-4105）

1

ADF カバーを上げる

2

ADF 原稿台を上げ、排紙カバーを開ける

3

使用済の済スタンプを取り外し、新しい済スタンプをセットする

4

スタンプ台を本体に取り付け、カバーを確実に閉める

停電のとき

停電中はファクスのディスプレイは消えます。ファクスを送ったり受けたりすることはできません。

停電になったとき	ファクス送信中	送信は中断されます。停電復旧後、もう一度送信してください。
	ファクス受信中	受信は中断されます。停電復旧後、相手の方にもう一度送信を依頼してください。
停電中	ファクスを送る	できません。
	ファクスを受ける	できません。
停電復旧後	メモリーの内容	メモリーに蓄積されている送信および受信データは保持されています。
	ファクスに登録／設定した内容	アドレス帳の登録内容、その他各種登録は、停電中も消えることなく保持されています。

お知らせ

● 原稿を読み取り中に停電した場合は、読み取りは中断されます。停電復旧後、もう一度読み取りをしてください。ファクス送信時、原稿読み取り後のメモリー送信中に停電した場合は、停電復旧後、直ちに再送信されます。

主な仕様

■ファクス部仕様

項目	仕様
消費電力	最大：1.45 kW スリープモード時：約 18 W（除湿ヒーター OFF) シャットダウンモード時：約 3.5 W（G4 通信ユニット増設時を除く）(除湿ヒーター OFF) 送信時：約 85 W（除湿ヒーター OFF) 受信時（最大)：1.45 kW
適用回線	G3（注 1)：電話回線、ファクシミリ通信網（F 網 2 種接続サービス)、 G4（注 2)：総合デジタル通信網
直流抵抗値	188Ω
通信可能機種	G3（国際規格)、G4
帯域圧縮方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信速度	G3（注 1)：33600／31200／28800／26400／24000／21600／19200／16800／14400／12000／9600／7200／4800／2400bps G4（注 2)：64／56kbps
走査線密度	ファクス 主走査：8 dot／mm、16 dot／mm、600 dpi 副走査：15.4 line／mm（細密)、7.7 line／mm（小さい) 3.85 line／mm（ふつう)、600 dpi

- （注 1）一般の電話回線での最高通信速度は 28800bps 程度です。
- （注 2）「G4 通信ユニット」オプション追加時です。

■インターネット部仕様

インターネット FAX	
適用回線	10BASE-T ／ 100BASE-TX Ethernet [IEEE802.3u]
通信プロトコル	TCP/IP, SMTP, POP3, MIME
データ形式	TIFF [IETF RFC 3949 Profile S, F, J]、PDF
送信原稿サイズ	A3 ～ A5
有効読取り幅	最大 292 mm (A3)
記録紙サイズ	A3, B4, A4, B5, A5
出力可能文字	JIS 第 1・第 2 水準
適合規格	IETF RFC 3965, ITU-T T.37, ITU-TT.37

お知らせ

- 認定番号は、本体背面に記載しております。
- 上記以外の仕様については、基本編取扱説明書を参照してください。
- スリープモードとシャットダウンモードは、どちらかを切り替えて使用します。キーオペレーターにご相談ください。（☞ 基本編取扱説明書（共通機能：キーオペレーター専用の「スリープ／シャットダウン選択」）を参照ください）
- G4 通信ユニット（DA − FG342）を増設されている場合は、シャットダウンモードをご利用になられましても消費電力はスリープモード時と同等となります。
- 製品改良のため、記載事項が一部変更になることがありますのでご了承ください。

用語集

10Base-T/100Base-TX	イーサーネット規格の一種です。 「10/100」はバンド幅が 10/100 Mbps の意味で、このバンド幅は単一チャンネル・ベースバンドのベースとなっています。「T」は撚り（Twisted）対の意味で、この規格のケーブルは 2 対の非シールド撚り線からなります。
ADF (自動原稿送り装置)	複数枚の原稿をセットして、1 枚ずつ読取り部へ送る装置です。
BPS (Bits Per Second)	電話回線経由で送信されるデータ量の単位です。本機は常に最大伝送速度で動作開始しますが、電話回線の状況や受信側機器の能力に応じて伝送速度を自動的に落とします。
DTMF (Dual Tone Multi Frequency)	電話機のボタンの各数字を表わす 2 つの周波数を組み合わせた信号です。一般に、プッシュホン式ダイヤル呼出しを指します。
ECM (Error Correction Mode)	G3 ファクス通信を行なっているときに、通信エラーを訂正する機能です。
FROM 選択	あらかじめプログラム登録してある 24 の送信者名、E メールアドレス、または電話番号のうちの 1 つを送信前に選択することができます。
G3 モード (Group 3)	現在最も普及している、G3 規格に準拠したアナログ電話回線用のファクシミリ手順です。
IP アドレス	インターネット上に存在するコンピュータなどの住所にあたる数列です。
ISP (Internet Service Provider)	インターネットへの接続サービスを提供する組織のことです。
ITU-T	国際電気通信連合電気通信標準化部門。国際電信電話諮問委員会 (旧 C.C.I.T.T)。
ITU-T (C.C.I.T.T.)	国際電信電話諮問委員会の略称。この機構は現在、ファクシミリ互換性を保証する 4 グループの業界標準を推進しています。
ITU-T Image No.1	送信速度と機器能力との比較を可能にする業界標準原稿のことです。
LAN (Local Area Network)	オフィス、工場、大学などといった隣接エリアに限定された、データの統合および交換のためのコンピューターネットワークシステムです。
LAN 中継パスワード	LAN 中継通信を行う際に、パスワードとして用いる E メールアドレスです。LAN 中継通信の宛先を表す E メールアドレスの、ユーザー名（@ の左側）の部分と比較して、一致した場合に LAN 中継通信を行います。
LCD	本機の表示をする液晶ディスプレイのことです。
MAC アドレス	装置に割り当てられるハードウェアアドレスで、MAC (メディア・アクセス・コントロール) アドレスともいいます。 MAC アドレスは設定不可能で、コロン（：）で区切られた 6 つの 16 進数からなります。 例：00:00:c0:34:f1:50
MAPI (Messaging Application Program Interface)	メッセージ送信のための Windows 標準インタフェースです。ワープロ・ソフトや表計算ソフトなどのメニューから、編集中の文書を直接電子メールで送信するようなことが可能です。
MDN (Message Disposition Notifications)	メールが読まれたかどうかを確認する為に送信側から MDN 要求を付加して送付します。
MIME (Multipurpose Internet Mail Extension)	インターネット上で、テキストデータ以外のマルチメディア情報も扱えるように拡張した、電子メールの通信手順です。
POP (Post Office Protocol)	メールサーバーにアクセスして自分宛のメールを取り出すための通信手順です。
PSTN (Public Switched Telephone Network)	公衆電話交換ネットワークを指します。相互に接続された交換機と送信施設からなるネットワークです。
SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)	インターネット上でメールを送受信するための主な通信プロトコルです。

用語集

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)	インターネットで使用されているプロトコルの最も基本的な集合体（プロトコルスイート）であり、あるインターネット端末と別の端末との間のデータ転送を可能にします。
TIFF (Tagged Image File Format)	異機種間でのグラフィックデータの交換ができるようデータの前のタグと呼ばれる部分を設け、データの記述形式を記載したデータファイルです。本製品の TIFF ファイルは、MH 方式によりデータを圧縮しています。
TIFF イメージビューワー	TIFF ファイルの中身を閲覧するための機能を持ったプログラムです。市販の TIFF ビューアーでは、本製品から送られた TIFF ファイルを表示できない場合があります。
宛先名	各ワンタッチ／短縮ダイヤル番号の登録名です。
イーサーネット	LAN 上のコンピューターおよび装置をネットワーク化する最も一般的な通信規格。ほとんどのすべてのタイプのコンピューターが対応しています。
イメージメモリー容量	原稿の各ページを記憶するために本機が利用できるメモリーの量を意味します。ITU-T 勧告の Image No. 1 原稿を基に、読込み可能枚数を規定しています。
インターネット	相互に接続された、TCP/IP プロトコルを使用するさまざまなネットワークの巨大な集合体。個々のネットワークは接続されて全世界をつなぐ巨大なインターネットを形成します。
イントラネット	会社内部または組織内部にある非公開のネットワーク。イントラネットでは、公開されているインターネット上同じ種類のソフトウェアを使用しますが、その用途は内部的なものに限定されます。
エラーコード	通信エラー、トラブルなど発生時に表示するコードです。
キーオペレーターパスワード	キーオペレーター（管理者）が本機の設定などを行うためのパスワードで、8 桁の数字、アルファベット、4 種類の記号（@ . _ スペース）の組み合わせで設定します。アルファベットの大文字、小文字は区別されます。
クライアント	クライアント (端末) コンピューターの意味で、LAN 上でデータベース共用、グループ作業や通信を行うときに使用します。
グループダイヤル	１つのプログラムボタンへ複数宛先を登録できます。１回の操作で順次同報送信ができます。
固定縮小プリント	すべての着信原稿を一定の縮小率（例：75%）でプリントします。
最終宛先	LAN 中継通信時の最終送信宛先です。
サーバー	クライアント（端末）コンピューターに対してデータ資源、通信接続、データ保存空間その他のサービスを提供する、ネットワークに接続されたコンピューターまたは装置をさす。メールサーバーソフトウェアーはネットワーククライアントがメールアカウントを保有してメールの送受信を行なうことを可能にしています。
サブアドレス	着信ファクスのルーティング、転送または中継を実行するための ITU-T 勧告です。
サブアドレスパスワード	サブアドレスに対応する追加機密保護のための ITU-T 勧告です。
サブネットマスク	ネットワークIDで定義されたネットワークのサブセグメントを管理するためのマスクビット列です。
自局登録	自局登録をすることで、通信のときに相手機に自局の情報を表示できます。たとえば、発信元、文字 ID、日時などがあります。
システム登録リスト	本機のシステム登録の設定値をリストにしてプリントできます。
自動縮小プリント	標準サイズの普通紙にプリントできるように、受信した原稿を自動的に縮小する方式。たとえば、B4 サイズの着信原稿を縮小して A4 サイズの用紙にプリントします。
自動受信	ファクスが自動的に原稿を受信します。
受信側パスワード	原稿受信前に照合される 4 桁のパスワードのことです。

手動受信	着信原稿を受信するのに使用者の操作が必要なモードです。
初期送信側端末局	LAN 中継通信時の発信局です。
数字 ID	相手のディスプレイに表示させる電話番号などの情報を登録します。
済スタンプ	送信が完了したページ、またはメモリーへ読込まれたページに済スタンプが押されます。済スタンプの ON、OFF は任意に切り替えできます。
正順プリント	受信した原稿を送信した順序でプリントする機能です。
セレクト受信	ダイヤルに登録してある電話番号の下 4 桁を照合し、一致したファクスからのみ本機が受信する機能です。
送信側パスワード	原稿送信時に照合される 4 桁のパスワードのことです。
送信予約	本機が別の機能を実行しているときに送信予約ができます。
送達通知	送信側インターネット FAX から受信側インターネット FAX へ出されるメッセージで送達通知 (MDN) 要求のことです。受信側インターネット FAX は、メッセージ（メール）を読むと送達確認メッセージを返送します。
タイマー送信	指定時刻に原稿の送信ができます。
タイマーポーリング	指定時刻にポーリング通信ができます。
ダイレクト SMTP	インターネットファクス同士がメールサーバーを経由せずにファイアーウォール（イントラネット）内で互いに直接通信を行なう機能です。
蓄積原稿	本機で読込み済でメモリーに記憶されている原稿です。
中継アドレス	LAN 中継通信時に中継局を登録している 3 桁の短縮ダイヤルの番号です。
中継局	中継局では、受信した原稿を指示された宛先へ、順次同報で転送することができます。
中継送信	発信局から原稿を LAN 中継局へ送信すると、中継局はさらにその原稿を最終受信側端末局へ送信します。
中継ネットワーク	中継局経由で通信する機器のネットワークのことです。
重複プリント	縮小できないくらい大きな原稿は、約 10 mm 重ね合わせて 2 つのページに分割して自動的に出力されます。
直接ダイヤル	電話番号または E メールアドレスをテンキーまたは文字ボタンで入力して直接ダイヤルする方法です。
通信管理レポート	最新の通信結果を一覧にしてプリントできます。
低電力モード	指定時間経過後に定着器を OFF にして、待機モードよりも消費電力を抑えてエネルギーを節約します。
デフォルトルーター IP アドレス	ルーターのアドレスで、インターネット FAX との通信時に他のネットワークがどのルートをとったらよいか判断するときに使用します。
テンキー	コントロールパネルにある数字キーです。
同報送信	プログラム登録された複数の宛先に同じ原稿を送信する機能。
ドメイン名	インターネットに接続された個々のコンピュータを一意に識別する名称です。ドメイン名は DNS サーバーによって IP アドレスから翻訳されます。これは、IP アドレスが変更された場合でも、ユーザーに親しみやすい（記憶されやすい）名称を保持することが目的です。
ネットワーク	2 台以上のコンピューターを相互に接続してリソースを共有すると、コンピューターネットワークになります。さらに 2 つ以上のコンピューターネットワークをつなぐと、インターネットが形成されます。
ネットワークアドレス	アドレス帳に登録される 4 桁の固有アドレス番号で、中継ネットワーク上にある特定の端末局を識別するのに使います。

用語集

濃度	送信する原稿に合わせて読取りの濃度を設定できます。
発信元	会社名または名前などを登録します。
パナソニックスーパースムージング	画質を向上する為のパナソニック独自の画像処理技術です。
ハーフトーン	黒と白の中間色（グレー）を階調で表現します。
ハンドシェーキング	送信側と受信側が通信するため、実際にデータを転送する前に、双方の通信方法や条件、プロトコルなどをあらかじめやり取りしておく手順のことです。
ビューモード−通信管理	通信管理レポートを出力することなく通信管理の簡単な内容を LCD ディスプレイに表示することができます。
ビューモード−通信予約ファイル	通信予約レポートを出力することなく通信予約ファイルの簡単な内容を LCD ディスプレイに表示することができます。
ファイル	メモリーを使っての送受信を行なったとき作成されます。たとえば、タイマー送信などがあります。
ファンクションキー	各機能を使うときに押します。
符号化方式	各種機器が使用するデータ圧縮方式。本機は、Modified Huffman (MH)、Modified Read (MR)、Modified Modified Read (MMR) 符号化方式を採用しています。
プリント縮小モード	本機にセットされた用紙に収まるように縮小してプリントする方法です。
プログラムボタン	複雑な機能の操作をプログラムボタンに登録したり、複数の宛先を登録して、簡単なボタン操作で機能を使えます。
プロトコル	装置間通信のための標準または言語。業界には多くの種類のプロトコルが存在し、IC やコンピューターを内蔵している製品はどれもある種のプロトコルを利用しています。インターネットでは、100 を越える標準が共同して TCP/IP プロトコルを校正し、インターネット通信を滑らかで信頼できるものにしています。
ヘッダー	送信側ファクスが送信する、また受信側ファクスが各ページの先頭にプリントする部分です。ヘッダーは、送信側ファクスの情報（日時など）を提供します。
ホスト	ネットワーク上の他のコンピューターを集中管理するコンピューターです。ホストはドメイン内で唯一のホスト名を持ちます。ホストは全ドメイン名（FQDN）の最初（左端）の部分となります。 例： 本機のEメールアドレスがFax@fax01.panasonic.comであるとすると、「fax01」はホストに、「panasonic.com」はドメインに相当します。
ホームページ	ブラウザー起動時に最初に表示されるページ、あるいは会社、組織などの主要なウェブページ。
ポーリング	別のファクスから原稿を取り出す機能です。
ポーリングパスワード	登録された 4 桁の暗証番号で、ポーリングが行なわれている原稿に対する機密保護を有効にするのに使います。
マルチロゴ	あらかじめ設定してある 25 個のロゴのうちの 1 つを送信前に選択することができます。
メモリー送信	原稿をメモリーに読込んでから送信します。
メモリー代行受信	用紙またはトナーがなくなったときに着信原稿をメモリーに蓄積する機能です。
メモリー転送	指定した短縮ダイヤルの宛先へ、全ての着信ファクスを転送する機能です。
メールアドレス	メールでデータを送受信するためのアドレスです。ユーザー名、サブドメイン名、ドメイン名で構成されています。
メールゲートウェイ IP アドレス	メールサーバーのアドレス。

メーリングリスト	あるアドレスにメールを送り、自動的にメーリングリストに登録されている複数の人に電子メールのコピーを送るための E メールアドレスです。
文字 ID	相手のディスプレイに表示させる会社名などの情報を登録します。
文字サイズ	送信する原稿の文字の大きさに合わせ、変更できます。
文字ボタン	各種登録をするときに文字または記号を入力するためのボタン。
モデム	本機から出された信号を電話回線経由で伝送できる信号に変換する装置です。
ルーター (ゲートウェイ)	複数の LAN 間の通信を可能にするネットワーク装置です。インターネットでは、それぞれの LAN のルーターが、インターネットを経由して転送すべきデータの経路を管理しています。

ITU-T Image No. 1

ITU-T Image No.1 に準拠している標準原稿のサンプルです（以下のサンプルでは、縮尺が実際のものと異なっています）。

THE SLEREXE COMPANY LIMITED

SAPORS LANE - BOOLE - DORSET - BH 25 8 ER

TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617 - TELEX 123456

Our Ref. 350/PJC/EAC　　　　18th January, 1972.

Dr. P.N. Cundall,
Mining Surveys Ltd.,
Holroyd Road,
Reading,
Berks.

Dear Pete,

Permit me to introduce you to the facility of facsimile transmission.

In facsimile a photocell is caused to perform a raster scan over the subject copy. The variations of print density on the document cause the photocell to generate an analogous electrical video signal. This signal is used to modulate a carrier, which is transmitted to a remote destination over a radio or cable communications link.

At the remote terminal, demodulation reconstructs the video signal, which is used to modulate the density of print produced by a printing device. This device is scanning in a raster scan synchronised with that at the transmitting terminal. As a result, a facsimile copy of the subject document is produced.

Probably you have uses for this facility in your organisation.

Yours sincerely,

Phil.

P.J. CROSS
Group Leader - Facsimile Research

Registered in England: No. 2038
Registered Office: 60 Vicara Lane, Ilford. Essex.

索引

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　　月　　　日	品番
販売店名	電話　(　　　)　　　-	
サービス実施会社名	電話　(　　　)　　　-	

本機の製品情報をホームページで見ることができます。
http://panasonic.co.jp/pcc/

パナソニック コミュニケーションズ株式会社
ドキュメントソリューションズカンパニー
〒153-8687 東京都目黒区下目黒2-3-8　電話(03)3491-9191

K0608-0 (02)
PJQMC1205ZB
June 2008
Printed in Philippines